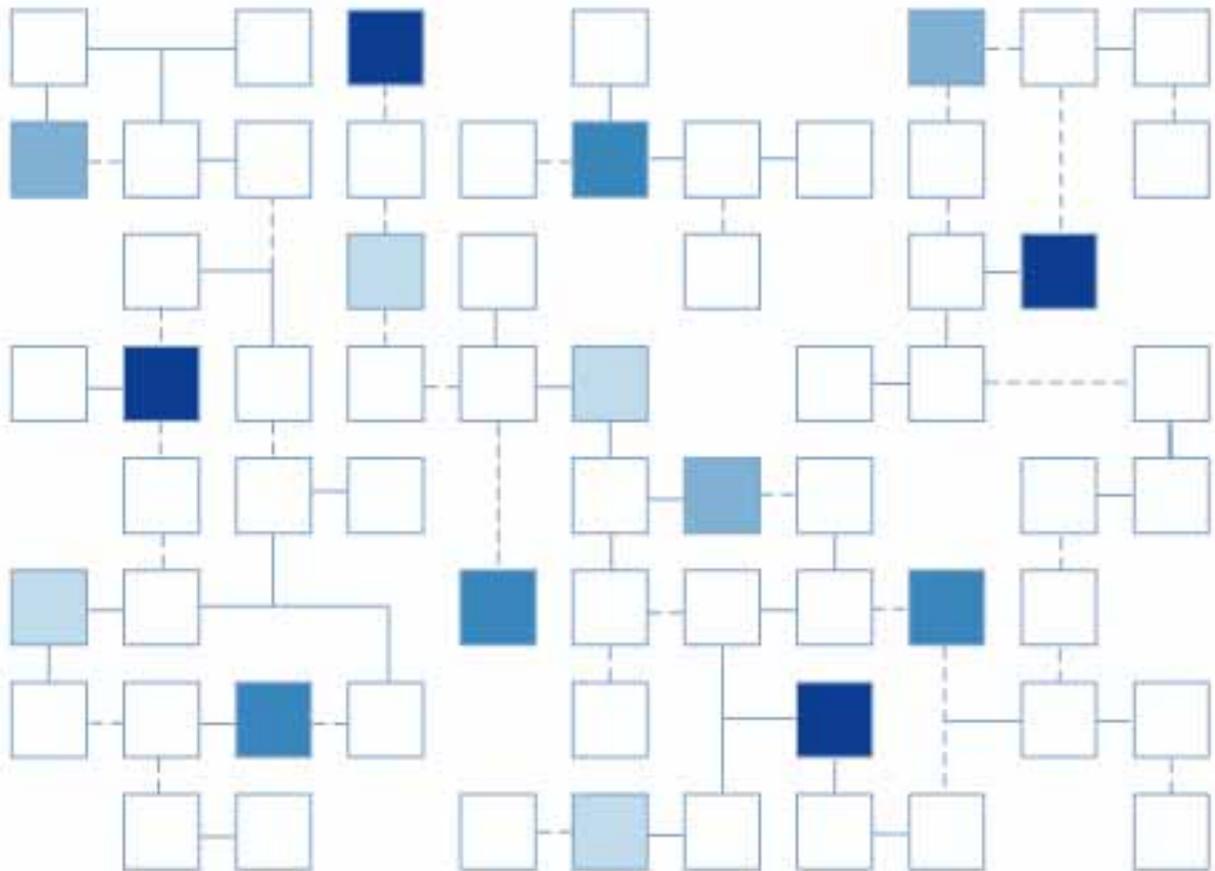




ExtraView アドミニストレーション・ガイド バージョン 4.3.4





ExtraView Corporation
269 Mount Hermon Road, Suite 100
Scotts Valley, CA 95066

電話: (831) 461-7100
Fax: (831) 461-7104
電子メール: info@extraview.com
www.extraview.com
© 1999 - 2005 ExtraView Corporation
All rights reserved

マニュアル名: ExtraView アドミニストレータ・ガイド
改訂年月日: October 10, 2005

本書に含まれる情報、および本書に登場するソフトウェアは、予告なく変更されることがあります。本書に登場する URL およびその他の Web サイトも変更される場合があります。著作権に基づく権利を制限することなく、本書のいかなる部分も ExtraView Corporation からの書面による明示的な許可なく、複製、検索システムへの格納または導入、任意の形式または手段（電子的、機械的手段、コピー、録音、その他の手段）による、任意の目的での送信はできません。

本書に登場する対象物に対して、ExtraView Corporation が特許、特許申請、商標、商標登録申請、著作権またはその他の知的財産権を保有する場合があります。ExtraView Corporation から書面によるライセンス契約書が提供される場合を除いて、本書の提供により、これらの特許権、商標権、著作権またはその他の知的財産権が付与されることはありません。

本書に登場する実在の会社名および製品名は、それぞれの所有者の商標である場合があります。

本書について

『ExtraView アドミニストレータ・ガイド』は、ExtraView Web ベースのビジネス・プロセス管理システムのユーザに、次の 2 つの一般的な目標を達成するために必要な知識とスキルを提供します。

1. 要求される適切なすべてのデータ・フィールドとセキュリティ権限を含め、会社のワークフロー・プロセス、ビジネス・ルール、および組織間のボキャブラリーに従って ExtraView をカスタマイズする。
2. ユーザの問い合わせ、関心事、リクエストに効率的に対応するために、ExtraView の稼動中に管理者が適切に管理できるようにする。

本書では、ExtraView の標準的なビジネス・プロセス管理機能の多くについて、読者がある程度の知識を持っていることを前提にしています。そのため本書では、主に ExtraView の管理機能を中心に説明しています。

ExtraView Corporation では、ExtraView に関してほかに次のようなマニュアルを提供しています。

- 『ExtraView ユーザーズ・ガイド』
- 『ExtraView CLI & API Guide』
- 『ExtraView Installation Guide』
- 『ExtraView User Custom Guide』

本書について

本書に記載されている情報は、次のように構成されています。

初期設定および構成	ExtraView のインストールのカスタマイズに必要なすべての情報を管理者に提供します。
ユーザ管理	システムにおける、ユーザとユーザの役割の追加および管理についての情報を提供します。プライバシー・グループとユーザ設定についても説明しています。
リスト管理	事前定義フィールドとユーザ定義フィールドの両方に含まれる、すべてのリストの保守機能について説明します。
フィールド管理	このセクションでは、使用可能な値のタイプ(親子関係)に関する、データ辞書、セキュリティ権限、および設定と保守について説明します。

レイアウトおよび表示	画面とレポートのレイアウトを作成および維持し、また画面、レポート、フォント、色などのすべての設定を保存する方法を説明します。
ワークフローの設定および操作	ワークフロー、ステータスの変更、および関係グループの設定方法を説明します。
電子メール通知	ExtraView のすべての電子メール通知機能について詳細に説明します。
システム制御	システムの主要な制御方法および設定方法について説明します。
高度な管理	メッセージのエクスポート、インポート、およびローカライズなどの高度な機能について説明します。
管理レポート・オプション	管理者が理解する必要があるレポート・オプションについて説明します。
システム・ログ	ExtraView でログに記録されるさまざまな情報、およびこの情報を解釈する方法について説明します。
ヘルプ・システム	組み込みのヘルプ・システムの構成について説明します。

表記規則

本書では、次のような特定の表記規則に従います。

- ExtraView で管理者がカスタマイズ可能な用語は *イタリック* で示します。
リストから *製品* を選択します。
- ボタン、リンク、リスト、またはフィールドの名前は **太字** で示します。
[Owner] ドロップダウン・リストから値を選択します。
- 特定の結果を得るために複数の手順が必要な場合は、各手順を数字で表記します。
 1. **[Edit]** ボタンをクリックします。
 2. リストから値を選択します。
 3. **[Update]** ボタンをクリックします。

目次

はじめに.....	1
EXTRA VIEW の概要	1
主要な概念.....	1
<i>ExtraView</i> の設定および構成.....	1
名前とタイトル.....	2
自社に最適なプロセスの定義.....	3
データ辞書.....	3
ユーザ・インタフェースの柔軟性.....	3
ユーザ.....	4
ユーザの役割およびセキュリティ・システム.....	4
ビジネス・エリア.....	5
画面およびレポートのレイアウト・エディタ.....	7
電子メール関係者リスト.....	7
レポート.....	7
アプリケーション・プログラミング・インタフェース(API).....	8
コマンド・ライン・インタフェース(CLI).....	8
初期設定および構成	9
概念.....	9
クライアント・ブラウザ.....	9
サポートされるブラウザ.....	9
画面解像度.....	9
ブラウザのクッキー.....	10
ブラウザの [戻る] ボタン.....	10
動作設定の初期設定.....	11
動作設定	11
ユーザ設定.....	14
レポートとクエリの設定.....	15
フォントと色の設定.....	18
表示の設定.....	19
ワークフローの設定.....	22
メール設定.....	24
セキュリティとセッションの設定.....	27
会社情報の設定.....	29
シングルサインオンとLDAP の設定.....	30
API 設定.....	30
環境設定.....	31
システムデバッグ & ユーザ・カスタム設定.....	32
一般的に使用される動作設定.....	33
グローバル化・ファイルの構造.....	34
ユーザ・インタフェースの修正	35
Web カスケード・スタイル・シート.....	35

メニューの方向.....	38
メニューのサイズ.....	39
タイトル・バー.....	39
メニューのテキストの色.....	40
背景およびテキストの色.....	41
ボタンおよび画像.....	42
色および画像のテーマ.....	47
サインオン・ページ.....	54
サインオン・ページ.....	54
ユーザ管理.....	55
概念.....	55
ユーザ・アカウントの保守.....	56
新規ユーザの追加.....	56
ユーザ・アカウントの編集.....	60
エンドユーザのセッション管理.....	63
ユーザの切断.....	64
ユーザのサインオン・ログ.....	64
権限のないアクセス.....	65
ユーザアクセスの有効化/無効化.....	66
セキュリティ許可の付与.....	67
ユーザ設定.....	68
プライバシー・グループ.....	69
新しいプライバシー・グループの作成.....	71
ユーザの役割.....	73
現在のユーザの役割の変更.....	74
ユーザの役割の追加.....	75
会社名のセキュリティ.....	77
リスト管理.....	81
概念.....	81
リストのソート.....	81
関係者リスト.....	82
リストへのエントリの追加および編集.....	83
大きなリストの管理.....	84
エントリのリストと許容値.....	85
ビジネス・エリアと許容値の関係.....	86
エイリアス・リスト.....	87
特別なプロパティのあるリスト.....	88
ビジネス・エリア.....	88
プロジェクト・リストにリンクされているビジネス・エリア.....	89
製品ラインリスト.....	89
製品名リスト.....	90
モジュール名リスト.....	91
[検出リリース] および [Release Fixed] リスト.....	93
フィールド管理.....	96

概念.....	96
表示タイプ.....	97
ボタン.....	97
チェックボックス.....	97
カスタム.....	98
日付.....	98
日数.....	98
HTML エリア.....	100
ラベル.....	100
リスト.....	100
ログ・エリア.....	100
数字.....	101
ポップアップ.....	101
出力テキスト.....	101
タブ.....	101
テキスト・フィールド.....	101
テキスト・エリア.....	101
ユーザ.....	102
ユーザ定義フィールド(UDF).....	102
UDF の作成および使用.....	102
ユーザ定義フィールドの追加.....	103
データ辞書フィールドのプロパティ.....	105
既存のユーザ定義フィールドの編集.....	109
データ辞書.....	110
事前定義フィールド.....	110
ラベル.....	111
画面.....	111
セッション変数.....	111
特殊変数.....	111
UDF.....	111
データ辞書の主な使用方法.....	111
データ辞書項目の編集.....	112
テキスト・エリア、出力テキスト、ログ・エリアの各フィールドの特別なプロパティ.....	124
特別な目的のデータ辞書フィールド.....	124
添付ファイル.....	125
電子メール・フィールド.....	126
ユーザ・フィールド.....	126
履歴フィールド.....	127
関係グループ・フィールド.....	127
事前定義リピーティング行フィールド.....	127
ボタン・フィールド.....	128
KEYWORD]フィールド.....	128
[FILTER_CHILD_VALUES] フィールド.....	129
[PROMO] フィールド.....	129
セキュリティ権限の付与.....	129
セキュリティ権限の編集.....	130
フィールドまたはオプションを読み取り専用にする.....	131

フィールドまたはオプションを書き込み専用にする	131
特定のユーザ・ロールに対してフィールドまたはオプションを読み取り/書き込み可能にする	132
特定のユーザ・ロールに対してフィールドを非表示にする	132
許容値タイプ	132
新しい許容値タイプの作成	133
許容値の入力	134
[* Default *] 親許容値	136
許容値のカスケード	136
許容値の制限事項	136
許容値およびリピーティング行レコード	137
レイアウトおよび表示	138
概念	138
エリアおよびプロジェクトのレイアウト	139
ユーザ・ロールのレイアウト	141
埋め込みレイアウト	141
レイアウトの選択方法	143
レイアウトの管理	145
既存のレイアウトの追加と更新	145
特定のユーザ・ロールのレイアウト作成	146
レイアウト内の既存のフィールドの再配置	148
レイアウト・セル属性	149
レイアウトの消去および削除	154
埋め込みレイアウトの追加	154
リピーティング・レコード・レイアウトの作成	156
適切な画面へのリピーティング・レコード・レイアウトの追加	159
履歴レイアウト	159
レイアウトの添付ファイル	160
レイアウト内のフィールド制限	162
レポートおよびクエリ設定	167
サインオン・メッセージ	171
企業のサインオン・メッセージの作成または変更	171
フォントと色の設定	173
表示の設定	174
レイアウト・タイプの作成 / 変更	176
新しいレイアウト・タイプの作成	176
ワークフローの設定および操作	178
概念	178
ワークフローの設定	179
ステータス変更ルール	182
ステータス変更ルールの有効化	183
ADMIN_BYPASS_GROUP 動作設定との相互関係	183
自社のワークフロー・プロセスの選択	183
ステータス変更ルールのカスタマイズ	184
ステータス変更ルールの適用	185
エリアとプロジェクトに対するステータス変更ルールの適用	187

ステータス変更ルールおよび許容値と許可の設定.....	187
issue のクローズ.....	188
ステータス・ルールの変更例.....	189
ステータス署名ルールの作成.....	190
ステータス署名ルールの有効化.....	190
自社のワークフロー・プロセスの選択.....	191
ステータス署名ルールのカスタマイズ.....	191
ステータス署名ルールの適用.....	192
関係グループ.....	193
関係グループの使用.....	194
電子メール通知.....	195
概念.....	195
管理者が制御する機能.....	195
システム全体の電子メールを有効または無効にする.....	196
モジュール所有者を割り当てる.....	196
製品の電子メールアドレスを設定する.....	197
電子メール通知の件名をカスタマイズする.....	197
CC メール機能.....	198
自動電子メール作成を無効にする.....	198
外部ユーザへの電子メール作成を無効にする.....	199
電子メールテンプレート.....	200
電子メール設定.....	202
ユーザが制御する通知機能.....	204
ユーザ自身の更新の通知.....	204
電子メール形式の選択.....	205
電子メール関係者リスト.....	208
データベース・フィールドの関係者リストを作成する.....	208
パーソナル電子メール関係者リストの編集.....	210
パーソナル関係者リストへの追加.....	211
関係者リストからユーザ自身を削除する.....	212
システム制御.....	213
概念.....	213
セキュリティとセッションの設定.....	214
セッション失効コード.....	216
統計情報.....	217
システム・ログ.....	218
会社情報の設定.....	220
LDAP サーバと SINGLE SIGN ON サーバ.....	221
Single Sign On (SSO) 接続.....	224
SSO を使用した Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) 接続.....	224
Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) の直接接続.....	227
LDAP および SSO の接続例.....	229
ExtraView の [追加] および [編集] 画面のフィールドに事前入力する.....	230
API 設定.....	234
高度な管理設定.....	234

概念	237
XML のインポートとエクスポートの基本	237
メタデータのエクスポートとインポート	237
ファミリー情報のエクスポート	239
項目データのインポート	240
項目データのエクスポート	243
メタデータの XML 形式へのエクスポート	244
メタデータの XML 形式からのインポート	245
インポート・プロセス内でのユーザデータの取り扱い	247
メタデータのインポート中のエラー・ログ	249
メタデータのインポート中に拒否されたレコードの取り扱い	249
項目データの XML のインポート	250
Batch Mode	250
API コマンド	251
項目データのインポート・エラー	252
ファイル・インポート・ユーティリティ	253
アップロード・ファイルの作成	255
最大フィールド・サイズ	257
データのマッピングとインポートの実行	257
リピーティング行データのインポート	260
インポートの方針	262
環境設定	264
システムデバッグ & ユーザ・カスタム設定	266
システム・メッセージとプロンプトの翻訳	267
アクセント記号付き文字をローカライズ・システムに入力する	268
エンドユーザの言語選択	269
システム・メッセージとプロンプトの翻訳	269
メタデータ値の翻訳	271
EXTRA VIEW バージョン情報	273
すべての動作設定	275
EXTRA VIEW ライセンス	276
SYSTEM SECURITY KEYS	277
既存のセキュリティ・キーの編集	278
システムログ・タイプ	278
管理レポート・オプション	279
概念	279
クイックリストと詳細レポート	279
EXTRA VIEW がフィルタ値を記憶する方法	280
グラフ	280
EXTRA VIEW ホーム・ページ画面のカスタマイズ	281
アカウントの詳細の編集	282
レポート URL へのリンク	エラー! ブックマークが定義されていません。
レポートへのリンク	エラー! ブックマークが定義されていません。
レポートからの ISSUE の一括更新	284
レポートのローカライズ	287
EXTRA VIEW のカスタム・コーディング拡張	289

JAVA カスタム・コーディング	289
JAVASCRIPT カスタム・コーディング	290
EXTRAVIEW のヘルプ	292
組み込みのヘルプ・システム	292
独自のヘルプ・システムの定義	293
デフォルト・ヘルプ・システムのパス	293
独自のヘルプ・システムにパスを定義する	293
独自のヘルプ・システムへのアクセス	293
EXTRAVIEW のシステム・ログ	294
アプリケーション・サーバ・ログ	294
アプリケーション・サーバ・ログ・ファイルの形式	295
アプリケーション・サーバ・ログ内のエラー	298
BATCHMAIL ログ	299
BatchMail ログ内のエラー	300
付録 A – 日付と時間の形式	301
概要	301
ローカライズ可能な日付と時間の形式	301
標準日付/時間解析形式	301
カスタム日付マスク	302
付録 B – セキュリティ許可キー	305
付録 C – 言語およびロケール・コード	321
付録 D – タイムゾーン	324
付録 E – 文字セットの値	332
付録 F – HTML エリア・ユーティリティ	335
索引	337



はじめに

ExtraView の概要

ExtraView は次のような特徴を持つ、Web ベースのビジネス・プロセス管理システムです。

- インストール、構成、管理が容易で、社内での設定と所有コストを最小化
- 将来的に簡単に拡張可能な機能を提供
- 大幅な修正の必要なく企業のビジネス・プロセスとワークフローをサポート
- 複数のトラッキング・システムを 1 つのデータベースに実装した上で、各トラッキング・システムを個別に運用したり、他のトラッキング・アプリケーションと関係付けることが可能
- 多数のユーザや issue(案件、問題)をサポートするスケーラビリティを提供
- 自社の用語、データ階層を反映させて容易にカスタマイズでき、自社の組織、製品、サービスを説明するデータの広範な検証が可能

主要な概念

ExtraView の設定および構成

このプロセスを適切に実行するには、詳細な計画を立てることが必要です。本書の目的は、初期設定のうち管理者が行う部分について詳細に説明し、インストールをサポートすることです。サーバと ExtraView アプリケーションのインストールの詳細については、個別のプラットフォームの『ExtraView Installation Guide』を参照してください。インストール時の設定で推奨される基本的なワークフローは次のとおりです。

- ExtraView をサポートするサーバのハードウェアとネットワーク接続について計画します。ExtraView Corporation のテクニカル・サポート担当者が、適切なプラットフォームについてのアドバイスを行います。『ExtraView インストール/構成ガイド』を参照することもできます。
- データベース、Web サーバ、およびアプリケーション・サーバ・ソフトウェアをインストールして、企業内ネットワークまたはインターネットを通じた通信を確立します。
- ExtraView アプリケーションをインストールします。プラットフォーム別の注意事項などについては、『ExtraView インストール/構成ガイド』を参照してください。
- ExtraView を設定します。本書では、システムの設計と、自社に必要な機能を設定する方法について説明します。必要な作業の概要は次のようになります。これらの作業の多くは記載されている順に行う必要はなく、任意に実行することができます。
 - いくつかの汎用的な動作を設定します。これらは、自社の環境での

ExtraView 稼動状況に大きな影響を及ぼす設定です。

- リモート・データベースに対して必要な特別な接続を設定します。例えば、リモートのディレクトリ・サービスに対する LDAP または Active Directory、あるいはシングル・サインオン認証用の SSO などがあります。
- システムにアクセスするユーザのさまざまな役割、またはユーザのカテゴリを定義し採用します。
- 事前定義フィールドを補完する、システム内のユーザ定義フィールドを定義および作成します。
- リスト間の親子関係など、フィールド間の関係を定義します。
- 作成したフィールドをサポートする画面の設計とレイアウトを行います。
- 定義した各ユーザの役割について、各画面へのアクセスをサポートするアクセス権の構造を作成します。
- 自社のプロセスを管理するワークフローを設定します。複雑なワークフローの場合は、Java または JavaScript 言語による、カスタマイズされた「user exit」ルーチンの設計およびプログラミングが必要になる場合があります。
- ユーザが共有可能な標準レポートを設計します。
- システムにユーザ・アカウントを追加します。
- 完成したシステムをテストします。

名前とタイトル

これらの用語は、本書全体で一般的に使用されています。

名前は、データベース内で使用される、フィールドまたはオブジェクトを参照する決められた用語です。一度作成すると、オブジェクトの名前は変更されず、固有の参照先になります。それぞれの名前にはタイトルが付けられます。ExtraView のローカライズ機能を有効にしている場合は、名前が付けられた任意のオブジェクトについて複数のタイトルが定義されている場合があります。

タイトルは、ExtraView のエンド・ユーザに対してユーザ・インタフェース全体で参照される、オブジェクトの参照先として定義されます。したがって、ExtraView 内のタイトルはすべて変更可能ですが、基礎になる参照先のデータは変更されません。

このように、各フィールドとオブジェクトを参照するタイトルまたはラベルは管理者が任意に変更できますが、基礎になるデータは変更されません。例えば、ID という名前のフィールドは、「Defect #」から「Tracking Number」にタイトルを変更できます。この変更の時点から、ID を参照するすべての画面、レポート、およびその他の画面で新しいタイトルが使用されます。

このように管理者によって行われたメタデータに対する変更は ExtraView によってログに記録され、誰がいつどのような変更を行ったかの監査証跡になります。

名前は ExtraView 内で固有ですが、タイトルは固有ではありません。固有でないタイトルを使用する場合には考慮が必要です。インストールの状況によって、固有でないタイ

トルの使用が可能な場合とそうでない場合があります。名前では、A ~ Z、0 ~ 9、「_」、「.」以外の文字は使用できません。最初の文字はアルファベットにする必要があり、最大 30 文字まで使用できます。

自社に最適なプロセスの定義

システム管理者は、ExtraView を使用して、自社の業務形態に適合するプロセスを定義できます。ExtraView は固定した方法を企業に強要することはありません。管理者は、プログラミングを行わずに自社のニーズに適したルールを設定できます。

提示した各 issue は、定義した任意の数のステータス値間で移動できます。この場合、各ステータスは、個別のステータスに関わることを許可されている役割を持つユーザだけが見ることができます。例えば、未解決の issue はエンジニアリング・グループだけに変更することができます。作業後は「修正済み」または「見つからない」とマーキングすることになります。この場合の issue にアクセスできるのは品質管理などの別の役割だけであるため、この同じエンジニアリング・グループが issue を解決することはできません。

ユーザの役割は、同じルールに従うすべてのユーザに対して定義されます。一般的に、顧客、サポート・スタッフ、エンジニアリング、品質保証、マネージャ、管理者などが対象となりますが、定義するユーザの役割の種類や数はまったくの任意です。

さらに、ExtraView 内の“追加”または“編集”フォームそれぞれに、相当量のロジックをプログラミングできます。例えば、特定のフィールドの内容に応じて値がフィールドに表示されるように設定したり、または特定のフィールドの値を条件とするサブレイアウトをフォーム内に指定することが可能です。

ExtraView の標準機能で対応できないワークフロー・プロセスがある場合には、ExtraView を Java 言語による追加コードで拡張し、ExtraView の UserCustom クラスを使用して“user exit”ルーチンに簡単に挿入することができます。詳細については、『ExtraView User Custom Guide』を参照してください。ExtraView では、基本製品のソース・コードを修正することなく、ソース・コード内で機能の変更または追加を簡単に行うことができます。これにより、ExtraView の更新またはアップグレード時にも、既存の投資が保護されます。

データ辞書

データ辞書は、すべてのフィールド定義が一括して格納され保持される場所です。さらに、この ExtraView のコア・コンポーネントは、表示タイプ、表示タイトル、レポートでフィールドが選択可能かどうか、フィールドがリストである場合にそのフィールドの入力に使用される SQL、デフォルト値、ヘルプ・テキストなど、各フィールドの多数の属性を制御します。システムをスムーズに稼働させるには、データ辞書を正しく設定することが不可欠です。ExtraView 内のすべてのフィールドを変更することは可能ですが、結果を正確に予測できる場合のみ変更を行うことを推奨します。

ユーザ・インタフェースの柔軟性

ExtraView では、会社のニーズに合わせて、さまざまな方法でロック・アンド・フィールドをカスタマイズできます。

ExtraView では、次のような変更を簡単に行うことができます。変更は管理者または ExtraView Corporation の Professional Services チームが行います。

- 画面の色とフォントの変更
- ExtraView のメイン・メニューを画面上に水平または垂直に配置
- 会社ロゴの追加
- 自社の用語に合わせたすべてのテキスト・ラベルの編集
- メニュー項目の名前変更
- 任意のスタイルで新しいメニュー・ボタンを作成
- ユーザ・グループごとに異なる画面レイアウトの作成
- ユーザの役割ごとに異なるレポートと電子メール・レイアウトの作成

ユーザ

ExtraView へのサインオンが認可されている個人をユーザと呼びます。各ユーザは個別のアカウントを持ち、ユーザまたはシステム管理者はアカウント内の個別の動作設定を変更できます。

管理者には、さらにユーザ・アカウントを管理する権限があります。例えば、新規にアカウントを作成したり、既存のアカウントを無効にしたり、ユーザの役割およびプライバシー・グループでユーザを追加および削除できます。

ユーザ・アカウントは自己登録プロセスを使用して作成できます。ただし、自己登録を行ったユーザには、システム管理者がさらに権限を付与するまで、基本アクセスだけが許可されます。

システムには、*admin* と呼ばれる特別なアカウントがあります。このアカウントには次のような特性があります。

- *issue* の作成または管理には使用できません。
- *issue* を *admin* ユーザに割り当てることはできません。
- *admin* ユーザは、使用可能なライセンス数には含まれません。
- *admin* ユーザはサインオン・メッセージ・エリアを見ることができないため、ある管理者によってこのエリアに挿入された、不具合のある可能性がある HTML をバイパスできます。
- *admin* ユーザには、データ辞書について、ExtraView がデータベース内の情報の抽出および更新に使用する SQL 文を入力および更新する権限があります。
- *admin* ユーザは、すべてのステータス変更ルールと署名検証ルールをバイパスします。

ユーザの役割およびセキュリティ・システム

この相互関係のある概念グループは、ExtraView を理解するための核になります。

個々のユーザは 1 つまたは複数のユーザの役割に属し、同じ特性とアクセス権を共有します。例えば、あるユーザの役割が特定のフィールドに対する読み取り/書き込みアクセス権を持ち、別の役割では同じフィールドを表示するだけになる場合があります。フィールドを表示することもできない役割もありえます。

すべてのフィールド、メニュー、および画面には、オブジェクトを保護するセキュリティ・キーが設定されます。例えば、セキュリティ・モジュール自体にアクセスするセキュリティ・キーがあるとします。この場合、別のセキュリティ・キーは、[アドミニストレーション] 画面の [製品] メニュー項目用に設定します。別の例として、[説明] フィールドへのアクセスを制御するためのセキュリティ・キーがあるとします。この場合、表示されるすべてのフィールドは、ユーザの役割が持つ権限に従ってオンまたはオフにできます。ExtraView には文字どおり何百ものセキュリティ・キーがあり、ユーザ定義フィールドを新しく作成するたびに 2 つの新しいセキュリティ・キーが自動的に作成され、新しく作成されたオブジェクトを保護できます。これらの 2 つのキーによって、データベースに新しい項目を追加する場合、および更新またはレポートを行う場合に、フィールドへのアクセスを制御できます。

[セキュリティ権限の付与] セクションで、使用中の ExtraView のバージョン内の、これらすべてのアクセス機能を制御できます。マトリックス・ビューでは、セキュリティ・キーとユーザの役割の交点を読み取り/書き込みスイッチになります。したがって、定義されたセキュリティ・キーを持つすべての項目について、ユーザがその機能を利用することを許可または禁止する役割を設定できます。

ビジネス・エリア

一般的にこの機能は、1 つのタイプのビジネス・プロセスを追跡する以上の要件を持ち、トラッキング・データベースをセグメント化することで多面的な運用をモデリングする必要がある、組織または会社によって使用されます。例えば、不具合のトラッキング、要件の計画、およびコール・センターのトラッキングなどのトラッキング・プロセスに対応するビジネス・エリアがあるとします。それぞれのビジネス・エリア内で、複数のプロジェクトを定義することもできます。これが実行された場合、管理者はトラッキング・データベースへのユーザのアクセス権を、個別のプロジェクト、または個別のエリアに制限できます。

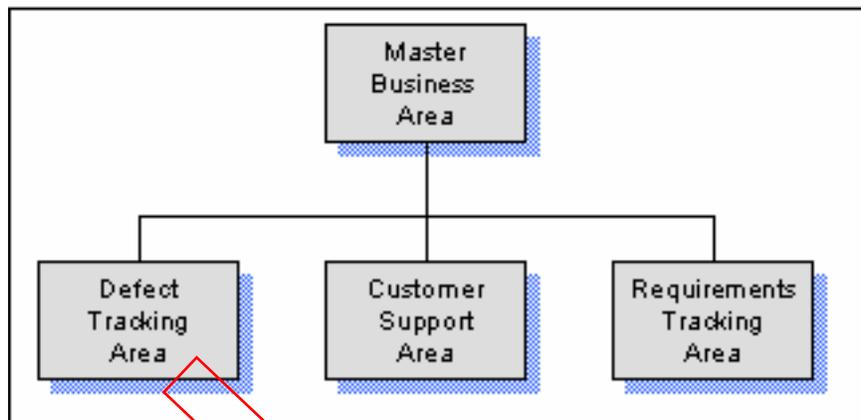
異なるビジネス・ルールのほか、エリアおよびプロジェクトごとに、画面レイアウトとフィールドが異なるデフォルトのレポートを定義して、組織の各部門ごとに ExtraView を最適化できます。

共通フィールドを使用すれば、複数のエリアまたは組織全体で管理情報を統合できます。

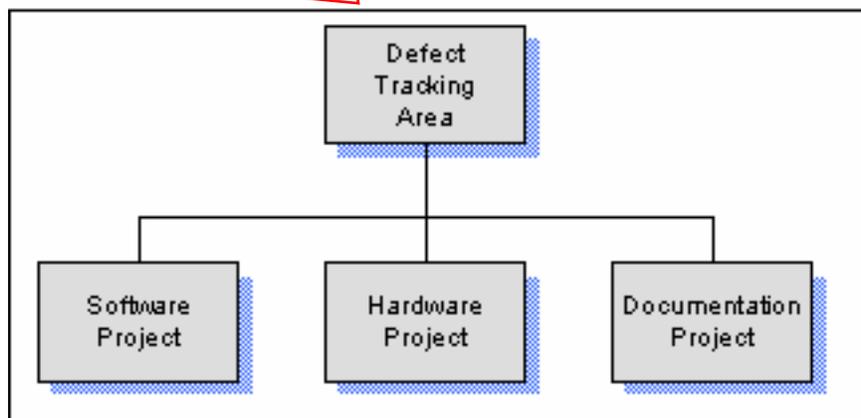
エリアとプロジェクトの使用方法を規定する基本的な原則が、継承です。ExtraView 内の最上位のエリアはマスター・エリアと呼ばれます。ExtraView 内の最上位のプロジェクトはマスター・プロジェクトと呼ばれます。マスター・レベルでは、常にレイアウトとセキュリティ許可が定義されます。マスター・エリアの下に、さらに継承された値が適用されるエリアやプロジェクトを定義できます。どのレベルでも、継承された値に優先する、その他のレイアウトおよびセキュリティ許可をフィールドに定義できます。

本書に記載されているオプションの多くが、エリアとプロジェクトに依存しています。ただし、わかりやすくするために、本書ではこれらのフィールドについては重要な事象について説明する必要がある場合に言及します。簡単に言えば、エリアとプロジェクトは必要

に応じてセキュリティ許可やレイアウトなどの管理者画面に表示され、エリアおよびプロジェクト機能がオフになっている場合は表示されません。



ビジネス・エリア構造の例



ビジネス・エリア内のプロジェクト構造の例

注: エリアやプロジェクトを使用する場合は、自社のデータを格納するために、デフォルトのビジネス・エリアとデフォルト・プロジェクトを割り当てないようにします。これらはデフォルトのセキュリティ許可やレイアウトの設定用に確保しておきます。

注: 不具合のトラッキングなど、1つの目的で ExtraView を構成する場合は、マスター・ビジネス・エリアを単純に構成してデータの格納に使用することはお勧めしません。この方法は効果がありますが、トラッキング・システムをさらに導入する場合、将来的な変更がむずかしくなります。

ビジネス・エリアとプロジェクトは、動作設定 ENABLE_AREAS および ENABLE_PROJECTS によってオンまたはオフにすることができます。これらの設定は、[Administration] の [環境設定] メニューで行うことができます。

画面およびレポートのレイアウト・エディタ

この機能により、[Issueを追加]、[Issueを編集]、[検索]の各画面のレイアウトを設定および変更できます。さらに、クイックリストや詳細レポートなどの主なレポートでも、この機能によって定義されたレイアウトが使用されます。レイアウトは、システム内のユーザの役割ごとに非常に柔軟に定義することができます。レイアウトは、各フィールドのセキュリティ許可に連動して機能します。したがって、画面に単純にフィールドを配置しても、自動的にすべてのユーザがそのフィールドの読み取り/書き込みができるわけではありません。[セキュリティ権限の付与] オプションを使用すると、各ユーザ・グループがどのフィールドを表示および更新可能かを定義できます。フィールドのセキュリティ権限は、画面またはレポート上にフィールドを配置する機能に優先して適用されます。

マスター・レイアウト内には、サブレイアウトを埋め込む場合があります。この場合は、特定のフィールドの値に応じて、別のレイアウトを表示させることもできます。例えば、ソフトウェア、ハードウェア、およびドキュメンテーションという値を持つカテゴリ・フィールドがあるとした場合、選択する値によって、それぞれのカテゴリについて必要な情報を収集するためのフィールドを持つサブレイアウトを表示させることが可能です。また、これらのサブレイアウトや組み込みレイアウトは、issue の追加レイアウトまたは編集レイアウトにのみ組み込むことができます。その他のレイアウトでは必要ありません。

各レイアウト内のフィールドには、1 つまたは複数の属性を定義できます。これらの属性によって、フィールドの表示または処理方法が変わります。例えば、ある属性によって、フィールドのタイトルを 1 つのフォームについてのみ別のタイトルに変えることができます。または、あるフィールドが特定の値を持った場合のみ、特定のフィールドが表示されるように定義することも可能です。

システム内の個別のエリアとプロジェクトのレイアウトを設計および実装する機能を使用すれば、上記の内容に優先する設定を行うことができます。

電子メール関係者リスト

ExtraView のこの強力な機能によって、組織内の該当するユーザにイベントの自動通知を行うことができます。関係者リストは、値のリストを持つ任意のフィールド上のデータ辞書で定義できます。例えば、重要度レベルが *critical* であるすべての issue について各ユーザに通知する関係者リストや、ある issue が特定のモジュールに影響した場合に各ユーザに通知する関係者リストなどを定義できます。

レポート

ExtraView の管理セクションでは、ユーザのコミュニティ全体がレポートを利用できるように定義できます。レポートは、ExtraView データベースに対するクエリで使用されるフィルタのセットとして定義でき、また単純な表形式またはカスタマイズされたレイアウトと組み合わせることも可能です。作成された他のレポートへのリンク(管理者による内部リンク、または外部リンク)を定義することもできます。

すべてのユーザの役割、または個別のユーザの役割が利用できる、詳細レポートとクイックリストを作成できます。これにより管理者は、ユーザのその時点での役割に応じて異なるレイアウトをユーザに提示することが可能です。

ExtraView の管理セクションで、レポート作成にとって最も重要な点は、次のデータ辞書フィールドを正確に設定することです。詳細については本書のデータ辞書のセクションで説明します。

- [レポート上での選択を許可]
- [フィルタ基準]
- [ソート可能]

アプリケーション・プログラミング・インタフェース(API)

ExtraView の API では、ExtraView の機能を拡張することができます。API には主に次のような機能があります。

- ExtraView にアクセスし、issue の追加や更新などのユーザ機能を実行する URL 機能のセット。これによって、Oracle SQLNet などの高価なソフトウェアを各クライアント・コンピュータにインストールする必要がなくなります。
- ExtraView の限定された管理が可能な URL 機能のセット。例えば、ユーザを追加してユーザ・パスワードを変更できます。
- API の上に実装された完全なコマンド・ライン・インタフェース(CLI)により、ユーザはコマンド・ラインからの追加、更新、削除、検索などの機能を利用できます。これは一般的に、UNIX、Linux、または Windows 2000 コマンド・シェルから使用します。

コマンド・ライン・インタフェース(CLI)

CLIは ExtraView APIを使用して実装されています。次のような多数の機能を実行する、Perl スクリプトのセットで構成されています。

- telnet セッションから issue をバッチ・モードまたはインタラクティブ・モードで追加/更新
- 限定された管理機能を実行
- CLI 機能は、さらに ExtraView ユーザがスクリプトで独自の機能を作成して、インタラクティブ・モードまたはバッチ・モードで実行可能

初期設定および構成

概念

ExtraView Configuration 機能は、高度にカスタマイズされた設計や構成要件を簡単に実装できる、システム管理者のためのツールセットです。この場合、プログラミングはほとんどまたはまったく必要とされません。管理者は、これらの機能を使用して、ほとんどまったくダウンタイムを発生させずに、会社のニーズの変化に応じた継続的なカスタマイズを行うことができます。

このセクションでは、ExtraView の動作設定、環境設定、およびロック・アンド・フィールドの初期設定について説明します。

クライアント・ブラウザ

サポートされるブラウザ

ExtraView は、Netscape Navigator と Internet Explorer の両方のサポートが保証されています。

Netscape Navigator はバージョン 4.7 および 7.x がサポートされています。

Internet Explorer は 5.5 以上のすべてのバージョンがサポートされています。

これらのブラウザは、Windows 98、Windows ME、Windows XP、Windows NT version 4、Windows 2000、Apple Macintosh、Linux、Solaris、Unix の各プラットフォームでサポートされています。

Opera、Safari、Firefox、Mozilla など、その他のブラウザでも問題はないと思われませんが、ExtraView のすべてのソフトウェア・リリースで動作が確認されているわけではありません。ブラウザについて問題があった場合は、ExtraView サポートまで電話または電子メールでお問い合わせください。

画面解像度

ユーザが ExtraView を使用するモニタまたは画面の解像度は、最小 1024 x 768 ピクセルを推奨します。ExtraView はこれより低い解像度でも使用できますが、上下左右にスクロールする幅が大きくなり、使いにくくなります。管理者は、設計段階でこれに影響する要素を調整することができます。例えば、大きいサイズから小さいサイズまでのフォントを使用するスタイルシートの設定を変更します。また、画面レイアウトに表示される行や列の数を調整することも有益です。

ブラウザのクッキー

ほとんどブラウザにはクッキーがあり、デフォルトの設定で有効になっています。ExtraView で使用する場合も、クッキーを有効にする必要があります。無効にした場合は、クッキーを有効にしないと ExtraView を使用できない旨の警告が表示されます。

ブラウザの [戻る] ボタン

ExtraView では、ブラウザの [戻る] ボタンを使用しないでください。表示の移動は、必ず ExtraView のメニューに表示されるボタンを使用して行います。

これは、ExtraView では常に情報の整合性を維持する必要があるためです。例えば、ExtraView の [Issueを追加] 画面上のボタンを押して新しいレコードを追加した場合に、[戻る] ボタンを押して再度 [追加] ボタンを押すと、2 つのレコードが挿入されてしまいます。編集したレコードにユーザが戻ろうとする場合、または issue (案件、問題) の追加または編集集中に、サーバから更新された画面に戻る場合にも同様の問題が発生します。

ブラウザ上での文字セット

ExtraViewは、組織を越えて異なるブラウザの中で入力された情報が互換性を持ち、ExtraViewサーバから一貫した様式で格納および検索が行えるよう、一貫して単一の文字セットで動作させなければなりません。これはアルファベットに基づいている言語ではあまり問題にはなりません、ユーザが日本語や中国語などのダブルバイト言語を使用するシステムを正しく構成する上で不可欠な要素です。

HTTP_CHARSETという動作設定(以降のセクションを参照)により、すべてのブラウザからの入力、ExtraView インスタンスのすべてのユーザを対象として文字エンコーディングを定義することができます。デフォルトでこれは、汎用的ですべての言語をサポートする UTF-8 に設定されています。すべてのユーザにローカル・ブラウザの文字セットを UTF-8 に設定させることを推奨します。変更する場合は、サーバの設定とすべてのクライアント・ブラウザの設定を変更しなければなりません。

注:正しく一貫して文字が表示されるよう、HTTP_CHARSET の値を UTF-8 に設定すること、またすべてのユーザが各自のブラウザの文字セットを UTF-8 にのみ設定することを強く推奨します。動作設定の初期設定

独自のニーズに合わせて動作を設定するには、管理セクションの動作設定内の複数の場所に初期設定情報を入力する必要があります。主に次の場所に入力します。

- [システム制御] メニュー
 - [セキュリティとセッションの設定]
 - [会社情報の設定]
 - [シングルサインオンとLDAPの設定](これらの機能を使用する場合)
- [高度な管理] メニュー

- [環境設定]

場合によってはほかにも重要な動作設定はあり得ますが、まず上記のセクションから確認してください。

動作設定の初期設定

独自のニーズに合わせて動作を設定するには、管理セクションの動作設定内の複数の場所に初期設定情報を入力する必要があります。主に次の場所に入力します。

- [システム制御] メニュー
 - [セキュリティとセッションの設定]
 - [会社情報の設定]
 - [シングルサインオンと LDAP の設定](これらの機能を使用する場合)
- [高度な管理] メニュー
 - [環境設定]

場合によってはほかにも重要な動作設定はあり得ますが、まず上記のセクションから確認してください。

動作設定

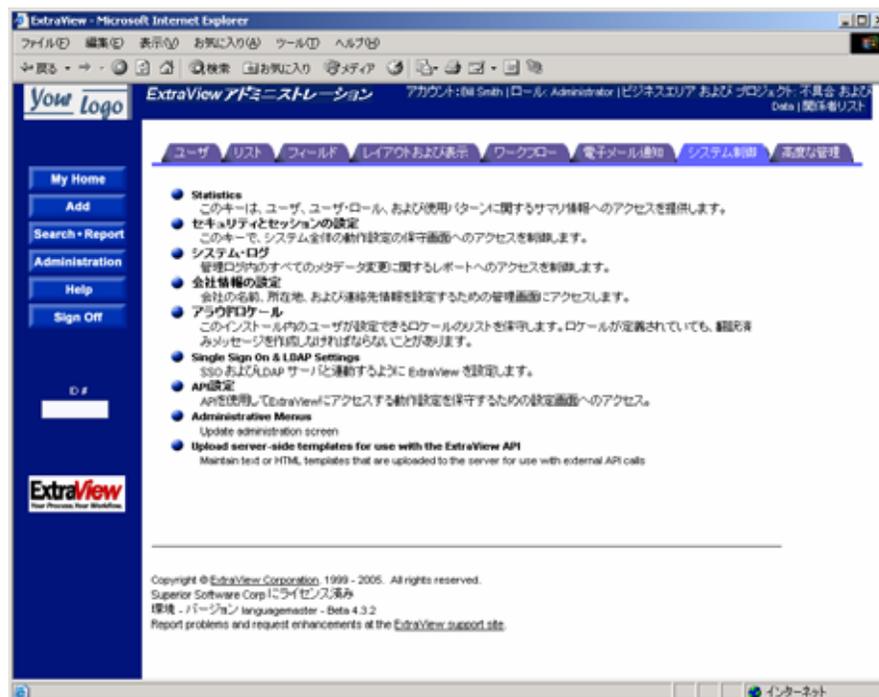
このセクションでは、ExtraView システム全体で使用されるシステム・レベル情報の設定と変更について説明します。動作設定は、ExtraView の管理セクションにある複数のタブを使用して行います。

ある動作設定が複数のメニューに関係する場合には、異なるメニューにその同じ動作設定が含まれる場合があります。この動作設定はいずれかのメニューで変更できます。さらに、[高度な管理] メニューのタブには、**[すべての動作設定]** という設定メニューがあります。このメニューには、すべての動作設定がアルファベット順に表示されています。

管理メニュー内の設定メニューは次のように配列されています。

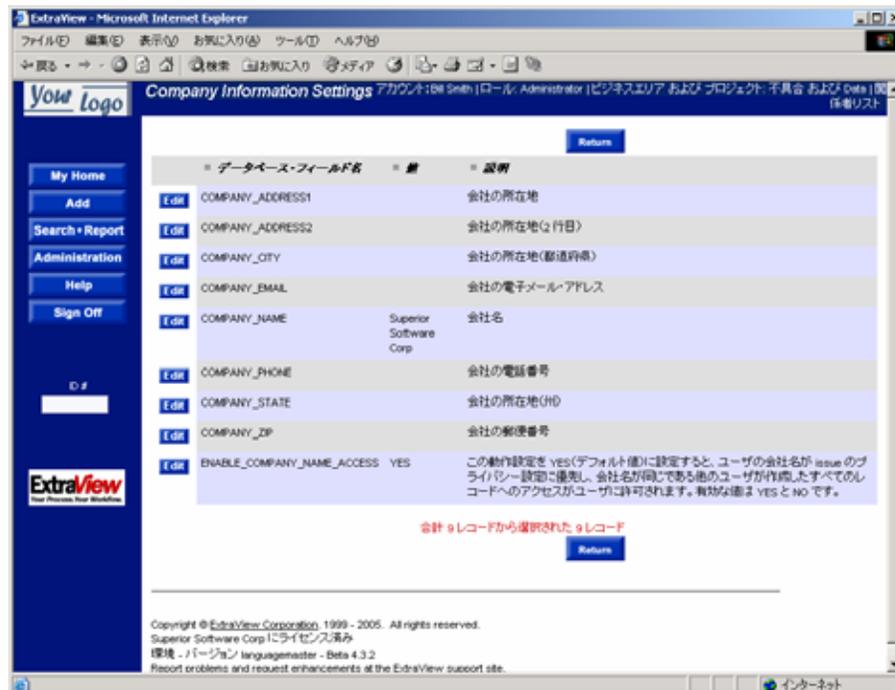
[Administration] タブ 動作設定	
[ユーザ]	[ユーザ設定]
[リスト]	--
[フィールド]	--
[レイアウトおよび表示]	[レポートとクエリの設定] [フォントと色の設定] [表示の設定]
[ワークフロー]	[ワークフローの設定]
[電子メール通知]	[メール設定]
[システム制御]	[セキュリティとセッションの設定] [会社情報の設定] [シングルサインオンとLDAP の設定] [API 設定]
[高度な管理]	[環境設定] [システムデバッグ & ユーザ・カスタム設定] [すべての動作設定]

次のスクリーン・ショットは、管理セクションの [システム制御] タブを示しています。



[ExtraView Administration] メニュー - [システム制御]

動作設定画面のどれかにアクセスすると、次のような画面が表示されます。ここでは [会社情報の設定] 画面を示します。その他の画面も同様の形式で表示されますが、動作設定は設定エリアの文脈に依存します。



インストール設定画面

項目の横の [Edit] アイコンをクリックすると、デフォルト設定を変更できます。例えば、この画面では、ウィンドウの背景色を示す [WINDOW_BG_COLOR] を編集できます。

固定データベース名: WINDOW_BG_COLOR

説明: ウィンドウの背景色を指定します。

値: #FFFFFF

[WINDOW_BG_COLOR] 設定の編集

セクション内でこの値またはその他の値を編集するには、値を変更して [更新] ボタンをクリックします。

次のリストでは、設定に関するメニューとその標準的な値を示します。

ユーザ設定

[ユーザ]メニュー - [ユーザ設定]	標準的な値	説明
[ALLOW_PASSWORD_CHG_AT_SIGNON]	YES	この設定では、ユーザ・サインオン画面の [Change Password] リンクの表示を制御します。値を YES にするとリンクが表示され、値を NO にするとリンクが非表示になります。
[CHECK_EMAIL_ADDRESS_FORMAT]	YES	YES に設定すると、ユーザ・アカウント画面に入力された電子メール・アドレスについて、完全修飾ドメインを持つ有効な形式であるかどうかを確認されます。NO に設定すると、電子メール・アドレスの形式は確認されません。
[ENABLE_PRIVACY_GROUPS]	YES	プライバシー・グループ機能のオン/オフを切り替えます。有効な値は YES と NO です。NO に設定すると、ユーザ管理画面でユーザのプライバシー・グループの設定、つまりプライバシー・グループの作成および保守ができなくなります。
[ENFORCE_DETAILED_USER_INFO]	NO	ユーザ・アカウント画面の必須フィールドにフィールドが追加されます。有効な値は YES と NO です。
[IGNORE_DEACTIVATED_USER_FIELDS]	ORIGINATOR	区切り文字を含む、表示タイプが USER のフィールドのリスト。このリストにある、非アクティブ化されたユーザがいるフィールドを含む issue を編集しても、ユーザに警告は出されません。このリストに表示されていない USER フィールドに非アクティブ化されているユーザがいる場合は、issue を編集するときにユーザに警告が出されます。
[OMITTED_IMPORT_USER_COLUMNS]		security_user というテーブル内の列名のカンマ区切りリスト。XML エクスポート・ファイルを作成した場合、ここに表示された列のリストが除外され、ExtraView の別のインスタンスにインポートされます。したがって、SECURITY_PASSWORD など、ユーザによって頻繁に変更されるフィールドは、データのインポート時には上書きされません。
[USER_DEFINED_START_PAGE]	YES	YES に設定すると、ユーザは ExtraView へのアクセス時に、ホーム・ページ、[Issue を追加] 画面、または [検索/レポート] 画面など、よく使用するページをスタート・ページとして設定できます。これは各ユーザのパーソナル設定ページで設定されます。
[USERNAME_DISPLAY]	FIRST	選択可能なユーザ名 (ID、FIRST、LAST) が表示されます。例えば、ユーザの名前が Mary Smith でユーザ ID が msmith である場合、ID には msmith、FIRST には Mary Smith、LAST には Smith, Mary と表示されます。
[USER_LIST_DISPLAY]	LIST	POPUP または LIST と表示されます。POPUP の場合は、ユーザはポップアップ・ウィンドウから issue を追加および更新します。LIST の場合は、ユーザ名は選択したリストに表示されます。一般的に、多数のユーザがいる場合は、POPUP を使用します。
[USER_SELF_REGISTRATION]	YES	これにより、ユーザはサインオン画面から自己登録することができます。有効な値は YES と NO です。自己登録したユーザには、IGNORE_USER_GROUP で指定されたユーザの役割に応じた権限だけが与えられます。

レポートとクエリの設定

[レイアウトおよび表示] メニュー – [レポートとクエリの設定]	標準的な値	説明
[ABBREVIATED_HISTORY]	NO	値が YES の場合は、変更されたフィールドが履歴レコードのみに表示され、監査証跡の表示に履歴レイアウトは使用されません。値が NO の場合は、監査証跡の表示に履歴レイアウトが使用されます。YES の場合には NO の場合よりも結果が簡潔に表示されますが、変更を容易に確認するための特定のレイアウトはありません。
[ABBREVIATED_HOME_PAGE]	NO	値が NO の場合は、サインオン・メッセージと、最大 3 つのユーザ定義レポートが ホーム・ページ に表示されます。値が YES の場合は、サインオン・メッセージだけが表示されます。
[ALLOWED_ATTACH_SEARCH_FILE_EXT]	txt, html, doc, htm, application/base64...	ユーザが [検索 添付ファイル?] ボックスにチェックを入れた場合に、このリストでキーワード検索の対象になる添付ファイルの形式。検索されるリスト内で、これらの拡張子を持たないファイルはスキップされます。この機能は、画像ファイルなどのファイル検索をスキップして、検索プロセスを効率化するために使用されます。
[ALLOW_CHART_PRODUCT]	YES	PRODUCT に基づいてユーザがグラフを作成できます。有効な値は YES と NO です。NO に設定すると、PRODUCT にグラフを表示するオプションが表示されません。
[ALLOW_CHART_RELEASE]	YES	RELEASE リピーティング・レコードに基づいてユーザがグラフを作成できます。有効な値は YES と NO です。NO に設定すると、RELEASE にグラフを表示するオプションが表示されません。
[ALLOW_CHART_STATUS]	YES	STATUS に基づいてユーザがグラフを作成できます。有効な値は YES と NO です。NO に設定すると、STATUS にグラフを表示するオプションが表示されません。
[ALLOW_SEARCH_TEXT_UDFS]	NO	YES に設定すると、キーワード検索に表示タイプが Text の UDF が含まれます。これは検索スピードに影響する場合があります。有効な値は YES と NO です。
[ALLOW_UNLIMITED_SEARCH]	YES	検索時のクエリで返される行数の制限の有無を指定します。有効な値は YES と NO です。サイズの大きいデータベースの場合、一般的にシステム管理者は、大量のリソースを消費するユーザのレポートの実行を禁止します。これは LIMIT_QUERY_ROWS と合わせて使用されます。
[DEFAULT_SORT_ORDER]	ID:DESC	レポートのデフォルトのソート順。
[DEFAULT_TEXT_REPORT_DELIMITER]	:	テキスト・レポートのデータ・フィールド間に置かれる単一の文字。結果をテキスト・ファイルに出力する場合や、API / CLI を通じて出力する場合は、この文字を使用して個々のフィールドを区切ります。
[DRILLDOWN_ATTRIBUTE]	ID	検索基準に使用するデータ辞書の入力名。これは一般的に issue の ID が使用されますが、システム構成に従って ALT_ID または別のフィールドになる場合があります。
[EXCEL_CELL_CHAR_LIMIT]	31000	Excel の単一のセルにエクスポートされる文字数を指定します。フィールドのテキスト長がこの数を超える場合は、余分な文字が切り捨てられます。Excel では 1 つのセルで最大 32,000 文字を使用できるため、この数値は小さくなります。
[FILL_IN_REPEATING_RECORDS]	YES	テキスト形式および Microsoft Excel 形式のレポートで、空白のリピーティング行を親データで埋めるかどうかを指定します。NO を選択すると、各リピーティング行の子の値として親データが反復されます。値は YES または NO になります。

[レイアウトおよび表示]メニュー-[レポートとクエリの設定]	標準的な値	説明
[FOLD_TEXT_POSITION]	100	テキスト・エリア および ログ・エリア・フィールドでテキスト行を折り返す文字位置を指定します。65 未満の数値を指定することはできません。99999 など大きい数値を指定すると、入力されたテキストは折り返されません。
[FOLD_WORD_POSITION]	100	テキスト・エリア および ログ・エリア・フィールドで文字数の多い単語を分割する文字位置を指定します。65 未満の数値を指定することはできません。99999 など大きい数値を指定すると、文字数の多い単語が分割されません。
[HIGHLIGHT_LAST_CHANGE_USER]	YES	YES に設定すると、電子メール通知や履歴レポートで、LAST_CHANGE_USER フィールドが常に強調表示されます。有効な値は YES と NO です。
[HIGHLIGHT_TIMESTAMP]	YES	YES に設定すると、電子メール通知や履歴レポートで、TIMESTAMP フィールドが常に強調表示されます。有効な値は YES と NO です。
[HOME_PAGE_REFRESH_SECONDS]	900	ホーム・ページ が自動的に更新される頻度を、秒数で指定します。0 を指定すると、ホーム・ページ は更新されません。これによって、新しい issue の発生と更新に従って ホーム・ページのレポートの情報が変更されるため、ユーザは常に更新されたデータを見ることができます。
[INSERT_REPORT_HEADERS]	YES	この設定により、Microsoft Excel または Text で出力されるレポートにヘッダおよびフッタ情報を挿入するかどうかを制御します。値は YES または NO を指定します。ヘッダおよびフッタは、常にブラウザおよび Microsoft Word へのレポート出力用に生成されます。
[ITEM_TABLE_CARDINALITY]		索引付けされたクエリの最適な順序。
[LIMIT_QUERY_ROWS]	10000	検索クエリによって返される最大行数。これは ALLOW_UNLIMITED_SEARCH と合わせて使用され、クエリおよび MAX_UNLIMITED_ROW_COUNT によって返される最大行数を指定します。
[LIMIT_WORD_DETAILED_RECORDS]	10000	MS Word レポートにおける詳細なレコードの最大数。Microsoft Word で、サイズの大きい HTML レポートのダウンロードまたは読み込み時にフリーズするバグが発生した場合に使用します。
[LIMIT_WORD_RECORDS]	25000	MS Word レポートの検索で返される最大レコード数。大量の HTML データの読み込み時に Word がフリーズするバグが発生した場合に、Word に送信される HTML データの量を制限するために使用します。
[LOG_AREA_DISPLAY_CHARS]	250	issue 編集画面で切り捨てられない、ログ・エリア・フィールドの最大文字数。切り捨てが行われると「詳細」という文字が表示され、ユーザがこれをクリックすると残りのテキストが表示されます。80 未満または 32000 を超える文字は設定しないでください。
[MENUBAR_SEARCH_TARGET_WIN]	main	ナビゲーション・バーから issue に移動すると、メイン・ウィンドウのナビゲーション・バーの横に表示される値が MAIN になります。値を __BLANK にすると、新しいウィンドウが表示されます。
[MINIMUM_SEARCH_FIELDS]	0	キーワード検索を実行する前にさらに選択する必要があるフィルタ数。リソースが多量に消費されるデータベース全体に対する検索を、ユーザが行わないように指定するものです。小規模のインストールでは 0、中規模のインストールでは 1、大規模なインストールでは 2 以上を使用します。

[レイアウトおよび表示] メニュー – [レポートとクエリの設定]	標準的な値	説明
[MS_OFFICE_CHARSET]	UTF-16LE	Microsoft Office 製品に送信されるレポート用のデフォルトの文字セット。デフォルト値は UTF-16LE です。この値は、MS Office の英語バージョン、およびその他のほとんどの各国語バージョンに適します。
[RECORDS_PER_PAGE]	20, 100, 500	レポートでユーザが選択可能な、表示ページ当たりのレコード数。これらの値が [検索/レポート] 画面のリスト・ボックスに入力されます。[ALLOWED_UNLIMITED_SEARCH] が YES の場合は、値のリストに Unlimited が付加されます。
[REFRESH_LIST_MAX_SIZE]	200	リストがこのサイズより小さく、有効な値の関係について更新 JavaScript オプションが選択されている場合に、JavaScript を使用した高速の更新が行われます。管理者はこの設定により、メタデータをブラウザに読み込んで高速の更新を行うか、サーバからメタデータ・リストを更新するという時間がかかる方法をとるか、選択肢をユーザに提供できます。
[REPORT_FILTER_BY_CURRENT_ROLE]	NO	NO に設定すると、現在の役割に応じたレポートだけが、ユーザの [クエリ/レポート] ページに表示されます。一般的にはこの場合、パーソナル・レポート、公開レポート、およびその他の現在の役割に応じたレポートが表示されます。YES に設定した場合は、他の役割に対応するレポートのうち表示可能なものも表示されます。
[REPORT_IN_NEW_WINDOW]	NO	NO に設定すると、ExtraView のメイン・ウィンドウに [Quicklist] と [Detailed Report] が表示されます。YES に設定すると、新しいウィンドウに [Quicklist] と [Detailed Report] が表示されます。
[REPORT_LABELS_POSITION]	TOP	レポート上のデータに対するラベルの位置を指定します。有効な値は LEFT と TOP です。値を LEFT に設定すると、目的に従って定義されたレイアウトが詳細レポートで使用されます。値を TOP に設定すると、詳細レポートが 1 つの列で、ラベルが左に、値が上から下に表示されます。フィールドの順序は詳細レポートのレイアウトに従って、左から右、上から下の順序になります。
[REPORT_SUPPRESS_BLANK_LINES]	YES	YES に設定すると、詳細レポートでデータ値がすべて null であるすべての行が表示されなくなります。有効な値は YES と NO です。これは、空白のセルを多く含むレポートの長さを短縮するために使用します。
[REPORT_WITH_FIXED_WIDTH_FONT]	NO	YES に設定すると、表示タイプが "テキスト・エリア" と "ログ・エリア" であるフィールドの内容が、FIXED_WIDTH_FONT で表示されます。NO に設定すると、これらのフィールドの内容が DEFAULT_FONT を使用して表示されます。この設定は、編集画面のログ・エリア・フィールドの表示にも適用されます。
[RESTRICT_ROLE_BASED_REPORTS]		この設定は COMPANY_NAME の値をとるか、空白になります。COMPANY_NAME に設定すると、特定のユーザの役割用に保存されているレポートを見ることができるのは、動作設定 DEFAULT_USER_GROUP で定義された役割を持ち、会社名がレポート作成者の会社名と一致するユーザだけになります。COMPANY_NAME に設定しない場合は、ユーザの会社名に関わりなく、あるユーザの役割用に保存されているすべてのレポートを見ることができます。

[レイアウトおよび表示]メニュー – [レポートとクエリの設定]	標準的な値	説明
[SEARCH_ATTACH_THRESHOLD]	100000000	パフォーマンスに影響する旨の警告が出されることなくユーザが検索可能な、添付ファイルのサイズを指定します。検索される添付ファイルのサイズがこの値を超えると、ユーザ画面にダイアログ・ボックスが表示され、検索を続行するかどうかを確認されます。

フォントと色の設定

[レイアウトおよび表示]メニュー – [フォントと色の設定]	標準的な値	説明
[BG_ALT_COLOR]	#DEF0F8	選択可能なテーブルの背景色を指定します。BG_COLORの補助色として使用されます。
[BG_COLOR]	#d4d4d4	テーブルの背景色を指定します。BG_ALT_COLORの補助色として使用されます。
[BORDER_COLOR]	#C7C9C7	[検索/レポート] ページの枠の色を指定します。
[DEFAULT_CHART_FONT]	SansSerif	表示されるグラフで使用するフォントを指定します。指定するフォントは1つだけにして、また ExtraViewの実行時にサーバで使用できるようにします。
[DEFAULT_FONT]	Arial, Helvetica, sans-serif	ほとんどすべてのページの本文で使用されるフォントを指定します。プラットフォームが異なる別のブラウザではリスト内のフォントの一部しか利用できない場合があるため、優先順位に従って3つのフォントを指定するようにしてください。
[FIXED_WIDTH_FONT]	'Lucida Console', Courier, monospace	ユーザ定義フィールドの出力テキストの表示に使用され、また REPORT_WITH_FIXED_WIDTH_FONT が YES である場合に、読み取り専用の説明フィールドと古いログ・エリア・フィールドで使用されるフォントを指定します。
[HIGHLIGHT_COLOR]	#FF0000	レイアウト要素の Highlight 属性を使用した場合に、テーブルのセルの強調表示色を指定します。
[HIGHLIGHT_COLOR_ADD]	#FF0000	履歴通知および電子メール通知で、レコードの更新時点で追加されている値を示す色を指定します。
[HIGHLIGHT_COLOR_DELETE]	#CCCCCC	履歴通知および電子メール通知で、レコードの更新時点で削除された値を示す色を指定します。
[HIGHLIGHT_COLOR_UPDATE]	#ff0000	履歴通知および電子メール通知で、更新された値を示す色を指定します。
[LABEL_COLOR]	#0000FF	追加、編集、および検索画面のフィールド・ラベルの色
[MENU_TEXT_COLOR]	#FFFFFF	ナビゲーション・バーのテキストの色を指定します。
[RECORD_COUNTER_COLOR]	#CC0000	レポートのレコード・カウンタの表示色を指定します。

[レイアウトおよび表示] メニュー – [フォントと色の設定]	標準的な値	説明
[SUPPORT_LINK]	Report problems and request enhancements at the <u>ExtraView support site</u>	この HTML 文は、各画面の著作権表示の末尾のリンクに使用されます。通常、ユーザにサポートの問い合わせ先を示すために使用されます。
[TAB_FONT_OFF_COLOR]	#444444	タブ表示タイプによって生成され、管理エリア内に表示される、選択されていないタブのフォントの色を指定します。
[TAB_FONT_ON_COLOR]	#FFFFFF	選択されているタブのフォントの色を指定します。この設定は、管理エリア内で表示タイプがタブであるフィールドで使用されます。
[TAB_OFF_COLOR]	CCCCFF	Off 色は、タブ表示タイプによって生成され、管理エリア内に表示される、選択されていないタブの色です。
[TAB_ON_COLOR]	6666FF	On 色は、選択されているタブの色です。この設定は、管理エリア内で表示タイプがタブであるフィールドで使用されます。
[TITLE_COLOR]	#777777	各画面の上部にあるタイトル・バーのタイトルの色を指定します。
[WINDOW_BG_COLOR]	#fiffff	ウィンドウの背景色を指定します。

表示の設定

[レイアウトおよび表示] メニュー – [表示の設定]	標準的な値	説明
[ADMIN_LIST_SIZE]	400	ExtraView で検索およびドリルダウン機能を使用するために必要な、管理画面内のリストのレコード数を指定します。例えば、UDF リストのレコード数が 2,000 で、ADMIN_LIST_SIZE を 400 に設定すると、アルファベット順のドリルダウンが画面に表示され、さらにリストの検索が可能になります。
[CACHE_AREA_PROJECT]	YES	YES を指定すると、レイアウトから作成されたテンプレートで、[area/project] ドロップダウン・リストのキャッシングが可能になります。NO を指定すると、各画面が追加モードまたは編集モードで更新されたときに、[area/project] リストが動的に更新されます。この設定では、USER_CUSTOM コードによる動的なリスト変更が行われない限り、YES を指定します。
[DB_TIMEZONE]	PST	データベース・サーバが属する時間帯と、各ユーザについてすべての現地時間が計算される基準を指定します。この値は ExtraView のインストール時に設定し、変更しないようにします。この設定を別の時間帯に変更すると、システム内のすべてのタイムスタンプが、実際に作成された時間と異なる時間で表示されてしまいます。通常のこの時間帯は、インストール先のサーバのシステム・クロックと同じ時間帯に設定します。

[レイアウトおよび表示]メニュー – [表示の設定]	標準的な値	説明
[DEFAULT_DATE_FORMAT]	MEDIUM DATE	システムのデフォルトの日付形式。次のいずれかを指定します。結果は例のように表示されます。 SHORTDATE 11/28/03 MEDIUMDATE Nov 28, 2003 LONGDATE November 28, 2003 FULLDATE Friday, November 28, 2003 SHORTDATETIME 11/28/03 7:20 AM MEDIUMDATETIME Nov 28, 2003 7:20:08 AM LONGDATETIME November 28, 2003 7:20:08 AM WST FULLDATETIME Friday, November 28, 2003 7:20:08 AM WST
[FOLD_TEXT_POSITION]	100	表示タイプがテキスト・エリアおよびログ・エリアであるフィールドの、テキスト行を折り返す文字位置を指定します。65 未満の数値を指定することはできません。99999 など大きい数値を指定すると、入力されたテキストは折り返されません。ただし、この設定より [FOLD_WORD_POSITION] の設定が優先されます。
[FOLD_WORD_POSITION]	100	[テキスト・エリア]、[出力テキスト]、および [ログ・エリア] フィールドで文字数の多い単語を分割する文字位置を指定します。65 未満の数値を指定することはできません。99999 など大きい数値を指定すると、文字数の多い単語が分割されません。これは FOLD_TEXT_POSITION と合わせて使用できます。テキスト・フィールドで頻繁に長い URL を使用する場合は、[FOLD_WORD_POSITION] に大きい数値を設定します。これにより、URL が複数行に分割されないようになり、ユーザが正しく URL をクリックできます。
[HTMLAREA_ROW_HEIGHT]	10	追加画面または編集画面で、表示タイプが HTML エリアであるフィールドに表示される行数を指定します。
[LABEL_WRAP_POSITION]	15	追加/編集画面および検索画面のラベル・テキストを折り返す文字の位置を指定します。[Alternative Title] フィールドでレイアウト要素の属性を設定した場合にはこの設定は無視され、管理者が独自にフィールドの形式を設定します。
[LOG_AREA_DISPLAY_CHARS]	250	issue 編集画面で切り捨てられない、ログ・エリア・フィールドの最大文字数。切り捨てが行われると「詳細」という文字が表示され、ユーザがこれをクリックすると残りのテキストが表示されます。80 未満または 32000 を超える文字は設定しないでください。
[MANDATORY_FIELD_POST]		必須フィールド・ラベルの後に配置する HTML タグまたは文字を指定します。デフォルトでは HTML 終端の太字タグが使用されますが、有効な HTML または文字で置換することができます。
[MANDATORY_FIELD_PRE]		必須フィールド・ラベルの前に配置する HTML タグまたは文字を指定します。デフォルトでは HTML 終端の太字タグが使用されますが、有効な HTML または文字で置換することができます。
[MENU_DIRECTION]	VERTICAL	画面上のメイン・ナビゲーション・バーを HORIZONTAL または VERTICAL に設定します。
[MENU_SIZE]	105	MENU_DIRECTION の VERTICAL または HORIZONTAL の指定に従って、ナビゲーション・バーの幅または高さをピクセルで指定します。

[レイアウトおよび表示]メニュー – [表示の設定]	標準的な値	説明
[MULTI_VALUE_HIGHLIGHT_CHAR]	▶	この値は、UDF の複数値リスト・フィールドで選択した値の強調表示に使用される文字を示します。デフォルトは ▶ です。単一の文字、またはブラウザが単一の Unicode 文字として解釈できる文字列を使用します。この文字が (Netscape Navigator 4.x のように) ユーザのブラウザで表示されない場合は、+ などの ASCII 文字を選択します。
[NAV_BAR_GO_BUTTON]	NO	これにより、ドリルダウン・ボックスの横のナビゲーション・バーに [Go] ボタンが配置されます。有効な値は YES と NO です。
[POPUP_LIST_SIZE]	100	項目のリスト自体から、A ~ Z の文字のリストを通じたアクセスに切り替わる、ポップアップ・リストの最大項目数を指定します。
[SIGNON_BORDER_WIDTH]	1	ホーム・ページ に表示されるサインオン・メッセージの枠の幅を指定します。デフォルトの値は 1 ですが、0 (枠なし) 以上の値を指定できません。
[TABS_PER_ROW]	10	追加画面や編集画面などのフォームのタブ数を、追加または編集画面に表示される場合に 1 行に制限します。この数値を超える数を表示する必要がある場合は、別の行に配置されます。
[TEXTAREA_ROW_HEIGHT]	4	表示タイプがテキスト・エリア、出力テキスト、ログ・エリア であるフィールドの追加画面および編集画面に表示される、データ行数の初期設定。
[TITLE_HEIGHT]	35	画面タイトルとユーザ・オプションが表示されるタイトル・バーの高さ (ピクセル) を指定します。

ワークフローの設定

[ワークフロー]メニュー - [ワークフローの設定]	標準的な値	説明
[ADMIN_BYPASS_GROUP]	ADMIN	<p>複数のセキュリティ制御をバイパスし、特殊なプロパティを持つユーザの役割名。現在の役割としてこの名前を指定されているユーザには、次のプロパティがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ステータス変更の優先権限。ステータス変更ルールは、このユーザの役割には適用されません。これが、ユーザの役割 ADMIN_BYPASS_GROUP が通常の操作では使用されない大きな理由です。 役割 ADMIN_BYPASS_GROUP を持つすべてのユーザが、権限のないアクセスについて、「ExtraView に対するログインが X 分間に Y 回試みられ、失敗しました」などのメッセージを内容とする電子メール通知を受け取ります。これらのユーザには、攻撃者の IP アドレスも通知されます。 セキュリティ・キー CF_SECURITY_ROLES および CF_PRIVACY_GROUPS、さらにバイパス・グループによって、他のユーザのプライバシー・グループやユーザの役割の表示および編集に必要なユーザの役割が決定されます。例えば、役割 ADMIN が読み取り/書き込み権限を持ち、SUPPORT がユーザの役割 ADMIN_BYPASS_GROUP である場合、ユーザの役割が ADMIN であるメンバーは、プライバシー・グループと、ADMIN のその他のユーザの役割だけを編集できます。ADMIN_BYPASS_GROUP のユーザの役割が ADMIN である場合、ADMIN のメンバーはプライバシー・グループと、すべてのユーザの役割を編集できます。 ExtraView のアクセスが管理者によって無効になっている場合は、ExtraView へのアクセスが回復するまで、ユーザの役割 ADMIN_BYPASS_GROUP のメンバーだけが ExtraView にアクセスできます。
[COPY_ATTACHMENT_ON_CLONE]	YES	YES に設定すると、issue を複製した場合に添付ファイルが新しい issue にコピーされます。
[DEFAULT_USER_GROUP]	GUEST	役割が与えられていないユーザのデフォルトの役割。
[DISALLOW_AREA_0_DATA]	NO	NO に設定すると、issue データが AREA 0 に入力されません。バージョン 4.2 より前のインストールに対する下位互換性として提供されています。バージョン 4.2 以上では、issue データを AREA 0 に配置することは許可されません。4.2 以上の場合は、この値を YES に設定する必要があります。
[DISALLOW_PROJECT_0_DATA]	NO	NO に設定すると、issue データが PROJECT 0 に入力されません。バージョン 4.2 より前のインストールに対する下位互換性として提供されています。バージョン 4.2 以上では、issue データを PROJECT 0 に配置することは許可されません。4.2 以上の場合は、この値を YES に設定する必要があります。
[ENABLE_COMPANY_NAME_ACCESS]	YES	この動作設定を YES(デフォルト値)に設定すると、ユーザの会社名が issue のプライバシー設定に優先し、会社名が同じである他のユーザが作成したすべてのレコードへのアクセスがユーザに許可されます。有効な値は YES と NO です。
[ENFORCE_STATE_CHANGE_RULES]	NO	ステータス変更ルールの実施を切り換えます。有効な値は YES と NO です。

[ワークフロー]メニュー – [ワークフローの設定]	標準的な値	説明
[ENFORCE_UNIQUE_RELEASES]	YES	<p>リピーティング・レコード行での RELEASE_FOUND の固有性を指定します。このデフォルト値が YES である場合は、RELEASE_FOUND が null である場所にリリース行を追加することはできません。さらに、RELEASE_FOUND の値は単一のレコードで複製されません。</p> <p>このデフォルト値が NO である場合は、画面上的リピーティング・レコード行の書き込み可能フィールドが空白でない(デフォルト値を含む)場合に、リリース行が追加されます。</p>
[FILTER_CHILD_VALUES]	NO	<p>YES、NO、USER のいずれかを指定します。この設定はクエリ・フィルタにリピーティング行の値が含まれる場合の検索の動作を制御します。YES に設定すると、検索基準に一致する行のみが検索結果として返されます。NO に設定すると、少なくとも一行が検索基準に一致する issue のすべての行が返されます。USER に設定すると、検索画面に表示されるチェックボックスによりこの動作が制御されます。</p>
[FILTER_MODULE_BY_CATEGORY]	NO	<p>カテゴリによるモジュールのフィルタを可能にします。有効な値は YES と NO です。</p> <p>これにより、モジュール・タイプとカテゴリの両方に基づいてモジュールのサブセットを選択できます。[カテゴリ]を選択すると、追加画面および編集画面のモジュールの選択リストで、対応するモジュール・タイプだけが有効な選択として表示されます。</p> <p>例えば、製品にハードウェア、ソフトウェア、ドキュメントの各モジュールがあるとします。issue がソフトウェアに関連する場合は、ソフトウェアのモジュールだけが選択可能になります。</p> <p>この機能は、項目レコードの [カテゴリ] フィールドを使用して、モジュール・タイプの値を保存します。</p> <p>FILTER_MODULE_BY_CATEGORY を YES に設定すると、[CATEGORY] に入力した値は、製品 ([PRODUCT_NAME] フィールド)を親の第 1 の値として使用する場合と同様に [MODULE_TYPE] の値を設定することで、モジュール([MODULE_ID] フィールド)で親の第 2 の値として使用されます。</p> <p>この場合、[CATEGORY] と [MODULE_TYPE] の両方で同じ列挙値を使用する必要があります。</p> <p>[MODULE_ID] フィールドのデータ辞書設定で、次のように設定します。</p> <p>[First Parent Field Name] = PRODUCT_NAME [First Parent SQL] = where product_name [Second Parent Field Name] = CATEGORY [Second Parent SQL] = and module.category</p> <p>データ辞書でこれらの変更を行うには、ExtraView に admin ユーザ・アカウントでサインオンする必要があります。</p>
[IGNORE_USER_GROUP]	GUEST	<p>この役割には issue を割り当てることはできません。これは一般的にゲストまたは顧客ユーザの役割になります。</p>
[LINK_MODULE_USER]	ASSIGNED_TO	<p>モジュール所有者フィールドと指定されたユーザ・フィールドとのリンクを設定します。値は [ASSIGNED_TO]、[CONTACT] または [OWNER] になります。</p>
[MULTIPLE_FIELD_SEPARATOR]	-/-	<p>子レベルの複数値 UDF の区切り文字として使用されません。</p>

[ワークフロー]メニュー – [ワークフローの設定]	標準的な値	説明
[RELATIONSHIP_GROUP_EMAIL_LIMIT]	30	関係グループ内の issue のステータスを更新すると、各 issue には標準の通知プロセスが適用されます。グループ内に [RELATIONSHIP_GROUP_EMAIL_LIMIT] を超える入力があった場合、通知は親 issue のユーザにのみ送られ、この情報についてのコメントが issue に挿入されます。
[RELATIONSHIP_GROUP_MAX_DISPLAY]	0	関係グループ画面の issue の最大数を指定します。0 は無制限を意味します。
[RELATIONSHIP_LINK_DISPLAY]	SELECT	編集画面の関係グループ・インジケータの表示を選択します (LINK または SELECT)。
[RELEASE_SORT_ORDER]	DESCENDING	ASCENDING または DESCENDING
[REMEMBER_BETW_TABS]	YES	追加画面および編集画面のタブ間の値を記憶します。
[SAVE_AREA_PROJECT_CHANGES]	NO	この動作設定が YES の場合、ユーザが issue の追加/更新時にビジネス・エリアおよび/またはプロジェクトを変更すると、その変更が現在のセッションとユーザのパーソナル・デフォルトの両方に反映されます。NO の場合、ビジネス・エリアおよび/またはプロジェクトに対する変更はユーザのパーソナル設定または現在のセッションでの値には影響しません。
[SEPARATE_WORK_FLOW]	PRODUCT	USERGROUP(役割)、PRODUCT、または NONE ごとに異なるワークフローを許可します。
[SHOW_CLOSED_REL_GROUPS_PERIOD]	0	関係グループの項目リストが、この値によって指定した最小日数ですべての issue が解決するまで表示されます。有効な値は 0 以上の数値です。0 は、関係グループ内のすべての項目が STATUS_CLOSED_NAME で指定されたステータスになると、関係グループのリストに表示されなくなることを意味します。
[STATUS_CLOSED_NAME]	CLOSED	issue が解決した状態のデータ辞書名。この値は通常新しいシステムの構成時に設定されますが、それ以降は変更しないでください。値を変更して異なる値を使用すると、履歴が保持されず、過去の issue がいつクローズされたかを知ることができなくなります。
[STATUS_SIGNATURES]	NO	ステータス・ルールの変更に電子署名が必要かどうかを決定します。有効な値は YES と NO です。YES に設定すると、ステータス変更が承認されるためには、ユーザはユーザ ID とパスワードの再認証を受ける必要があります。

メール設定

[電子メール通知]メニュー – [メール設定]	標準的な値	説明
[AD_HOC_EMAIL_FROM_ADDRESS]		テンプレートまたはアドホック・テキスト入力を使用して送信されたすべての電子メールに、アドレスを返します。これらは、編集画面の [電子メール] ボタンを使用して送信された電子メールです。
[AD_HOC_EMAIL_FROM_SENDER]		編集画面の [電子メール] ボタンを使用してテンプレートおよびテキスト電子メールを送信した、すべてのユーザのユーザ ID。ユーザの電子メール・アドレスは、ユーザのアカウント情報を基に決定されます。

[電子メール通知] メニュー – [メール設定]	標準的な値	説明
[CHECK_EMAIL_ADDRESS_FORMAT]	YES	YES に設定すると、ユーザ・アカウント画面に入力された電子メール・アドレスについて、完全修飾ドメインを持つ有効な形式であるかどうかを確認されます。NO に設定すると、電子メール・アドレスの形式は確認されません。
[DEFAULT_USER_FOR_EMAIL]	ADMIN	issue を割り当てられているユーザがない場合に、ExtraView で電子メールを受信するユーザ ID。これは、通知がない場合に issue が入力されないようにするための代替策です。
[EMAIL_ADMINISTRATOR_NAME]	ExtraView Administrator	EMAIL_ADMINISTRATOR_USER_ID に保存されている電子メール・アドレスに関連付けられた、ExtraView の管理者名。ExtraView で自動的に作成される電子メールは、この名前が送信元になります。例としては、ユーザの自己登録時、または権限のないアクセス時に送信される電子メールなどがあります。
[EMAIL_ADMINISTRATOR_USER_ID]	admin@my_company.com	ExtraView から送信される電子メールの、送信先電子メール・アドレスまたはエイリアス。通常、これは、管理者の電子メール・アドレスまたは管理者のエイリアスになります。この設定に関連する名前は、EMAIL_ADMINISTRATOR_USER_NAME に保存されます。
[EMAIL_BCC_ARCHIVE]		テンプレートとアドホック電子メールのコピーが BCC として送信される電子メール・アドレス。
[EMAIL_CHARSET]	UTF-8	ユーザごとに使用される、ExtraView サーバによりユーザに電子メールの通知が送信される際のデフォルトの文字セット
[EMAIL_DIRECTORY]	/usr/local/extraview/BatchMail/mailbox	送信されるメッセージが保存される電子メール・ディレクトリを指定します。これは、バッチメール・プロセスで、送信するメールをプロセスがサーバ上で特定する場所です。
[EMAIL_FROM_USER_ID]	support@yourcompany.dom	ExtraView から送信されるすべての電子メールのアドレスを返します。これにより電子メールの受信者は電子メールに返信することができ、有効な宛先があることを認識できます。
[EMAIL_FROM_USER_NAME]		電子メールの送信元になる実際のユーザ名のエイリアス。送信される通知のヘッダ情報に挿入されます。
[EMAIL_MODULE_OWNER_ALWAYS]	YES	issue に割り当てられているかどうかに関わらない、電子メール・モジュールの所有者。有効な値は YES と NO です。
[EMAIL_NOTIFICATION]	YES	変更に関する電子メール通知のオン/オフを切り換えます。有効な値は YES と NO です。これは、電子メールの有効と無効を切り換えるマスター・コントロールになります。NO に設定されている場合、ユーザの作成/編集時の電子メールアドレスの入力は必須ではありません。
[EMAIL_SUBJECT_TEMPLATE]	.text {font-size : 10pt} .report_text {font-size : 10pt}	HTML 電子メールのスタイル。ユーザが電子メールを読むときにサーバにアクセスする必要がないように、これは送信される電子メール通知の本文に挿入されます。

[電子メール通知] メニュー - [メール設定]	標準的な値	説明
[EMAIL_SUBJECT_TEMPLATE]	ExtraView Notification [\$\$ID\$\$]: \$\$STATUS\$\$ - \$\$SHORT_DESCR\$\$	電子メールの件名行のフォーマット。 \$\$ 記号間のトークンは、現在のレコードの実際の値によって置換されます。
[GENERATE_EMAIL_BOX]	CHECKED	追加画面および編集画面の [メールを生成] ボックスのデフォルト値。有効な値は CHECKED と UNCHECKED です。
[SET_EMAIL_ENCRYPTION]	NO	アドホック電子メール画面の暗号化オプションを表示します。有効な値は YES と NO です。

セキュリティとセッションの設定

[システム制御] メニュー – [セキュリティとセッションの設定]	標準的な値	説明
[AUTO_SIGNOFF_ON_USER_EXIT]	NO	YES または NO を指定して、ユーザが ExtraView の最後のウィンドウを閉じた場合、または別のサイトに移動した場合に、サインオフするかどうかを設定します。NO を指定すると、セッションのクッキーが残り、ユーザはブラウザの [戻る] ボタンを押して、ExtraView のセッションに戻ることができます。YES を指定すると、ユーザが別のサイトに移動するか、または ExtraView のウィンドウを閉じると、ユーザのセッションが終了します。
[CACHE_COHERENCY_POLL_TIME]		更新されたキャッシュ情報がチェックされる間隔を示す秒数。これは、複数のアプリケーション・サーバが同じ物理データベースにアクセスしている場合に使用されます。稼動しているアプリケーション・サーバが 1 台だけである場合には使用されません。
[CLIENT_IP_ADDRESS_CHECK]	YES	YES または NO を指定して、セッション中にクライアント・ワークステーションが一定の IP アドレスを保持していることをチェックするかどうかを設定します。通常は YES に設定しますが、サーバがプロキシ・サーバによってアクセスされる場合は、NO に設定します。
[DEFAULT_TIMEZONE]	America/Los_Angeles	この時間帯は、作成されたすべての新しいユーザのデフォルトとして使用されます。時間帯のスペルが正しいことを確認してください。有効な時間帯のリストについては、付録 C を参照してください。
[KEEP_FAMILY_SESSIONS_TIMEOUT]	NO	この動作設定を NO にすると、ExtraView で新しいセッションを開始する各ウィンドウで、SESSION_EXPIRE_TIME_HOURS に対する独自の測定基準が設定されます。YES に設定すると、すべてのウィンドウのすべてのセッションで、1 つの SESSION_EXPIRE_TIME_HOURS が共有されます。NO に設定すると、サーバの使用メモリが効率化されます。ただし個別のユーザが開くウィンドウ数が多すぎると、そのユーザについて、ExtraView で予期しないセッションのタイムアウトが発生する場合があります。
[MAX_SIGNON_ATTEMPTS]	3	個別のユーザが連続してサインオンを試みることができる最大回数。これを超えると、そのユーザのアカウントが無効になります。許可される失敗の回数は、SIGNON_PERIOD_MINUTES で定義される時間で決定されます。

[システム制御] メニュー – [セキュリティとセッションの設定]	標準的な値	説明
[NOSPILL_SESSION_COUNT]	500	<p>2つの数値を指定して、任意のある時点でメモリが許容するセッション数を定義します。</p> <p>- SPILL_SESSION_COUNT - NOSPILL_SESSION_COUNT</p> <p>セッションは、ユーザからのログインに応じて、または以前に作成したセッションのサブセッションとして、メモリで作成されます。これらのセッションでは、メモリのリソースで、個別のユーザと ExtraView との対話のコンテキストが保持される必要があります。セッション数が多くなりすぎると、メモリなどのリソース消費量が過大になり、システムが連続して稼動することがむずかしくなります。そのため、あふれた古いセッションをディスクに移行させて、必要に応じて取り出すメカニズムがあります。</p> <p>メモリ内のセッション数が NOSPILL_SESSION_COUNT の数値以上になると、最も古い部類に入るセッションがデータベースに書き込まれ、メモリから削除されます。この場合、最も古いセッションとは、ユーザによって最も長い期間アクセスされていなかったセッションです。ディスクへのセッション・データの書き込みはバックグラウンドのタスクとして行われ、メモリ内のセッションの作成または使用には直接影響しません。反応性に影響があるのは、セッションのシリアル化解除のために短い遅延を必要とし、データベースからメモリに再構成されるユーザのアクティビティによって、ディスク上のセッションが実行される場合だけです。</p> <p>メモリ内のセッション数が SPILL_SESSION_COUNT の数値に達すると、メモリ内のセッション・キャッシュが満杯になり、新しいセッションのリクエストは、古いセッションがデータベースに書き込まれるまで待機しなければなりません。この場合、ユーザは、古いセッションが書き込まれ、メモリ内のセッション・スロットが使用可能になるまで待機する必要があります。そのため、反応性に対する直接的な影響が発生します。多くの場合、この遅延は認識できません。</p> <p>別の面から見ると、システムは任意の時点で常に次の3つの状態のうちの1つになります。(N_SESSIONS は、メモリ内のセッション数を示す)</p> <ol style="list-style-type: none"> あふれなし状態: N_SESSIONS < NOSPILL_SESSION_COUNT この状態では、データベースに書き込まれるセッションはなく、新しいセッションが直接メモリに作成されます。 あふれ状態: SPILL_SESSION_COUNT > N_SESSIONS >= NOSPILL_SESSION_COUNT この状態では、バックグラウンド・タスクで最も古いメモリ内セッションがディスクに書き込まれ、新しいセッションが遅延なくメモリに作成されます。 満杯状態: SPILL_SESSION_COUNT <= N_SESSIONS この状態では、新しいセッションの作成リクエストは、少なくとも1つの古いセッションがディスクに書き込まれ、新しいセッション用のスロットが解放されるまで遅延されます。 <p>どのような場合でも、NOSPILL_SESSION_COUNT < SPILL_SESSION_COUNT になります。動作設定がこの不変式に反する場合は、デフォルト値(480 / 500)が使用されます。</p> <p>また、これらの動作設定は ExtraView の起動時に設定する必要があり、起動後に調べられることはありません。変更した設定を反映させるには、ExtraView アプリケーション・サーバを再起動する必要があります。</p>

[システム制御]メニュー – [セキュリティとセッションの設定]	標準的な値	説明
[REAUTH_REDIRECT_PARAM]		
[REAUTH_URL]		ステータス署名ルールによる再認証を行う場合は、これが再認証を行う URL になります。
[REAUTH_REDIRECT_PARAM]		ステータス署名による再認証後は、これが ExtraView が参照する URL およびパラメータになります。
[SECURITY_CACHE_MINUTES]	30	セッション・セキュリティ・キャッシュが行われるまでの分数。セキュリティ許可設定の変更後に、このサイクルが設定が自動的に更新されるまで待てない場合は、一度サインオフしてからサインオンすることで更新されます。
[SESSION_EXPIRE_TIME_HOURS]	24	ユーザに再ログインが要求されるまでの、セッションの最大アイドル時間を時間数で指定します。1 時間未満の時間設定が必要な場合は、0.5 などの小数を使用できます。
[SIGNON_PERIOD_MINUTES]	5	パスワードが無効であるためにユーザがサインオンに失敗した場合には、この期間内に MAX_SIGNON_ATTEMPTS で設定されている回数までサインオンを試みることができます。
[SPILL_SESSION_COUNT]	1000	[NOSPILL_SESSION_COUNT] の項目を参照してください。
[SYSTEM_LOG_EXPIRE_TIME_DAYS]	30	入力した日数はシステム・ログ・テーブルに保存されません。

会社情報の設定

[システム制御]メニュー – [会社情報の設定]	標準的な値	説明
[COMPANY_NAME]		会社名
[COMPANY_ADDRESS1]		会社の所在地
[COMPANY_ADDRESS2]		会社の所在地 (2 行目)
[COMPANY_CITY]		会社の所在地 (都道府県)
[COMPANY_STATE]		会社の所在地 (州)
[COMPANY_ZIP]		会社の郵便番号
[COMPANY_PHONE]		会社の電話番号
[COMPANY_EMAIL]		会社の電子メール・アドレス
[ENABLE_COMPANY_NAME_ACCESS]	YES	この動作設定を YES (デフォルト値) に設定すると、ユーザの会社名が issue のプライバシー設定に優先し、会社名が同じである他のユーザが作成したすべてのレコードへのアクセスがユーザに許可されます。有効な値は YES と NO です。

シングルサインオンとLDAPの設定

[システム制御] メニュー - [シングルサインオンとLDAPの設定]	標準的な値	説明
[CUSTOM_AUTHENTICATION]	NO	組み込みのユーザ認証方式ではなく、カスタマイズされた認証 (LDAPなど) が使用されます。YES に設定すると、UserCustom ルーチンによって ExtraView ユーザの認証が行われます。NO に設定すると、ExtraView に組み込まれている標準の認証方式が使用されず。
[LDAP_DEFAULT_AREA]	0	LDAP サーバから詳細を取得して新しいユーザを追加する場合に設定される、デフォルトの area_id。
[LDAP_DEFAULT_PROJECT]	0	LDAP サーバから詳細を取得して新しいユーザを追加する場合に設定される、デフォルトの project_id。
[LDAP_HOST]		LDAP サーバの URL (ldap://blah.com:389 など)。
[LDAP_MANAGER]		検索パラメータ / 許可を定義します (uid=blahsearch, ou=Directory など)。
[LDAP_PSWRD]		LDAP サーバへのパスワード。
[LDAP_ROOT]		LDAP サーバまたは検索ベースのルート・ディレクトリ (ou=blahWorker, o=blah.com など)。
[LDAP_USER_LOOKUP]	NO	この動作設定を YES に設定すると、あるユーザが別のユーザの詳細を検索した場合、ExtraView では必要な情報が LDAP サーバから取得されます。これと同時に、ExtraView 内のユーザが取得する情報は、LDAP レコード内の情報と同期がとられます。
[SSO_STATE]	NO	このインスタンスで [シングルサインオンとLDAPの設定] を有効にします (YES/NO)。

API 設定

[システム制御] メニュー - [API 設定]	標準的な値	説明
[ALLOW_ANONYMOUS_API_ACCESS]	NO	これを YES に設定すると、ユーザは有効なユーザ名とパスワードを持たなくても API を呼び出すことができます。一般に、ExtraView を自社の Web サイトに統合したときに、外部ユーザ (主に顧客) に ExtraView のユーザ ID を与えたくない場合に使用します。これは、ANONYMOUS_API_USER_ID と合わせて使用します。有効な値は YES と NO です。
[ANONYMOUS_API_USER_ID]	guest	[ALLOW_ANONYMOUS_API_ACCESS] を YES に設定している場合は、ORIGINATOR の issue で設定されているユーザ ID になります。
[CLI_EDIT_MULTI_VALUE_FIELDS]	NO	CLI から複数値 UDF を編集できるかどうかを示します。
[DEFAULT_TEXT_REPORT_DELIMITER]	:	テキストレポートのデータ・フィールド間に置かれる単一の文字。結果をテキスト・ファイルに出力する場合や、API / CLI を通じて出力する場合は、この文字を使用して個々のフィールドを区切ります。
[MULTI_RELEASE_XML]	NO	API から複数のリリースを XML に出力できるようにします。有効な値は YES と NO です。

環境設定

[高度な管理] メニュー – [環境設定]	標準的な値	説明
[APP_HOME]		値がシステムのデフォルト値でない場合のみ使用されます。これは ExtraView Java servlet へのパスになります。
[CSS_HOME]		これは ExtraView で、Web インタフェースのすべての画面で使用されるカスケード・スタイル・シートが検索されるディレクトリです。値を設定しない場合、アクセスされるディレクトリは APP_HOME/stylesheets になります。ExtraView で独自のスタイルシートを使用する場合は、別のディレクトリに保存して、この設定でディレクトリを指定してください。それにより、インストールをアップグレードしても、独自に作成したスタイルシートが無効になることを防止できます。
[DEFAULT_LANGUAGE]	en	インストールでデフォルトで使用される言語。通常は EN(英語)になります。
[DEFAULT_REGION]	us	インストールでデフォルトで使用される地域設定。通常は US(米国)になります。
[DEFAULT_VARIANT]		インストールでデフォルトで使用される別形式。通常は使用されません。
[DOMAIN]		クッキーのドメイン。
[ENABLE_AREAS]	YES	この設定により、複数のビジネス・エリアと単一のビジネス・エリアのどちらを扱うかを指定できます。値は YES または NO を指定します。
[ENABLE_PROJECTS]	YES	この設定により、各ビジネス・エリアで複数のプロジェクトを実行できるかどうかを指定します。有効な値は YES と NO です。YES を指定した場合は、[ENABLE_AREAS] も YES に設定する必要があります。
[HELP_HOME]		値がシステムのデフォルト値でない場合のみ使用されます。これは、ヘルプ・システムの APP_HOME に関連するパスになります。
[HTTP_CHARSET]	UTF-8	ユーザのブラウザで使用されるデフォルトの文字セットの名前。これは「UTF-8」に設定することを推奨します。
[IMG_HOME]		値がシステムのデフォルト値でない場合のみ使用されます。これは、画像ディレクトリの APP_HOME に関連するパスになります。
[LOCALIZE_TITLES]	NO	管理画面のローカライズ・ボタンのオン/オフを切り換えるために使用。ExtraView のユーザ・インタフェースで複数の言語を使用する場合に選択します。このオプションを YES に設定すると、別の言語にローカライズ可能なすべてのメタデータのタイトルと値の横に、[ローカライズ] というボタンが表示されます。有効な値は YES と NO です。

[高度な管理] メニュー – [環境設定]	標準的な値	説明
[MS_OFFICE_CHARSET]	UTF-16LE	Microsoft Office 製品に送信されるレポート用のデフォルトの文字セット。デフォルト値は UTF-16LE です。この値は、MS Office の英語バージョン、およびその他のほとんどの各国語バージョンに適します。
[MULTI_LOCALE]	NO	この値を NO に設定すると、ExtraView は動作設定 DEFAULT_LANGUAGE で指定した言語を使用して、単一ロケールのシステムとして動作します。YES に設定すると、管理者はシステムに言語ロケールを追加して、ローカライズされたメッセージとメタデータを各ロケールについて設定できます。
[SITE_URL]		<p>サイトの完全な URL (http://extraview.company_name.com など)。この値の指定は任意です。値を指定しない場合、ExtraView では、会社のネットワークで使用される値、および外部に対して使用される値の 2 つの値が割り当てられます。</p> <p>ExtraView アプリケーション・サーバが初期化されると、この動作設定の値が参照されます。サーバを起動するリクエストを SSL セッションから受信した場合、内部で設定される 2 つの値は例えば次のようになります。</p> <p>サイトの URL: http://extraview.company_name.com/evj サイトの EXT URL: https://extraview.company_name.com/evj</p> <p>設定した値はアプリケーション・サーバ・ログで確認できます。</p> <p>サーバを起動するリクエストが標準の HTTP セッションから送信された場合は、2 つの URL が同じになります。</p> <p>管理者は状況によっては、異なる URL を設定する必要があります。その場合は、[SITE_URL] に URL を直接入力します。この設定が必要になる一般的な状況としては、ExtraView から受け取った電子メールに [Edit] ボタンがなく、URL が誤っている場合などがあります。</p> <p>Web サーバで転送設定を行っている場合には、これらの URL が異なっていることがあります。</p> <p>環境内で SSL が使用されており、ExtraView にアクセスする URL が https:// で開始する場合は、電子メールやその他のリモート・アプリケーションからの参照が正しく機能するように、SITE_URL を https://extraview.companyname.com/evj に設定する必要があります。</p>

システムデバッグ & ユーザ・カスタム設定

[高度な管理] メニュー – [システムデバッグ & ユーザ・カスタム設定]	標準的な値	説明
[ALLOW_DEBUG_URL]	YES	<p>アプリケーション・サーバ・ログのデバッグ・レベルをユーザが設定できるようにします。有効な値は YES と NO です。オフにすると、ユーザは URL を含むログのデバッグ・レベルを変更できません。URL の形式は次のようになります。</p> <p>http://server.extraview_domain.com/ExtraView/evSignon?DEBUG=6</p> <p>デバッグ・メッセージのデフォルトのレベルは 6 です。有効な値は 1 ~ 12 の数値です。</p>
[USER_CUSTOM_CLASSNAME]		完全修飾クラス名 (com.extraview.usercustom.UserCustom など) を指定するかまたは空白にします。
[USER_CUSTOM_ENABLE_METRICS]	NO	各ユーザのカスタム・メソッドの呼び出しのログ・タイミング・データ。有効な値は YES と NO です。

一般的に使用される動作設定

200 種類を超える動作設定があるため、各設定の目的と動作を理解するのは簡単ではありません。最も一般的に使用される動作設定をこのセクションにまとめます。

設定メニュー	設定	説明
[ユーザ]	USER_SELF_REGISTRATION	ユーザに自己登録を許可するか、管理者が登録を行うかを指定します。Yes に設定すると、サインオン画面にプロンプトが表示され、ユーザが ExtraView のユーザとして自己登録できるページに移動できます。この方法で登録したユーザには、ゲストとしての権限だけが与えられます。ユーザが自己登録を行うと、[電子メール通知] 管理メニューの [メール設定] での定義に従って、電子メール通知が管理者に送信されます。
[ユーザ]	USERNAME_DISPLAY	自社の方針に従い、ユーザ名の表示方法を [First]、[Last]、または [ID] から選択できます。 [First] – 名前が <i>David Smith</i> のように表示されます。 [Last] – 名前が <i>Smith, David</i> のように表示されます。 [ID] – 名前が <i>dsmith</i> のように表示されます。
[表示]	SUPPORT_LINK	サポートが必要な場合にユーザが参照する HTML ページを指定するには、そのリンクとメッセージをここに入力します。
[ワークフロー]	ENFORCE_STATE_CHANGE_RULES	ステータス変更ルールをオンまたはオフにします。
[メール]	EMAIL_ADMINISTRATOR_NAME	ExtraView 管理者の電子メール・アドレスまたはエイリアス。ExtraView で自動的に作成される電子メールは、この名前が送信元になります。例としては、ユーザの自己登録時、または権限のないアクセス時に送信される電子メールなどがあります。
[メール]	EMAIL_ADMINISTRATOR_USER_ID	ExtraView から送信される電子メールの送信先電子メール・アドレス。通常、これは、管理者の電子メール・アドレスまたは管理者のエイリアスになります。
[メール]	EMAIL_FROM_USER_ID	ExtraView から送信される電子メールに表示される、送信者のアドレスを指定します。例えば、support@myco.com のように指定します。

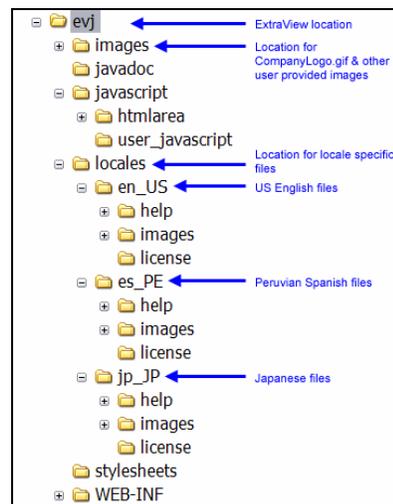
設定メニュー	設定	説明
[メール]	EMAIL_SUBJECT_TEMPLATE	この設定により、レコード内のフィールドを、作成された電子メールの件名に挿入できます。挿入するフィールドは、\$\$と\$\$で囲みます。例えば、issueのタイトルは \$\$SHORT_DESCR\$\$ のようになります。次のように指定するとします。 ExtraView Notification [\$\$ID\$\$]: \$\$STATUS\$\$ - \$\$SHORT_DESCR\$\$ この場合、電子メールの件名は次のようになります。 ExtraView Notification [12345]: Open - Report of a failure
[会社情報]	COMPANY_NAME	自社の会社名を指定します。

グローバリゼーション・ファイルの構造

ユーザ・インタフェースの変更、画像セットの追加、またはヘルプ・ページのカスタマイズを行う場合は、変更またはローカライズが可能なファイルが、ExtraView ではどこに保存されているかを理解することが重要です。変更可能なファイルの種類は次のとおりです。

- 画像ファイル - 会社ロゴのファイルはその他の画像と扱いが異なることに注意してください。
- ヘルプ・ファイル

下の図のツリー構造は、ディレクトリの場所を示しています。



ディレクトリ構造

- 会社ロゴの画像は、named /images というディレクトリに保存されています。ファイル名は CompanyLogo.gif です。会社のロゴのファイルは一つのインスタンスに対し、一つしか設定できません。

- /images ディレクトリには、/tab_corners というディレクトリがあります。ここにはExtraView で表示されるタブの構成に使用される画像が格納されます。
- /locales ディレクトリにはロケール固有の画像およびヘルプ・ファイルがすべて格納されます。ExtraView の出荷時には常に少なくとも一つのファイル・セットがこのディレクトリに存在します。これは/en_US と名づけられており、アメリカ英語の画像とヘルプ・ファイルが格納されています。/en_US はインストールのデフォルトのロケールです。その他にロケール固有のディレクトリを作成することができ、そこに該当する画像とヘルプが格納されます。

ユーザ・インタフェースの修正

管理者は、ExtraView のユーザ・インタフェース のさまざまな要素を修正することができます。ExtraView の管理セクションで、背景やテキストの色を変更できます。メイン・メニューの位置や向きも変更できます。オペレーティング・システムのレベルでは、すべてのボタンの画像を、独自に作成した gif ファイルに置き換えることができます。

Web カスケード・スタイル・シート

各ユーザは、3 つのフォント・サイズから 1 つをパーソナル・オプションとして選択できます。フォント・サイズには、small、medium、large があります。ユーザがいずれかを選択すると、ExtraView では対応するカスケード・スタイル・シート(CSS)が読み込まれます。ExtraView にインストールされたスタイル・シートは、Web サーバ環境で /stylesheets というディレクトリに置かれます。このディレクトリには、次の例の medium.css スタイル・シートのように、フォント・サイズやその他のスタイル・パラメータなどの複数のセクションがあります。

独自にスタイル・シートを作成する場合は、インストール内に新しいディレクトリを作成し、CSS_HOME 動作設定でこのディレクトリをポイントするように設定することをお勧めします。これにより、作成したファイルが将来の ExtraView のアップグレードによって上書きされなくなります。ディレクトリには次のファイルを置く必要があります。

- small.css
- medium.css
- large.css

別のスタイルを作成するために使用可能なオプションの詳細については、適切な HTML マニュアルまたは Cascading Style Sheet マニュアルを参照してください。

```
/* ExtraView CSS stylesheet for main application */
/* This is the "medium" stylesheet, offering medium sized fonts */
/* Copyright 1999-2003 ExtraView Corporation. All rights reserved. */

/*-- All select list boxes --*/
select          {          font-size : 10pt;
                   font-family : Arial, Helvetica, sans-serif}

/*-- All text input boxes --*/
input           {          font-size : 10pt;
                   font-family : Arial, Helvetica, sans-serif}
```

```

/*-- All textarea input boxes --*/
textarea          {      font-size : 10pt;
                      font-family : Arial, Helvetica, sans-serif}

/*-- Class for text labels on data entry screens      --*/
/*-- Mainly used on layouts and most common text strings --*/
.text             {      font-size : 10pt}
.text:hover      {      color : #CC0000;
                      text-decoration : underline;}

/*-- Class for small text (make 2 points smaller than .text) --*/
.small_text      {      font-size : 8pt}
.small_text:hover {      color : #CC0000;
                      text-decoration : underline;}

/*-- Class for text on report screens      --*/
/*-- Mainly used on reports and report screens --*/
.report_text     {      font-size : 10pt}
.report_text:hover {      color : #CC0000;
                      text-decoration : underline;}

/*-- Class for title text at top left of each screen --*/
/*-- Note that this is white text, assuming the      --*/
/*-- background gif is colored                       --*/
.title_text      {      font-family : Arial, Helvetica, sans-serif;
                      font-size : 14pt;
                      color : #FFFFFF;
                      font-style : italic;
                      font-weight : bold}

/*-- Class for user options at top right of each screen --*/
/*-- Note that this is white text, assuming the      --*/
/*-- background gif is colored                       --*/
.small_title_text {      font-family : Arial, Helvetica, sans-serif;
                      font-size : 8pt;
                      color : #FFFFFF;}
.small_title_text:hover { font-family : Arial, Helvetica, sans-serif;
                          font-size : 8pt;
                          text-decoration : underline;}

P.main           {      font-size : 10pt;
                      color : black}

H1              {      font-size : 14pt;
                      font-style : italic;
                      color : red}

H2              {      font-size : 10pt;
                      color : red}

H3              {      font-size : 8pt;
                      color : black}

A               {      font-size : 10pt;
                      text-decoration : none}

```

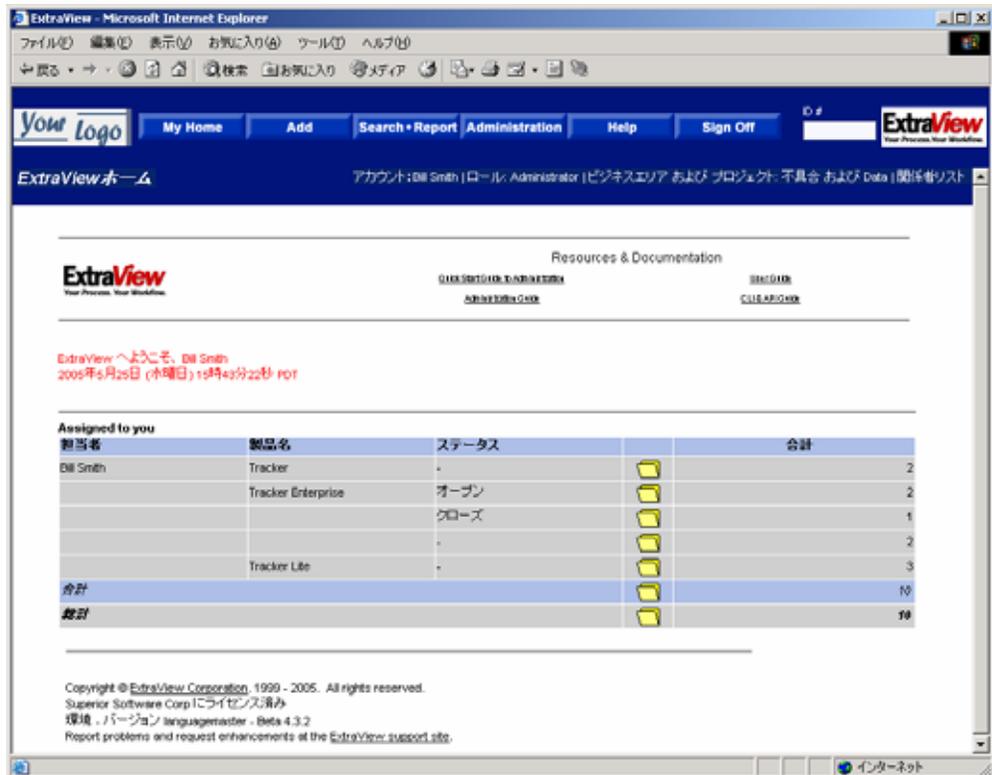
```
hr { color : #888888;
      width : 100%;
      text-align : left;
      height : 2px}
```

メニューの方向

これは、[ADMIN] メニューの [レイアウトおよび表示] タブにある [表示の設定] 画面の動作設定 MENU_DIRECTION で変更できます。有効な値は VERTICAL および HORIZONTAL です。

担当者	製品名	ステータス	合計
Bill Smith	Tracker	-	2
	Tracker Enterprise	オープン	2
		クローズ	1
		-	2
	Tracker Lite	-	3
合計			10
累計			14

[Vertical Navigation] メニュー



[Horizontal Navigation] メニュー

メニューのサイズ

メニュー・ナビゲーション・パネルの高さまたは幅 (ピクセル) は、[レイアウトおよび表示] 管理タブの [表示の設定] メニューにある、動作設定 MENU_SIZE で定義されています。入力可能な数値は最小 130 ピクセルです。

タイトル・バー

タイトル・バーには、現在の画面名のほかに、次の場所へのリンクが表示されます。

- ユーザのアカウント情報
- ユーザが現在の役割を変更する画面へのリンク
- ユーザが現在のビジネス・エリアおよびプロジェクトを変更する画面へのリンク
- ユーザが各自のパーソナル関係者リストを管理できる画面へのリンク

タイトル・バーの高さは、[レイアウトおよび表示] 管理タブの [表示の設定] メニューにある、動作設定 TITLE_HEIGHT で定義されています。入力可能な数値は最小 35 ピクセルです。

次のセキュリティ許可キーにより、ユーザがタイトル・バーのオプションに対するアクセス権を編集/変更する権限を制御できます。

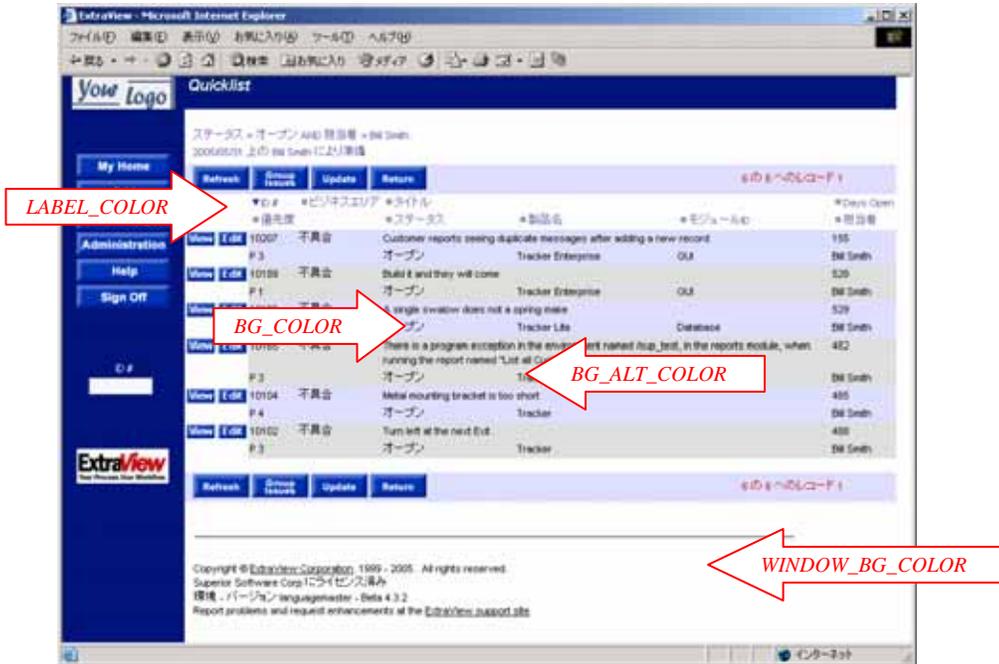
タイトル・バーのエントリ	制御内容
[アカウント]	CF_PERSONAL_OPTIONS により、ユーザのアカウントの詳細へのアクセスを制御します。ユーザがこのキーに対する読み取りアクセス権だけを持つ場合は、ユーザ名がタイトル・バーに表示されますが、パーソナル・オプション画面を参照することはできません。パーソナル・オプション画面を参照するには、書き込み許可が必要です。
[ロール]	1 つの役割だけが定義されているユーザの場合は、このタイトル・バーのエントリは表示されません。2 つ以上の役割が定義されたユーザの場合はこのエントリが表示され、ユーザは現在の役割を変更する画面にアクセスできます。
[Area and Project]	CF_AREA および CF_PROJECT というセキュリティ許可キーにより、現在のビジネス・エリアおよびプロジェクトを変更するユーザの権限が制御されます。
[関係者リスト]	PR_RESOLUTION.INTEREST_LIST というセキュリティ許可キーにより、ユーザのタイトル・バーにこのエントリが表示されるかどうかは制御されます。この場所から関係者リストにアクセスするには、読み取り/書き込み権限が必要です。

メニューのテキストの色

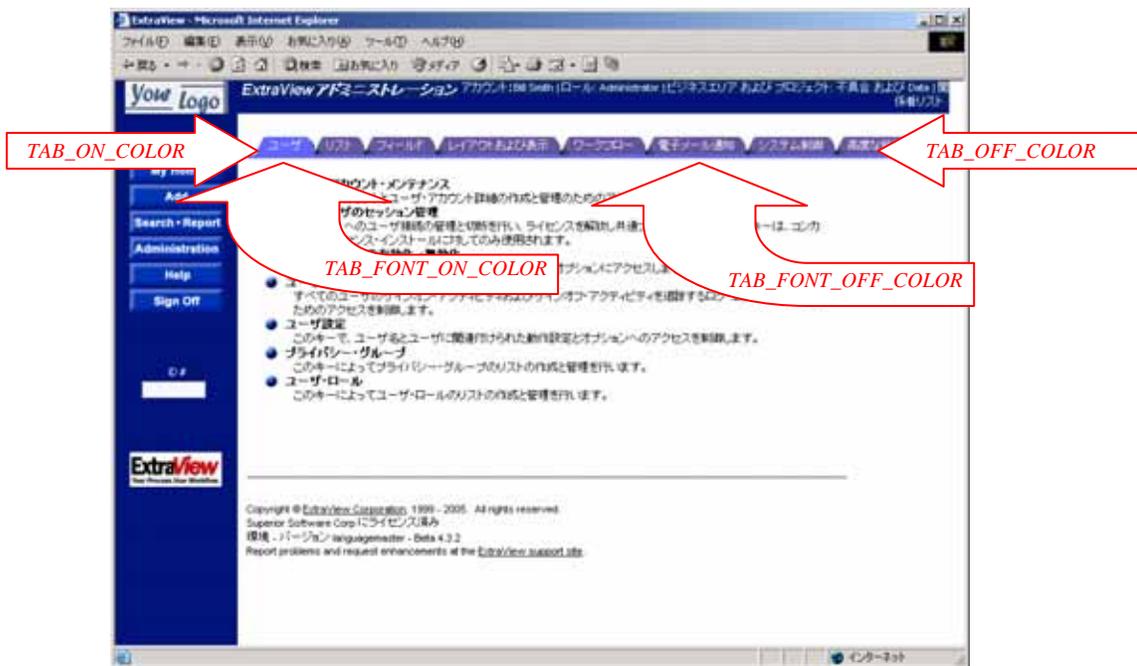
メインのナビゲーション・メニューに表示されるテキストには、コントラストが明瞭な色を定義できるようにすることが重要です。これは、動作設定 MENU_TEXT_COLOR で定義します。

背景およびテキストの色

次のスクリーン・ショットは、[ADMIN] の [レイアウトおよび表示] セクション内の [フォントと色の設定] 画面で変更可能な、動作設定の名前を示しています。



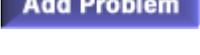
色の名前



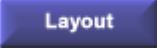
色の名前

ボタンおよび画像

ExtraView のメニュー・ボタンは gif ファイルとして作成および保存されます。これらのファイルは、インストール設定で定義した画像ディレクトリ、または IMG_HOME 動作設定で定義したパスに置かれます。gif ファイルはいずれも別のファイルに置き換えることができます。また、新たにディレクトリを作成して、必要な画像を保存することもできます。新しいディレクトリへのパスは、動作設定 IMG_HOME で定義します。ただし、ブラウザの表示に不具合が発生する可能性があるため、あまり大きいサイズの gif ファイルは使用しないようにしてください。次の表に、ユーザが変更可能な標準的な gif ファイル、および推奨されるサイズ(幅 x 高さ)を示します。MENU_DIRECTION の動作設定に従って、異なるサイズの gif が使用される場合は、縦長および横長の画像の両方について、最適なサイズが示されます。

サンプル画像	ファイル名	サイズ	用途
	bHomeOff.gif	縦 = 100 x 25 横 = 80 x 30	オフ状態のホーム・ページ・ボタン
	bHomeOn.gif	縦 = 100 x 25 横 = 80 x 30	オン状態のホーム・ページ・ボタン
	bSystemConfigOff.gif	縦 = 100 x 25 横 = 80 x 30	オフ状態の [Administration] ボタン
	bSystemConfigOn.gif	縦 = 100 x 25 横 = 80 x 30	オン状態の [Administration] ボタン
	bAddProblemOff.gif	縦 = 100 x 25 横 = 80 x 30	オフ状態の [Add Problem] ボタン
	bAddProblemOn.gif	縦 = 100 x 25 横 = 80 x 30	オン状態の [Add Problem] ボタン
	bSearchOff.gif	縦 = 100 x 25 横 = 80 x 30	オフ状態の [Search + Report] ボタン
	bSearchOn.gif	縦 = 100 x 25 横 = 80 x 30	オン状態の [Search + Report] ボタン
	bHelpOff.gif	縦 = 100 x 25 横 = 80 x 30	オフ状態の [Help] ボタン
	bHelpOn.gif	縦 = 100 x 25 横 = 80 x 30	オン状態の [Help] ボタン

サンプル画像	ファイル名	サイズ	用途
	bLogoffOff.gif	縦 = 100 x 25 横 = 80 x 30	オフ状態の [Sign Off] ボタン
	bLogoffOn.gif	縦 = 100 x 25 横 = 80 x 30	オン状態の [Sign Off] ボタン
	AddButton.gif	30 x 15	一般的に使用される追加ボタン
	DeleteButton.gif	30 x 15	レイアウト・エディタ画面またはレポートで使用される削除ボタン
	EditButton.gif	30 x 15	一般的に使用される編集ボタン
	HistoryButton.gif	30 x 15	レポートから履歴へのアクセスに使用
	InsertButton.gif	30 x 15	レイアウト・エディタ画面で使用される挿入ボタン
	ListButton.gif	30 x 15	一般的に使用されるリストボタン
	RunButton.gif	30 x 15	レポート画面からのレポート実行に使用するボタン
	UpdateButton.gif	30 x 15	メタデータ画面の更新ボタン
	ViewButton.gif	30 x 15	詳細レポートの表示に使用するボタン
	RemoveButton.gif	50 x 15	関係グループからの issue の削除に使用
	NextButton.gif	20 x 20	レポートの次のページの選択に使用するボタン
	PreviousButton.gif	20 x 20	レポートの前のページの選択に使用するボタン
	bCloseOff.gif	80 x 25	複数のウィンドウでウィンドウを閉じるために使用するボタン
	bReturnOff.gif	80 x 25	複数のウィンドウで前の画面に戻るために使用するボタン
	CancelButton.gif	80 x 25	操作のキャンセルに使用するボタン
	ClearButton.gif	80 x 25	issue の追加画面および検索画面のすべての値の消去に使用するボタン

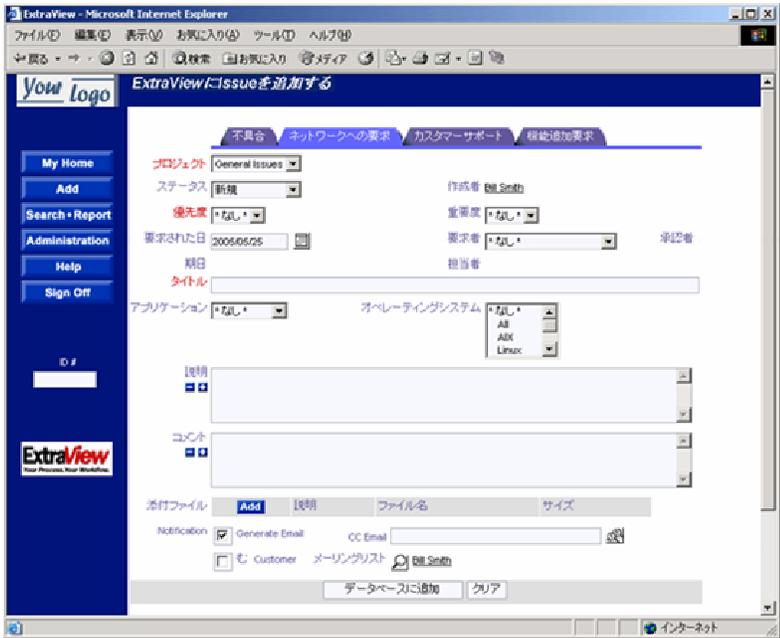
サンプル画像	ファイル名	サイズ	用途
	DeleteReportButton.gif	80 x 25	レポートの削除に使用するボタン
	DetailedReport.gif	80 x 25	詳細レポートの実行に使用するボタン
	LayoutButton.gif	80 x 25	レポートのレイアウト・エディタへのアクセスに使用するボタン
	PrintButton.gif	80 x 25	レポートの印刷に使用するボタン
	Quicklist.gif	80 x 25	クイックリスト・レポートへのアクセスに使用するボタン
	RunReportButton.gif	80 x 25	レポートの実行に使用するボタン
	SaveAsButton.gif	80 x 25	レポートを別名で保存するボタン
	SaveButton.gif	80 x 25	レポートの保存に使用するボタン
	bGroupIssues.gif	60 x 25	レポートの issue のグループ化に使用
	bReturnButton.gif	60 x 25	前の画面に戻るためのボタンとして使用
	ClearSearch.gif	60 x 25	検索画面で選択したフィルタの消去に使用
	ExpandedSearch.gif	60 x 25	標準検索モードから拡張検索モードへの切り換えに使用
	External.gif	60 x 25	ExtraView 外部のレポートとのリンクの定義に使用
	FindButton.gif	60 x 25	ポップアップ・リストでワイルドカード検索の結果の表示に使用
	GroupButton.gif	60 x 25	レポートの issue のグループ化に使用
	newchart.gif	60 x 25	新しいグラフの作成に使用するボタン
	NewLinkReport.gif	60 x 25	リンクされるレポートを定義する画面へのアクセスに使用

サンプル画像	ファイル名	サイズ	用途
	NewReport.gif	60 x 25	新しい表形式のレポートの作成に使用するボタン
	NewSummary.gif	60 x 25	新しいサマリ・レポートの作成に使用するボタン
	Internal.gif	60 x 25	ExtraView の URL 構造内のレポートとのリンクの定義に使用
	RefreshButton.gif	60 x 25	レポートのページの更新に使用するボタン
	SearchOff.gif	60 x 25	レポート画面で検索フィルタをオフにするために使用
	SearchOn.gif	60 x 25	レポート画面で検索フィルタをオンにするために使用
	StandardQuery.gif	60 x 25	拡張クエリ・モードから標準クエリ・モードへの切り換えに使用
	Update.gif	60 x 25	レポート画面で一括更新機能にアクセスするために使用
	Calendar.gif	20 x 18	カレンダーへのアクセスに使用するボタン
	MoveLeft.gif	20 x 18	レポートで列の選択解除に使用するボタン
	MoveRight.gif	20 x 18	レポートで列の選択に使用するボタン
	MoveRightAsc1.gif	20 x 18	レポートでの昇順のソートで列の選択に使用するボタン
	MoveRightDesc1.gif	20 x 18	レポートでの降順のソートで列の選択に使用するボタン
	LinkButton.gif	20 x 18	画面上での他の機能へのリンクに使用するボタン
	QmarkButton.gif	20 x 18	ポップアップ検索リストへのアクセスに使用するボタン
	UsersButton.gif	20 x 18	ユーザのポップアップ・リストへのアクセスに使用するボタン
	ChartIcon.gif	15 x 15	レポートがグラフであることを示すアイコン
	ReportIcon.gif	15 x 15	レポートが表形式のレポートであることを示すアイコン

サンプル画像	ファイル名	サイズ	用途
	SummaryReport.gif	15 x 15	レポートがサマリ・レポートであることを示すアイコン
	BannerBackground.gif	縦 = 130 x 妥当な任意のサイズ 横 = 妥当な任意のサイズ x 85	メイン・メニューの背景画像
	drill-down.gif	22 x 20	サマリ情報からレポートを参照するためのボタン
	CompanyLogo.gif	120 x 妥当な任意のサイズ	メイン・メニューに表示されるロゴ
	GrowButton.gif	10 x 10	編集時にテキスト・エリアの拡大に使用するボタン
	ShrinkButton.gif	10 x 10	編集時にテキスト・エリアの縮小に使用するボタン
	smallbullet.gif	10 x 10	多目的に使用可能なボタン
	ArrowSelectOff.gif	12 x 12	ソート可能なレポートの列を示すために使用されるアイコン
	ArrowSelectOn.gif	12 x 12	レポートの降順ソート・キーとして現在使用されている列を示すために使用されるアイコン
	ArrowSelectOn2.gif	12 x 12	レポートの昇順ソート・キーとして現在使用されている列を示すために使用されるアイコン
	B0.gif .. b9.gif	18 x 18	さまざまな場所で使用される、0 ~ 9 の番号が付いた gif ファイルを示します。

色および画像のテーマ

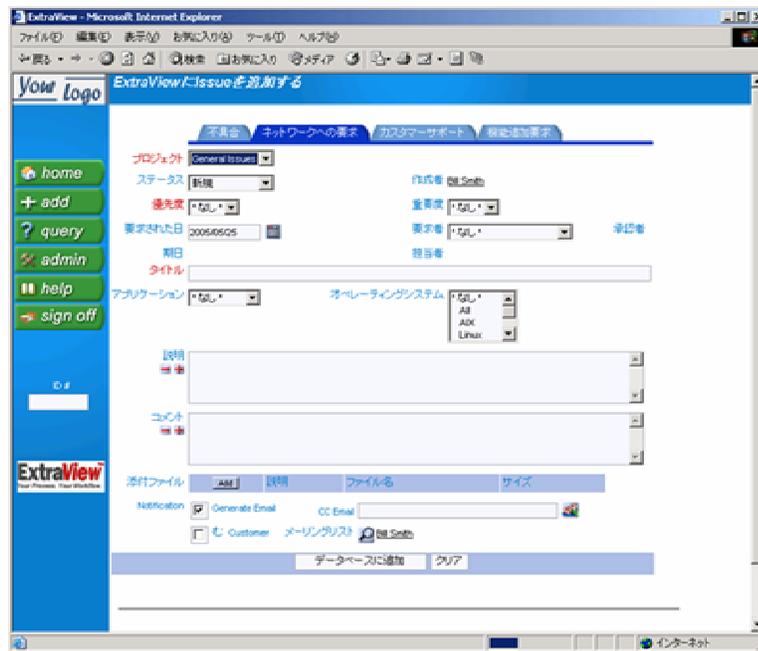
ExtraView のインストールには、複数のセットのメニュー画像が用意されています。これらを選択するには、[高度な管理] タブにある [環境設定] メニューの動作設定 IMG_HOME を変更します。次のような動作設定があります。

色設定	画像セット
デフォルト設定	ExtraView のデフォルト設定です。
	
設定	値
IMG_HOME	
BG_ALT_COLOR	#CCCCCC
BG_COLOR	#DCDCDC
BORDER_COLOR	#CCCCFF
LABEL_COLOR	#615499
MENU_TEXT_COLOR	#FFFFFF
TAB_FONT_OFF_COLOR	#FFFFFF
TAB_FONT_ON_COLOR	#FFFFFF
TAB_OFF_COLOR	615499
TAB_ON_COLOR	6666FF
WINDOW_BG_COLOR	#FFFFFF
MENU_DIRECTION	VERTICAL
MENU_SIZE	130
TITLE_HEIGHT	35

色設定

画像セット

Windows XP スタイル
これらの画像は Microsoft Windows XP のテーマで使用されます。

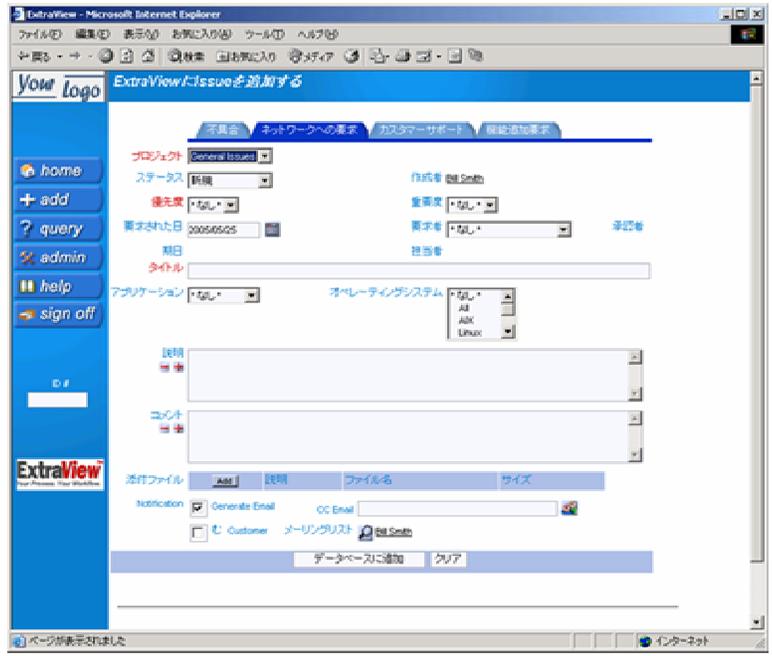


推奨される設定:

設定	値
IMG_HOME	../images/images_xp/
BG_ALT_COLOR	#DDEDFC
BG_COLOR	#AEBDE1
BORDER_COLOR	#1292EA
LABEL_COLOR	#007ECC
MENU_TEXT_COLOR	#FFFFFF
TAB_FONT_OFF_COLOR	#FFFFFF
TAB_FONT_ON_COLOR	#FFFFFF
TAB_OFF_COLOR	6B9DD0
TAB_ON_COLOR	0E37C5
WINDOW_BG_COLOR	#FFFFFF
MENU_DIRECTION	VERTICAL
MENU_SIZE	110
TITLE_HEIGHT	35
スタイルシート	<i>select, input, および textarea</i> の各スタイルに 背景色: #D0E2FF を追加します。

色設定	画像セット
-----	-------

ブルー画像
太字ボタンを含むこれらの画像はブルー・テーマを使用し、Windows XP スタイルのボタンに類似しています。



推奨される設定:

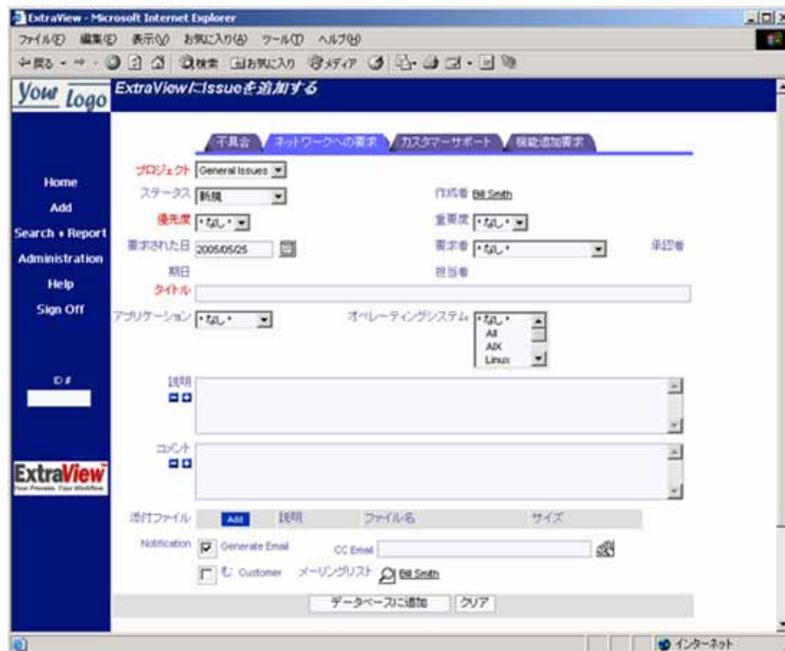
設定	値
IMG_HOME	../images/images_blue/
BG_ALT_COLOR	#DDEDFC
BG_COLOR	#AEBDE1
BORDER_COLOR	#1292EA
LABEL_COLOR	#007ECC
MENU_TEXT_COLOR	#FFFFFF
TAB_FONT_OFF_COLOR	#FFFFFF
TAB_FONT_ON_COLOR	#FFFFFF
TAB_OFF_COLOR	6B9DD0
TAB_ON_COLOR	0E37C5
WINDOW_BG_COLOR	#FFFFFF
MENU_DIRECTION	VERTICAL
MENU_SIZE	110
TITLE_HEIGHT	35
スタイル・シート	<i>select, input, および textarea</i> 各スタイルに背景色: #D0E2FF を追加します。

色設定

画像セット

小さい画像

これらの画像もブルー・テーマを使用しますが、通常 /images に含まれている画像よりサイズが小さくなります。小さいサイズのフォントを使用するユーザの数が多い場合に適します。



設定

IMG_HOME
BG_ALT_COLOR
BG_COLOR
BORDER_COLOR
LABEL_COLOR
MENU_TEXT_COLOR
TAB_FONT_OFF_COLOR
TAB_FONT_ON_COLOR
TAB_OFF_COLOR
TAB_ON_COLOR
WINDOW_BG_COLOR
MENU_DIRECTION
MENU_SIZE
TITLE_HEIGHT

値

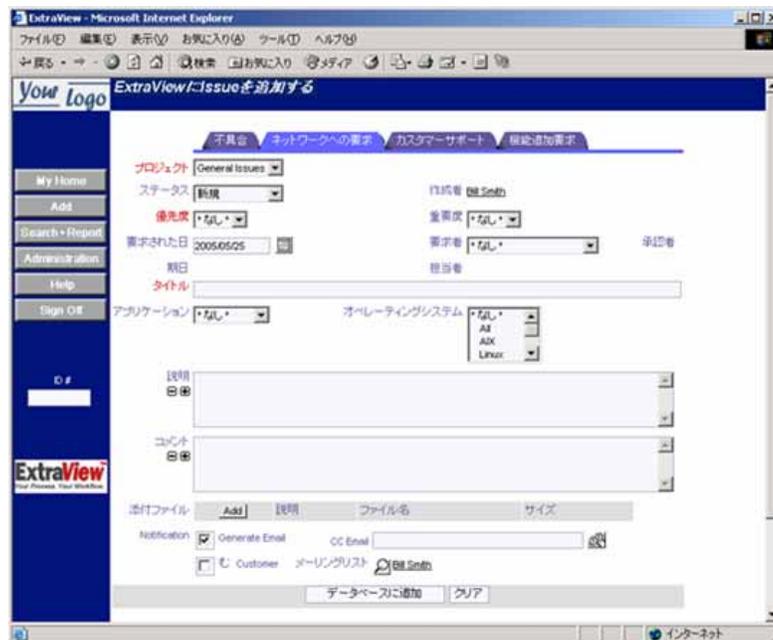
../images/images_small/
#CCCCCC
#DCDCDC
#CCCCFF
#615499
#FFFFFF
#FFFFFF
#FFFFFF
615499
6666FF
#FFFFFF
VERTICAL
105
35

色設定

画像セット

グレー画像

これらの画像により、テーマのボタンがグレーになります。



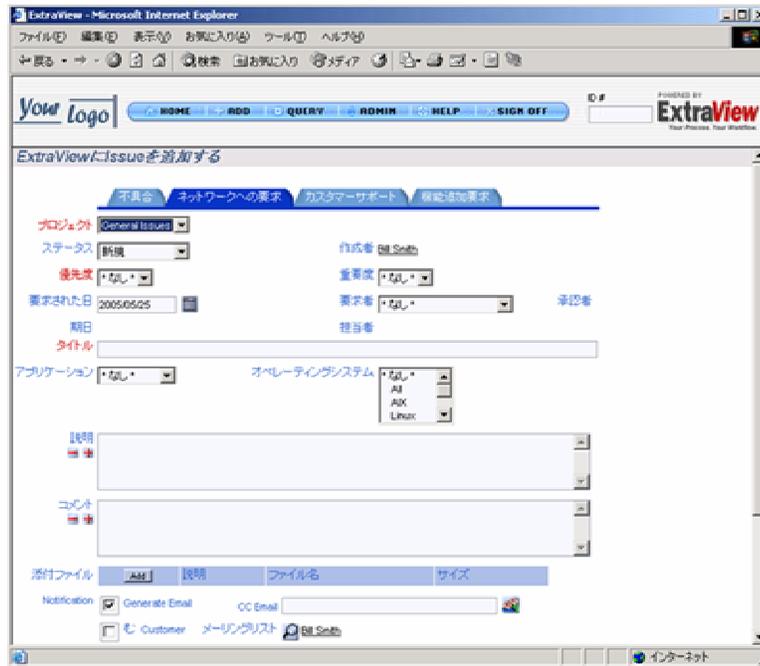
推奨される設定:

設定	値
IMG_HOME	../images/images_grey/
BG_ALT_COLOR	#CCCCCC
BG_COLOR	#DCDCDC
BORDER_COLOR	#CCCCFF
LABEL_COLOR	#615499
MENU_TEXT_COLOR	#FFFFFF
TAB_FONT_OFF_COLOR	#FFFFFF
TAB_FONT_ON_COLOR	#FFFFFF
TAB_OFF_COLOR	615499
TAB_ON_COLOR	6666FF
WINDOW_BG_COLOR	#FFFFFF
MENU_DIRECTION	VERTICAL
MENU_SIZE	105
TITLE_HEIGHT	35

色設定

画像セット

水平ストライプ画像 これらの画像により、メニュー・システムが水平方向で表示されます。



推奨される設定:

設定

値

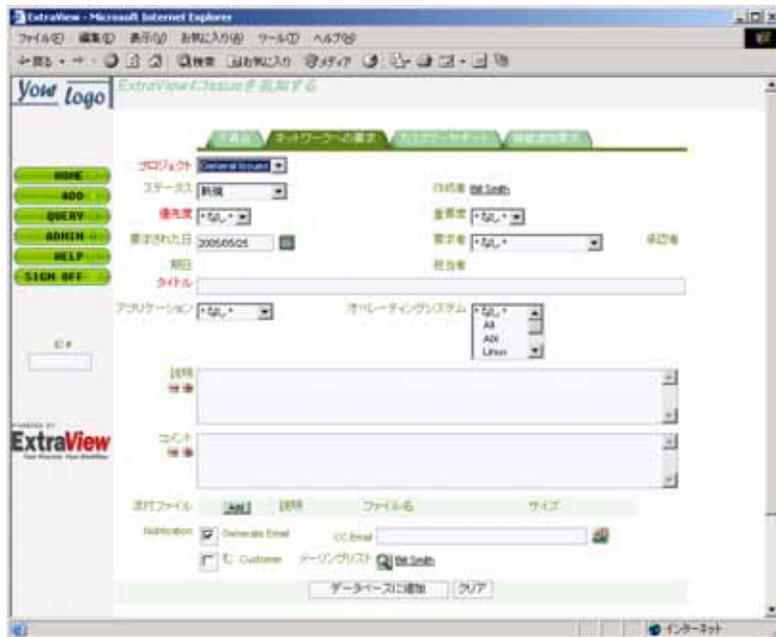
IMG_HOME	../images/images_horiz_stripe/
BG_ALT_COLOR	#DDDDDD
BG_COLOR	#AEBDE1
BORDER_COLOR	#1292EA
LABEL_COLOR	#3366CC
MENU_TEXT_COLOR	#3366CC
TAB_FONT_OFF_COLOR	#FFFFFF
TAB_FONT_ON_COLOR	#FFFFFF
TAB_OFF_COLOR	6B9DD0
TAB_ON_COLOR	0E37C5
WINDOW_BG_COLOR	#FFFFFF
MENU_DIRECTION	HORIZONTAL
MENU_SIZE	75
TITLE_HEIGHT	20

色設定

画像セット

垂直ストライプ画像

これらの画像により、メニュー・システムが垂直方向で表示されます。



推奨される設定:

設定

値

IMG_HOME	../images/images_vert_stripe/
BG_ALT_COLOR	#D1EBD1
BG_COLOR	#EBF6EB
BORDER_COLOR	#1292EA
LABEL_COLOR	#60831E
MENU_TEXT_COLOR	#60831E
TAB_FONT_OFF_COLOR	#FFFFFF
TAB_FONT_ON_COLOR	#FFFFFF
TAB_OFF_COLOR	99CC99
TAB_ON_COLOR	60831E
WINDOW_BG_COLOR	#FFFFFF
MENU_DIRECTION	VERTICAL
MENU_SIZE	110
TITLE_HEIGHT	35
スタイル・シート	select, input, および textarea の各スタイルに 背景色 : #DFEFDF を追加します。

サインオン・ページ

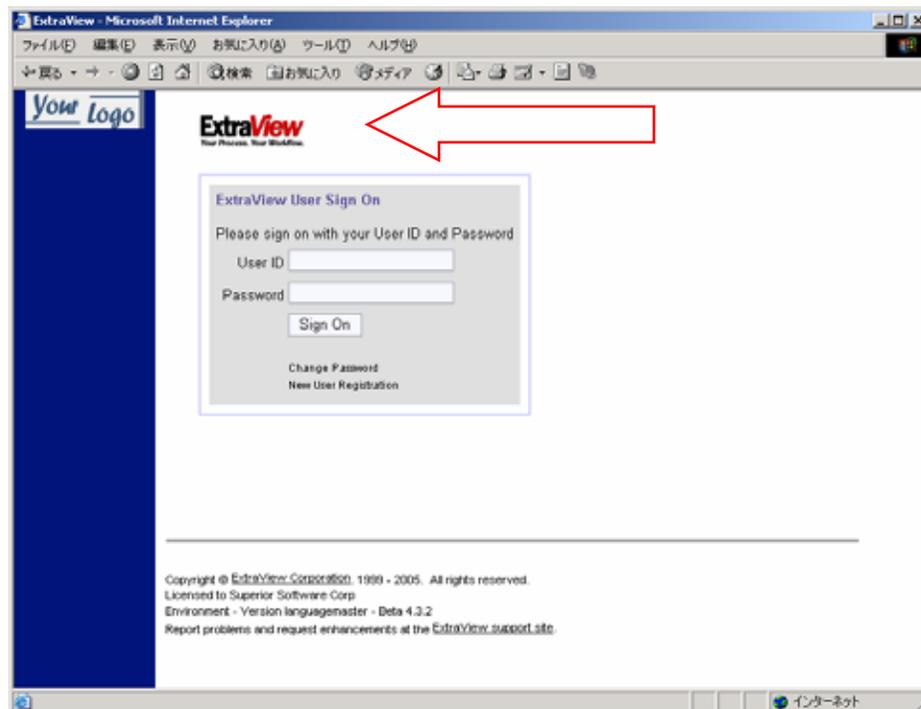
サインオン・ページは、ユーザのサインオンとサインオフの場所を提供するのが目的です。ExtraView のエントリ・ポイントとして、画像やリンクを含む追加の HTML をページに配置できます。

追加の HTML は、PROMO というデータ辞書から得られます。これはデータ辞書の画面セクションにあります。有効な HTML は [表示するタイトル] に配置できます。このフィールドの最大長は 120 文字であるため、JavaScript 機能を使用して、適切な場所に保存されている別のユーザ定義の JavaScript 機能をポイントすることができます。詳細については、JavaScript カスタム・コーディングに関するセクションを参照してください。

例えば、次のようにエントリをフィールドのタイトルに配置します。

```
<script>document.write('<br><img src=../images/ExtraViewLogo.gif>
<br>');</script>
```

これにより、次のスクリーン・ショットのようにサインオン画面に ExtraView のロゴが配置されます。



PROMO データ辞書のエントリの使用

ユーザ管理

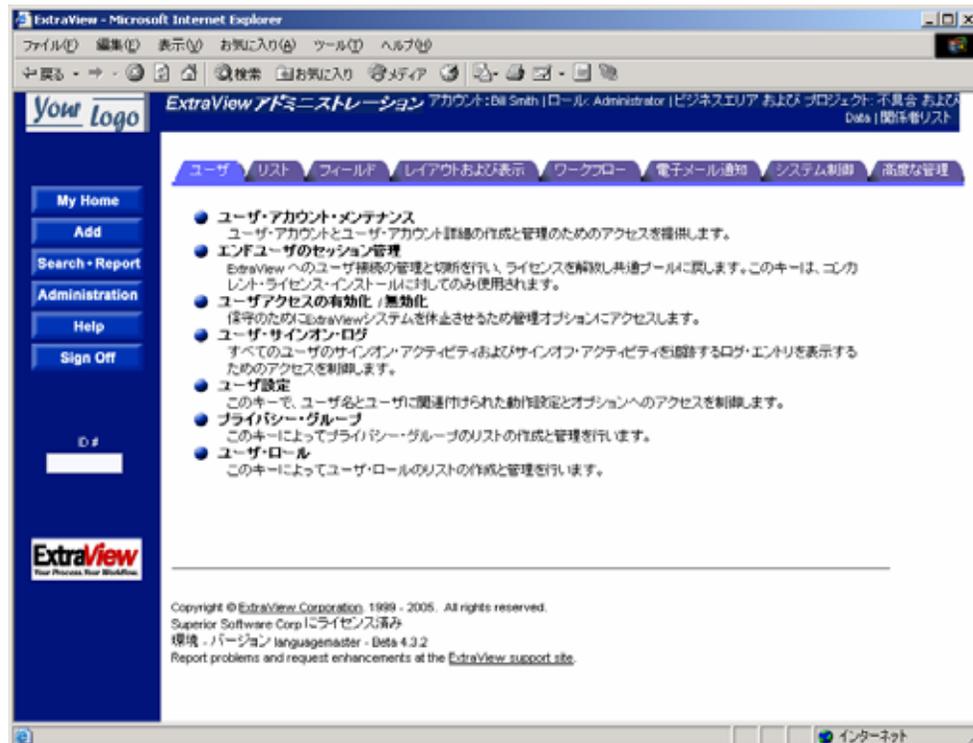
概念

このセクションでは、ユーザ管理のあらゆる側面を扱います。ユーザを作成し維持する方法、ユーザに関係する主要な動作設定を変更する方法について説明します。

また、ExtraView のコンカレント・ユーザ・セッションのライセンスがある場合はユーザ・セッションの管理方法、さらに ExtraView にアクセスしたユーザに関する詳細について、サインオン・ログを調べる方法についても説明します。

プライバシー・グループは、特定のユーザ・グループに対する issue(案件、問題)の表示方法を制御するために使用されます。ユーザは任意の数のプライバシー・グループに属することができます。例えば、特定の顧客を 1 つのプライバシー・グループに配置すると同時に、内部スタッフがすべてのプライバシー・グループにアクセスできるように設定できます。

ユーザの役割は、ExtraView の中心的な機能です。役割の数は任意に設定できます。各役割には、すべてのフィールドについてそれぞれ独自の画面レイアウトとアクセス権を設定することが可能です。



ユーザ管理画面

ユーザ・アカウントの保守

新規ユーザの追加

必要なユーザの役割を作成したら、管理者はシステム内で有効な任意の役割に新しいユーザを追加できます。ユーザには、一度に複数のグループに対する権限を割り当てるのが可能です。

[Administration]メニューの [ユーザ] タブで、[ユーザ・アカウント・メンテナンス] リンクをクリックします。

次の画面が表示されます。



ユーザ・アカウント画面

新しいユーザを追加するには、[Add] ボタンをクリックします。次の画面が表示されます。

新しいユーザを追加

アカウント: Bill Smith | ロール: Administrator | ビジネスエリア: および プロジェクト: 不具合 および Data | 関係者リスト

更新 キャンセル

個人情報	パーソナル・オプション
ユーザ ID	テキスト・サイズ: 小
名	言語: 英語(アメリカ合衆国)
姓	デフォルトに設定: ビジネスエリア: 不具合
パスワード	デフォルトに設定: プロジェクト: Data
パスワードを確認	電子メール形式: HTML
電子メール・アドレス	ユーザ自身の更新を通知: <input checked="" type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ
職位	タイムゾーン: (GMT-8:00) America.Los_Angeles
会社名: Superior Software Corp	日付形式: Medium: 2005/05/26
アドレス	カスタム日付形式:
都市	24 時間形式の時間: <input checked="" type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ
州郡	レポート形式をドリップダウン: クイックリスト
郵便番号	開始ページ: Home
国	ホーム・ページ・レポート #1: *なし*
勤務先電話番号	ホーム・ページ・レポート #2: *なし*
自宅電話	ホーム・ページ・レポート #3: *なし*
携帯電話	ブラウザの文字セット: UTF-8 Unicode 8-bit Transfer
Fax	MS Office 文字セット: UTF-16LE Unicode 16-bit LittleEndian
ポケベル	グラフのフォント: SansSerif
	File attachment char. set: UTF-8 Unicode 8-bit Transfer
	管理オプション
	<input type="checkbox"/> パスワードの共有
	<input type="checkbox"/> ユーザ・ロールを設定
	<input type="checkbox"/> Administrator
	<input type="checkbox"/> Customer
	<input type="checkbox"/> Customer Support
	<input type="checkbox"/> Development Engineer
	<input type="checkbox"/> Engineering Manager
	<input type="checkbox"/> IT Support
	<input type="checkbox"/> Quality Assurance
	<small>(設定の定義) ラジオ・ボタンに続いて、リストで変更するステータス・ロールの値を設定し、プライマリー・グループを使用できません。</small>

更新 キャンセル

新規ユーザの追加画面

ユーザに(システムへのログインに使用する)ユーザ ID を割り当て、すべての必須フィールド、さらに入力が必要なオプション・フィールドに情報を入力します。

個人情報フィールド	説明
[ユーザ ID]	新しいユーザがシステムへのログインに使用する名前(必須)。ユーザ名には次の文字、数字、記号を使用します。 A-Z 0-9 - _ . @
[名]	ユーザの名前
[姓]	ユーザの姓(必須)
[パスワード]	ユーザのパスワード(必須)
[パスワードを確認]	ユーザのパスワードの再入力(必須)
[電子メール・アドレス]	自動電子メール通知が送信される電子メール・アドレス EMAIL_NOTIFICATION という動作設定が YES に設定されている場合にのみ必須です。
ユーザ・プロファイル・フィールド	適切なユーザ・プロファイルと連絡先情報を入力します。

[会社名]	内部ユーザについては、インストール設定の COMPANY_NAME と同じ値が使用されます。このフィールドは、プライバシー・グループの設定に役立ちます。したがって、正確な情報を入力することが重要です。
-------	--

パーソナル・オプション・フィールド	説明
[テキスト・サイズ]	ユーザの表示画面で使用されるフォントのサイズに応じて、リストから [小]、[中]、または [大] を選択します。
[言語]	使用可能な言語のリストから選択します。これにより ExtraView のユーザ・インタフェースには、使用可能なローカライズされたメッセージが表示されます。
[Default Area]	ユーザがセッションを開始するビジネス・エリア。
[Default Project]	ユーザがセッションを開始するビジネス・エリア内のプロジェクト。
[電子メール形式]	[HTML]、[プレーン・テキスト(要約)]、または [プレーン・テキスト(全文)]。要約 オプションでは、issue を簡単に説明する少数のフィールドだけを使用できます。
[ユーザ自身の更新を通知]	有効 自動電子メール通知を受信します。 無効 自動電子メール通知を受信しません。
[タイムゾーン]	選択した時間帯がシステム全体のユーザに適用されます。
[日付形式]	選択した日付形式が新しいユーザに適用されます。ユーザにデータが表示されるすべての画面でこの形式が使用されます。あるいは、カスタム日付マスクを設定した場合は、要求される仕様に合わせた日付形式を使用します。
[カスタム日付形式]	日付マスクを使用することで、組み込みの形式がニーズに合わない場合に、日付形式を設定することができます。カスタム日付形式の詳細については、付録 A を参照してください。
[24 時間形式の時間]	はいまたはいいえ を指定します。
[レポート形式をドリルダウン]	クイックリストまたは詳細レポート
[開始ページ]	ユーザは開始ページを選択することができます。これは ExtraView に最初にサインオンしたときにユーザに表示されるページです。デフォルトではホームページですが、このリストにある使用可能な開始ページの一覧から選択することも可能です。USER_DEFINED_START_PAGE という動作設定により、このオプションを完全に無効にすることもできます。管理者は、「ユーザに使用可能な開始ページのリストを管理」という高度な管理機能を使って開始ページを追加することが可能です。ユーザに開始ページを見る権限を与える前に、そのページを使用する権限を与えなければなりません。この機能が有効な場合に使用可能な初期値は、[ホームページ]、[検索/レポートページ]、[issue の追加画面]、「システム管理画面」です。

パーソナル・オプション・フィールド	説明
[ホーム・ページ・レポート #2]	ユーザのホーム・ページに 2 番目に表示させるレポートを選択します。このオプションは、ユーザ・アカウントを編集する場合のみ表示されます。
[ホーム・ページ・レポート #3]	ユーザのホーム・ページに 3 番目に表示させるレポートを選択します。このオプションは、ユーザ・アカウントを編集する場合のみ表示されます。
[ブラウザの文字セット]	ユーザの表示画面で使用する文字を選択します。通常は UTF-8 Unicode 8-bit Transfer に設定します。
[MS Office 文字セット]	ExtraView から Microsoft Office 製品に情報をエクスポートする場合に使用する文字を選択します。デフォルトは UTF-16LE Unicode 16-bit LittleEndian です。この設定は、Microsoft Office 製品のほとんどの言語バージョン (およびすべての英語バージョン) に適用できます。Microsoft Excel またはその他の Office 製品にエクスポートされたレポートに読みづらい文字がある場合、ユーザは使用中の Microsoft 製品の文字設定を調べて、このリストの設定を同じにする必要があります。
[添付ファイル文字セット]	ユーザが issue の管理を行う場合にアップロードする添付ファイルのデフォルト文字セット。デフォルトの初期値は DEFAULT_ATTACHMENT_CHARSET という動作設定により提供されます。
[電子メール文字セット]	ユーザへの電子メール送信に使用されるデフォルトの文字セット。デフォルトは UTF-8 です。 EMAIL_CHARSET という動作設定により、デフォルトを変更することができます。
[グラフのフォント]	ユーザ・プロファイルに保存されているグラフ・フォントは、ユーザ設定のロケールで有効なフォントでなければなりません。有効でない場合は、 DEFAULT_CHART_FONT の動作設定を調べます。デフォルトのグラフ・フォントが有効でない場合は、アプリケーション・サーバで使用可能なフォントのリストの、最初の有効なフォントが使用されます。 修正されたフォント名は管理画面に表示されます。

管理オプション・フィールド	説明
[パスワードの失効]	管理者がこのオプションを選択すると、ユーザのパスワードが直ちに失効します。ユーザが次にサインオンを試みると、パスワードの変更が求められます。このオプションは、LDAP サーバがユーザ認証を制御している場合は表示されません。
[パスワード期限切れまでの日数]	このフィールドのラベルにも、パスワード期限切れまでのおおよその日数が表示されます。このフィールドに任意の日数を設定して、新しい有効期限を指定することができます。この設定を有効にするには [Expire Password] チェックボックスにチェックを入れる必要があります。この値に0を設定すると、パスワードは直ちに期限切れとなり、ユーザは次回のサインオンの際に新しいパスワードを設定しなければなりません。
[ユーザ・ロール]	各メンバーが同じ権限のセットを持つ機能別チーム。
[プライバシー・グループ]	プライバシー・グループを設定することで、ExtraView 内の特定のグループが、issue を [PUBLIC] (すべてのユーザが issue を表示可能) または [PRIVATE] (内部ユーザだけが issue を表示可能) に設定することなく、個別の issue のセットを見ることができます。

入力が終了したら、**[更新]** ボタンをクリックします。

注: 各ユーザに複数の役割が割り当てられている場合は、**[ユーザ・ロール]** リンクをクリックして使用可能なグループ指定を切り替えるようユーザに通知します。

注: 新しいユーザが作成され、いずれかのユーザの役割に追加されていない場合、ExtraView ではユーザが自動的に動作設定 IGNORE_USER_GROUP で定義された役割に割り当てられます。これは一般的に顧客またはゲスト・ユーザの役割になります。

注: 新しいユーザを作成した場合、リスト・ボックスに表示されるホーム・ページ・レポートは公開レポートだけです。

ユーザ・アカウントの編集

ExtraView には、システム内のユーザ・アカウントを簡単に検索して情報を編集できる、多数の機能があります。

[ADMIN] メニューの**[ユーザ]** タブで、**ユーザ・アカウント・メンテナンス**リンクをクリックします。

次の画面が表示されます。



ユーザ・アカウント画面

1. ユーザ ID の最初の文字、または特定のユーザ ID を使用して [ユーザ・ロール] でデータベースにフィルタをかけて、編集する特定のユーザ・アカウントを検索します。この場合、ID の最初の文字が A で同時にエンジニアであるすべてのユーザを検索するなど、フィルタを組み合わせることができます。
2. [有効化ステータスまたはロールでユーザを選択] ピック・リストからユーザの役割を選択すると、[Choose a Letter] エリアに、選択したグループ内の既存の有効な全メンバーの、最初の文字が表示されます。特定の文字で始まる ID を持つユーザが存在しない場合は、その文字はリストに表示されません。
3. いずれかの文字をクリックすると、ユーザのリストが下に表示され、編集モードに移動できる [Edit] ボタンがユーザごとに表示されます。ユーザ ID を [ユーザ ID] テキスト・フィールドに入力した場合にも、リスト項目とそれに対応する [Edit] ボタンが表示されます。
4. ID の検索にはワイルドカードを使用できます。例えば、ID が MA で始まるすべてのユーザを検索する場合は、「MA*」または「ma*」と入力します。



最初の文字が G であるエンジニアのユーザ ID の検索

- 特定のユーザ・アカウントに対応する [Edit] ボタンをクリックすると、次のような画面が表示されます。

The screenshot shows a web interface for editing user details. The title bar reads 'ユーザの詳細を変更' (Edit User Details) and the breadcrumb trail is 'アカウント: Bill Smith | ロール: Administrator | ビジネスエリア および プロジェクト: 不具合 および Data | 関係者リスト'. The form is divided into several sections:

- 個人情報 (Personal Information):** Fields for Name (GRATHER), Surname (RATHER), Password, Password Confirmation, Email Address (grather@ev.net), Title, Company Name (Superior Software Corp), Address, City, Prefecture, Postal Code, Business Phone, Home Phone, Mobile Phone, Fax, and PDA.
- パーソナル・オプション (Personal Options):** Includes Text Size (Small), Language (Japanese), Default Business Area (None), Default Project (Data), Email Format (HTML), User Update Notification (Yes/No), Time Zone (America Los Angeles), Date Format (Medium: 2005/05/26), Custom Date Mask, 24-hour Time Format (Yes/No), Report Format (Click List), Start Page (Home), Home Page Reports #1-3 (Public: My Open Issues, for Home Page; Public: Summary by Status, for Home Page; Public: Assigned to you, Issues assigned to you by product), Browser Character Set (UTF-8 Unicode 8-bit Transfer), MS Office Character Set (UTF-16LE Unicode 16-bit Little Endian), Graph Font (Sans Serif), and File Attachment Character Set (Shift_JIS Kanji).
- 管理オプション (Management Options):** A checkbox for 'パスワードの失効' (Password Expiry) is unchecked. Under 'ユーザ・ロールを設定' (Set User Role), several roles are checked: Administrator, Customer, Customer Support, Development Engineer, Engineering Manager, IT Support, and Quality Assurance.

At the bottom, there are buttons for '更新' (Update), 'キャンセル' (Cancel), and 'ユーザ ID を無効にする' (Disable User ID).

[ユーザの詳細を変更] 画面

- 必要に応じてユーザ情報を編集して、[更新] ボタンをクリックします。
- ユーザのアカウント情報を編集する場合は、画面の下部にあるリストから最大 3 つのレポートを選択して、ユーザのホーム・ページに追加するレポートを選択できます。この場合、公開レポートまたはユーザのパーソナル・レポート、いずれからも選択できます。

注: ユーザ・アカウントを無効にするには、[ユーザ ID を無効にする] ボタンをクリックします。アカウントを無効にすると、そのユーザはシステムにログインできなくなり、ユーザ ID が [担当者] または [所有者] ピック・リストなどに表示されなくなります。ユーザ・アカウントを再度有効にするには、[Edit User Accounts] 画面の [Select User Role] ピックリストから [*無効なユーザ*] を選択します。無効なアカウントを特定したら、[ユーザの詳細を変更] 画面に表示される [ユーザ ID の再有効化] ボタンをクリックします。

注: 動作設定 ENFORCE_DETAILED_USER_INFO を Yes にすると、入力が必要なフィールドが追加されます。これらのフィールドは、システムに自己登録するユーザにさらに詳細な個人情報を入力させる場合に使用します。

注: 特定の役割に対するユーザのアクセス権を変更または無効にした場合、変更内容は次回そのユーザがサインオンを行う場合に適用されます。アクセス権を変更したときにすでにユーザがサインオンしていた場合は、サインオフするまで変更内容は適用されません。

注: ユーザは ExtraView から物理的に削除されるわけではありません。これは、ほとんどのユーザは一度 ExtraView を使用すると、issue に対する所有者、担当者、またはその他の役割が割り当てられるためです。データの整合性を保持するために、ExtraView ではその後システムを使用しないユーザを含め、すべてのユーザの詳細情報が必要になります。

エンドユーザのセッション管理

注: この機能は、ExtraView のコンカレントライセンスを購入している場合のみ有効になります。ネームド・ユーザ・ライセンスを購入している場合は有効になりません。ネームド・ユーザ・ライセンスではこの機能は不要であるためです。

この機能により、管理者は現時点でシステムにサインオンしているすべてのユーザを確認することができます。この機能を使用する権限を持つ管理者は、任意にユーザをサインオフさせることが可能です。この権限は、ユーザ数がユーザ・ライセンスの最大数に達している場合に、特定のユーザをサインオフさせて、他のユーザがシステムにアクセスできるようにする場合に必要なになります。

アクティビティがない状態のまま個別のユーザのセッションが実行される時間は、動作設定 SESSION_EXPIRE_TIME_HOURS で指定されます。この動作設定は、[システム制御] タブの [セキュリティとセッションの設定] 管理メニューで設定できます。管理者はこの時間を調整して、ユーザのセッションの失効、他のユーザが使用可能なライセンスの維持、およびセキュリティのバランスをとります。

さらに、接続している任意のユーザの IP アドレスを確認することもできます。これは、IP アドレスが何らかの目的で変換されるネットワークでのトラブルシューティングに役立ちます。ExtraView では、[セキュリティとセッションの設定] セクションに、セッション中にクライアント接続で一定の IP アドレスを維持する必要があるかどうかを指定する動作設定があります。これは動作設定 CLIENT_IP_ADDRESS_CHECK です。通常これは YES に設定しますが、使用中のサーバがプロキシ・サーバからアクセスされ、個別のユーザの IP アドレスが変更されることがある場合は NO に設定します。

そのほかにも、ユーザが最後に開いているウィンドウを閉じるかブラウザを閉じる場合に、ExtraView が最後に開いているウィンドウになったときの、ExtraView の動作を指定する動作設定もあります。動作設定 AUTO_SIGNOFF_ON_USER_EXIT を NO (デフォルト) に設定すると、ExtraView ではサインオンしていることがセッション・クッキーを使用して記憶され、オープン・ライセンスが保持されます。YES に設定した場合は、ユーザがブラウザの [戻る] ボタンを押して(またはその他の方法で)ExtraView セッションに戻るには、新しいライセンスで再度サインオンする必要があります。

エンドユーザのセッション管理 アカウント: Bill Smith | ロール: Administrator | ビジネスエリア: および | プロジェクト: 不具合 | および | Data | 関係者リスト

このインストールは、20 ユーザにライセンスされています。 Currently, there are 1 license(s) in use.

The following users are currently signed on to ExtraView. Check the box against any user you want to disconnect, to release the license back to the common pool. Once you disconnect users, they will need to sign on again before using ExtraView.

切断したことをチェックする	ユーザ ID	ユーザ名	セッション終了時間	IP アドレス
<input type="checkbox"/>	BSMITH	Bill Smith	2005-05-27 10:53:09.0	172.22.1.5
<input type="checkbox"/>	BSMITH	Bill Smith	2005-05-26 14:00:27.0	172.22.1.5
<input type="checkbox"/>	BSMITH	Bill Smith	2005-05-26 13:40:24.0	172.22.1.5
<input type="checkbox"/>	BSMITH	Bill Smith	2005-05-26 15:41:28.0	172.22.1.5
<input type="checkbox"/>	BSMITH	Bill Smith	2005-05-26 15:48:55.0	172.22.1.5

接続しているユーザの管理画面

ユーザの切断

1. [ADMIN] メニューの[ユーザ] タブにある[エンドユーザのセッション管理] リンクをクリックします。
2. ExtraView 内のアクティブなセッションから切断するユーザに対応する、チェックボックスをクリックします。
3. **[Disconnect]** ボタンをクリックします。これによって、選択したユーザ・セッションが失効して並行ライセンスが解放され、他のユーザがアクセスに使用できるようになります。

ユーザのサインオン・ログ

管理者はユーザのサインオン・ログによって、ユーザによるすべてのサインオン、サインオフ、および失敗したアクセスを確認できます。サインオン・ログにアクセスすると、フィルタを選択できます。

デフォルトのフィルタを選択すると、前月に行われたすべてのユーザの全エントリのリストが表示されます。あるいはログのエントリ・タイプ(サインオン、サインオフ、失敗したサインオン)、単一のユーザ、または任意の日付の範囲でフィルタをかけることができます。

ユーザ・サインオン・ログ アカウント: Bill Smith | ロール: Administrator | ビジネスエリア および プロジェクト: 不具合 および Data | 関係者

リストから表示したいエントリタイプと、単一のユーザ ID または全ユーザを選択してください。任意の日付範囲を指定できます。デフォルトの日付範囲は最近 30 日間です。

ログ・エントリ・タイプを選択

ユーザ ID

開始日を入力します。

終了日を入力します。

サインオン・ログ画面でのフィルタの選択

サインオン・ログの例を以下に示します。このリストは、[Log entry #]、[Date]、[User ID]、[Entry type]、[Log entry]、[IP address]、[Active Users]、または [Unlicensed Active Users] のうち任意の列によってソートできます。ヘッダをクリックして、列をソートします。矢印は現在ソートに使用されている列を示します。選択されている列をクリックするとレポートが再度ソートされますが、昇順ではなく降順でソートされます。

この [Active Users] 列には、サインオンが行われた時点で接続されているユーザ数が表示され、ExtraView に接続されているユーザ数を継続的に監視できます。これは容量計画に役立ちます。

USERNAME_DISPLAY の動作設定によってユーザIDフィールドの表示が異なる場合がありますため注意してください。この動作設定が POPUP の場合、USERNAME_DISPLAY で設定された形式に従ってユーザIDフィールドに名前を入力するか、フィールドの横にあるボタンをクリックして選択したいユーザ名またはユーザIDを探すための検索機能を使用することができます。

ユーザ・サインオン・ログ アカウント: Bill Smith | ロール: Administrator | ビジネスエリア および プロジェクト: 不具合 および Data | 関係者リスト

<input type="checkbox"/> Log Entry #	<input type="checkbox"/> Date	<input type="checkbox"/> User ID	<input type="checkbox"/> Type	<input type="checkbox"/> Log Entry	<input type="checkbox"/> IP Address	<input type="checkbox"/> Active Users	<input type="checkbox"/> Unlicensed Active Users
8098	2005/05/12	BSMITH	System Signon	Success	68.189.106.16	1	0
8103	2005/05/12	BSMITH	System Signoff	Success	68.189.106.16	1	0
8108	2005/05/12	TOYO	System Signon	Success	202.232.197.33	1	0
8113	2005/05/12	TOYO	System Signoff	Success	202.232.197.33	1	0
8123	2005/05/16	ADMIN	System Signon	Success	10.0.0.36	0	1
8126	2005/05/16	ADMIN	System Signon	Success	10.0.0.36	0	1
8133	2005/05/16	ADMIN	System Signoff	Success	10.0.0.36	0	1
8138	2005/05/16	ADMIN	System Signon	Success	10.0.0.36	0	1
8143	2005/05/16	ADMIN	System Signoff	Success	10.0.0.36	0	1

合計 9 レコードから選択された 9 レコード

[ExtraView サインオン・ログ]

権限のないアクセス

ユーザが繰り返しサインオンを試みて失敗すると、ExtraView ではセキュリティ対策としてそのユーザのアカウントを無効にします。この機能の設定は、管理画面の[システム制御]メニューの[セキュリティとセッションの設定]メニューで行います。

動作設定	デフォルト値	説明
[MAX_SIGNON_ATTEMPTS]	3	個別のユーザが連続してサインオンを試みることができる最大回数。これを超えると、そのユーザのアカウントが無効になります。許可される失敗の回数は、SIGNON_PERIOD_MINUTES で定義される期間内で測定されます。
[SIGNON_PERIOD_MINUTES]	5	パスワードが無効であるためにユーザがサインオンに失敗した場合は、この期間内に MAX_SIGNON_ATTEMPTS で設定されている回数までサインオンを試みることができます。

ユーザのアカウントが無効になると、システム管理者に電子メールで通知されます。あるユーザが特定の IP アドレスから、上記の設定に基づいて同じアドレスから繰り返しサインオンを試み失敗した場合にも、システム管理者に通知されます。

通知に関する設定は、[電子メール通知] の [メール設定] メニューで行います。次の設定があります。

動作設定	説明
[EMAIL_ADMINISTRATOR_NAME]	ExtraView 管理者の電子メール・アドレスまたはエイリアス。ExtraView で自動的に作成される電子メールは、この名前が送信元になります。例としては、ユーザの自己登録時、または権限のないアクセス時に送信される電子メールなどがあります。
[EMAIL_ADMINISTRATOR_USER_ID]	ExtraView から送信される電子メールの、送信先電子メール・アドレス。通常、これは、管理者の電子メール・アドレスまたは管理者のエイリアスになります。

ユーザアクセスの有効化/無効化

例えば、新しい画面レイアウトまたはビジネス・ルールを作成する場合、あるいは多数の issue の一括更新を行う場合などに、管理者が ExtraView に対するユーザのアクセスを禁止することがあります。この要求に効率的に対応するために、管理メニューの [ユーザ] から [ユーザアクセスの有効化 / 無効化] 機能を使用できます。

ユーザアクセスの有効化/無効化 アカウント: Bill Smith | ロール: Administrator | ビジネスエリア および プロジェクト: 不具合 および Data | 関係者リスト

This feature allows the administrator to disable and enable users from accessing ExtraView. This is used if you want to shut the system down for maintenance, but still maintain access for administrators. Only users who currently have administrative privileges will be able to sign into ExtraView, until access is re-enabled. All other users will see the message you enter below.

ExtraViewへのアクセスは、現在すべてのユーザに対して有効です。

このインストールは、20 ユーザにライセンスされています。現在、2人のユーザが接続しています。

ユーザID	ユーザ名	ライセンス有効期限	IP アドレス
ADMIN	System Administrator	2005-05-27 14:04:33.0	172.22.1.5
BSMITH	Bill Smith	2005-05-27 14:04:39.0	172.22.1.5
TOYO	toyo	2005-05-27 14:05:17.0	172.22.1.5

ExtraView にサインオンするユーザに次のメッセージが表示されます。

ExtraView はシステム管理者によってロックされています。

Disable Access

Return

ユーザ・アクセスの有効/無効の切り替え

この機能を使用すると、管理者には現在サインオンしているすべてのユーザのリストが表示され、アクティビティのレベルを把握することが可能です。

ここでは、サインオンしたときにユーザに表示されるメッセージを定義できます。このメッセージには、サービスの復旧予定を含めることを推奨します。

システムを無効にすると、その旨の確認メッセージが表示されます。管理者がアクセスを再度可能にするまで、エンド・ユーザのアクティビティは禁止され、サインオンを試みると、定義したメッセージが表示されます。

その間も、動作設定 ADMIN_BYPASS_GROUP で定義されたグループのメンバーである管理者には、アクセスが許可されます。

この機能へのアクセスは、セキュリティ・キーによって制御されます。このセキュリティ・キーは CF_ENABLE_DISABLE_USER_ACCESS です。

注: ADMIN_BYPASS_GROUP のメンバーである管理者以外には、この機能の使用を s 許可しないようにしてください。

セキュリティ許可の付与

この設定によって、管理者はユーザの動作のあらゆる側面を含め、すべてのフィールドと画面に対するアクセス権を変更できます。入力した値は [フィールド] 管理タブに複製され、内容が表示されます。この機能の詳細については、[フィールド] セクションの記載を参照してください。

ユーザ設定

このエリアには、管理メニューの [ユーザ] タブの [ユーザ設定] リンクからアクセスできます。動作設定は、ユーザの使用状況とユーザ情報の表示に関する内容について行います。可能な設定とその説明を次に示します。

[ユーザ] メニュー – [ユーザ設定]	標準的な値	説明
[ALLOW_PASSWORD_CHG_AT_SIGNON]	YES	この設定では、ユーザ・サインオン画面の [Change Password] リンクの表示を制御します。値を YES にするとリンクが表示され、値を NO にするとリンクが非表示になります。
[CHECK_EMAIL_ADDRESS_FORMAT]	YES	YES に設定すると、ユーザ・アカウント画面に入力された電子メール・アドレスについて、完全修飾ドメインを持つ有効な形式であるかどうかを確認されます。NO に設定すると、電子メール・アドレスの形式は確認されません。
[ENABLE_PRIVACY_GROUPS]	YES	プライバシー・グループ機能のオン/オフを切り替えます。有効な値は YES と NO です。NO に設定すると、ユーザ管理画面でユーザのプライバシー・グループの設定、つまりプライバシー・グループの作成および保守ができなくなります。
[ENFORCE_DETAILED_USER_INFO]	NO	ユーザ・アカウント画面の必須フィールドにフィールドが追加されます。有効な値は YES と NO です。
[IGNORE_DEACTIVATED_USER_FIELDS]	ORIGINATOR	区切り記号を含む、表示タイプが USER のフィールドのリスト。このリストにある、非アクティブ化されたユーザがいるフィールドを含む issue を編集しても、ユーザに警告は出されません。このリストに表示されていない USER フィールドに非アクティブ化されているユーザがいる場合は、issue を編集する場合にユーザに警告が出されます。
[OMITTED_IMPORT_USER_COLUMNS]		security_user というテーブル内の列名のカンマ区切りリスト。XML エクスポート・ファイルを作成した場合、ここに表示された列のリストが除外され、ExtraView の別のインスタンスにインポートされます。したがって SECURITY_PASSWORD など、ユーザによって頻繁に変更されるフィールドは、データのインポート時には上書きされません。
[USER_DEFINED_START_PAGE]	YES	YES に設定すると、ユーザは ExtraView へのアクセス時に、ホーム・ページ、[Issue を追加] 画面、または [検索/レポート] 画面など、よく使用するページをスタート・ページとして設定できます。これは各ユーザのパーソナル設定ページで設定されます。
[USERNAME_DISPLAY]	FIRST	選択可能なユーザ名 (ID、FIRST、LAST) が表示されます。例えば、ユーザの名前が Mary Smith でユーザ ID が msmith である場合、ID には msmith、FIRST には Mary Smith、LAST には Smith、Mary と表示されます。
[USER_LIST_DISPLAY]	LIST	POPUP または LIST と表示されます。POPUP の場合は、ユーザはポップアップ・ウィンドウから issue を追加および更新します。LIST の場合は、ユーザ名は選択したリストに表示されます。一般的に、多数のユーザがいる場合は、POPUP を使用します。

[ユーザ]メニュー - [ユーザ設定]	標準的な値	説明
[USER_SELF_REGISTRATION]	YES	これにより、ユーザはサインオン画面から自己登録することができます。有効な値は YES と NO です。自己登録したユーザには、IGNORE_USER_GROUP で指定されたユーザの役割に応じた権限だけが与えられます。

プライバシー・グループ

プライバシー・グループは、issue が属するプライバシー・グループのメンバー以外のユーザについて、issue の表示を制限するものです。

例えば、会社に 6 つの部門があり、ExtraView を使用して issue のレポートを行っているとした場合、ここで他の部門と共有されない、各部門のプライベート issue をレポートする構造を設定する場合があります。最上位のレイヤには、issue の作成元の部門に関わらずすべての issue へのアクセスが可能な、管理または監督機能が配置されます。この機能は、ExtraView で部門ごとのプライバシー・グループを設定することで実行されます。それにより、部門の各メンバーが自身の部門(プライバシー・グループ)の issue だけにアクセスを制限されるとともに、管理機能からはすべてのプライバシー・グループにアクセスできるようになります。

ExtraView のインスタンスでプライバシー・グループを有効にするには、動作設定 ENABLE_PRIVACY_GROUPS を使用します。この動作設定は、[ユーザ] 動作設定メニューで行います。

注: ENABLE_PRIVACY_GROUPS を NO に設定すると、issue のマーキングは PUBLIC または PRIVATE だけになります。ENABLE_PRIVACY_GROUPS を YES に設定すると、issue は PUBLIC、PRIVATE、または作成したプライバシー・グループのメンバーとしてマーキングされます。プライバシー・グループのメンバーの場合は、次のセクションで説明するように、PUBLIC および PRIVATE のいずれかまたは両方をリストから削除することができます。

プライバシー・グループに関連する issue の処理に関する詳細なルールを次に示します。

- プライベート issue.** issue がプライベート issue としてマーキングされると、ユーザ・アカウントの会社名の設定が動作設定 COMPANY_NAME と同じであるユーザだけが、issue の表示と更新を行うことができます。[Issueを編集] 画面にプライバシー・フィールドが表示されない場合、ExtraView では [PRIVACY] フィールドが、データ辞書(通常 PRIVATE)で指定されたデフォルト値に自動的に設定されます。デフォルト値がない場合は、ExtraView では値が PRIVATE に設定されます。個別のフィールド、画面、機能のセキュリティ許可設定が引き続き適用されます。特定の状況では、動作設定 ENABLE_COMPANY_NAME_ACCESS が、この動作に優先する場合があります。詳細については、本書の会社名のセキュリティに関するセクションを参照してください。
- パブリック issue.** issue がパブリック issue としてマーキングされると、有効なアカウントを持つユーザは issue の表示と更新が可能になります。レコード全体または個別のフィールドを表示および更新できる特定の許可は、各オブジェクトのセキュリティ許可に従って与えられます。

- **プライバシー・グループ内の issue**。ユーザとしてレコードを表示および更新するには、特定のプライバシー・グループのメンバーになる必要があります。この場合も、すべてのオブジェクトに関するセキュリティ許可が適用されます。

PUBLIC および PRIVATE の表示設定(任意)

プライバシー・グループを使用する場合には、PUBLIC および PRIVATE で入力した値が追加、編集、検索の各画面の選択リスト・ボックスにも表示されるかどうかを設定できれば便利です。

例えば、あるプライバシー・グループが例外なくすべての issue で選択されるように設定するとします。

その場合は、次のようにセキュリティ許可キーを設定します。これらの設定は、標準的なセキュリティ許可方法で、ExtraView 内の各ユーザの役割に対して設定できます。

セキュリティ許可キー	説明
PR_ADD_PROBLEM. SHOW_PRIVATE_IN_PRIVACY_LIST	このセキュリティ許可に対する書き込み許可は、追加画面の [Privacy] フィールドの選択リストで Private を設定するために必要です。このキーを N に設定すると、ユーザの役割で各 issue をプライベート issue としてマーキングできません。
PR_ADD_PROBLEM. SHOW_PUBLIC_IN_PRIVACY_LIST	このセキュリティ許可に対する書き込み許可は、追加画面の [Privacy] フィールドの選択リストで Public を設定するために必要です。このキーを N に設定すると、ユーザの役割で各 issue をパブリック issue としてマーキングできません。
PR_RESOLUTION. SHOW_PRIVATE_IN_PRIVACY_LIST	このセキュリティ許可に対する書き込み許可は、issue の編集画面および検索画面にある [Privacy] フィールドの選択リストで Private を設定するために必要です。このキーを N に設定すると、ユーザの役割で各 issue をプライベートまたは検索済みの issue としてマーキングできません。
PR_RESOLUTION. SHOW_PUBLIC_IN_PRIVACY_LIST	このセキュリティ許可に対する書き込み許可は、issue の編集画面および検索画面にある [Privacy] フィールドの選択リストで Public を設定するために必要です。このキーを N に設定すると、ユーザの役割で各 issue をパブリックまたは検索済みの issue としてマーキングできません。

新しいプライバシー・グループの作成

[ADMIN] メニューの[ユーザ] タブで、[プライバシー・グループ] ボタンをクリックします。

ExtraView アドミニストレーション アカウント: Bill Smith | ロール: Administrator | ビジネスエリア および プロジェクト: 不具合 および Data | 関係者リスト

ユーザ リスト フィールド レイアウトおよび表示 ワークフロー 電子メールの通知 システム制御 高度な管理

- ユーザ・アカウント・メンテナンス
ユーザ・アカウントとユーザ・アカウント詳細の作成と管理のためのアクセスを提供します。
- エンドユーザのセッション管理
ExtraView へのユーザ接続の管理と切断を行い、ライセンスを解放し共通プールに戻します。このキーは、コンカレント・ライセンス・インストールに対してのみ使用されます。
- ユーザアクセスの有効化 / 無効化
保守のためにExtraViewシステムを休止させるため管理オプションにアクセスします。
- ユーザ・サインオン・ログ
すべてのユーザのサインオン・アクティビティおよびサインオフ・アクティビティを追跡するログ・エントリを表示するためのアクセスを制御します。
- ユーザ設定
このキーで、ユーザ名とユーザに関連付けられた動作設定とオプションへのアクセスを制御します。
- プライバシー・グループ
このキーによってプライバシー・グループのリストの作成と管理を行います。
- ユーザ・ロール
このキーによってユーザ・ロールのリストの作成と管理を行います。

管理メニュー画面

次のような画面が表示されます。

プライバシー・グループ アカウント: Bill Smith | ロール: Administrator | ビジネスエリア および プロジェクト: 不具合 およ

Return

Add 新しいプライバシー・グループを追加

	プライバシー・グループ名	表示するタイトル
Edit	CUSTOMER_1	Customer 1
Edit	CUSTOMER_2	Customer 2
Edit	PROJECT_A	Project A
Edit	PROJECT_X	Project X

合計 4 レコードから選択された 4 レコード

Return

[プライバシー・グループ] 画面

新しくプライバシー・グループを作成するには、[Add] ボタンをクリックします。

次の画面が表示されます。

新しいプライバシー・グループを追加 アカウント: Bill Smith | ロール: Administrator | ビジネスエリア およ

固定データベース名

画面に表示するタイトル

更新 キャンセル

新規グループ追加画面

データベース名(スペースまたは特殊文字は使用しない)と表示名を入力して、[更新] ボタンをクリックします。

プライバシー・グループ が作成されると、管理者ユーザは [ユーザの詳細を変更] 画面で適切なチェック・ボックスを選択して、個々のユーザをグループに割り当てることができます。

[ユーザの詳細を変更] 画面とプライバシー・グループ

ユーザの役割

ユーザの役割は、会社または外部ユーザによる、ExtraView を使用する機能別チームを表します。ユーザの役割は、各ユーザに表示および実行を許可する限度に応じて割り当てられた、特定の権限です。ユーザの役割としては次のようなものがあります。

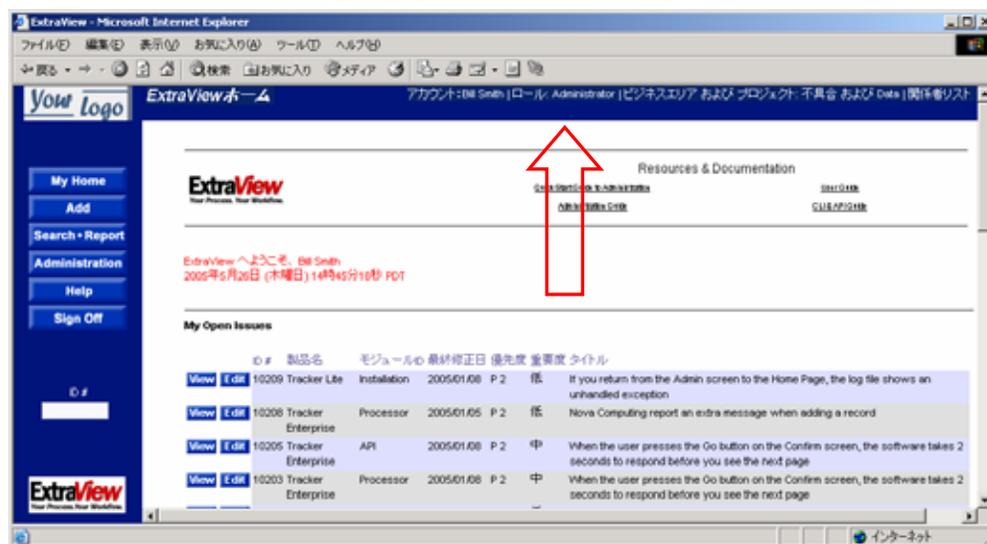
- 管理者
- 顧客
- エンジニア
- 品質保証
- マネージャ

ExtraView システム内には、ユーザの役割を無制限に設定できます。新しいユーザの役割を作成して、いつでも追加することが可能です。個々のユーザが属することができ

るユーザの役割の数も、無制限に設定できます。複数のユーザの役割に属する権限を与えられたユーザには、現在の役割を示すリンクが画面のタイトル・バーに自動的に表示されます。リンクを選択することで、役割を変更することができます。ユーザは、issueの追加/編集プロセス、またはレポートの準備プロセスでは各自の役割を変更できません。ここで役割を変更すると、許可の内容が大幅に変わり、予期しない動作が起きる可能性があります。

現在のユーザの役割の変更

ユーザは複数の役割に属している限り、役割を変更することが可能です。これによりユーザはシステム内での立場を変えることができます。選択した役割に応じて、実行できる機能も異なります。例えば、1人のユーザが *Administrator* と *QA Engineer* の両方の役割を持つことができます。



ホーム・ページ画面

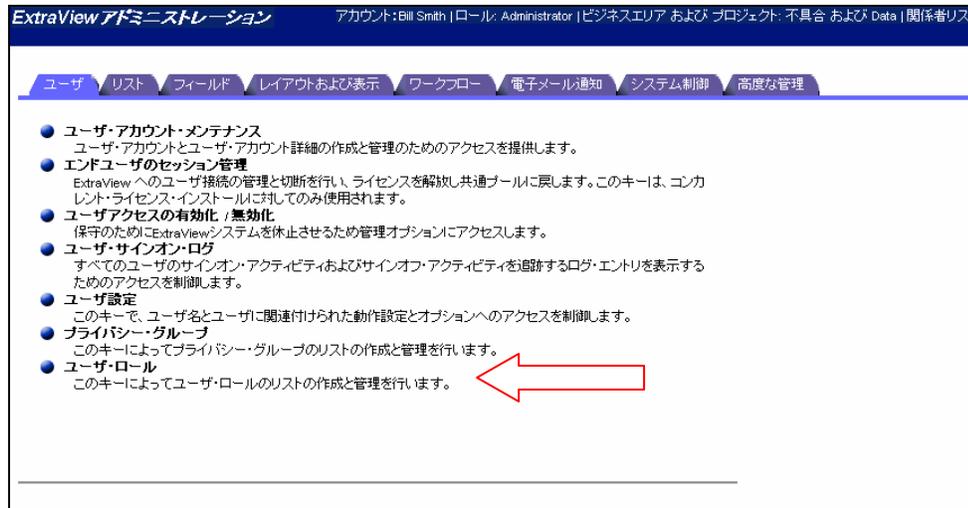
1. 現在の役割を変更するには、[**ロール:**] というラベル、またはメイン・ウィンドウのヘッダに表示されている現在の役割をクリックします。
2. 任意のユーザの役割に対応するラジオ・ボタンで目的の役割を選択し、[**選択**] ボタンをクリックします。これでユーザの役割が変更され、変更内容が権限に反映されます。左のナビゲーション・バーにあった一部のボタンが消えたり、追加/編集画面でフィールドが表示されなくなったり、画面によってはボタンやフィールドが追加される場合があります。これは役割の変更によるものです。
3. ユーザの役割を変更すると、ExtraView では、その役割用にカスタマイズされたさまざまな画面やレポートが自動的に表示されます。



ユーザの役割画面

ユーザの役割の追加

1. [ADMIN] メニューの [ユーザ] タブにある [ユーザ・ロール] をクリックします。



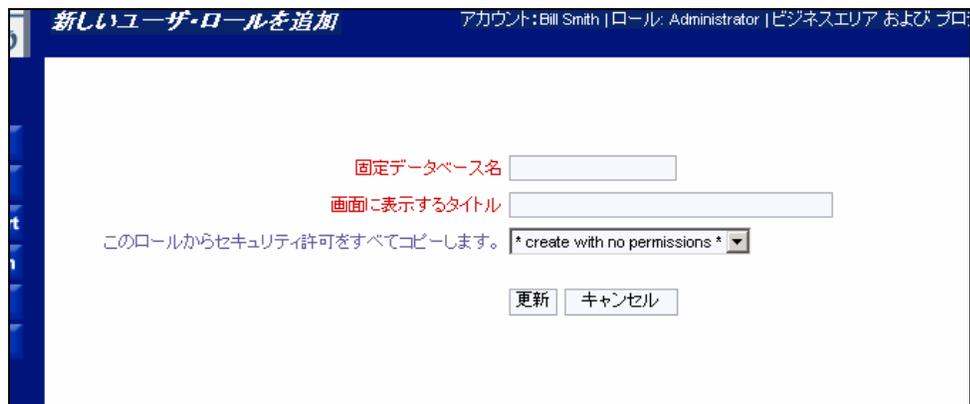
管理画面

2. [ユーザ・ロール] 画面で [Add] ボタンをクリックします。



ユーザの役割のサマリ画面

1. 決められたデータベース名を入力し、タイトルとして使用する名前に関連する名前にします。
2. すべての画面やレポートに表示させるタイトルを入力します。
3. 既存の別のユーザの役割からセキュリティ権限を複製するか、または [セキュリティ権限の付与] で最初に [* create with no permissions *] を選択して独自にセキュリティ権限を設定します。ユーザの役割の複製は、既存の役割に類似した役割を新たに作成する場合に便利です。権限を複製した場合は、[セキュリティ権限の付与] 画面で、新しい役割に必要な変更を加えることができます。



ユーザの役割の追加画面

4. 終了したら [更新] ボタンをクリックします。

会社名のセキュリティ

管理画面の [システム制御] タブにある [会社情報の設定] に、COMPANY_NAME という設定があります。ExtraView では、この設定がメインの会社名として認識されます。したがって、COMPANY_NAME に対応するフィールドの値と異なる会社名で新しいユーザが追加されると、同じ会社のユーザによって提示された PRIVATE issue を見る事ができません。この機能は、特にシステムを利用している顧客に対して、issue の表示について限定された権限だけを与える場合に有益です。

ユーザまたは顧客に ExtraView への自己登録を許可している場合は、ExtraView にサインオンすると、DEFAULT_USER_GROUP として入力されているユーザの役割に、各自が自動的に割り当てられます。DEFAULT_USER_GROUP は [ワークフローの設定] 管理メニューで設定します。このグループは通常、最小のユーザ権限を持ちます。この役割に割り当てられたユーザは、システム管理者によってさらに 1 つまたは複数の役割に割り当てられるまで、PUBLIC レコードだけを表示できます。

[新しいユーザを追加] 画面

注: 会社名をセキュリティとして使用している場合に、あるユーザが 1 つの会社から別の会社に移り、管理者が新しい会社名でそのユーザのレコードを更新すると、移動したユーザが元の会社で入力した issue が、新しい会社に属するすべてのユーザに表示されてしまいます。これを防ぐには、新しいユーザに新しい会社の新しいユーザ ID を与えるか、または元の issue をすべて確実に更新して、移動したユーザが参照できないようにする必要があります。

注: ユーザ ID *admin* でサインオンする場合は、会社名によるセキュリティはバイパスされず、*admin* ユーザはすべてのレコードを参照することが可能です。

issue の会社名とプライバシー

管理メニューの [システム制御] にある [会社情報の設定] タブには、issue のプライバシーと異なる会社の異なるユーザとの相互関係を制御する動作設定があります。これは `ENABLE_COMPANY_NAME_ACCESS` という動作設定です。これを YES に設定すると、同じ会社名を持つ異なるユーザが、その会社の任意のメンバーが入力したすべての issue を見ることができます。この設定は、PRIVATE のプライバシー設定に優先します。ENABLE_COMPANY_NAME_ACCESS を NO に設定すると、プライバシー設定が動作設定に優先し、すべての issue が厳密に PRIVATE に維持されます。詳細についてはプライバシーに関するセクションで説明します。

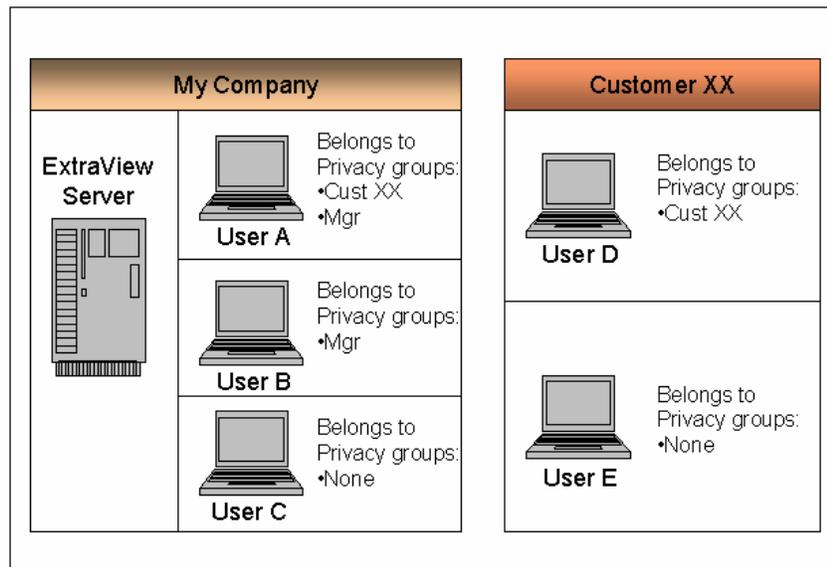
一般にこの設定は、顧客に対して ExtraView へのアクセスを許可し、顧客の任意のメンバーが、他のメンバーが入力したすべての issue を見ることができるようにする場合に使用します。

注: ユーザ自身が作成した issue については、会社名に関わらずいつでも見ることができます。

会社名とプライバシー・グループ

[ENABLE_COMPANY_NAME_ACCESS] で設定する会社名によるセキュリティとプライバシー・グループによるセキュリティは、ExtraView の別個の機能ですが、組み合わせで使用することもできます。次の例で、会社名によるセキュリティとプライバシー・グループの、動作と相互関係を示します。

プライバシー・グループの例



issue のプライバシー

- [COMPANY_NAME] 動作設定は *My Company* に設定
- [ENABLE_COMPANY_NAME_ACCESS] は YES に設定
- [ENABLE_PRIVACY_GROUPS] が有効
- *Cust XX* と *Mgr* というプライバシー・グループを作成

ユーザ A

- ユーザ A は *My Company* の従業員 (ユーザ画面上の会社名は *My Company* に設定)
- プライバシー・グループ *Cust XX* のメンバー
- プライバシー・グループ *Mgr* のメンバー

ユーザ B

- ユーザ B は *My Company* の従業員
- プライバシー・グループ *Mgr* のメンバー

ユーザ C

- ユーザ C は *My Company* の従業員
- いずれのプライバシー・グループにも属さない

ユーザ D

- ユーザ D は *Customer XX* の従業員で、*My Company* の ExtraView へのアクセス権限が与えられている
- プライバシー・グループ *Cust XX* のメンバー

ユーザ E

- ユーザ E は *Customer XX* の従業員で、*My Company* の ExtraView へのアクセス権限が与えられている
- いずれのプライバシー・グループにも属さない

どのユーザがどこまで issue を見ることができるでしょうか。次の表は、異なるプライバシー・グループで作成された issue と、それらの issue を見ることができるユーザを示しています。「Y」は、該当する issue をそのユーザが見ることができることを示します。プライバシー・フィールドの表示や変更が可能なユーザは、セキュリティ許可設定とデフォルト設定によって指定できます。

	<i>My Company</i>			<i>Customer XX</i>	
プライバシー・グループ ユーザ	ユーザ A	ユーザ B	ユーザ C	ユーザ D	ユーザ E
PUBLIC	Y	Y	Y	Y	Y
PRIVATE	Y	Y	Y	-	-
<i>Cust XX</i>	Y	-	-	Y	-
<i>Mgr</i>	Y	Y	-	-	-

この場合、issue を作成したのがユーザ D またはユーザ E であり、issue が PRIVATE のままである場合は、上記のシナリオのすべてのユーザが issue を参照できます (ただしその他の会社に属するユーザは参照できません)。
これは、[ENABLE_COMPANY_NAME_ACCESS] が YES に設定されていることによります。

リスト管理

概念

リスト管理は、ExtraView 内のメタデータ値を構成するすべてのリストを操作できる、中心的な管理セクションです。例えばここでは、製品、モジュール、およびその他さまざまな項目のリストを管理します。これには、ユーザ定義フィールドとして作成するすべてのリストが含まれます。

便宜上、この画面の項目のリストには、プライバシー・グループとユーザ・ロール(役割)が含まれます。これらのリストは、この管理セクションとユーザ・セクションの両方で表示および変更できます。

この画面に表示されるメタデータ・フィールド・リストには、データ辞書の表示タイプが List および Tab であるすべてのフィールドが含まれています。

リストの値は、他のリストの値によって異なる場合があります。これは許容値と呼ばれます。詳細については、本書の「フィールド管理」のセクションで説明しています。

関係者リストも、リスト管理の中のフィールド値として保守されています。例えば、特定の製品に関する関係者リスト、または優先度 1 の issue (案件、問題)の関係者リストを保守する場合は、各リストの追加および編集機能を使用します。

リストのソート

リスト管理内のエントリにソート順を割り当てることで、各リスト・フィールドについて、追加、編集、検索の各画面内でフィールド・リストをソートできます。ソート順は、数字または文字列で表されます。有効なソート順は次のような形になります。

23 2 a 2a open

ソート順を指定しない場合は、リストはフィールドのタイトルを使用してアルファベット順にソートされます。ソート順を指定した場合は、リストに入力された項目は ASCII ソート順でソートされます。

リストのソート順は、後で新しい値を挿入できるように設定することをお勧めします。これによってリストを柔軟に使用できます。例えば 5 つの値でリストを作成して、以後エントリが追加される場合は、次のようなソート順を使用します。

010 020 030 040 050

これにより、後で必要に応じて各エントリの間に新しく値を挿入できるようになります。

関係者リスト

関係者リストは、フィールドのデータ辞書の定義によって、各フィールドで有効になります。リストが有効になると、リストの各項目について、それぞれの追加画面と編集画面に表示されます。このプロンプトには **関係者リスト** というラベルが付いています。このボタンをクリックすると、次のような画面が表示されます。

The screenshot shows the '関係者リスト' (Relationship List) interface. At the top, it displays the user account: 'アカウント: Bill Smith | ロール: Administrator | ビジネスエリア および プロジェクト: 不具'. Below this, there is a blue 'Return' button and an 'Add' button with the text '関係者リストに新しいメンバーを追加'. Underneath, there are two dropdown menus for selecting the type of relationship list to manage: 'カテゴリ(CATEGORY)' and 'ドキュメンテーション'. Below the dropdowns, there are several checkboxes: 'ユーザ名', '削除したことをチェックする', '会社', '関係者リストのタイプ', and 'カテゴリ'. At the bottom, it shows '合計 0 レコードから選択された 0 レコード' and another blue 'Return' button.

関係者リストの定義

[Add] ボタンをクリックすると、関係者リストに追加できるユーザのリストが表示されます。いくつかのユーザを追加すると、リストは次のようになります。

The screenshot shows the '関係者リスト' (Relationship List) interface with a list of users. At the top, it displays the user account: 'アカウント: Bill Smith | ロール: Administrator | ビジネスエリア および プロジェクト: 不具'. Below this, there is a blue 'Return' button and an 'Add' button with the text '関係者リストに新しいメンバーを追加'. Underneath, there are two dropdown menus for selecting the type of relationship list to manage: 'カテゴリ(CATEGORY)' and 'ドキュメンテーション'. Below the dropdowns, there are several checkboxes: 'ユーザ名', '削除したことをチェックする', '会社', '関係者リストのタイプ', and 'カテゴリ'. The list of users is as follows:

ユーザ名	削除したことをチェックする	会社	関係者リストのタイプ	カテゴリ
Allan Rofer	<input type="checkbox"/>	Superior Software Corp	カテゴリ	ドキュメンテーション
Bill Smith	<input type="checkbox"/>	Superior Software Corp	カテゴリ	ドキュメンテーション
Greg Goldberg	<input type="checkbox"/>	Superior Software Corp	カテゴリ	ドキュメンテーション

At the bottom, there is a button 'チェックした項目を削除' and '合計 3 レコードから選択された 3 レコード' and another blue 'Return' button.

3 人のメンバーを加えた関係者リスト

この画面で、すべてのフィールドの関係者リストを管理できます。選択リストを使用して、関係者リストと値を選択します。

注: 関係者リストに追加できるのは、ExtraView の正規のユーザだけです。ライセンス契約書の条項により、関係者リストには、動作設定 IGNORE_USER_GROUP だけに属するゲストおよびその他のユーザを追加することはできません。

リストへのエントリの追加および編集

[ADMIN] メニューから、[リスト] タブをクリックします。編集可能なすべてのリストが、次のような画面に表示されます。

ExtraView アドミニストレーション

アカウント: Bill Smith | ロール: Administrator | ビジネスエリア および プロジェクト: 不具合 および Data

ユーザ リスト フィールド レイアウトおよび表示 ワークフロー 電子メールの通知 システム制御 高度な管理

- **Release Found**
Create and manage the list of product releases for the inbuilt repeating row record RELEASE_FOUND
- **Resolutions**
事前定義の [RESOLUTION] フィールドの値のリストを保守します。
- **アプリケーション**
影響を受けたアプリケーションです。
- **オペレーティングシステム**
この issue が発生したすべてのオペレーティングシステムです。
- **カテゴリ**
事前定義の [CATEGORY] フィールドのカテゴリのリストを保守します。
- **ステータス**
事前定義の [STATUS] フィールドの値のリストを保守します。
- **タブ**
- **テストフィールド**
- **ドキュメントの修正が必要**
この issue によってドキュメントまたはリリースノートの変更が必要かどうかです。
- **ビジネスにおける優先度**
- **ビジネスエリア**
事前定義の [AREA] フィールドのビジネス・エリアのリストを保守します。
- **プラットフォーム**
この不具合が発見されたプラットフォームです。
- **プロジェクト**
ビジネス・エリア (AREA) 内のプロジェクト (PROJECT) のリストにアクセスして保守します。
- **モジュール名**
製品 (PRODUCT_NAME) 内のモジュール (MODULE_ID) のリストを保守するためのアクセス。
- **優先度**
事前定義の [PRIORITY] フィールドの値のリストを保守します。
- **再現性**
issue に再現性があるときはこのチェックボックスをチェックします。チェックすると、問題を再現させるテストケースを入力するための、新しいテキストフィールドが現れます。
- **再現頻度**
この不具合の再現頻度です。
- **客先案件**
この欠陥に関する客先での案件です。
- **製品**
事前定義の [PRODUCT_NAME] フィールドの値のリストを保守します。
- **製品ライン**
事前定義の [PRODUCT_LINE] フィールドの値のリストを保守します。

リスト管理画面

リストを編集するには、リストの名前または横のボタンをクリックします。次の画面に、OS というユーザ定義フィールドの例を示します。これは依存関係のない単純なリストです。

ステータス

アカウント: Bill Smith | ロール: Administrator | ビジネスエリア および プロジェクト: 不具合 および Data

Add データベースに新しいフィールドを追加

Return

	固定データベース名	表示するタイトル	ソート・シーケンス	作成	最終更新日
Edit	NEW	新規	1	ExtraView toyo	2005/04/21
Edit	OPEN	オープン	3	ExtraView System Administrator	2005/01/24
Edit	FIXED	Fixed	5	ExtraView System Administrator	2005/01/24
Edit	CLOSED	クローズ	7	ExtraView System Administrator	2005/01/24
Edit	DUPLICATE	デュプリケート	8	ExtraView System Administrator	2005/01/24
Edit	NOT_FOUND	Not Found	9	Bill Smith System Administrator	2005/01/24

合計 6 レコードから選択された 6 レコード

Return

Copyright © ExtraView Corporation, 1999 - 2005. All rights reserved.

値のリスト

見出しに ■ 記号が付いている列見出しをクリックすると、リストをソートできます。昇順でソートされ、▼が表示されている列見出しをクリックすると、ソート記号が▲に変わり、リストがその列の降順でソートされます。

リストにエンTRIESを追加するには、[Add] ボタンをクリックします。ENTRIESを編集するには、編集する値の [Edit] ボタンをクリックします。

リストのENTRIESの編集

この画面で、表示するタイトル、この値の所有者 (issue でENTRIESが更新されると通知される)、およびこの値のソート順を編集できます。

値を変更したら、[更新] をクリックして保存します。

大きなリストの管理

[レイアウトおよび表示] という管理タブの [表示の設定] というENTRIESに、ADMIN_LIST_SIZE というENTRIESがあります。このENTRIESで、大きなリストの動作を制御します。HTML ブラウザでは、(一般的に 200 行以上のデータを表示する)大きなリストの処理は比較的遅くなります。処理中のリストに ADMIN_LIST_SIZE で指定した値よりも多いENTRIESがある場合、リストの動作が変わり、検索機能とドリルダウン機能を使用できるようになります。次のスクリーン・ショットはこの機能を示しています。

大きなリストの最初の入力画面

① で表示される選択リストは、結果リストに表示されるどの列が検索用フィルタとして使用されるかを示しています。

どの列がフィルタとして使用されるかを指定したら、次にある文字をクリックしてその文字で始まるすべてのエントリを表示するか、<all> をクリックしてすべてのエントリを表示するか、またはテキスト・ボックスにパターン検索を入力します。検索パターンでは、「*」をワイルドカードとして使うことができます。

リストにエントリがある文字だけが表示されるため、空のリストが表示されることはありません。次の画面は、大きなリストで「S」を選択した場合の、ドリルダウンの結果を示しています。

The screenshot shows the 'User Defined Field List' application interface. At the top, there is a navigation bar with the text 'アカウント: Bill Smith | ロール: Administrator | ビジネスエリア および プロジェクト: 不具合 および Data | 関係者リスト' and a 'プラットフォーム' label. Below this, there are 'Add' and 'Return' buttons. A message states: 'リストの文字は選択したフィルタ列の最初の文字を示しています。最初に、フィルタとして使用する列を選択してください。次に、これらの項目だけのリストを作成するために文字をクリックするか、またはワイルドカード(*)などの検索パターンを入力します。'

Step 1: 'レポートの列を選択' (Select report column) with a dropdown menu showing '表示するタイトル'.

Step 2: '文字をクリックします。' (Click a character). Below this is a search input field containing 'S' and a '<all>' button. A note says 'または検索パターンを入力して、Enter キーを押してください'.

Below the search area is a table with columns: '表示するタイトル', '所有者', 'ソート・シーケンス', '作成', and '最終更新日'. The table lists several Windows operating systems:

表示するタイトル	所有者	ソート・シーケンス	作成	最終更新日
Windows 2000	Bill Smith		2005/01/04	2005/01/04
Windows 98	Bill Smith		2005/01/04	2005/01/04
Windows ME	Bill Smith		2005/01/04	2005/01/04
Windows NT	Bill Smith		2005/01/04	2005/01/04
Windows Server	Bill Smith		2005/01/04	2005/01/04
Windows XP	Bill Smith		2005/01/04	2005/01/04

At the bottom of the table, a red message says '合計 10 レコードから選択された 10 レコード'. There is another 'Return' button at the bottom right.

大きなリストでのドリルダウン

注: 大きなリストを分割して検索する機能は、[Administration] 内のすべてのリストで使用できます。ADMIN_LIST_SIZE の値に従って、この機能が使われる場所としては、ほかにデータ辞書があります。

エントリのリストと許容値

許容値の関係で子であるリストの編集については、多少違いがあります。以下のスクリーン・ショットのように、親になりうる項目が、それぞれチェックボックスが付いて表示されます。また、ビジネス・エリアとプロジェクトが有効になっている場合は、許容値を設定するビジネス・エリアとプロジェクトを選択する必要があります(次のセクションを参照)。

この子に関連付けることができる親の値をそれぞれクリックします。この例では、カテゴリが属する product_name フィールドと category フィールド間の、許容値の関係を示しています。

エントリを製品に変更 アカウント: Bill Smith | ロール: Administrator | ビジネスエリア および プロジェクト: 不具合 および

固定データベース名 AAA

表示するタイトル Tracker ローカライズ

ソート・シーケンス

電子メール・アドレス

有効 Yes No

許容値のリスト

このフィールドは親許容値関係の子です。レコードを挿入または更新するときに許容値リストにこの項目を表示させたいすべての親値をチェックします。

ビジネスエリア を選択

プロジェクト を選択

カテゴリリスト

- Packaging
- Software
- ドキュメンテーション

許容値の関係は子のリストでも保持される

この画面では、1つの画面の1つの親について、許容値の子の変更が可能になっています。これは既存の関係を変更する場合に最適です。異なる親について一連の許容値の関係を追加する場合は、管理画面の「許容値タイプ」を使用するのが便利です。どちらの方法でも同じ変更を行えますが、「ボトムアップ」よりも「トップダウン」のアプローチのほうが便利な場合があります。

ビジネス・エリアと許容値の関係

ビジネス・エリアとプロジェクトを有効にすると、設定する許容値は選択したビジネス・エリアとプロジェクトだけに適用されます。これは、次のように保守画面にプロンプトを追加することで制御できます。

エントリを製品に変更 アカウント: Bill Smith | ロール: Administrator | ビジネスエリア: および | プロジェクト: 不具合 および

固定データベース名: AAA

表示するタイトル: Tracker ローカライズ

ソート・シーケンス:

電子メール・アドレス:

有効: Yes No

許容値のリスト

このフィールドは親子許容値関係の子です。レコードを挿入または更新するときに許容値リストにこの項目を表示させたいすべての親値をチェックします。

ビジネスエリア を選択: 不具合 ←

プロジェクト を選択: Data

カテゴリリスト

- Packaging
- Software
- ドキュメンテーション

更新 削除 キャンセル InterestList

エリアとプロジェクトを有効にした場合の許容値の関係

各ビジネス・エリアとプロジェクトについて、許容値の関係を設定する必要があります。

注: ビジネス・エリア・フィールドが許容値の関係で親フィールドである場合は、ビジネス・エリアに対する許容値の相互関係に注意する必要があります。その場合、許容値の関係の子が、現在選択されているビジネス・エリアに属するかどうかだけを定義できます。その子を他のビジネス・エリアで選択可能にする理由はありません。したがって、現在選択されているビジネス・エリアだけが、チェックボックスが付いた可能な許容値のリストとして表示されます。

エイリアス・リスト

データ辞書の中に、他のフィールドの別名であるフィールドを作成することができます。ExtraView は2つ(またはそれ以上)のリストの値を同期させて保持します。ただし、編集できるのは元のリストの値のみです。あるフィールドに別名が付けられたフィールドが存在する場合は、リストの編集時に次のようなメッセージが表示されます。

このフィールドは '顧客'、OEM顧客 の別名になっています。このリストの値を変更すると、すべてのリストにあるすべての値が変更されます。

フィールドが他のフィールドの別名である場合は、その値は編集できません。次のようなメッセージが表示されます。

このフィールドは '顧客' フィールドの別名です。このフィールドのリストの値を編集することはできません。このリストのエントリを変更するには、エイリアスリストに進んでください。

表示タイプが[リスト]、[ポップアップ]、[タブ]であるフィールドに対し、別名リストが作成できます。

特別なプロパティのあるリスト

ビジネス・エリア

ビジネス・エリアは、その他のあらゆるリストと同様のリストとして作成されます。管理者の観点からは、ビジネス・エリアはその他のあらゆるリストと同様に作成されます。内部的には、新たに追加されたビジネス・プロセスに ExtraView が対応するために、さまざまな処理が行われます。要約すると次のようになります。

- DISALLOW_AREA_0_DATA と DISALLOW_PROJECT_0_DATA を YES に設定すると、新しいエリア内に 1 つまたは複数のプロジェクトを作成する必要がある旨の警告が表示されます。DISALLOW_PROJECT_0_DATA を YES に設定すると、表記規則では「new_area_name Defaults」に類似した名前で最初のプロジェクトが作成されます。
- 各ユーザ・ロールの新しいビジネス・エリアについて、セキュリティ許可キーが作成されます。これにより、ExtraView 内の各ユーザ・ロールについて、ビジネス・エリアを有効または無効にすることができます。これらのセキュリティ許可キーは、[セキュリティ権限の付与] 画面で、次のような表記規則に従って名前が付けられます。

AREA.id (area_title)

ここで、id はビジネス・エリアの内部 ID で、area_title はビジネス・エリアのタイトルを表します。

ユーザ・ロールに対するセキュリティ許可キーの効果は、すべての追加、編集、クエリ機能でビジネス・エリアの表示および選択を行う、特別なロール内のユーザの許可を有効または無効にすることです。この機能を持つビジネス・エリアから、任意のユーザ・ロールを締め出すことができます。

- レイアウト・エディタにより、新しいエリアで新しいレイアウトを作成できるようになります。新しいエリアで新しいレイアウトを作成するまでは、マスター・エリアからレイアウトが継承されます。
- 新しいエリアはステータス・ルール管理画面で使用可能になり、新しいエリアのステータス・ルールを設定できます。新しいエリアでステータス・ルールを作成するまでは、マスター・エリアからルールが継承されます。
- 管理機能にアクセス可能な、複数のロールを定義できます。ただしこれら各ロールには、特定の組み合わせのビジネス・エリアの表示だけが許可されます。

注:あるユーザ・ロールがビジネス・エリアを表示する許可を持たない場合でも、そのロールでそのエリアからレコードを取得することができます。例えば、ビジネス・エリアの種類に関らず、表示する許可がないエリアからのレコードを含め、すべての「オープン」な issue を取得することを求めるクエリなどが、その役割を持ちます。この動作は、クエリ・レイアウトのレイアウト・セル属性の値を「Remove * None *」に設定することで防止できます。これによりユーザは、クエリの一部としてアクセス可能な、1 つまたは複数のエリアの選択を強制されます。

プロジェクト・リストにリンクされているビジネス・エリア

ビジネス・エリアは、プロジェクトと相互にリンクされています。この関係では、多数のプロジェクトが1つのビジネス・エリアに属しています。

ExtraView Corporation では、マスター・ビジネス・エリア(内部 ID が 0 であるビジネス・エリア)をデータの保存に使用することは推奨していません。マスター・ビジネス・エリアは、システム全体のデフォルトとして使用されるセキュリティ許可や、システム全体で共通のレイアウトなど、主にインストールに関するメタデータの保存に使用します。この手順により、複数のトラッキング目的に使用される場合に、ExtraView のインストールが容易になります。

同じ原則が各ビジネス・エリア内のマスター・プロジェクトにも適用されるため、データの保存に使用することは推奨しません。

ただし、ExtraView を単一のトラッキング機能として使用する場合は不便であるため、この動作は変更することも可能です。この違いに対応するため、[Administration] の [ワークフローの設定] メニューには2つの動作設定が用意されています。

設定名	デフォルト値	説明
DISALLOW_AREA_0_DATA	YES	NO に設定すると、issue データが AREA 0 に入力されます。これにより、バージョン 4.2 より前のインストールとの下位互換性が得られます。バージョン 4.2 以上で作成されたインストールでは、issue データを AREA 0 に置くことはできません。4.2 以上のインストールでは、YES に設定する必要があります。
DISALLOW_PROJECT_0_DATA	YES	NO に設定すると、issue データが PROJECT 0 に入力されます。これにより、バージョン 4.2 より前のインストールとの下位互換性が得られます。バージョン 4.2 以上で作成されたインストールでは、issue データを PROJECT 0 に置くことはできません。4.2 以上のインストールでは、YES に設定する必要があります。

DISALLOW_AREA_0_DATA が YES またはプロジェクト(0)、あるいはDISALLOW_PROJECT_0_DATA が YES である場合、リスト変更画面のデフォルトのビジネス・エリアとプロジェクト・リストには、マスター・エリア(0)へのエントリは含まれません。

さらに、エリアを追加または編集する場合に、DISALLOW_PROJECT_0_DATA が YES で、追加または変更されたエリアにマスター・プロジェクトよりほかにプロジェクトがない場合は、警告が出されます。

製品ラインリスト

製品ライン(**product_line** フィールド)は、製品(**product_name** フィールド)と特別な関係が設定されています。1つの製品が属する製品ラインの数は、無制限に設定できます。

エントリを製品ラインに変更 アカウント: Bill Smith | ロール: Administrator | ビジネスエリア

固定データベース名: PLA

表示するタイトル: 製品ラインA ローカライズ

ソート・シーケンス:

この製品ラインに属する製品

Tracker

Tracker Enterprise

Tracker Lite

更新 削除 キャンセル

1 つの製品を 1 つ以上の製品ラインに追加する

製品ラインを追加または編集する場合には、それぞれチェックボックスが付いたすべての製品のリストが表示されます。製品ラインに製品を追加するには、チェックボックスをクリックします。

追加画面または編集画面に製品ラインと製品フィールドの両方を配置すると、次のように動作します。

状態	動作
<i>product_name</i> フィールドに許容値がない	製品ラインを選択すると画面が更新され、製品リストに製品ラインのリスト内の製品の値が反映されます。
許容値の関係で <i>product_name</i> が子になっている	関係の中の製品ラインまたは親フィールドが選択されると、画面が更新され、表示される製品リストは、製品ラインに属するとともに、許容値の関係で子である製品のリストになります。

製品名リスト

製品名リスト(**product_name**)には、その他ほとんどのリストにはない属性があります。この属性により、製品を無効にすることが可能になります。ある製品を無効にすると、その製品は追加画面および編集画面の選択画面に表示されなくなります。ユーザが無効な製品で **issue** を編集すると、その製品が無効になっていることを示す警告が出されます。ユーザは無効な製品で **issue** を更新するか、有効な製品を新しく選択できます。

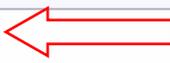
エントリを製品に変更 アカウント: Bill Smith | ロール: Administrator | ビ

固定データベース名: BBB

表示するタイトル:

ソート・シーケンス:

電子メール・アドレス:

有効: Yes No 

製品の無効化

モジュール名リスト

モジュール名は、他のリストとは多少異なる方法で管理します。これは、`product_name` と `module_id` との間に定義済みの関係があるためです。ExtraView では、モジュール名の管理に許容値の関係を使用しません。

モジュールを追加または変更するには、[リスト] タブの [モジュール名] をクリックします。次の画面が表示されます。

モジュール名 アカウント: Bill Smith | ロール: Administrator | ビジネスエリア および プロジェクト: 不具

新しいモジュールを追加

製品名:

モジュール名 名前	モジュール名 タイトル	ソート・シーケンス	所有者	モジュール・タイプ	作成	最終更新日
合計 0 レコードから選択された 0 レコード						

[モジュール名] 画面

新しいモジュール名を作成するには、[Add] アイコンをクリックします。モジュールは製品に依存するため、適切な製品をドロップダウン・リストから選択し、新しいモジュールに関連付ける必要があります。適切なフィールドに入力して、[更新] ボタンをクリックします。

モジュール名にエントリを追加 アカウント: Bill Smith | ロール: Administrator | ビジネスエリア および

製品名

モジュール名 固定名

モジュール名 タイトル

モジュール名 タイプ

ユーザ ID を選択

ソート・シーケンス

モジュール名の追加

既存のモジュール名を変更するには、[ADMIN] メニューに戻り、[リスト] タブに戻り、[モジュール名] を選択します。編集するモジュールに関する製品を選択します。

ID	製品名	モジュール名	モジュールタイプ	作成	最終更新日
1	Tracker	Tracker Enterprise	Tracker Like	Jimmy Duncan	Mary Brown 2004/01/23
2	DATABASE	Database		Bill Smith	Bill Smith 2004/12/04
3	GUI	GUI		Mary Brown	Mary Brown 2004/01/23
4	PROCESSOR	Processor		Mary Brown	Bill Smith 2004/12/04
5	TEST_MOD	テストのモジュール		System Administrator	System Administrator 2005/04/12

既存のモジュールの編集

変更するモジュールの横の [Edit] ボタンをクリックします。表示される画面で値を編集して、レコードを更新します。

[検出リリース] および [Release Fixed] リスト

	Release record	有効	リリース・タイプ	ソート・シーケンス	作成	コード・フリーズ	RQA	最初の顧客への出荷	ダウンロード可能
Edit	1.0	Y			Bill Smith 2004/12/25				N
Edit	1.1	Y			Bill Smith 2004/12/25				N
Edit	1.2	Y			Bill Smith 2004/12/25				N
Edit	1.3	Y			Bill Smith 2004/12/25				N

合計 4レコードから選択された 4レコード

[検出リリース] および [Release Fixed] 保守画面

これらのリストには、次のようないくつかの特別なプロパティがあります。

- 2つの事前定義フィールド [RELEASE_FOUND] および [RELEASE_FIXED] に関するプロパティです。
- これらのフィールドは、リピーティング行のレコードに属します。リピーティング行のレコード以外のレイアウトでは使用できません。RELEASE_FOUND または RELEASE_FIXED の機能を追加または編集などのレイアウトで 1 つまたは複数のフィールドを使用する場合は、UDF を定義してこれらを使用します。
- これらのフィールドでは PRODUCT_NAME が親の値として使用されるため、システム内の各製品について個別のリストを定義できます。
- どちらのリストでも同じ値が使用され、リスト保守画面内の 1 つの場所で保持されます。
- リリースが無効になる場合があります。無効になると、issue を追加または更新してもリストに表示されません。ただし、検出されたリリースまたは修正されたリリースが無効である場合に issue を編集すると、警告が表示されますが、これは無視することができます。
- 通常のフィールド [名前]、[タイトル]、および [ソート・シーケンス] のほかに、リリースでは [コード・フリーズ]、[Release to QA (RQA)]、[最初の顧客への出荷]、[ダウンロード可能]、[リリース・ディレクトリ] などの他のフィールドにも値を入力することができます。ただし、これらのフィールドを ExtraView 内で使用するには、カスタム・コードが必要になります。
- [検出リリース] および [Release Fixed] リストは、昇順または降順でソートできます。これは [ワークフローの設定] 管理メニューの動作設定 RELEASE_SORT_ORDER で制御します。

Release Foundに新しいエントリを追加 アカウント: Bill Smith | ロール: Administra

製品名

リリース名

リリース・タイトル

有効 はい いいえ

コード・フリーズ

RQA

最初の顧客への出荷

ダウンロード可能 はい いいえ

リリース・ディレクトリ

リリース・ファイル

ソート・シーケンス

リリース・リストに新しいエントリを追加する

ステータス・リスト

ステータス・リストはワークフローを稼働させるものですが、このガイドの『ワークフローの設定』というタイトルのセクションで詳しく説明します。リストにはワークフローの稼働の他に、以下に示すような特殊な性質があります。

- ステータス・リストの各エントリに対し、セキュリティ許可キーが作成されます。これにより、完全な形でユーザ・ロールごとのリスト・エントリに対しステータス・エントリの可視/不可視を制御することができます。
- STATUS_CLOSED_NAME という動作設定が用意されています。これはお使いのインストール内で「クローズ済」を意味する値を表すステータス名に設定してください。通常は CLOSED ですが、必要に応じて変更することができます。ただしこの値は本番システムでは変更すべきではありません。issue がクローズされた日付に関する履歴の追跡ができなくなるからです。この値は実装時のみ設定してください。
- ステータス・リストの値は[ワークフローの設定]セクションで設定されたルールに従って、追加画面と編集画面で入力されます。基本的には、ワークフローはビジネス・エリア、プロジェクト、ユーザ・ロール、製品の組み合わせにより別々に設定することも、同一に設定することもできます。

ステータス名および値の削除

すべてのフィールド同様に、ステータス名および値を削除する前には依存するデータすべてを削除または除去する必要があります。以下にステータス名とその値を削除する際に推奨される順序を示します。

- 最初に、そのステータス値を持つissueが存在しないことを確認してください。空のデータベースの場合、何もする必要はありません。値が存在する場合、レポートで提供されている一括更新機能を使用して削除したい値を持つすべて

のレコードを選択し、その値を作成した新しい値に変更するか、既存のステータス値の一つに変更します。

- 次に、削除したい値を使用しているすべてのステータス変更ルールを削除しなければなりません。このバージョンでは、これらを別々に削除する必要があります。将来のバージョンでは簡素化される予定です。
- 削除しようとする値が STATUS_CLOSED_NAME という動作設定の値ではないことを確認します。
- 削除しようとする値がデータ辞書の STATUS フィールドのデフォルト値ではないことを確認します。
- 最後に、[ステータス・リスト保守]画面からステータス値を削除します。

フィールド管理

概念

ExtraView のすべてのフィールドと動作の設計では、フィールド・エリア管理セクションが中心になります。データ辞書ではフィールドの保守を行い、新しくユーザ定義フィールドを定義し、すべてのフィールドの動作を制御します。

[セキュリティ権限の付与] 画面では、すべてのユーザ・ロール(役割)について、システム内のすべてのフィールドへのアクセス権をカスタマイズします。アクセス権としては、完全な読み取り/書き込みアクセス権、読み取り専用アクセス権、またはアクセス権なしを設定できます。

[許容値タイプ] では、フィールド間の親子関係を設定できます。ExtraView には固有のアーキテクチャがあります。新しく設定された関係は、データベースに新しいメタデータとしてのみ反映され、データベース自体には反映されません。これにより高度な柔軟性が得られ、データベースのスキーマや内部の動作についての知識がなくても、アプリケーションを大幅に変更できます。

フィールドを使用するには、多数のプロパティについて理解する必要があります。それらのプロパティについて、次の表で簡単に説明します。さらにこのセクションで詳細に説明します。

フィールドのプロパティ	説明
名前	システム内で使用されるフィールドの固定名。
タイトル	レポートや画面フォームに表示されるフィールドのタイトル。このタイトルはシステムの動作を中断することなく変更できます。
タイプ	フィールドが、事前定義フィールド、ユーザ定義フィールド、ラベル、画面、またはその他のフィールドのどれであるかを示すインジケータ。
表示タイプ	フィールドの外観や動作を設定するデータ・タイプ。表示タイプの例としては、テキスト、数字、チェックボックス、日付などがあります。
Alias Of	既存の別のリストまたはポップアップ・フィールドのエイリアスとして、リスト・フィールドを定義できます。
デフォルト値	新しく issue (案件、問題) が追加されたときにフィールドに入力されるデフォルト値。
URL リンク	フィールドを他のアプリケーションにリンクする、オプションの URL。
「URL として表示」フラグ	URL リンクのオン/オフを切り替えるスイッチ。
ヘルプ URL	フィールドのユーザ定義のヘルプ・ページにリンクする、オプションの URL。

フィールドのプロパティ	説明
ヘルプ・テキスト	ユーザのヘルプ用に使用されるツールチップ・ヘルプ。
「レポート上での選択を許可」フラグ	フィールドをレポートで選択できるかどうかを指定するスイッチ。
「フィルタ基準」フラグ	フィールドをクエリのフィルタとして使用できるようにするスイッチ。
「関係者リストを有効にする」フラグ	フィールドの関係者通知リストを有効にするスイッチ。
「ソート可能」フラグ	レポートの出力でそのフィールドによるソートができるかどうかを示すスイッチ。
「最後の値を記憶」フラグ	追加画面で使用された最後の値を、全ユーザ用にフィールドが記憶するかどうかを示すスイッチ。
「複数值」フラグ	表示タイプがリストであるフィールドで、複数の値を選択可能にするかどうかを示すフラグ。

表示タイプ

ExtraView の各フィールドには、事前定義フィールドかユーザ定義フィールドかにかかわらず、追加画面と編集画面の入力モードおよびレポート出力の両方で、フィールドの表示および動作を制御する表示タイプがあります。設定可能な表示タイプの範囲は次のとおりです。

ボタン

現時点では、表示タイプが「ボタン」の UDF を作成することはできません。これらの UDF がリストに含まれているのは、システム内で作成された、ラベルとして定義されるボタンで使用されるためです。事前定義の [View]、[Edit]、[History]、および [Delete] フィールドは、ボタン・タイプとして定義され、レポートから適切な機能にアクセスするために使用されます。

チェックボックス

これにより、画面上にチェックボックスが 1 つ作成されます。管理者はフィールドのタイトルを設定するほかに、ボックスのチェックの有無によってレポートに表示される値を選択できます。デフォルトでは、ボックスがチェックされている場合には Y が、チェックされていない場合には N が表示されます。これらの値は、Yes/No や On/Off など、その他のタイトルに変更できます。

カスタム

このフィールドでは、ExtraView のユーザ・カスタム・コードによってフィールドの内容と管理方法が指定されるため、新しいカスタム表示オブジェクトによって ExtraView の機能を拡張できます。フィールドのタイトルは、通常どおりオブジェクトのタイトルを使用して付けられます。コードを得るためのユーザ・カスタムに対するメソッド呼び出しは次のとおりです。

```
ucValue      =      Z.userCustom.ucRenderEmbeddedObject      (
                    dbconn,
                    session,
                    layoutType,
                    dde,
                    ddName,
                    selectedVals,
                    selectedVal,
                    multipleVals,
                    attributes,
                    prefix,
                    le,
                    row,
                    styleVal,
                    doHiddenInput) ;
```

これによって返される値 ucValue は文字列です。この表示タイプの詳細については、『User Custom Guide』を参照してください。ただし、この表示タイプを使用することで、ほとんどどのようなコードでもレイアウトに表示することができます。

日付

このフィールドでは、日付を入力して保存できます。日付フィールドでは、それぞれの追加フォームまたは編集フォームで、自動的にポップアップ・ボタンが設定されます。このボタンにより、カレンダーへのアクセスが可能になります。

日付は、ユーザのロケールに合わせて設定されます。例えばロケールが [US English] である場合、日付 1/5/05 は 2005 年 1 月 5 日と解釈され、ロケールが [GB English] である場合は、日付 1/5/05 は 2005 年 5 月 1 日と解釈されます。

日付はすべて時間コンポーネントと合わせて保存されます。ユーザのタイムゾーンが動作設定 DB_TIMEZONE に保存されているタイムゾーンと異なる場合は、ユーザが入力する時間と日付は、DB_TIMEZONE の対応する値に変換されて保存されます。同じユーザがその日付にアクセスして表示すると、そのユーザのタイムゾーンに変換されて再表示されます。ユーザのタイムゾーンが、日付と時間を入力したユーザのタイムゾーン、および DB_TIMEZONE と異なる場合、日付と時間はそれぞれのタイムゾーンに変換されて表示されます。

いずれかのユーザが日付フィールドを表示すると、日付はそのユーザ固有の日付形式で表示されます。

日数

日数フィールドは、日付表示タイプのフィールドとは動作が異なります。第 1 に時間コンポーネントがなく、画面またはレポートには日付だけが表示されます。

第 2 に、日付はユーザのローカルのタイム・ゾーンから DB_TIMEZONE に変換されません。日付は入力されると同時に保存され、タイムゾーンの種類にかかわらず、保存された値と同じ形式ですべてのユーザに表示されます。

ただし日付は、選択した日付形式で各ユーザに表示されます。

HTML エリア

この表示タイプでは、HTML エディタでテキストを入力および編集できます。現時点では、このフィールド・タイプを使用して HTML を表示できるのは Microsoft Internet Explorer ブラウザだけです。今後のバージョンでは他のブラウザもサポートされる予定です。使用しているブラウザが Microsoft Internet Explorer でない場合は、このフィールドはテキストとして表示されるため、HTML がソース形式で表示されます。

ラベル

ラベルは表示項目としてのみ使用されます。ラベルに対してデータを保存することはできません。通常、ラベルにはデータ辞書のデフォルト値フィールドの値が与えられ、画面に読み取り専用モードで表示されます。一部の事前定義ラベルは ExtraView 内部でも使用され、顧客インストールで「problem」などの用語を ExtraView で使用される用語に変換するための手段として使用されます。

リスト

値のリストです。リスト表示タイプのフィールドでは、管理画面の [リスト] セクションに入力されます。このセクションで、リスト項目の追加または削除ができます。リストは多くの場合許容値と合わせて使用され、データ入力モードで個々の項目の有無を制御します。同じ値のリストを 2 つ以上のフィールドに入力する場合は、[Alias Of] 機能を使用して 2 番目以降のフィールドを作成できます。値のリストは作成した最初のフィールドに保存され、ExtraView ではエイリアス・リストが自動的に最新に維持されます。これによって手間が省かれるとともに、同一のリストどうしを常に一致させることができます。同時に、各フィールドについて、個別の許容値のエントリを定義できます。

ログ・エリア

このフィールドは、フィールドに対する連続的なテキスト・エントリのログとして機能します。PR_RESOLUTION.EDIT_LOGAREA_FIELDS というセキュリティ許可キーに対するアクセス権がないユーザは、以前のエントリの編集または削除はできず、エントリの追加だけが可能です。各エントリについては、ユーザ名とタイムスタンプが表示されます。ログ・エリア・フィールドには、最大 32k のテキストを入力できます。フィールドを更新できる場合は、テキスト・エリアを拡大および縮小するためのボタンが 2 つ、フィールドの横に表示されます。[Administration] の [表示の設定] エリアに、LOG_AREA_DISPLAY_CHARS という動作設定があります。この動作設定は、編集画面に表示される古いエントリのサイズを短縮するために使用されます。このフィールドを短縮すると、最後に「詳細…」が表示され、これをクリックすると画面にエントリ全体が表示されます。ログ・エリア・フィールドは、リピーティング・レコードのレイアウトに配置することはできません。

注: ユーザがセキュリティ許可キー PR_RESOLUTION.ASSIGNED_TO に対する読み取り許可を持たない場合は、ログ・エリアへの入力を行ったユーザ名を見ることはできません。これは、顧客またはゲストに、入力したユーザを知らせずにコメントを参照させる場合に便利です。

数字

これは数字の入力と保存だけが可能なフィールドです。数字には小数点を使用できませんが、他の形式を使用することはできません。NUMBER データ・タイプに使用される内部データ・タイプは double で、精度は十進数でおおよそ 16 桁 (0 から 9007199254740992)まで許容されます。これより大きい数値を入力すると、精度と正確さが失われることになります。

ポップアップ

リスト表示タイプと同様ですが、別に可能な値のリストのポップアップ・ウィンドウが開きます。ユーザはエントリをフィールドに直接入力するか、またはポップアップ・ウィンドウのリストから値を選択します。ポップアップ・ボックスは検索が容易であるため、このフィールドは、リストの項目数が多い場合 (エントリ数が 100 を超える場合など) に便利です。動作設定 POPUP_LIST_SIZE で定義された項目数よりもリストのエントリ数が多い場合は、ポップアップ・リストに検索ボックスとデータ・エントリの最初の文字のリスト (通常は A ~ Z) が表示され、リストの検索を容易に行うことができます。表示タイプがリストであるフィールドと同様に、マスター・リストのエイリアスとしてポップアップ・リスト・フィールドを作成して、メンテナンスの必要を軽減できます。

出力テキスト

テキスト・エリア・タイプのフィールドと似ていますが、フィールドの表示に固定幅フォントが使用されます。このタイプは、フィールドに +-----+ などの文字で描かれた図が頻繁に入力され、図中の正確な間隔を保持したい場合に使用できます。出力テキスト・フィールドには一度に最大 32k のテキストを入力できます。編集モードの場合には、テキスト入力エリアを拡大または縮小できるボタンが 2 つ、フィールドの横に表示されます。出力テキストのテキスト出力フィールドによるレポートでは、データ内のスペースや改行を含め、フィールドを作成したときのスペースが正確に保持されます。入力された状態が保持されることで、詳細レポートなどのレポートが表示される幅が通常より広がる場合があります。

タブ

このフィールドは表示タイプ・リストと同様に機能しますが、値のリストがタブのセットとして画面全体に表示されます。通常このフィールドは、選択したタブによってその後表示されるフィールドが変わる場合など、画面上で高度な選択を可能にするために使用されます。この表示タイプは、表示されるリストに画面内に収まらないほどのエントリ数がある場合は使用できません。

テキスト・フィールド

これは単一行のテキスト・フィールドです。テキスト・フィールドには最大 255 文字まで入力できます。テキスト・フィールドが使用される各レイアウト内でデータを入力するテキスト・ボックスの幅は、レイアウト・セル属性 [Size] を使用して調節できます。

テキスト・エリア

これは複数行のテキスト・フィールドです。テキスト・エリア・フィールドには、最大 32k のテキストを入力できます。フィールドが編集モードである場合は、テキスト入力エリアを拡大または縮小するためのボタンが 2 つ、フィールドの横に表示されます。テキスト・エリア・フィールドにはタブ文字を入力することはできません。

ユーザ

ユーザ・フィールドには、事前定義フィールドの *[担当者]*、*[作成者]*、*[所有者]*、*[連絡先]* があります。これらのフィールドが表示されるユーザ・リストには、動作設定の USERNAME_DISPLAY プロパティに従い、*名*、*姓*、またはユーザ ID が表示されます。

ユーザ定義フィールドは、ユーザ表示タイプで定義できます。これにより、システム内で有効なユーザのリストが作成されます。

ユーザ定義フィールド(UDF)

ユーザ定義フィールド(UDF)は、出荷時の製品には含まれていない、ExtraView のインストールに独自に設定されるフィールドです。ニーズに合わせてサイトをカスタマイズし、特定の適切なフィールドを設定したい場合に、UDF を利用できます。これは非常に効率的で拡張性が高いメカニズムです。UDF は制限なく作成することができます。UDF は、データ辞書で作成および保持されます ([ADMIN] メニューの [フィールド] タブの [データ辞書] を参照)。

UDF は、*テキスト*、*数字*、または *日付* など、多数の表示タイプのいずれかを使用して入力します。さらに、*リスト・タイプ* の UDF には同時に複数の値を入力して、値をリスト全体の個別のメンバーとすることができます。

ExtraView では、*[description]*、*[comments]*、*[email_address]* という 3 つの UDF が事前設定されています。*[description]* UDF は、*テキスト・エリア・タイプ* のフィールドです。*[comments]* フィールドは *ログ・エリア・タイプ* のフィールドです。*[email_address]* は *テキスト・フィールド* です。

UDF の名前はインストール内で固有でなければならず、データ辞書に保存されている他の名前と競合しないようにする必要があります。UDF の名前では、A ~ Z、0 ~ 9、*「_」*、*「.」* 以外の文字は使用できません。最初の文字はアルファベットにする必要があり、最大 30 文字まで使用できます。

さらに、UDF 名として使用できない除外用語があります。除外用語は、*ACTION*、*CALLED_FROM*、*CHILD*、*CUSTOM_URL*、*FROM_ACTION*、*FROM_OPTION*、*LAYOUT_SESSION_TAG*、*NEW_REPORT*、*OPTION*、*PAGE_LENGTH*、*PAGE_SIZE*、*PARENT*、*RECORD_COUNT*、*RECORD_START*、*REPORT_DESC*、*REPORT_ID*、*REPORT_OWNER*、*REPORT_TITLE*、*SEARCH_ATTACH_SIZE*、*SELECTED*、*SELECTEDSO*、*SHOW_EXPANDED*、*SOURCE*、*SOURCESO*、*TEMPLATE_EXPANDED*、*UDF* です。

UDF の作成および使用

このプロセスには 3 つの手順があり、作成する新しいユーザ定義フィールドそれぞれについて実行する必要があります。

1. データ辞書で UDF を作成します ([フィールド] メニュー)。
2. フィールドに各ユーザ・ロールに対する適切な許可が設定されるように、セキュリティ・キー許可を設定します ([フィールド] メニュー)。
3. 適切な画面とレポート・レイアウトに UDF を配置します ([レイアウトおよび表示] メニュー)。

データ辞書 アカウント: Bill Smith | ロール: Administrator | ビジネスエリア および プロジェクト: 不具合 および Data | 関係者リスト

事前定義フィールド ラベル 画面 セッション変数 特殊変数 UDF

Add データベースに新しいフィールドを追加

	固定データベース名	表示するタイトル	ヘルプのヒント	作成	最終更新日
Edit	COMMENTS	コメント	このissueに関するコメントです。これ以前のコメントを編集することはできません。	2003/10/01 ExtraView	2005/01/24 toyo
Edit	CSR_CUST_CONTACT	問い合わせ元	このissueについて問い合わせた人です。	2003/10/01 ExtraView	2005/01/24 toyo
Edit	CSR_CUST_CONTACT_EMAIL	メールアドレス	顧客の連絡先メールアドレスです。	2003/10/01 ExtraView	2005/01/24 toyo
Edit	CSR_CUST_CONTACT_PHONE	電話番号	連絡先の電話番号です。	2003/10/01 ExtraView	2005/01/24 toyo
Edit List	CSR_CUST_SEVERITY	顧客重要度		2003/10/01 ExtraView	2005/01/19 toyo
Edit List	CUSTOMER	顧客名		2003/10/01 ExtraView	2005/01/19 toyo

ユーザ定義フィールド画面

ユーザ定義フィールドの追加

1. [Administration] メニューから [フィールド] タブを選択し、[データ辞書] ボタンをクリックします。
2. 新しく UDF を追加するには、[Add] ボタンをクリックします。次の画面が表示されたら、必要な値を入力します。
3. 画面上のフォームに入力したら、[更新] ボタンをクリックします。

フィールド所属先

固定データベース名

表示するタイトル

タイプを表示

Alias of

レポート上での選択を許可 はい いいえ

最後の値を記憶 はい いいえ

関係者リストを有効にする はい いいえ

複数値 はい いいえ

フィルタ基準 はい いいえ

ソート可能です。 はい いいえ

URL として表示 はい いいえ

URL

ヘルプ・テキスト

ヘルプ URL

ユーザ定義フィールド追加画面

データ辞書フィールドのプロパティ

フィールド所属先

[フィールド所属先] プロンプトに対して UDF が関連付けられるレコード・タイプを入力します。この場合、2つの選択肢があります。

Issue レコード – UDF が、データベース内の各 issue のメイン・レコードに関連付けられることを示します。

リピーティング・レコード – UDF が、メインの issue に追加される各リピーティング行に関連付けられることを示します。リピーティング行では issue と多対一の関係が保持されるため、作成する UDF は、メインの issue に追加される各リピーティング行レコードで使用できます。

名前

フィールドの決められたデータベース名です。このフィールドは必須です。名前の長さは 1 ~ 30 文字とし、次の文字以外は使用できません。

A ~ Z 0 ~ 9 _ .

タイトル

タイトルは画面やレポートに表示されます。タイトルの長さは 1 ~ 100 文字とします。このフィールドは必須です。どのような文字でも使用できます。複数のロケールが有効になっている場合、このフィールドは任意の有効な言語に変換されます。

表示タイプ

有効な表示タイプについては、このガイドの前のセクションで説明しています。

Alias Of

別のフィールドのエイリアスになることができるフィールドは、表示タイプがリスト、ポップアップ、またはタブであるフィールドに限定されています。この設定でフィールドを作成すると、フィールドの値のリストは維持されませんが、選択リストのエイリアスで選択するフィールドの値のリストを使用して、フィールドが作成されます。これは、元のリストを 1 つの場所に置いたまま、そのリストと同じ値のリストを持つ複数のフィールドを作成する場合に、便利な方法です。例えば、製品リリースのリストを作成して、[検出リリース] と [Release Fixed] の 2 つのフォームで使用する場合などです。1 つの場所でこれらのフィールドを管理しながら、両方のフィールドを 1 つの編集画面に配置して、各フィールドを個別に更新することができます。

別のフィールドのエイリアスであるフィールドは、独自の許容値リストで管理できます。これにより、ベースとなる 1 つのリストからさまざまなリストを作成して、各エイリアス・リストをマスター・リストのサブセットにすることができます。

レポート上での選択を許可

レポートで使用できないフィールドを指定することができます。例えば、特定のインストレーションで使用できないフィールドを指定して、それらのフィールドを非表示にすること

で、ユーザは有効なフィールドをより簡単かつ明確に選択できるようになります。またデータ辞書には画像、ボタン、画面など、レポートでの選択に適さないフィールドが多数あるため、この設定が有益です。

最後の値を記憶

このオプションを設定すると、[Issueを追加] および [検索] 画面で個々のユーザが入力または選択した最後の値が記憶されます。これにより、頻繁に変更されない値を記憶することができます。例えばこれにより、多数のユーザが同じ製品を長期間使用することができます。

複数值

UDF で複数の値を入力するには、表示タイプ LIST を使用する必要があります。UDF で複数の値を入力できるようにすると、ユーザは有効なエン트리として、任意の数の項目をリストから選択できます。例えば、issue に記録されるであろう OS のリストを設定するとします。issue が一部の OS だけに含まれるようにするには、該当するエントリをリストから選択します。ただし、複数の値に対応する UDF は ExtraView の別のフィールドの親になることはできません。また、フィールド上で [URL として表示] オプションを使用できないようにする必要があります。複数の値を持つフィールドには次のような制限があります。

- 複数の値を持つ UDF は ExtraView の別のフィールドの親になることはできません。
- 複数の値を持つフィールドでは、[URL として表示] オプションを使用できないようにする必要があります。
- 複数の値を持つフィールドは、この時点ではリピーティング行レコードではサポートされていません。

フィルタ基準

このオプションにより、フィールドがクエリ・フィルタ・レイアウトで検索基準として選択可能になります。この項目にチェックを入れた場合のみ、フィールドをフィルタ画面レイアウトに配置して、クイック検索、列レポート、サマリ・レポート、グラフが可能になります。

関係者リストを有効にする

データ辞書項目内のこのフラグにより、フィールドの特定の値についての関係者リストの通知が可能になります。例えば、**重要度レベル**が *critical* である issue に基づく関係者リストを作成する場合があります。重要度レベルに基づく関係者リストを有効にすると、管理者は重要度レベル関係者リストの *critical* のリスト項目を編集して、関係者リスト内のユーザ名リストを保守できます。

ソート可能

このオプションを Yes に設定すると、レポート作成画面でフィールドがソート順リストに表示されます。次のような表示タイプの一般的なフィールドに、ソート可能/不可のフラグを付ける必要があります。

ソート可能	ソート不可
チェックボックス	ボタン
日付	カスタム
日数	HTML エリア
リスト	ラベル
数字	ログ・エリア
ポップアップ	出力テキスト
タブ	テキスト・フィールド
ユーザ	テキスト・エリア

URL として表示

このオプションは、どの UDF の場合にも必須ではありません。フィールドに関連する名前または値を、作成する URL の一部として使用できます。これにより、フォームのフィールド値を任意のリモート・アプリケーション(または URL でアクセス可能な事前定義の ExtraView 機能)にリンクして、フォームの値を使用して別のアプリケーションにパラメータとして渡すことが可能です。

- URL へのリンクを設定してフィールドを有効にするには、[URL として表示] ラジオ・ボタンを Yes に設定します。
- [URL として表示] ラジオ・ボタンの下のフィールドに、適切な URL を入力します。
- 定義するデータ辞書フィールドから、またはフォームの他のフィールドから値を渡すことができます。パラメータとして渡すことができる値のフォームには、次のものがあります。

パラメータ	説明
\$\$VALUE\$\$	フィールドの現在の値をリクエストのパラメータとして渡します。
\$\$DDNAME.VALUE\$\$	<i>DDNAME</i> フィールドの現在の値をリクエストのパラメータとして渡します。
\$\$DDNAME.NAME\$\$	<i>DDNAME</i> フィールドの項目名を、データベースに保存されるパラメータとして渡します。例えば、 STATUS というフィールドに FIXED と名前が付けられ、値が Fixed の場合は、\$\$STATUS.NAME\$\$ はパラメータとして FIXED を渡します。
\$\$DDNAME.TITLE\$\$	<i>DDNAME</i> フィールドの項目のタイトルを、データベースに保存されるパラメータとして渡します。例えば、 STATUS というフィールドに FIXED と名前が付けられ、値が Fixed の場合は、\$\$STATUS.TITLE\$\$ はパラメータとして Fixed を渡します。これは \$\$DDNAME.VALUE\$\$ パラメータと同等です。

- d. エントリ末尾の \$\$ は任意です。
- e. 実行中の ExtraView のインスタンスに現在のパスを含めるには、タグ `$$APP_HOME$$` を使用します。
- f. DDNAME がデータ辞書の特殊変数 (SYSDATE など) である場合、渡される値は特殊変数の値です。
- g. DDNAME がデータ辞書のセッション変数 (USER など) である場合、渡される値はセッション変数の値です。
- h. ExtraView のその他の機能を呼び出して、適切な動作を実行することができます。例えば、検索機能を使用し、クイックリスト・レポートに結果を表示するリンクをフィールドに設定できます。

例 1 – リモート・アプリケーションにパラメータとして値を渡します。

```
http://search.yahoo.com/search?p=$$VALUE$$
```

これによりフィールドの現在の値が Yahoo に渡され、値の検索が実行されます。検索結果は新しいウィンドウに表示されます。

例 2 – ユーザの詳細を示すウィンドウが表示されます。

```
$$APP_HOME$$ExtraView?p_action=showUserDetails&
p_option=admin.UserAccountsDisplay&p_user_id=$$NAME$$
```

これにより、ユーザの詳細について、ExtraView のポップアップ表示が参照されます。この URL は、ユーザ表示タイプ・フィールドと合わせて使用します。

例 3 – キーワードで検索を行い、結果をクイックリストで表示します。

```
?p_action=doRunQuicklist&p_option=search.SearchDisplay
&searchword=$$VALUE&product_name=$$PRODUCT_NAME
&assigned_to=$$ASSIGNED_TO
```

この例は、searchword フィールドの URL に置かれます。これにより、表示フィールド searchword の値と [product_name] および [assigned_to] フィールドの現在の値を使用して、ExtraView の検索クラスにアクセスすることで、クイックリスト・レポートが作成されます。

デフォルト値

フィールドのデフォルト値を入力すると、新しい issue を追加したときに、指定した値が自動的に選択されます。フィールドに設定した最後の値が記憶されている場合は、デフォルト値に優先してその最後の値が使用されます。

デフォルト値は、レイアウト上でフィールドが表示されているかどうかにかかわらず、レコード内のフィールドの入力に使用されます。これには、次の例に示すように非常に重要な利点があります。カスタマー・ユーザ・ロールの [Issueを追加] レイアウトを作成し、レイアウトにステータス・フィールドが表示されていない場合でも、カスタマーがサブミットした issue に対して自動的にステータス *unassigned* が与えられるようにするには、デフォルト値を使用します。カスタマーが使用する [Issueを追加] レイアウトにはステータス・フ

フィールドを設定しないか、または顧客がフィールドでの読み取りまたは書き込みができないように、ステータス・フィールドのセキュリティ・キーを設定します。

注: 表示タイプが[チェックボックス]、[リスト]、[ポップアップ]、[タブ]、[ユーザ]であるフィールドのデフォルト値は **デフォルトを選択** ボタンを使用して入力する必要があります。これらのフィールドのボックスにテキストを入力しても機能しません。その理由は、ExtraView が表示される値だけではなくこれらのフィールドの内部 IDを知る必要があるからです。[テキスト]など、上記以外の表示タイプの場合は、直接テキストを入力することができます。

A screenshot of a configuration form. At the top, there are two radio buttons labeled 'Yes' and 'No'. Below them are three input fields: 'URL', 'Default value', and 'Help text'. The 'Default value' field has a 'Select default' button to its right. A red arrow points to this button. At the bottom right, there is a 'Localize' button. The 'Help text' field contains the text 'The list of customers'.

デフォルト値の入力

ヘルプ・テキスト

このフィールドに入力することで、フィールドの横にあるラベルの上にマウスを置くと表示される、ツール・チップ・メッセージを設定できます。ツール・チップには、最大 500 文字まで指定できます。

ヘルプ URL

ヘルプ URL は、作成したオンライン・ヘルプ・システムのブックマークまたはページにリンクすることができます。お客様の ExtraView が ExtraView Corporation によってホストされている場合、この URL を当社のサーバに設定する必要はありません。これらのファイルは、インターネット上の任意の場所に保存してアクセスできます。

注: UDF(またはその他のフィールド)を上記のように作成した場合は、ユーザの画面上にはまだ表示されません。表示するには、さらに 2 つの手順を実行する必要があります。フィールドを作成したら、[セキュリティ権限の付与] 画面で適切なユーザ・ロールでフィールドを表示可能にし、目的の場所にあるすべての画面およびレポート・レイアウトに、新しいフィールドを配置する必要があります。

注: UDF の表示タイプがリストまたはタブである場合は、管理画面の [リスト] タブにエントリが表示され、リストに表示される項目を追加および編集できます。

既存のユーザ定義フィールドの編集

データ辞書の [UDF] タブで、変更する UDF の横にある [Edit] アイコンをクリックします。次のような画面が表示されます。

[データ辞書 エントリを変更] 画面

必要な変更を行い、[更新] ボタンをクリックします。

データ辞書

データ辞書 は、すべてのフィールド定義が一括して格納され保持される場所です。データベース定義、ラベル(メタデータを含まないフィールドの画面名)、UDF(ユーザ定義フィールド)などが定義されます。データ辞書は、[フィールド] 管理メニューにあります。

データ辞書の情報を変更するには、多くの場合 ExtraView スキーマの知識が必要になります。詳細については、ExtraView Corporation にお問い合わせください。

[データ辞書] 画面のタブ

事前定義フィールド

事前定義フィールドは、ExtraView の基本製品の一部として用意されているフィールドです。管理者はこのセクションでフィールドを追加または削除する必要はありません。ただし、事前定義フィールドのタイトルなどの属性はここで変更できます。

ラベル

このセクションでは、データベース・フィールドではないフィールド画面の要素を定義または変更できます。この場合も、管理者がこのセクションからフィールドを削除することはほとんどありません。またラベルはユーザ定義フィールドとしても追加できるため、管理者がデータ辞書のこのセクションにフィールドを新しく追加することは稀です。

画面

これらのキーは、ExtraView の事前定義画面で使用されます。このエリアには、画面表示を変更できるいくつかのサポート・フィールドがあります。管理者は、このセクションからエントリを追加または削除する必要はありませんが、インストール内の個々の画面の名前を変更することができます。

セッション変数

このエリアのキーは、ユーザの現在の有効な ExtraView セッションのオプションに関連しています。

特殊変数

一般にこれらのキーは、内部のデータ/タイム・スタンプ機能などの計算機能を管理するために使用します。

UDF

このエリアでは、主に管理者が ExtraView の拡張や変更を行います。ここでは新しいフィールドの定義や保守を行うことができます。インストールは、システムの内部構成の一部として作成される、少数のユーザ定義フィールドから開始します。

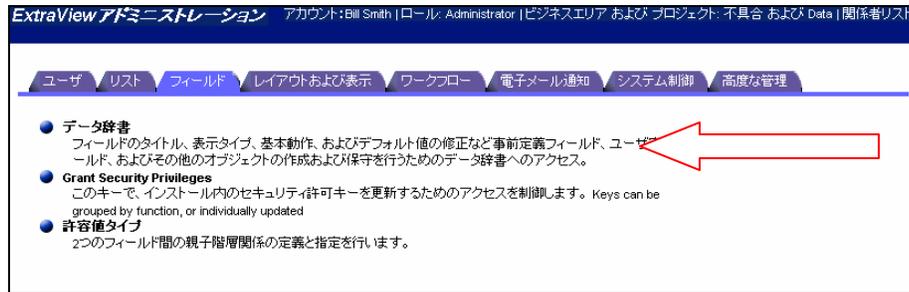
データ辞書の主な使用方法

ExtraView のこのコア・コンポーネントでは、各フィールドの次のような多数の属性が制御されます。

- 各フィールドの表示タイプ
- 各フィールドの表示タイトル。すべての画面ラベルで使用されるタイトルは、各フィールドで任意に変更できます。
- レポートでフィールドが選択可能かどうか
- フィールドがリストの場合に、入力に使用する SQL
- フィールドの依存関係の設定
- デフォルト値
- ヘルプ・テキスト

データ辞書項目の編集

(a) [Administration] メニューで、[フィールド] をクリックします。



[ExtraView アドミニストレーション] 画面

(b) [データ辞書] メニューのエントリをクリックします。

次のような画面が表示されます。

The screenshot shows the 'Data Dictionary' (データ辞書) screen with a table of fields. The table has columns for 'Fixed Database Name' (固定データベース名), 'Display Title' (表示するタイトル), 'Help Hint' (ヘルプのヒント), 'Created' (作成), and 'Last Updated' (最終更新日). Each row has an 'Edit' button.

	固定データベース名	表示するタイトル	ヘルプのヒント	作成	最終更新日
Edit	COMMENTS	コメント	このissueに関するコメントです。これ以前のコメントを編集することできません。	2003/1/01 ExtraView	2005/01/24 toyo
Edit	CSR_CUST_CONTACT	問い合わせ元	このissueについて問い合わせた人です。	2003/1/01 ExtraView	2005/01/24 toyo
Edit	CSR_CUST_CONTACT_EMAIL	メールアドレス	顧客の連絡先メールアドレスです。	2003/1/01 ExtraView	2005/01/24 toyo
Edit	CSR_CUST_CONTACT_PHONE	電話番号	連絡先の電話番号です。	2003/1/01 ExtraView	2005/01/24 toyo
Edit List	CSR_CUST_SEVERITY	顧客重要度		2003/1/01 ExtraView	2005/01/19 toyo
Edit List	CUSTOMER	顧客名		2003/1/01 ExtraView	2005/01/19 toyo
Edit	CUSTOMER_COMMENTS	顧客コメント		2003/1/01 ExtraView	2005/01/19 toyo
Edit	DESCRIPTION	説明	このissueについての記述です。	2003/1/01 ExtraView	2005/04/10 toyo

[データ辞書] 画面

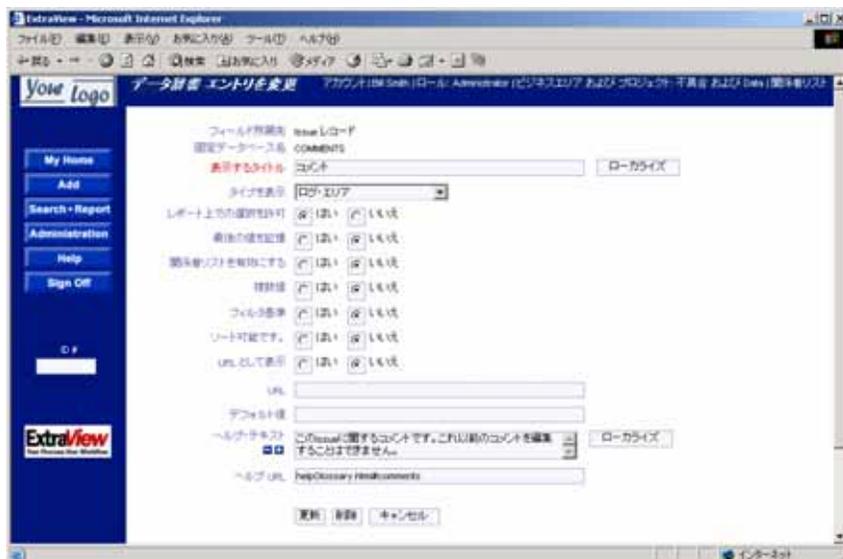
変更する項目の横の [Edit] ボタンをクリックします。編集画面で [更新] をクリックすると、変更が保存されます。

次の画面例のように、この画面で多数の異なる機能の追加または変更を行うことができます。

注: ADMIN ユーザ ID でサインオンしていない限り、このスクリーン・ショットに示すすべてのフィールドが表示されるわけではありません。これらのフィールドの多くは変更する必要がほとんどなく、不用意に変更されるのを防ぐためです。

フィールド所属先	Issue レコード
固定データベース名	CATEGORY
表示するタイトル	カテゴリ ローカライズ
データ・テーブル名	ITEM
データ列名	CATEGORY
参照テーブル	CATEGORY
参照キー	NAME
リスト参照テーブル	CATEGORY
リスト参照キー	NAME
最初の参照列	TITLE ▼
2 番目の参照列	▼
3 番目の参照列	▼
参照 ID 列	CATEGORY_ID ▼
親テーブル	
親キー	
子キー	ITEM_ID
タイプを表示	リスト ▼
レポート上での選択を許可	<input checked="" type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ
最後の値を記憶	<input type="radio"/> はい <input checked="" type="radio"/> いいえ
関係者リストを有効にする	<input checked="" type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ
フィルタ基準	<input checked="" type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ
ソート可能です。	<input checked="" type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ
URL として表示	<input type="radio"/> はい <input checked="" type="radio"/> いいえ
URL	
デフォルト値	デフォルトを選択
プライマリ SQL	select category.name, category.title, category.title_map_key from category ▼
依存 SQL	▼
最初の親フィールド名	
最初の親 SQL	▼
2 番目の親フィールド名	
2 番目の親 SQL	▼
SQL による注文	order by CATEGORY.sort_seq, CATEGORY.title ▼
ヘルプ・テキスト	The category of the issue ローカライズ
ヘルプ URL	helpGlossary.html#category
<input type="button" value="更新"/> <input type="button" value="削除"/> <input type="button" value="キャンセル"/>	

データ辞書項目の編集画面 - 事前定義フィールド



データ辞書項目の編集画面 - ユーザ定義フィールド

フィールド名	ADMIN の場合のみ表示	説明
[フィールド所属先]		<p>値は [Issue レコード] または [リピーティング・レコード] になります。この値により、フィールドがメインの issue レコードまたはリピーティング・レコードのどちらに属するかが決定されます。レコードがリピーティング・レコード・フィールドの親である場合、リピーティング・レコードはレコードの階層構造に属します。</p> <p>項目タイプが issue レコードの UDF を作成すると、フィールドはメインの issue に属し、任意のエリアおよびプロジェクトの issue レコードの一部として、レイアウトに配置できます。UDF の項目タイプがリピーティング・レコードである場合は、フィールドはリリース・レイアウト (RELEASE.LAYOUT) などのレイアウトで使用されません。新しいリリース行が issue に追加されると、追加された行に RELEASE タイプが自動的に入力されます。</p>
[固定データベース名]		<p>ExtraView データベース内のフィールドの固定名。一度作成すると、フィールドのデータベース名を変更することはできません。データベース名には、A ~ Z、0 ~ 9、「_」、「.」以外の文字は使用できません。最初の文字はアルファベットにする必要があり、最大 30 文字まで使用できます。</p>
[表示するタイトル]		<p>ExtraView システム内のフィールドの画面タイトル。フィールドにタイトルを入力して更新します。フィールド名は、ExtraView のすべての画面とレポートで直ちに更新されます。画面タイトルの長さは、最大 40 文字までとします。</p> <p>タイトルには、フォーマット用に HTML を使用することができます。ただし、API または CLI を通じてフィールドにアクセスすると、HTML はその後で出力に渡されません。</p>

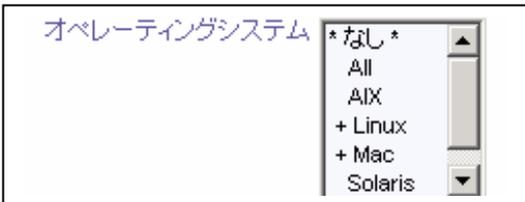
フィールド名	ADMIN の 場合のみ 表示	説明
[データ・テーブル名]	✓	データ辞書の要素が置かれるデータベース・テーブル名。既存のフィールドについて、このデータを変更する理由はありません。またこの情報は、ExtraView によってユーザ定義フィールドに自動的に与えられます。ExtraView の事前定義フィールドが保存されるデータベース・テーブルは、ITEM と呼ばれます。
[データ列名]	✓	このデータ辞書の要素が保存される場所に関連する列名。この列名は、上記のデータ・テーブルに保存されます。既存のフィールドについて、このデータを変更する理由はありません。通常これは、ITEM テーブルの列名です。
[参照テーブル]	✓	<p>通常、ExtraView 内の情報はデータ・テーブルに固定名で保存されます。これはユーザにとって必ずしも意味のある情報ではありません。参照 テーブルは、エンド・ユーザが情報のアクセスに使用するテーブルです。例えば、データ・テーブルの主要な値が ID である場合には、参照テーブルでは姓と名などその他の情報が得られます。</p> <p>例:[assigned_to] フィールドの参照テーブルは、[security_user] というデータ・テーブルです。</p> <p>例:[priority] フィールドの参照テーブルは、[priority] というデータ・テーブルです。</p> <p>ExtraView 以外のデータ・テーブルに、値のリストを検索するデータ・ソースとしてアクセスし、ExtraView のリスト・ボックスにデータ検証の目的で入力することができます。この強力な機能により、管理者は同じデータベース・テクノロジーを使用してテーブルを直接読み込み、ExtraView と他のシステムを統合できます。ただしその際は、許容値が外部テーブルには適用されないことに注意してください。</p>
[参照キー]	✓	<p>このキーは、参照 テーブルのプライマリ・キーです。許容値を設定する場合は、参照キーと最初の参照列を設定する必要があります。ほとんどの ExtraView テーブルで、これらは通常 NAME と TITLE のペアになります。これにより、固定されたデータベース名ではなく、ユーザが理解可能な有意の情報が許容値のリストに入力されます。</p> <p>例:security_user データ・テーブルの参照キーは、security_user_id という名前です。</p> <p>例:priority データ・テーブルの参照キーは、name という名前です。</p>
[最初の参照列]	✓	<p>参照テーブルから返される最初の項目です。参照の結果として、最大 3 つの参照値が返されます。</p> <p>例:[assigned_to] フィールドの最初の参照列は [first_name] です。</p> <p>例:[priority] フィールドの最初の参照列は [title] です。</p>

フィールド名	ADMIN の 場合のみ 表示	説明
[2 番目の参照 列]	✓	参照テーブルから返される 2 番目の項目 (ある場合) です。 例:[assigned_to] フィールドの 2 番目の参照列は [last_name] です。
[3 番目の参照 列]	✓	参照テーブルから返される 3 番目の項目 (ある場合) です。 例:[assigned_to] フィールドの 3 番目の参照列は [email] です。
[親テーブル]	✓	このデータ辞書項目の親テーブルです。ExtraView では、ITEM テーブルがほとんどのフィールドの親になります。この親テーブル・フィールドは、データ・テーブル名が ITEM でない場合のみ入力されます。入力された場合は、そのデータ辞書項目が ITEM テーブルに含まれず、別のテーブルから読み込まれることを示します。
[親キー]	✓	親テーブルのキーです。ほとんどのフィールドで、このキーは ID フィールドになります。このフィールドも、値がデフォルト値と異なる場合のみ入力されます。
[子キー]	✓	データ・テーブルの外部キーです。これにより、親とデータ・テーブルとの関係が明示的に定義されます。依存関係にあるフィールドの設定、およびデータ・エントリとデータ更新画面における画面の更新に使用されます。この関係はオプションです。

フィールド名	ADMIN の 場合のみ 表示	説明
[表示タイプ]		<p>a. ボタン。ExtraView で使用されるデータ辞書のラベルをサポートします。この時点で、ボタンタイプのデータ辞書項目を作成することはできません。</p> <p>b. チェックボックス。これにより、画面上にチェックボックスが 1 つ作成されます。管理者はフィールドのタイトルを設定するほかに、ボックスのチェックの有無によってレポートに表示される値を選択できます。デフォルトでは、ボックスがチェックされている場合には Y が、チェックされていない場合には N が表示されますが、これらは他のタイトルに変更できます。</p> <p>c. カスタム。この表示タイプにより、管理者はユーザ・カスタム・コードから直接フィールドに入力できます。</p> <p>このフィールド表示タイプは、高度な使用方法のみに対応するもので、すべてカスタム・コードを使用して内容が表示されます。これは ExtraView に新しいフィールド・タイプを設定できる、強力なメカニズムです。</p> <p>コードでは、EmbeddedObject というデータ・タイプが使用されます。ExtraView でこのタイプのフィールドが作成されると、getEmbeddedObject という UserCustom メソッドが EmbeddedObjectType.renderR から呼び出され、内容が入力されます。このメソッドにより文字列が返されます。パラメータは dbconn、session、selectedVals、ddName、および attributes です。</p> <p>詳細については、『User Custom Guide』を参照してください。</p> <p>d. 日付。このフィールドでは、日付を入力して保存できます。</p> <p>e. HTML エリア。この表示タイプでは、HTML エディタでテキストを入力および編集できます。現時点では、このフィールド・タイプを使用して HTML を表示できるのは Microsoft Internet Explorer ブラウザだけです。今後のバージョンでは他のブラウザもサポートされる予定です。使用しているブラウザが Microsoft Internet Explorer でない場合は、このフィールドはテキストとして表示されるため、HTML がソース形式で表示されます。</p> <p>この表示タイプを使用してフィールドの入力または更新を行うと、メニュー・バーからワード・プロセッサのようなフォーマットを選択できます。表示タイプが HTML エリアであるフィールドを出力するレポートを作成すると、HTML は通常のブラウザと同様の形式で表示されます。このタイプのフィールドは、追加画面または編集画面に 1 つだけ配置できます。ExtraView 全体の HTML エリアの行の高さは、動作設定 HTMLAREA_ROW_HEIGHT で設定できます。</p> <p>f. ラベル。単純な形式のラベルです。ラベルに対してデータは保存されません。</p> <p>g. リスト。値のリストです。リスト表示タイプのフィールドでは、管理画面の [Field List Maintenance] セクションに入力されます。このセクションで、リスト項目の追加または削除ができます。</p> <p>h. ログ・エリア。このフィールドは、フィールドに対する連続的なテキスト・エントリのログとして機能します。PR_RESOLUTION.EDIT_LOGAREA_FIELDS というセキュリティ許可キーに対するアクセス権がないユーザは、以前のエントリの編集または削除はできず、エントリの追加だけが可能です。各エントリについては、ユーザ名とタイムスタンプが表示されます。ログ・エリア・フィールドには、最大 32k のテキストを入力できます。フィールドを更新できる場合は、テキスト・エリアを拡大および縮小するためのボタンが 2 つ、フィールドの横に表示されます。[Administration] の [表示の設定] エリアに、LOG_AREA_DISPLAY_CHARS という動作設定があります。この動作設定は、編集画面に表示される古いエントリのサイズを短縮するために使用されます。このフィールドを短縮すると、最後に「詳細…」が表示され、これをクリックすると画面にエントリ全体が表示されます。ログ・エリア・フィールドは、リピーティング・レコードのレイアウトではサポートされていません。</p> <p>注:ユーザがセキュリティ許可キー PR_RESOLUTION.ASSIGNED_TO に対する読み取り許可を持たない場合は、ログ・エリアへの入力を行ったユーザ名を見ることはできません。これは、顧客またはゲストに、入力したユーザを知らせずにコメントを参照させる場合に便利です。</p>

フィールド名	ADMIN の場合のみ表示 説明
	<p>i. 数字。これは数字の入力と保存だけが可能なフィールドです。数字には小数点を使用できますが、他の形式を使用することはできません。</p> <p>j. ポップアップ・リスト表示タイプと同様ですが、可能な値のリストのウィンドウが別々に開きます。ユーザがリストから選択すると、ウィンドウが閉じて、選択した値がこのフィールドに入力されます。ポップアップ・ボックスは検索が容易であるため、このフィールドは、リストの項目数が多い場合(エントリ数が 100 を超える場合など)に便利です。例えば、権限のあるユーザのリストに使用できます。</p> <p>k. 出力テキスト・テキスト・エリア・タイプのフィールドと似ていますが、フィールドの表示に固定幅フォントが使用されます。このタイプは、フィールドに +----+----+ などの文字で描かれた図が頻繁に入力され、図中の正確な間隔を保持したい場合に使用できます。出力テキストフィールドには、一度に最大 32k のテキストを入力できます。フィールドを更新できる場合は、テキスト・エリアを拡大および縮小するためのボタンが 2 つ、フィールドの横に表示されます。出力テキストのテキスト出力フィールドによるレポートでは、データ内のスペースや改行を含め、フィールドを作成したときのスペースが正確に保持されます。入力された状態が保持されることで、詳細レポートなどのレポートが表示される幅が通常より広くなる場合があります。</p> <p>l. タブ。画面上でタブのセットとして表示される値のリスト。通常このフィールドは、選択したタブによってその後表示されるフィールドが変わる場合など、画面上で高度な選択を可能にするために使用されます。この表示タイプは、サポートするリストに 6 項目を超えるエントリがある場合は使用できません。</p> <p>m. テキスト・エリア。これは複数行のテキスト・フィールドです。フィールドが更新可能なモードである場合は、ユーザが拡大および縮小でき、最大 32k のテキストを入力できます。</p> <p>n. テキスト・フィールド。これは単一行のテキスト・フィールドです。テキスト・フィールドには最大 255 文字まで入力できます。</p> <p>o. ユーザ。これはユーザ・ベースの要素だけに割り当てることができます。これらのフィールドは、[assigned_to]、[originator]、[owner]、[contact] です。これらのフィールドが表示されるユーザ・リストには、[Default Application Settings] 管理画面の USERNAME_DISPLAY プロパティの設定に従い、名、姓、またはユーザ ID が表示されます。</p> <p>表示タイプとして User を選択している場合は、参照列に特定の列を設定する必要があります。設定しない場合は、レポートやその他のレイアウトが正しく機能しません。次の列を設定する必要があります。</p> <p>第 1 の参照列 = first_name 第 2 の参照列 = last_name 第 3 の参照列 = email</p> <p>ユーザ・フィールド [originator] と [contact] は、フィールド [assigned_to] および [owner] とわずかに動作が異なります。[originator] と [contact] にはすべてのユーザのリストが含まれますが、[assigned_to] および [owner] フィールドには、動作設定 IGNORE_USER_GROUP で定義されたユーザ・ロール以外にもロールが割り当てられたユーザのリストだけが含まれます。この動作は、社内ユーザと顧客などが区別されるリストを作成する場合に役立ちます。</p>

フィールド名	ADMIN の 場合のみ 表示	説明
Alias of		<p>このフィールドは、新しいフィールドを作成する場合、または表示タイプがリスト、ポップアップ、タブのいずれかであるフィールドを編集する場合のみ表示されます。このオプションは、同じタイプのフィールドを作成する場合のみ有効になります。新しいフィールドを作成するには、それを別のリスト・フィールドにポイントさせることで、新しいフィールドが、ポイントしたフィールドのエイリアスになります。エイリアスになったフィールドは、常に元のフィールドとの同期がとられます。</p> <p>別のフィールドのエイリアスになっている既存のエントリを編集する場合は、フィールドを個別に機能させることにした時点で、エイリアス・エントリを削除できます。</p>
[レポート上での 選択を許可]		<p>これにより、レポートで特定のフィールドを選択できるようになります。レポートで使用できないフィールドを指定することもできます。例えば、ExtraView のインストール内の一部のフィールドを使用せず、ユーザのビューで非表示にすることができます。またデータ辞書には、レポートで選択不可にする必要がある画像、ボタン、画面などのフィールドがあります。</p> <p>使用しないフィールドはすべて No に設定することを強くお勧めします。</p>
[最後の値を記 憶]		<p>この値を Yes に設定すると、[Issue を追加] および [検索] 画面で個々のユーザが入力または選択した最後の値が記憶されます。これにより、頻繁に変更しない値を記憶しておくことができます (多数のユーザが同じ製品を長期間使用する場合があります)。</p>
[関係者リストを 有効にする]		<p>Yes を選択すると、そのフィールドの [Field List Maintenance] で、特定の値に基づく関係者リストのエントリを作成できます。例えば、重要度レベルが critical である issue に基づく関係者リストを作成する場合があります。重要度レベルに基づく関係者リストを有効にすると、重要度レベル・リストの critical のリスト項目を編集して、関係者リストにユーザ名を追加できます。</p> <p>ただし、表示タイプによっては関係者リストを有効にできない場合もあります。表示タイプがラベル、画像、テキスト、テキスト・エリア、ログ・エリア、出力テキストのフィールドは、関係者リストとして使用することができません。さらに、関係者リストがない事前定義フィールドもあります。例えば、ユーザ・フィールドは関係者リストを持つことができません。</p>

フィールド名	ADMIN の 場合のみ 表示	説明
[複数値]		<p>このオプションは、表示タイプがリストのフィールドだけに表示されます。Yes を選択すると、使用可能なすべてのエントリのリストにある複数の値をフィールドに保存できます。ユーザが選択可能な多数のオプションがある場合に、複数の値のリストを選択して、ユーザにリスト内の任意の数の項目を選択させることができます。</p> <p>このオプションは、表示タイプがリストの UDF でのみ使用できます。</p> <p>例:</p> 
		<p>複数値フィールドは、リピーティング行レコードではサポートされていません。</p>
[フィルタ基準]		<p>検索画面の検索基準として要素を選択できます。この項目を選択しないと、該当するフィールドを検索画面のレイアウトに配置することができなくなります。</p> <p>ただし、フィルタ基準として使用できない表示タイプもあります。表示タイプがラベル、画像、テキスト・エリア、ログ・エリア、出力テキストのフィールドは、フィルタ基準として使用することができません。</p> <p>フィルタ基準として使用されるフィールドは、ソート可能にする必要はありません。</p>

フィールド名	ADMIN の 場合のみ 表示	説明										
[URLとして表示]		<p>このオプションは、どの UDF の場合にも必須ではありません。フィールドに関連する名前または値を、作成する URL の一部として使用できます。これにより、フォームのフィールド値を任意のリモート・アプリケーション(または URL でアクセス可能な事前定義の ExtraView 機能)にリンクして、フォームの値を使用して別のアプリケーションにパラメータとして渡すことが可能です。</p> <ol style="list-style-type: none"> URL へのリンクを設定してフィールドを有効にするには、[URLとして表示] ラジオ・ボタンを Yes に設定します。 [URLとして表示] ラジオ・ボタンの下のフィールドに、適切な URL を入力します。 定義するデータ辞書フィールドから、またはフォームの他のフィールドから値を渡すことができます。パラメータとして渡すことができる値のフォームには、次のものがあります。 										
		<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="570 730 683 758">パラメータ</th> <th data-bbox="878 730 930 758">説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="570 779 716 806">\$\$VALUE\$\$</td> <td data-bbox="878 779 1372 842">フィールドの現在の値をリクエストのパラメータとして渡します。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="570 863 821 890">\$\$DDNAME.VALUE\$\$</td> <td data-bbox="878 863 1372 926">DDNAME フィールドの現在の値をリクエストのパラメータとして渡します。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="570 947 813 974">\$\$DDNAME.NAME\$\$</td> <td data-bbox="878 947 1372 1125">DDNAME フィールドの項目名を、データベースに保存されるパラメータとして渡します。例えば、STATUS というフィールドに FIXED と名前が付けられ、値が Fixed の場合は、\$\$STATUS.NAME\$\$ はパラメータとして FIXED を渡します。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="570 1146 805 1173">\$\$DDNAME.TITLE\$\$</td> <td data-bbox="878 1146 1372 1360">DDNAME フィールドの項目のタイトルを、データベースに保存されるパラメータとして渡します。例えば、STATUS というフィールドに FIXED と名前が付けられ、値が Fixed の場合は、\$\$STATUS.TITLE\$\$ はパラメータとして Fixed を渡します。これは \$\$DDNAME.VALUE\$\$ パラメータと同等です。</td> </tr> </tbody> </table>	パラメータ	説明	\$\$VALUE\$\$	フィールドの現在の値をリクエストのパラメータとして渡します。	\$\$DDNAME.VALUE\$\$	DDNAME フィールドの現在の値をリクエストのパラメータとして渡します。	\$\$DDNAME.NAME\$\$	DDNAME フィールドの項目名を、データベースに保存されるパラメータとして渡します。例えば、STATUS というフィールドに FIXED と名前が付けられ、値が Fixed の場合は、\$\$STATUS.NAME\$\$ はパラメータとして FIXED を渡します。	\$\$DDNAME.TITLE\$\$	DDNAME フィールドの項目のタイトルを、データベースに保存されるパラメータとして渡します。例えば、STATUS というフィールドに FIXED と名前が付けられ、値が Fixed の場合は、\$\$STATUS.TITLE\$\$ はパラメータとして Fixed を渡します。これは \$\$DDNAME.VALUE\$\$ パラメータと同等です。
パラメータ	説明											
\$\$VALUE\$\$	フィールドの現在の値をリクエストのパラメータとして渡します。											
\$\$DDNAME.VALUE\$\$	DDNAME フィールドの現在の値をリクエストのパラメータとして渡します。											
\$\$DDNAME.NAME\$\$	DDNAME フィールドの項目名を、データベースに保存されるパラメータとして渡します。例えば、STATUS というフィールドに FIXED と名前が付けられ、値が Fixed の場合は、\$\$STATUS.NAME\$\$ はパラメータとして FIXED を渡します。											
\$\$DDNAME.TITLE\$\$	DDNAME フィールドの項目のタイトルを、データベースに保存されるパラメータとして渡します。例えば、STATUS というフィールドに FIXED と名前が付けられ、値が Fixed の場合は、\$\$STATUS.TITLE\$\$ はパラメータとして Fixed を渡します。これは \$\$DDNAME.VALUE\$\$ パラメータと同等です。											
		<ol style="list-style-type: none"> URL へのパスは、相対パスまたは絶対パスのどちらも設定できます。フィールドへの入力値が http:// から始まり、有効な URL で終わる場合には、その入力値による絶対パスが設定されます。入力値が http:// で始まらない場合は、ExtraView では入力したパスが元のパスの相対パスであると見なされません。 実行中の ExtraView のインスタンスに現在のパスを含めるには、タグ \$\$APP_HOME\$\$ を使用します。 DDNAME がデータ辞書の特殊変数(SYSDATE など)である場合、渡される値は特殊変数の値です。 DDNAME がデータ辞書のセッション変数(USER など)である場合、渡される値はセッション変数の値です。 										

フィールド名	ADMIN の 場合のみ 表示	説明
		<p>h. ExtraView のその他の機能呼び出して、適切な動作を実行することができます。例えば、検索機能を使用し、クイックリスト・レポートに結果を表示するリンクをフィールドに設定できます。</p> <p>例 1 – 絶対パスを使用して、値をリモート・アプリケーションにパラメータとして渡します。</p> <pre>http://search.yahoo.com/search?p=\$VALUE\$</pre> <p>これによりフィールドの現在の値が Yahoo に渡され、値の検索が実行されます。検索結果は新しいウィンドウに表示されます。</p> <p>例 2 – \$\$APP_HOME\$\$ タグで定義されたパスを使用して、ウィンドウにユーザの詳細を表示します。</p> <pre>\$\$APP_HOME\$\$ExtraView?p_action=showUserDetails&p_option=admin.UserAccountsDisplay&p_user_id=\$NAME\$</pre> <p>これにより、ユーザの詳細について、ExtraView のポップアップ表示が参照されます。この URL は、ユーザ表示タイプ・フィールドと合わせて使用します。</p> <p>例 3 – キーワードによる検索を行い、ExtraView の現在の場所に対する相対パスを使用して、クイックリストに結果を表示します。</p> <pre>?p_action=doRunQuicklist&p_option=search.SearchDisplay&searchword=\$VALUE &product_name=\$PRODUCT_NAME &assigned_to=\$ASSIGNED_TO</pre> <p>この例は、searchword フィールドの URL に置かれます。これにより、表示フィールド searchword の値と [product_name] および [assigned_to] フィールドの現在の値を使用して、ExtraView の検索クラスにアクセスすることで、クイックリスト・レポートが作成されます。</p>
[ソート可能]		<p>このフィールドを Yes に設定すると、レポート作成画面でフィールドがソート順リストに表示されます。通常、表示タイプがリスト、タブ、ポップアップのフィールドではユーザのソートが可能で、表示タイプがラベル、ログ・エリア、数字、出力テキスト、テキスト・エリア、テキスト・フィールド、画像のフィールドではソートできません。</p> <p>ソート可能なフィールドもフィルタ基準にする必要があります。</p>

フィールド名	ADMIN の 場合のみ 表示	説明
[デフォルト値]		<p>この値は、[Issue を追加] 画面の空のフィールドへの入力に使用されます。この場合、フィールドの値ではなく、フィールド名または ID を使用します。[最後の値を記憶] をオンにしている場合は、デフォルト値に優先して最後の値が使用されません。</p> <p>デフォルト値は、フォーム上でフィールドが表示されているかどうかにかかわらず、レコード内のフィールドの入力に使用されます。これには、次の例に示すように非常に重要な利点があります。例えば、customer というユーザ・ロールについて [Issue を追加] 入力フォームを作成し、顧客がサブミットした issue に自動的にステータス unassigned が与えられるようにし、同時に [ステータス] というフィールドが ExtraView 内にあることが顧客にはわからないようにするとします。この場合はデフォルト値を使用します。顧客が使用する [Issue を追加] 画面にはステータス・フィールドを設定しないか、または顧客がフィールドでの読み取りまたは書き込みができないように、ステータス・フィールドのセキュリティ・キーを設定します。</p> <p>データ辞書の STATUS フィールドには、重要なルールが 1 つあります。動作設定 ENFORCE_STATE_CHANGE_RULES を Yes に設定した場合は、[STATUS] フィールドにデフォルト値を指定する必要があります。</p>
[プライマリ SQL]	✓	<p>このフィールドの内容を変更できるのは admin ユーザだけです。これは、データ辞書の要素にデータを入力する場合に使用される SQL です。例えば項目がリストである場合、この SQL 文はリスト・ボックスの入力に使用されます。これにより、さらに高度なカスタマイズが可能になります。リストの入力には、特定の要件(日付の範囲、「より大きい」)を満たす項目だけが使用されます。</p>
[依存 SQL]	✓	<p>このフィールドの内容を変更できるのは admin ユーザだけです。このフィールドは、ユーザが変更すべきではありません。</p>
[最初の親フィールド名]	✓	<p>このフィールドの内容を変更できるのは admin ユーザだけです。許容値リストを作成する場合、このフィールドは、親データ辞書の要素が更新された場合に、画面の更新が行われるトリガとして機能します。詳細については、許容値についてのセクションを参照してください。</p>
[最初の親 SQL]	✓	<p>このフィールドの内容を変更できるのは admin ユーザだけです。このフィールドを修正することはできません。通常は、画面のレンダリング要素としてのみ使用されます。</p>
[2 番目の親 SQL]	✓	<p>このフィールドの内容を変更できるのは admin ユーザだけです。このフィールドを修正することはできません。通常は、画面のレンダリング要素としてのみ使用されます。</p>
[ヘルプ・テキスト]		<p>フィールドの横にあるラベルの上にマウスを置くと表示される、ツール・チップ・メッセージです。ツール・チップには、最大 500 文字まで指定できます。</p>

フィールド名	ADMIN の場合のみ表示	説明
[ヘルプ URL]		作成したオンライン・ヘルプ・システムのブックマークまたはページにリンクすることができます。お客様の ExtraView が ExtraView Corporation によってホストされている場合、この URL を当社のサーバに設定する必要はありません。これらのファイルは、インターネット上の任意の場所に保存してアクセスできます。

テキスト・エリア、出力テキスト、ログ・エリアの各フィールドの特別なプロパティ

HTML は、表示タイプがテキスト・エリア、出力テキスト、またはログ・エリアのいずれかであるレポート上のフィールドで表示することができます。これは、通常 HTML を使用するフィールドである、表示タイプが HTML エリア であるフィールドの機能とは異なります。テキスト・エリア、出力テキスト、ログ・エリアの各フィールドの通常の動作では、ExtraView ブラウザのレポートに HTML が送信されません。例えば、これらのタイプのフィールドに送信される HTML はソース形式で表示され、ブラウザ内では HTML 形式では表示されません。ExtraView は HTML コードによる不具合やバグのトラッキングに使用されるため、これが通常モードの動作になります。状況によっては、テキスト・フィールド内でコードを実際に HTML として表示する場合があります。その場合は、作成するテキスト・フィールドに次のテキストを入力します。

```
<!-- generated valid html - don't escape! -->
```

これに続くフィールド内のコードはすべて、変換されてブラウザ上に表示されます。ユーザは、上記のテキストに続くコードを有効な HTML にし、適切に表示されるようにする必要があります。さらにこの機能を使用することで、フィールド内にボタン、フォーム、JavaScript が用意された完全なプログラムを作成することも可能です。

フィールドには、ユーザ・カスタム・ルーチン内のコードを使用して入力できます。例えば、追加画面または編集画面内のフィールドには、クエリのすべての結果をレポート・フォーマットで表示することができます。

特別な目的のデータ辞書フィールド

データ辞書内のほとんどのフィールドは、追加レイアウト、編集レイアウト、検索レイアウト、またはレポート・レイアウト内のフィールドを参照します。例えば、[PRODUCT_NAME] や [ID] などの事前定義フィールド、または [COMMENTS] や [DESCRIPTION] などの UDF があります。ただし、目的によってさらに詳細な説明が必要なフィールドもあります。

日付フィールド

次に示すデータ辞書内の日付フィールドでは、issue が最初に作成された日付から計算された、issue についての情報を表示できます。

フィールド名	タイトル	定義
DAYS_OPEN	オープンの日数	issue がオープンな(クローズされていない)状態で経過した日数。クローズ・ステータスは、動作設定 STATUS_CLOSED_NAME で定義します。結果の値は最も近い日付に切り上げられます。

フィールド名	タイトル	定義
WEEKS_OPEN	オープンの週	issue がオープンな(クローズされていない)状態で経過した週数。クローズ・ステータスは、動作設定 STATUS_CLOSED_NAME で定義します。結果の値は最も近い週に切り上げられます。
MONTHS_OPEN	オープンの月数	issue がオープンな(クローズされていない)状態で経過した月数。クローズ・ステータスは、動作設定 STATUS_CLOSED_NAME で定義します。結果の値は最も近い月に切り上げられます。
SYSDATE	現在の日付	これは特殊変数フィールドです。このフィールドが \$\$\$SYSDATE\$\$ の形式でクエリ内の日付フィールドに表示されると、ExtraView では現在の日付がすべて現在の時間と合わせて置換されます。これによりユーザは、現在の日付に関連付けられたクエリを作成して保存できます。
SYSDAY	現在の日付	これは特殊変数フィールドです。このフィールドが \$\$\$SYSDAY\$\$ の形式でクエリ内の日付フィールドに表示されると、ExtraView では現在の日付が時間表示なしで置換されます。時間は 00:00 に設定されます。これによりユーザは、現在の日付(午前 0 時以後)に関連付けられたクエリを作成して保存できます。

日付範囲フィールド

ExtraView データベース内の日付フィールドには、日付と連動したデータ辞書で定義されるフィールドが追加されています。この追加フィールドは ExtraView レポート画面のフィルタとして機能し、特定の日付からの日数に基づく結果が選択されるレポートを定義できます。

日付フィールドと追加フィールドには、次のものがあります。

データ辞書のメイン・フィールド	データ辞書の追加フィールド	コメント
DATE_CREATED	DATE_CREATED_SINCE	issue の作成後に経過した日数
TIMESTAMP	TIMESTAMP_SINCE	issue の更新後に経過した日数
DATE_LAST_STATUS_CHANGE	DATE_LAST_STATUS_CHANGE_SINCE	issue のステータス変更後に経過した日数
DATE_CLOSED	DATE_CLOSED_SINCE	issue のクローズ後に経過した日数

添付ファイル

フィールド名	タイトル	定義
ATTACHMENT_ID	添付 ID	添付ファイルの内部 ID
ATTACH_CONTENT_TYPE	添付ファイルのタイプ	添付ファイルの MIME タイプ
ATTACH_CREATED_BY_USER	添付ファイル作成者	添付ファイルの作成者
ATTACH_DATE_CREATED	添付された日付	添付ファイルが作成された日付
ATTACH_FILE_DESC	添付ファイルの説明	添付ファイルの説明
ATTACH_FILE_NAME	添付ファイルの名前	添付ファイルのファイル名

フィールド名	タイトル	定義
ATTACH_FILE_SIZE	Attachment File Size	添付ファイルのファイル・サイズ
ATTACH_PATH	Attachment Path	添付ファイルが保存されていた元のパス

電子メール・フィールド

フィールド名	タイトル	定義
MAILING_LIST	メーリングリスト	このフィールドは、セキュリティ許可と合わせて使用して、追加画面および編集画面上のメーリング・リストを見ることができるユーザ・ロールを定義します。
CC_EMAIL	CCメール	このフィールドは、セキュリティ許可と合わせて使用して、追加画面および編集画面上の CC 電子メール・リストを表示して使用することができるユーザ・ロールを決定します。
GENERATE_EMAIL	メールを生成	このフィールドはセキュリティ許可と合わせて、追加画面および編集画面の [メールを生成] チェックボックスの表示の制御に使用します。許可がない場合、このチェックボックスは表示されません。
CUSTOM_EMAIL	カスタム Email	このフィールドはセキュリティ許可と合わせて、編集画面内のアクション・バーにある [電子メール] ボタンの表示の制御に使用します。許可がある場合、そのユーザ・ロールでカスタム電子メールを送信することができます。
EMAIL_ADDRESS	電子メール・アドレス	このフィールドは、レイアウト上に置くことができます。これは特別な目的に使用されます。ユーザが編集画面からカスタム電子メール機能にアクセスして、アドホックな電子メールの送信や、定義済みのテンプレートによる電子メールの作成を行う場合、このフィールドを使用することで、電子メールが送信されるアドレスが自動的に入力されます。これによって、issue のレポート時に電子メール・アドレスを入力するユーザなどとの通信が容易になります。このフィールドに保存されている値によって、自動的に返信用アドレスが得られます。

ユーザ・フィールド

これらのフィールドは、[OWNER]、[ORIGINATOR]、[CONTACT]、[ASSIGNED_TO] の標準的なユーザ・フィールドに加えて使用されるフィールドです。

フィールド名	タイトル	定義
LAST_CHANGE_USER	最後の変更者	最後に issue を更新したユーザのユーザ ID。
USER	* 現在のユーザ名 *	このフィールドの値には、\$\$USER\$\$ が使用されます。ExtraView では、この値が、現在のセッションにサインオンしたユーザのユーザ ID として解釈されます。

履歴フィールド

フィールド名	タイトル	定義
PRODUCT_NAME_HIST	過去の製品リファレンス	このフィールドでは、issue の監査履歴内の製品名 (PRODUCT_NAME) が参照されます。
RELEASE_FOUND_HIST	過去のリリースのリファレンス	履歴は、ExtraView 内のリピーティング・レコードで保持されています。このフィールドでは、その履歴が参照されます。
STATUS_HIST	過去のステータス	issue に対するステータス変更の履歴がすべて保持されています。このフィールドでは、そのステータス履歴が参照されます。

関係グループ・フィールド

フィールド名	タイトル	定義
RELATIONSHIP_GROUP_ID	関係グループ	関係グループの内部 ID。このフィールドに対して管理者が行う重要な変更は、「関係グループ」のタイトル変更だけです。
RELATIONSHIP_GROUP_OWNER	関係グループの所有者	このフィールドは、関係グループの所有者のユーザ ID の指定に使用します。このフィールドに対して管理者が行う重要な変更は、「関係グループの所有者」のタイトル変更だけです。
RELATIONSHIP_GROUP_TITLE	関係グループのタイトル	このフィールドは、関係グループのタイトルの指定に使用します。このフィールドに対して管理者が行う重要な変更は、「関係グループのタイトル」のタイトル変更だけです。
RELATIONSHIP_GROUP_TYPE	関係グループのタイプ	このフィールドは、関係グループのタイプの指定に使用します。このフィールドは、ExtraView 内部でのみ使用します。
RELATIONSHIP_GRP_PARENT_ID	関係グループの親の ID#	このフィールドは、関係グループの親である issue の ID の指定に使用します。このフィールドに対して管理者が行う重要な変更は、「関係グループの親の ID#」のタイトル変更だけです。

事前定義リピーティング行フィールド

フィールド名	タイトル	定義
RELEASE	リリース	リピーティング・レコードに画面上のタイトルを付けるための主要なフィールド。このフィールドのセキュリティ許可によって、追加画面および編集画面上のリピーティング・レコードの有無を制御します。
RELEASE_ASSIGNED_TO	リリースの担当者	[リリースの担当者] にタイトルを付けるために使用します。このフィールドのセキュリティ許可により、値に対するアクセスが制御されます。

フィールド名	タイトル	定義
RELEASE_FIXED	Release Fixed	[Release Fixed] にタイトルを付けるために使用します。このフィールドのセキュリティ許可により、値に対するアクセスが制御されます。
RELEASE_FOUND	検出リリース	[検出リリース] にタイトルを付けるために使用します。このフィールドのセキュリティ許可により、値に対するアクセスが制御されます。
RELEASE_FOUND_HIST	過去のリリースのリファレンス	履歴は、ExtraView 内のリピーティング・レコードで保持されています。このフィールドでは、その履歴が参照されます。
RELEASE_OWNER	リリースの所有者	[リリースの所有者] にタイトルを付けるために使用します。このフィールドのセキュリティ許可により、値に対するアクセスが制御されます。
RELEASE_PRIORITY	リリースの優先度	[リリースの優先度] にタイトルを付けるために使用します。このフィールドのセキュリティ許可により、値に対するアクセスが制御されます。
RELEASE_PRODUCT	リリースの製品	[リリースの製品] にタイトルを付けるために使用します。このフィールドのセキュリティ許可により、値に対するアクセスが制御されます。
RELEASE_RESOLUTION	リリースの解決策	[リリースの解決策] にタイトルを付けるために使用します。このフィールドのセキュリティ許可により、値に対するアクセスが制御されます。
RELEASE_SEVERITY	リリースの重要度	[リリースの重要度] にタイトルを付けるために使用します。このフィールドのセキュリティ許可により、値に対するアクセスが制御されます。
RELEASE_STATUS	リリースのステータス	[リリースのステータス] にタイトルを付けるために使用します。このフィールドのセキュリティ許可により、値に対するアクセスが制御されます。

ボタン・フィールド

フィールド名	タイトル	定義
DELETE_BUTTON	削除ボタン	項目の削除ボタン。このボタンに対するセキュリティ許可により、ユーザが issue を削除できます。
EDIT_BUTTON	編集ボタン	レポートおよび電子メールで使用される、ドリルダウン編集ボタン。
HISTORY_BUTTON	履歴ボタン	編集画面またはレポートから履歴にアクセスするためのボタン。
VIEW_BUTTON	ビューボタン	issue についての詳細なレポートを表示するためのドリルダウン・ボタン。

[KEYWORD]フィールド

[KEYWORD] フィールドは検索レイアウト上で使用され、ExtraView データベースのキーワード検索を行うためのテキスト入力ボックスが表示されます。このフィールドには、PR_RESOLUTION.KEYWORD という通常のセキュリティ許可キーが関連付けられています。

ます。ただし、PR_RESOLUTION.ATTACH_TEXT という第 2 のセキュリティ許可キーもあります。このキーも、[KEYWORD] データ辞書フィールドに適用されます。あるユーザ・ロールがこのキーを読み取るための許可を持つ場合は、[KEYWORD] フィールドの下にチェックボックスが表示されます。このチェックボックスを使用することで、クエリの一部としての添付ファイル検索が可能になります。

[FILTER_CHILD_VALUES] フィールド

[FILTER_CHILD_VALUES] フィールドでは、クエリによってすべての子レコードが返されるかどうかを制御します。このフィールドを検索レイアウトに配置すると、チェックボックスが表示されます。チェックボックスをオンにすると、リピーティング行レコードを生成するクエリによって、issue 内のすべてのリピーティング行が返されます。チェックボックスをオフにすると、クエリ内の残りのフィルタに適合するリピーティング行レコードだけが、クエリによって返されます。

[PROMO] フィールド

[PROMO] フィールドは、ExtraView のサインオン画面内にあります。フィールドのタイトルを使用して、JavaScript を含む HTML を保存します。HTML は、サインオン・ページのユーザ名とパスワードの上に表示されます。HTML には JavaScript を使用することができ、またユーザ定義の JavaScript 関数を呼び出すこともできます。データ辞書内のタイトル・フィールドには 100 文字の制限があるため、単純な入力以外では、多くの場合ユーザ定義の JavaScript 関数が必要になります。

セキュリティ権限の付与

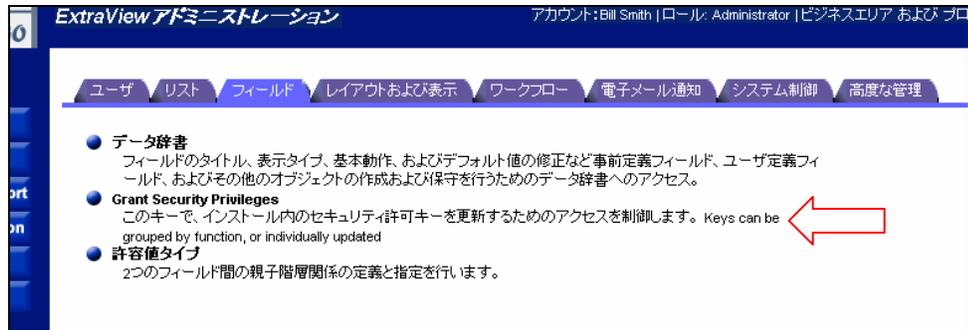
[セキュリティ権限の付与] では、ExtraView のすべてのフィールド、ボタン、機能に対する、各ユーザ・ロールのアクセス権を制御します。許可の設定では、システム管理者がこのような項目について、読み取り/書き込み専用、読み取り/書き込み可能、非表示などの設定を行うことができます。

ExtraView のこの機能は、エリアやプロジェクトが有効になっている場合、わずかに作用が異なります。セキュリティ・システムでは、継承の概念が適用されます。各エリアおよびプロジェクトは、各キーに対して異なるセキュリティ許可を持つ場合があります。ただし、エリア・レベルでなんらかの設定が行われない場合は、マスター・レベルのキーの値が使用されます。同様に、プロジェクト・レベルで値が設定されていない場合は、キーに対してエリア・レベルの値が設定されます。これにより、マスター・レベルと異なるセキュリティ・キーだけに値を設定する場合に、ExtraView を効率的に管理できます。

1 つまたは複数のセキュリティ許可キーを更新すると、許可の変更は変更を行った管理ユーザについて直ちに有効になります。その他すべてのユーザについては、動作設定 SECURITY_CACHE_MINUTES で定義された時間によって各ユーザのセキュリティ・キャッシュが更新された時点で、変更が有効になります。この場合のデフォルトの時間は 30 分であるため、サインオンしているユーザに対してはこの時間内に変更結果が表示されます。新たにサインオンしたユーザに対しては、更新された許可が直ちに表示されます。

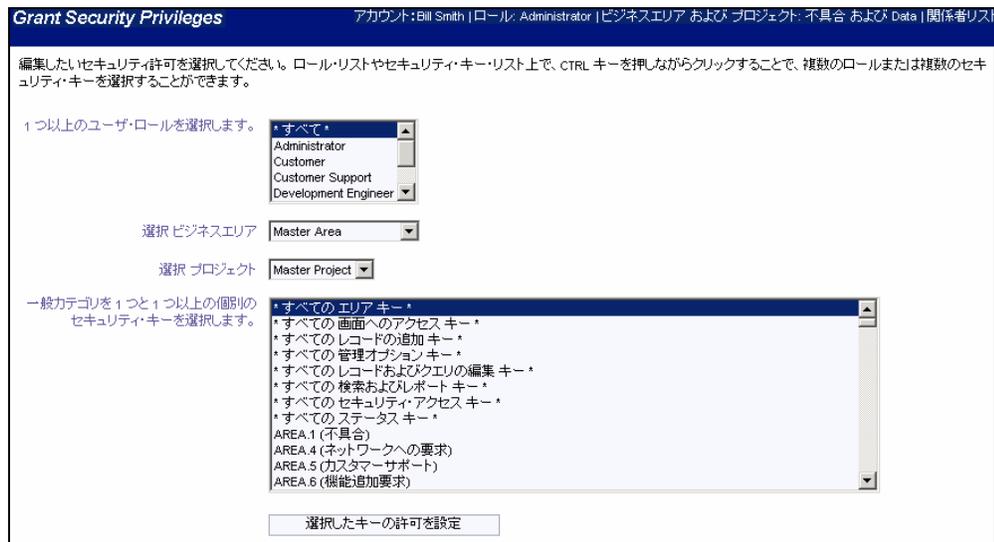
セキュリティ権限の編集

1. [Administration] メニューの [フィールド] タブで、[セキュリティ権限の付与] をクリックします。



管理画面

次の画面が表示されます。



[セキュリティ権限の付与] 画面

2. この画面では、すべてのシステム・セキュリティ・キーに対するユーザ・ロール許可を変更できます。次のようなオプションがあります。

- [すべての画面へのアクセス キー]
- [All adding issue keys]
- [すべてのレコードの追加 キー]
- [すべての管理オプション キー]
- [すべてのレコードおよびクエリの編集 キー]
- [すべてのセキュリティ・アクセス キー]

- 個別のセキュリティ・キー、または個別のセキュリティ・キーのグループ

- 1 つまたはすべてのユーザ・ロール、セキュリティ・キーのカテゴリ、または個別のセキュリティを選択したら、[選択したキーの許可を設定] ボタンをクリックします。キーボードの Ctrl キーと Shift キーの標準的な組み合わせとマウス・ボタンを使用して、複数のキーを選択できます。この場合のキーの組み合わせは、ブラウザのタイプや OS によって異なります。ブラウザのマニュアルを参照してください。

ビジネス・エリアとプロジェクトを使用しない場合は、次のような画面が表示されます。

	Administrator		Customer Support		Customer		Development Engineer		Engineering Manager		IT Support		Quality Assurance	
カスタマーサポート	読み取り	書き込み												
AREA.5	<input checked="" type="radio"/> Y													
	<input type="radio"/> N													
ネットワークへの要求	読み取り	書き込み												
AREA.4	<input checked="" type="radio"/> Y													
	<input type="radio"/> N													
不具合	読み取り	書き込み												
AREA.1	<input checked="" type="radio"/> Y													
	<input type="radio"/> N													
機能追加要求	読み取り	書き込み												
AREA.6	<input checked="" type="radio"/> Y													
	<input type="radio"/> N													

[セキュリティ権限の付与] 画面

ビジネス・エリアとプロジェクトを使用する場合は、上記のように画面が修正され、個々のキーに対するセキュリティ許可の継承先、および上書き先を確認できます。次のスクリーン・ショットに例を示します。

フィールドまたはオプションを読み取り専用にする

1. 権限を変更するユーザ・ロールの列見出しを特定します。
2. そのユーザ・ロールについてのみ、[読み取り] ボックスのラジオ・ボタンをクリックします。
3. [更新] ボタンをクリックします。

フィールドまたはオプションを書き込み専用にする

1. 権限を変更するユーザ・ロールの列見出しを特定します。

2. そのユーザ・ロールについてのみ、[書き込み] ボックスにチェック・マークを入れます。
3. [更新] ボタンをクリックします。

特定のユーザ・ロールに対してフィールドまたはオプションを読み取り/書き込み可能にする

1. 権限を変更するユーザ・ロールの列見出しを特定します。
2. そのユーザ・ロールについてのみ、両方のボックスにチェック・マークを入れます (読み取り/書き込み)。
3. [更新] ボタンをクリックします。

特定のユーザ・ロールに対してフィールドを非表示にする

1. 権限を変更するユーザ・ロールの列見出しを特定します。
2. そのユーザ・ロールについて、両方のボックスのチェック・マークを外します (読み取り/書き込み)。
3. [更新] ボタンをクリックします。

許容値タイプ

[許容値リスト] では、特定のフィールド・リストとその値が、他のリストのフィールドの値に依存するように設定できます。例えば、接続されている親製品を最初に選択した場合、特定のプラットフォームのリストのみが表示されるように設定できます。次に示す親 → 子の関係を設定することで、Mac 製品の場合 OS 9 または 10 プラットフォームのみが表示され、Linux の場合 Red Hat のみが表示されるようにすることができます。

製品	プラットフォーム
Macintosh クライアント	OS 9.x
Macintosh クライアント	OS 10.x
Linux クライアント	Red Hat
Windows クライアント	Windows 98
Windows クライアント	Windows XP

上記の例では、Macintosh クライアントという製品を選択すると、ExtraView の [Issueを追加] または [Issueを編集] 画面が更新され、[プラットフォーム] というタイトルのフィールドに OS 9.x と OS 10.x の 2 つの値が表示されます。

この機能を使用することで、入力されたデータの有効性と、最小限の検索でデータの入力が行われることが確保されます。許容値を関連付けることで、値のセットをカスケードすることができます。一般的な許容値の例は次のとおりです。

1. 製品名 モジュール
2. モジュール 所有者
3. カテゴリ モジュール リリース(カスケード・リストの例)
4. カテゴリ 製品名

フィールドの組み合わせによっては、許容値として作成できないものもあります。例えば、MODULE_ID または MODULE_NAME と PRODUCT_NAME の組み合わせで、許容値を作成することはできません。この組み合わせを処理する事前定義のメカニズムが別にあるためです。

新しい許容値タイプの作成

1. [Administration] メニューの [フィールド] タブで、[許容値タイプ] をクリックします。
次の画面が表示されます。



[許容値タイプ] 画面

カテゴリと 優先度 間の親子依存関係(サンプル・タイトル「Test」を使用)は、次のように設定します。

1. タイトルは、許容値タイプ用に任意の値を指定します。
2. 親データベースの名前として、親子関係で親になっているフィールドを選択します。次に、選択した親の値に依存する子データベースの名前を選択します。
3. [JavaScript を使用して値を更新] を選択すると、クライアント・ブラウザでは許容値リストの更新に JavaScript が使用されます。許容値リストが非常に長い場合を除き、これによって、親の値が変更されたときにサーバを使用してリストの値を保持する場合に比べ、パフォーマンスが大幅に向上します。

注: あるフィールドが複数の許容値の関係で親になっている場合は、[JavaScript を使用して値を更新] を使用することはできません。

注: 親フィールドが、複数の値が設定された UDF である場合は、[JavaScript を使用して値を更新] を使用することはできません。

追加: 許容値タイプ アカウント: Bill Smith | ロール: Admin

タイトル

親データベース名

子のデータベース名

JavaScript を使用して値を更新します。 はい いいえ

新しい許容値タイプ

4. [更新] ボタンをクリックします。

許容値の入力

許容値タイプを作成したら、[Administration] メニューの [フィールド] タブにある [許容値タイプ] に移動します。

次の画面にメタデータが表示されます。

許容値タイプ アカウント: Bill Smith | ロール: Administrator

新しい許容値関係をデータベースに追加

	タイトル	親タイトル	子のタイトル	JavaScript を使用して値を更新します。
<input type="button" value="Edit"/> <input type="button" value="List"/>	カテゴリ - 所有者	カテゴリ	所有者	Y
<input type="button" value="Edit"/> <input type="button" value="List"/>	優先度 - カテゴリ	優先度	カテゴリ	Y
<input type="button" value="Edit"/> <input type="button" value="List"/>	製品 - カテゴリ	製品名	カテゴリ	N
<input type="button" value="Edit"/> <input type="button" value="List"/>	製品名 - 重要度	製品名	重要度	N

合計 4 レコードから選択された 4 レコード

[許容値タイプ]

上記の依存関係を設定すると、関係の詳細を表示または指定できるようになります。例えば、選択したカテゴリに基づくリスト・ボックスに、所有者のどの値が表示されるかを確認または変更できます。これを行うには、該当する許容値のタイトルの横にある [List] アイコンをクリックします。ビジネス・エリアとプロジェクトについてのプロンプトは、これらの項目がシステムで有効になっている場合のみ表示されます。

許容値リスト アカウント: Bill Smith | ロール: Administrator | ビジネスエリア および プロジェクト: 不具合 および Data | 関係者リスト

カテゴリ - 所有者

Select the ビジネスエリア and プロジェクト to view the allowed values currently in place for the combination. Press the Edit button to modify the allowed value list for the current selection.

Modify the allowed value list

ビジネスエリア を選択

プロジェクト を選択

合計 0 レコードから選択された 0 レコード

[許容値リスト]

ビジネス・エリアとプロジェクトのいずれかまたは両方が有効になっている場合は、リストから任意の組み合わせを選択して、その許容値の関係について定義されているすべての値のリストを表示できます。

許容値リストを変更するには、[Edit] ボタンをクリックします。ビジネス・エリアとプロジェクトのいずれかまたは両方が有効になっている場合は、マスター・エリアとマスター・プロジェクトの値を定義するか、または選択したビジネス・エリアとプロジェクト内だけで有効な値を定義できます。

The screenshot shows a web interface for managing allowed values. At the top, it displays 'ビジネスエリア: Master Area' and 'プロジェクト: Master Project'. Below this, there are instructions in Japanese numbered 1 through 7. The main area has a dropdown menu for 'Select parent value for カテゴリ' set to 'ドキュメンテーション'. Below the dropdown are two lists: 'Select child values for: 所有者' and 'List of child values to be updated'. The left list contains names like Allan Rofor, Bill Smith, Chris Robinson, etc. The right list contains '+ George Miller', '+ Jimmy Duncan', '+ Sally Hunt', '+ Susan Green'. There are buttons for '更新' (Update) and '戻る' (Back). Red arrows point to various elements: 'Parent List' points to the dropdown, 'Select child values from this list' points to the left list, 'View of the allowed value list' points to the right list, and 'Click to refresh list' points to the '更新' button.

許容値リストの管理

許容値リストを変更する場合、画面は上の例のようになります。親リストで親の値を選択して、選択する子の値を左側のリストでクリックします。親フィールドが AREA である場合は、この画面で親リストの値を修正することができないので、前の画面に戻って選択し直す必要があります。左側のリストで、子の有効なリストとして値を選択したら、矢印をクリックして右側のリストを更新します。値は右側のリストに表示される場合のみ更新されます。

リストを変更したら、[更新] ボタンをクリックして変更内容をデータベースに反映させる必要があります。必要に応じて他の親を選択して子を変更するか、[戻る] をクリックして前の画面に戻ります。

注: 親の値が [AREA] フィールドまたは [PROJECT] フィールドである場合は、値は前の許容値リストからのみ選択できます。

注: 許容値の保守は、リストの保守画面で行うこともできます。リスト・フィールドの値が許容値の関係で子である場合は、リストの保守画面で、子が属する親を選択します。許容値の保守を行うには、2 つの補完的な方法があります。ここで説明する方法は、親フィールドから入力する場合に便利ですが、リストの保守画面で使用可能な方法は、子フィールドで変更を行う場合に便利です。

[* Default *] 親許容値

親許容値にはそれぞれ [* Default *] というエントリがあります。このエントリによって、親に他の許容値のセットがない場合に、デフォルトとして使用する子許容値を設定できます。これにより、親の値が多数あり、そのうちの多くが同じセットの子の値を必要とし、少数の親だけが独自の子の値のセットを必要とする場合に、効率的に許容値を設定できます。

特定の値のセットを必要とする親について、許容値を設定します。次に、[* Default *] の親について子の値を設定します。これにより、その他すべての親の値に [* Default *] の子の値が適用されます。また、子フィールドの追加画面および編集画面で [* なし *] を指定すると、デフォルトの子が使用されます。

許容値のカスケード

「カスケードする」許容値の関係を設定することができます。この場合は、1 つのフィールドのペアについて親子関係を定義し、次に第 1 の関係で親であるフィールドが子になる、第 2 の親子関係を定義します。これにより、3 つのフィールド間で祖父 - 親 - 子の関係が設定されます。この方法にはいくつかの制限事項があります。

- すべてのフィールドのデータ辞書の表示タイプは、[リスト]、[ポップアップ]、または [タブ] のいずれかにする必要があります。他の表示タイプは機能しません。
- 表示タイプが [ポップアップ] または [タブ] である場合は、それぞれの許容値の関係について、JavaScript による更新を [No] に設定する必要があります。

子フィールドの選択リストには、祖父の値と親の値を選択するまで、可能な値として常に [* なし *] だけが表示されます。

レコードを編集すると子のレコードが無効になるように、許容値を関連付けているメタデータを変更すると、ExtraView では子の値が無効になったことをユーザに通知する警告が表示されます。ただし、無効な値はこの時点でもまだ表示されています。ユーザが祖父または親の値を変更すると、子フィールドの無効な値は表示されなくなります。

許容値の制限事項

許容値の関係では、有効な組み合わせにならないフィールドの親子関係もあります。有効な組み合わせには次のようなものがあります。

親表示タイプ	有効な子表示タイプ
リスト	リスト ポップアップ タブ ユーザ
ポップアップ	リスト ポップアップ タブ ユーザ

親表示タイプ	有効な子表示タイプ
タブ	リスト ポップアップ タブ ユーザ
ユーザ	リスト ポップアップ タブ ユーザ

注: 複数値 UDF リスト・フィールドは、許容値の関係で親にだけなることが可能で、子になることはできません。

注: その他の表示タイプ(チェックボックス、日付、ログ・エリア、数字、出力テキスト、テキスト・エリア、テキスト・フィールド)は、許容値の関係ではサポートされていません。

許容値およびリピーティング行レコード

リピーティング行レコードで許容値の関係を使用するには、いくつかの制限事項があります。次のようなものがあります。

- 許容値の関係について、JavaScript の更新は *No* に設定する必要があります。この場合は、子リストで正しく子の値が入力されるように、画面を更新する必要があります。
- 親フィールドと子フィールドはいずれも UDF でなければなりません。
- 許容値権限によるリピーティング行フィールド内の一括更新機能は、この時点ではサポートされていません。

レイアウトおよび表示

概念

レイアウト・エディタ を使用することで、ExtraView で独自にカスタマイズした画面やレポートを作成できます。特定のユーザ・ロール(役割)についてフィールドを追加および削除したり、デフォルトでフィールドを追加して、[セキュリティ権限の付与] でユーザのアクセスを制御できます。

ExtraView には、インストール内に常に用意されている、デフォルトのシステム・レイアウトが多数あります。これらのレイアウトについては以下に示します。ただし、管理者はレイアウトを追加で作成して、デフォルトのシステム・レイアウトに埋め込むことができます。例えば、issueの追加画面および編集画面で常に同じ順序で表示するフィールドのブロックがある場合は、用意されているレイアウトにこれらのフィールドを組み込んで、そのレイアウトをデフォルトのフォームで簡単に使用できます。埋め込みのレイアウトのもう1つの使用法は、特定のフィールドの値に依存してフォームに条件付きで含まれる、フィールドのブロックを作成することです。例えば、不具合のトラッキング・システムに、ユーザがソフトウェア、ハードウェア、またはドキュメントのどのカテゴリを選択したかによって、異なるフィールドのブロックを表示して情報を記録する場合があります。この場合、検索フィルタおよびレポート・レイアウトでは組み込みレイアウトはサポートされません

特定の階層内に画面レイアウトを作成することで、システム的设计に従って、多数の異なるレイアウトが表示されるようにすることができます。

- 次の画面やレポートに対するデフォルトのレイアウトが常に用意されています。これらのレイアウトは ExtraView のデフォルトのインストールに含まれており、特定のニーズに合わせて変更することができます。ただし削除することはできません。
 - [Issue を追加] 画面
 - [Issue を編集] 画面
 - [Brief Email Notification] レイアウト
 - [Full Email Notification] レイアウト
 - 関係グループ電子メール・フィルタ
 - 関係グループ・フィルタ(関係グループ管理用)
 - [Embedded Repeating Record] レイアウト
 - [Detailed Report] レイアウト
 - [History Report] レイアウト
 - [Quicklist Report] レイアウト
 - [Full Search filter] 画面

- [Quick Search filter] 画面
- [Chart Filter] 画面
- これらのレイアウトは、ExtraView ではすべてレイアウト・タイプとして記述されています。それぞれの標準レイアウトについて、異なるレイアウト・タイプが用意されていますが、異なるビジネス・エリア、プロジェクト、またはユーザ・ロールについてレイアウトが作成されている場合は、同じレイアウト・タイプが使用されます。
- 新しくレイアウト・タイプを作成することができます。例えば、新しい埋め込みのレイアウトが必要な場合は、特定のレイアウト・タイプを作成して、異なるビジネス・エリア、プロジェクト、ユーザ・ロールの一部として、またはフィールドの値に従って選択される異なるレイアウトとして、必要に応じて再利用できます。
- インストール内の各ユーザ・ロールについて、上記のものと異なるレイアウトを定義できます。この場合も、別のレイアウトを定義しない限り、デフォルトのレイアウトが継承されて使用されます。
- インストール内でエリアやプロジェクトが使用されている場合は、エリアおよびプロジェクトの両方のレベルで、上記の各レイアウトについて異なるレイアウトを指定できます。別のレイアウトを定義しない限り、デフォルトのレイアウトが継承されて使用されます。
- インストールでエリアやプロジェクトが使用されている場合は、ユーザ・ロールごとに別のレイアウトを定義できます。これにより、それぞれのユーザ・ロール、プロジェクト、エリアについて、別のレイアウトを定義できます。
- すべてのフィールドに対して設定されたセキュリティ権限は、レイアウト上のフィールドの配置に優先します。これにより、多数のユーザ・ロールで同じレイアウトを使用しながら、すべてのフィールドの表示と使用を、セキュリティを確保しながら簡単に制御できます。

注: ExtraView のインストールでは、すべての画面とレポート用に、事前定義の標準レイアウトが用意されています。これらは組織のニーズに応じて変更できます。

エリアおよびプロジェクトのレイアウト

この項目は、ビジネス・エリアとプロジェクトがシステム内で有効になっている場合のみ適用されます。これらが有効になっている場合は、最初はシステム内のマスター・ビジネス・エリアだけにレイアウトが設定されます。さらにレイアウトを作成しない場合、これらのレイアウトがすべてのビジネス・エリアとプロジェクトで使用されます。このデフォルトのレイアウトは、選択したプロジェクト・レベルで使用される別のレイアウトを作成することで、システム内の任意のレベルで無効にすることができます。

継承

原則として、各プロジェクトではそれぞれ特定のレイアウトが使用されます。特定のレイアウトがない場合は、次の方法でレイアウトが継承されます。

- 特定のビジネス・エリアやプロジェクト用のレイアウトがある場合は、そのレイアウトが使用されます。

- 特定のレイアウトがない場合は、ビジネス・エリアとそのマスター・プロジェクト用のレイアウトがあれば、それが使用されます。
- そのレイアウトもない場合は、マスター・レベル用の事前定義のレイアウトが継承されて使用されます。

継承は重要な原則で、これによって ExtraView 内の各目的に応じて選択されるレイアウトが決定されます。さらに、新しく作成したビジネス・エリア内の [Add] 画面など、特定の目的のためにレイアウトを作成する場合には、検索フィルタや電子メールのレイアウトなどその他すべてのレイアウト・タイプについて、必ずしもレイアウトを作成する必要はありません。各レイアウトは個別に継承されるため、大幅な柔軟性が得られ、また必要な設定も少なくすみます。

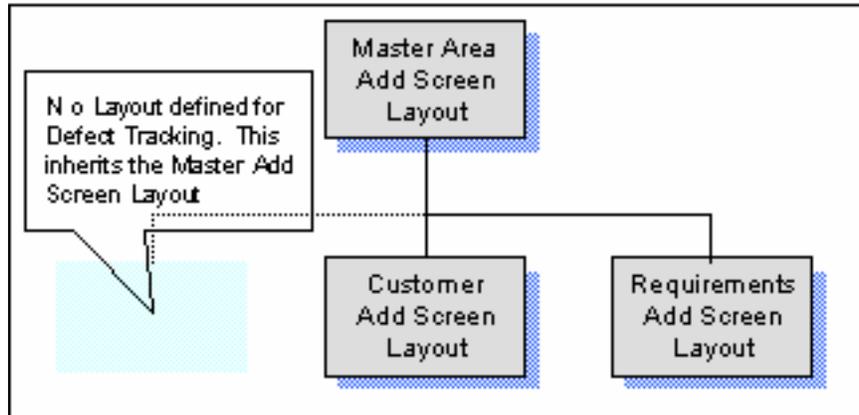
継承とユーザ・ロールのレイアウト

レイアウトは、システム内で作成した各ユーザ・ロールについて定義できます。これについては、以下で詳細に説明します。なお、ユーザ・ロール、ユーザ・ロール内のビジネス・エリア、ビジネス・エリア内のプロジェクトに対するレイアウトの定義は、組み合わせることができます。例えば、*Customer Calls* というビジネス・エリアがある場合は、個別のプロジェクトに分割される場合を含め、*Technical Support* や *Managers* などの異なるユーザ・ロールに対して、異なるレイアウトを定義できます。

レイアウト間の issue データの記憶

レイアウト上にタブとして表示されるビジネス・エリアまたはプロジェクトをユーザが(エリアまたはプロジェクトの表示タイプをデータ辞書で `タブ` に設定して)変更すると、REMEMBER_BETW_TABS の動作設定に従って、次のように動作します。

- エリアまたはプロジェクトにタブを設定し、REMEMBER_BETW_TABS を *NO* に設定すると、値は追加画面または編集画面上の各ビジネス・エリアまたはプロジェクト間のユーザ・タブとして保持されません。
- エリアまたはプロジェクトにタブを設定し、REMEMBER_BETW_TABS のデフォルトが *YES* に設定されている場合は、値が追加画面または編集画面上の各ビジネス・エリアまたはプロジェクト間のユーザ・タブとして保持されます。ほとんどのアプリケーションで、この動作が必要になります。
- エリアまたはプロジェクトが変更され、エリアにタブが設定されていない場合は、エリアまたはプロジェクトが変更されていれば、値がタブ間で保持されます。



レイアウトの継承

注: ビジネス・エリアとプロジェクト・フィールドの両方について、表示タイプが **タブ** に設定されていれば、データ辞書のデフォルト値に設定する必要があります。ただし、[最後の値を記憶] の設定がこれに優先します。データ辞書のビジネス・エリアとプロジェクトの一方または両方に対してこの値が設定されている場合は、[Issue を追加] 画面の入力によって表示されるタブは、デフォルト値ではなく、最後に使用されたタブになります。

ユーザ・ロールのレイアウト

各ユーザ・ロールについて、異なるレイアウトを設定することができます。例えば、**顧客** ロールのレイアウトでは限定された数のフィールドを表示し、**エンジニアリング** および **QA** ユーザ・ロールではすべてのフィールドが表示されるレイアウトを共有するなどが可能です。インストール内のエリアとプロジェクトを使用する場合は、各エリアおよびプロジェクト内で必要に応じてレイアウトを設定できます。

埋め込みレイアウト

追加画面と編集画面のフォームで、他のレイアウトに埋め込まれる新しいレイアウトを作成できます。例えば、わずかに異なるレイアウトを多数作成し、そのうち多くのフィールドに共通の特性がある場合は、1 つのレイアウトを定義して他の多数のレイアウトに埋め込むことができます。

また、あるレイアウトを他のレイアウトに埋め込むと同時に、メイン・レイアウトのフィールドの値に応じてランタイムに表示される別のレイアウトを定義できます。例えば、メイン・レイアウト上のフィールド内でユーザが選択した **ハードウェア**、**ソフトウェア**、または **ドキュメント** に従って、ハードウェアとソフトウェアについてのデータのコレクションに関するフィールドがある、異なるレイアウトを埋め込む場合があります。ユーザがこのフィールドを選択すると、画面が更新されて、適切な埋め込みレイアウトが作成されます。

注: レイアウトおよび埋め込みレイアウト上に、同じフィールドを配置しないようにしてください。同じフィールドを配置すると、予期しない結果やエラーが発生することがあります。埋め込みレイアウトはレイアウトから独立して作成でき、また交換可能であるため、この状態は ExtraView では画面表示のコードを実行する前にチェックされません。

注: 同じタイプの別の埋め込みレイアウト上に、同じフィールドを配置しないでください。埋め込みレイアウト上のフィールドは、使用されているレイアウト・タイプ固有です。

注: 1 つのタイプのレイアウトは、すべて埋め込みレイアウトのテンプレートが作成された同じビジネス・エリアとプロジェクト内で使用する必要があります。例えば、同じフィールドに従属する、選択可能な一連の埋め込みレイアウトを作成する場合、これらの埋め込みレイアウトはすべて同じビジネス・エリアとプロジェクト内に置かれなければなりません。

注: 許容値の関係の子フィールドが外部のレイアウトに含まれる場合、埋め込みレイアウトには、その親フィールドを含めることはできません。親フィールドと子フィールドの両方を同じレイアウトに置くか、または親フィールドを最も外側のレイアウトに置き、子フィールドを埋め込みレイアウト内に置くようにします。

注: 詳細レポートまたはクイックリストなどのレポート・レイアウト上に、レイアウトを埋め込むことはできません。ただし、レポート上のすべてのフィールドを表示し、また動作設定 `REPORT_SUPPRESS_BLANK_LINES` を使用して、レポート上の値が含まれないフィールドのグループを非表示にすることができます。

注: 一般的に、他の組み込みレイアウトの中に組み込みレイアウトを含めないようにすべきです。またレイアウトの中に決してそのレイアウト自体を組み込まないでください。反復または無限ループとなる条件が発生します。ExtraView は実行時までこの条件を検出できないため、重大なシステムおよび動作上の問題を引き起こす可能性があります。

埋め込みレイアウトと条件フィールド

埋め込みレイアウト、または“visible if”というレイアウト・セル属性の条件付きで表示されるフォーム上の複数のフィールドを使用しても、同様の効果を得ることができます。レイアウト・セル属性については、以下で詳細に説明します。

例えば、リスト・ボックスで選択された値に従って、レイアウト上に 3 つのセルを表示させるとします。これは埋め込みレイアウトを使用して設定するか、または 3 つのセルそれぞれにレイアウト・セル属性“visible if”を指定することで設定できます。

最も効果的な方法を選択するには、次のことを考慮する必要があります。

- いくつかのまたは多数のフィールドを表示する場合には、埋め込みレイアウトの処理が多少高速になるため、エンド・ユーザのパフォーマンスが向上します。
- 埋め込みレイアウトの設定にはいくらか手間がかかるため、条件属性を使用するほうが設定と保守が簡単です。
- 埋め込みレイアウトは、一度設定すると追加画面と編集画面の両方で再利用できますが、条件属性の場合はレイアウトごとに設定する必要があります。

リピーティング行のレイアウト

これについては後に詳しく説明します。リピーティング行のレイアウトの基本原理は、フィールドのリピーティング・ブロックを提供し(ユーザが実行時に各ブロックを追加可能)、画面上に追加フィールドを作成するということです。例えば、サブissueを参照するフィールドを持つ行を作成して、issueの一部を個人に割り当てたい場合があるかもしれません。必要な限りの数の行を作成して、issueの別々の部分を異なる人々に割り当てることができます。各行は RELEASE_STATUS というフィールドを持つことができ、それを使用して作成したワークフローを追跡することができます。

レイアウトの選択方法

レイアウトを継承するだけでなく、ユーザ・ロール、ビジネス・エリア、プロジェクトを任意に組み合わせて個別にレイアウトを定義または追加できるため、システム内に多数のレイアウトが作成される可能性があります。継承によって、ユーザが表示する個別のレイアウトが選択されるかまたは継承されるかを厳格に制御することができます。次の表に、ExtraView で選択されるレイアウトがどのように解決されるかを示します。

Order	Role		Area		Project		Data Dictionary Name		Data Dictionary Value	
	A Role	All Roles	An Area	Area-0	A Proj	Proj-0	A name	None	A value	None
1	✓		✓		✓		✓		✓	
2	✓		✓			✓	✓		✓	
3	✓		✓			✓	✓			✓
4	✓		✓			✓		✓		✓
5	✓			✓		✓	✓		✓	
6	✓			✓		✓	✓			✓
7	✓			✓		✓		✓		✓
8		✓	✓		✓		✓		✓	
9		✓	✓			✓	✓		✓	
10		✓	✓			✓	✓			✓
11		✓	✓			✓		✓		✓
12		✓		✓		✓	✓		✓	
13		✓		✓		✓	✓			✓
14		✓		✓		✓		✓		✓

レイアウトの選択

ExtraView では、この表の上から順に、ユーザと現在のロールについて管理者が定義した条件を満たすレイアウトを探していきます。表の最後の 2 列は、埋め込みレイアウトを選択する場合のみ使用されます。ここでは次のように選択が行われます。

複数のレイアウトがある場合は、以下の基準を順番に適用して選択されます。

- ユーザ・ロール
- ビジネス・エリア
- プロジェクト
- データ辞書名
- データ辞書名ごとの値

さらに以下の基準が適用されます。

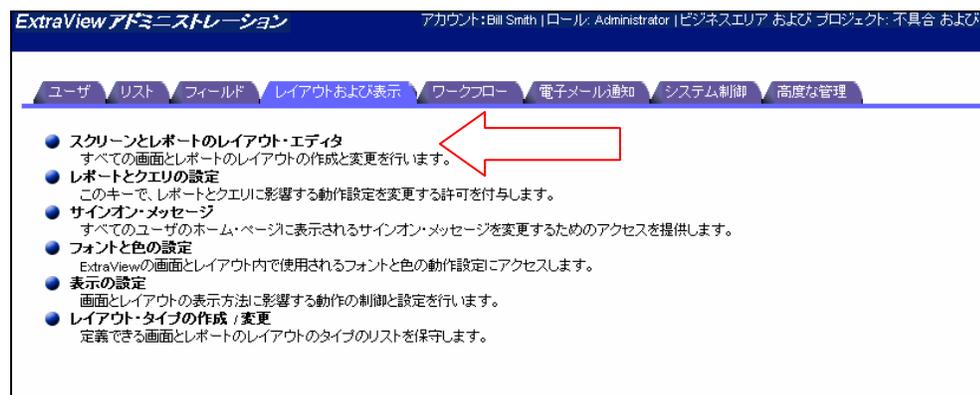
- 追加レイアウトと編集レイアウトは、上記すべての基準に基づいて選択されます。
- クイックリスト・レポートと詳細レポートは、ユーザ・ロールとエリアだけに基づいて選択されます。プロジェクトは選択に影響しません。
- 電子メール通知レイアウトでは、ユーザ・ロール、ビジネス・エリア、プロジェクトが使用されます。データ辞書内のフィールドに基づく選択は行われません。

- レイアウトが上記の表の複数行に適合する場合があります。この表では、ユーザの現在の設定に適合する最初の行が使用されます。
- 表の最後の 2 列は、埋め込みレイアウトを選択する場合のみ使用されます。

レイアウトの管理

既存のレイアウトの追加と更新

[ExtraView アドミニストレーション] 画面で、[レイアウトおよび表示] タブの [スクリーンとレポートのレイアウト・エディタ] を選択します。



[ExtraView アドミニストレーション] 画面

次の画面が表示されます。

1. 個別のユーザ・ロールのレイアウトを表示または更新する場合は、選択リスト [ユーザ・ロールを選択] からロール (役割) を選択します。すべてのロールについてデフォルトのレイアウトを選択すると、特定のユーザ・ロールに固有のロールが設定されていない限り、使用されるレイアウトが表示されます。
2. ビジネス・エリアとプロジェクトを選択するプロンプトは、これらがシステム内で有効になっている場合に限り表示されます。
3. 選択リスト [システム全体に新しいレイアウトを追加] では、エリア、プロジェクト、およびユーザ・ロールの個々の組み合わせについて、使用可能なレイアウトのリストから新しいレイアウトを追加できます。この組み合わせのためのレイアウトがすでにある場合、そのレイアウトは選択リストには表示されず、画面の下部に [Edit] ボタンと合わせて表示されます。
4. [Edit] ボタンをクリックすると、レイアウトを変更することができます。

注: レイアウトは、管理者が独自に作成したもので、また ExtraView によって作成されたものでも、編集機能によって削除することができます。ただし、ExtraView によって作成されたレイアウトは削除しないでください。削除すると、ExtraView が正常に機能しなくなります。

アカウント: Bill Smith | ロール: Administrator | ビジネスエリア: および プロジェクト: 不具合 および Data | 関係者リスト

1 レイアウトが属する特定のユーザ・ロールを選択します。ユーザ・ロールにレイアウトを指定していない場合は、すべてのユーザ・ロールにデフォルトのレイアウトが使用されます。

ユーザ・ロールを選択

2 レイアウトが属するビジネスエリア および プロジェクト を選択します。

ビジネスエリア を選択

プロジェクト を選択

3 以下は、選択したユーザ・ロールに現在定義されているすべてのレイアウトのリストです。上で選択したユーザ・ロールに追加する新規レイアウトを選択するか、既存のレイアウトの1つで編集ボタンを押して、そのレイアウトを更新できます。

システム全体に新しいレイアウトを追加

	Layout ID	レイアウト・タイプ	タイトル	説明	フィールドで選択	紐で選択
<input type="button" value="Edit"/>	4	Add Problem Screen	Default Add / Edit Screen	Default Add / Edit Screen		
<input type="button" value="Edit"/>	7	Edit Problem Screen	Default Add / Edit Screen	Default Add / Edit Screen		
<input type="button" value="Edit"/>	427	Email Body - brief	Email Body - brief	Default layout for Brief Email		
<input type="button" value="Edit"/>	432	Email Body - full	Default Add / Edit Screen	Default Add / Edit Screen		
<input type="button" value="Edit"/>	492	Email Filter	Email Filter	Display Filters for Relationship Group Email		
<input type="button" value="Edit"/>	493	Relationship Group Filter	Manage Relationship Group Filter Screen	Display Filter Screen for Manage Relationship Group		
<input type="button" value="Edit"/>	10	Release Record	Repeating Record	Default layout for Release Record		
<input type="button" value="Edit"/>	9	Report - Detailed	Report - Detailed	Default layout for Detailed Report		
<input type="button" value="Edit"/>	462	Report - History	Default Add / Edit Screen	Default Add / Edit Screen		
<input type="button" value="Edit"/>	457	Report - Quicklist	Report - Quicklist	Default layout for Quicklist		
<input type="button" value="Edit"/>	5	Search - Full Search	Search - Full Search	Default layout for Search / Query Screen		

画面およびレポートのレイアウト

特定のユーザ・ロールのレイアウト作成

- 画面最上部にある選択リストから、レイアウトを適用するユーザ・ロールを選択します。さらに、デフォルトのレイアウトを使用して、[ExtraView アドミニストレーション] 画面の [セキュリティ権限の付与] セクションでユーザ・ロール画面とフィールドへのアクセスを制御できます。
- 既存のレイアウトを編集して新しいユーザ・ロールに変更し、レイアウトを保存することで、新しいユーザ・ロールのためのレイアウトを複製できます。
- (同じタイプの既存のレイアウトがある場合に)レイアウトを追加するには、使用する既存のレイアウト・タイプの例の横にある **[Edit]** ボタンをクリックします(使用可能なタイプのレイアウトがない場合は、[Add new layout drop down] メニューから必要なレイアウト・タイプを選択します)。

[Edit] ボタンをクリックすると、次のような画面が表示されます。



[画面およびレポートのレイアウト] 画面

- 新しいフィールドを表示する行と列の位置を、画面下部にあるツールバーのカウンタを使用して選択します。セルがすでにある場合は、それをクリックすると行と列が自動的に設定されます。



フィールド名選択メニュー

- [フィールド名] メニューから、目的のデータベース・フィールド名を選択します。ExtraView では、このレイアウト用に選択可能なすべてのフィールドがリストに表示されます。

6. フィールドの上にカーソルを置くと、サイズ制限や、特定のビジネス・ルールに従うかどうかなど、そのフィールドの属性を示すツール・チップが表示されます。

クリックしてレイアウト・セルの属性を変更します。

データ辞書属性:
タイトル: Requested Release
タイプ: DATABASE
タイプを表示: LIST
レポートを選択: Y
最後の値を記憶: N
関係者リストを有効にする: N
複数値: N
デフォルト値:
ヘルプ・テキスト: The requested release for fixing this issue.

ツール・チップ・ヘルプ

7. レイアウト上のセルに新しい値を入力したら、[セルを更新] ボタンをクリックします。
8. この画面には、そのほかにもオプションがあります。例えば、必要なフィールドを設定して、さらにフォームにデータが入力された場合のカーソルの動作を指定するフォーム内のタブの順序を設定できます。この設定は行ごとまたは列ごとに行います。
9. データ入力時の表示または機能の制御に使用する、各セル内の属性を設定できます。これらの属性は、下部にある [レイアウト・セル属性] セクションで指定します。
10. 新しいレイアウトが作成されたら、[セルを更新] ボタンをクリックします。

注: レイアウトからセルを編集または削除する際に、最初に有効なフィールド名を選択する必要があることを知らせる警告が表示されることがあります。これは、セルの編集または削除を行う前にレイアウト上のフィールドをクリックしていないためです。

レイアウト内の既存のフィールドの再配置

1. 適切な列および行を選択して、特定のフィールドを配置する場所を指定します。例えば、[タイトル] フィールド(データベース名は SHORT_DESCR)を現在の場所から同じ行の別のセル(上の第 3 列)に移動するには、[SHORT_DESCR](赤で強調表示される)をクリックします。次に、該当するドロップ・ダウン・メニューの [行]、[列]、[行間隔]、[列間隔] の値を変更して、目的の場所を指定します。
2. 値を指定したら、[更新] ボタンをクリックします。
3. フィールドを元の場所から削除します。

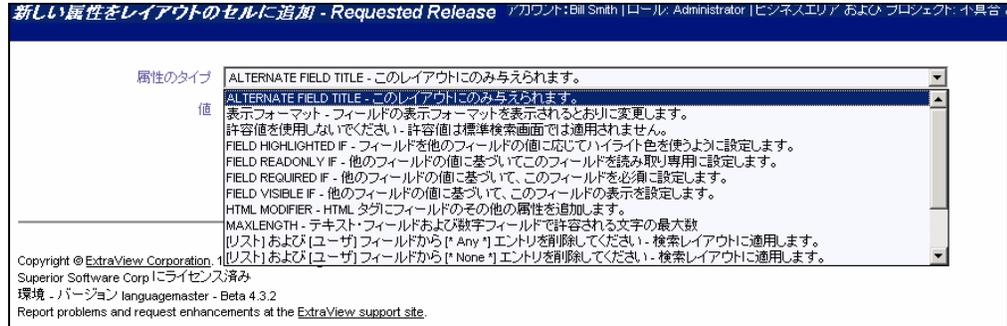
注: 目的のセルのスペースを作成するために新しい行や列を作成する場合は、必要に応じて [Insert] ボタンをクリックします。

レイアウト・セル属性

レイアウト・セル属性により、レイアウト内のフィールドの表示または機能を変更できます。これには、フィールド間の依存関係の設定も含まれます。

セルに属性を指定する方法

1. フィールド内の [link] アイコンをクリックします。
2. 現在そのフィールドに設定されている属性のリストが表示されます。ここで属性を入力または変更できます。その場合は、次の画面が表示されます。



レイアウト要素属性画面

属性タイプは、各セルに適用する、異なるクラスの識別子です。次のようなタイプがあります。

- a. **[ALTERNATE FIELD TITLE]**。これにより、フィールド・エントリ内のフィールドについて、データ辞書内の画面タイトルをフィールドの値に変更できます。画面レイアウトで使用する場合は、変更するタイトルに HTML を含めることができます。変更するタイトルに HTML を含める場合は、動作設定 LABEL_WRAP_POSITION が無視されます。これにより、レイアウト内のラベルのフォーマットをすべて管理できます。ただし、API または CLI を通じてフィールドにアクセスしている場合、HTML はその後で出力されます。

変更したフィールド・タイトルのテキストが、フォームが表示されたときの HTML 内でダブルクォーテーション(“)で囲まれている場合は、変更されたフィールド・タイトルでは使用できません。ただしシングルクォーテーション(‘)は使用でき、通常これらは置換可能です。

例:組織の内部では issue (案件、問題)に Defects というラベルを付け、顧客に対しては同じ issue に Issues というラベルを付けることができます。その場合は新しい属性フォームで、[Alternate field name] を [Issue] に設定します。

例:フォーム上のあるフィールドに「Target Software Release」という長いタイトルが付けられており、動作設定 LABEL_WRAP_POSITION で設定したシステムのデフォルトでは、見づらい形で折り返されてしまいま

す。分割される場所を「*Target
Software
Release*」のような形で指定することができます。

- b. **[DISPLAY FORMAT]**. これにより、ユーザ定義のフォーマットに従って、項目の値の表示が変更されます。このフォーマットは、テキストや他のフィールドの値を含むことができます。

例:[*ID*] フィールドは、*PROJECT* + ‘.’ + *ID* などの特定の形式で表示されるように変更できます。*ID* が標準のシーケンスですが、*MyProj.12345* のような値が表示されます。

- c. **[DO NOT USE ALLOWED VALUES]**. これは、[Quick Search]、[Full Search]、または [Chart filter] レイアウトなど、検索フィルタ・レイアウト上のフィールドだけに適用されます。このレイアウト・セル属性を設定し、許容値の関係でそのフィールドが子である場合、子リストはその親によるフィルタがかけられず、可能なすべての値が表示されます。
- d. **[FIELD HIGHLIGHTED IF]**. これにより、別のフィールドの値に応じて、フィールド値が別の色で強調表示されます。この場合の色は、動作設定 *HIGHLIGHT_COLOR* の値によって選択されます。[FIELD READONLY IF] 属性は、1 つのフィールドに複数設定することができます。

例: *issue* の優先度が *P1* である場合に、*issue* が割り当てられたユーザを強調表示します。それには、[優先度] フィールドの値が *P1* になった場合の [担当者] フィールドの [Highlighted] の要素属性を設定します。

- e. **[FIELD READONLY IF]**. この属性は、別のフィールドの値に基づいて、フィールド値が読み取り専用モードでレイアウトに表示されることを示します。[FIELD READONLY IF] 属性は、1 つのフィールドに複数設定することができます。

例: 顧客がすでに追加されていてフィールドの値がない場合に、ユーザが顧客名を入力できるようにフィールドを読み取り/書き込み可能にするために、編集レイアウトの [顧客] というフィールドに顧客名を表示します。その場合は、[FIELD READONLY IF Customer is not null] 属性を追加します。

- f. **[FIELD REQUIRED IF]**. あるフィールド値が、別のフィールドの値に応じて必要になるかどうかを示します。

[Field Required If] による依存関係は、表示タイプがリストであるフィールドに対してのみ機能します。さらにこの依存関係は、フィールドがデータ辞書で複数値リストとして定義されている場合、またはフィールドがポップアップ・リストである場合には機能しません。[FIELD REQUIRED IF] 属性は、1 つのフィールドに複数設定することができます。

例: フォーム上で、CUSTOMER_ISSUE というフィールドの値が Yes である場合には、CUSTOMER_NAME というフィールドが必要になります。その場合は、CUSTOMER_NAME フィールドにレイアウト要素の属性を追加します。値は Yes、フィールド名は CUSTOMER_ISSUE、同値は equals に設定します。

- g. **[FIELD VISIBLE IF]**. ある要素が、それ自体の値を含め、なんらかの要素の値によって表示されるかどうかを示します。[FIELD VISIBLE IF] 属性は、1 つのフィールドに複数設定することができます。

あるフィールドによって [Field Visible If] 依存関係の階層が制御され、非表示になった場合、依存関係ツリーで下位にあるフィールドも、それぞれの条件に従ってすべて非表示になります。

[Field Visible If] 依存関係は、表示タイプがリストであるフィールドに対してのみ機能します。さらにこの依存関係は、フィールドがデータ辞書で複数値リストに設定されている場合、またはフィールドがポップアップ・リストである場合には機能しません。

- h. **[HTML MODIFIER]**. これによりユーザは、HTML タグ内で属性を追加することができます。セル上には任意の数の HTML 修飾子属性を指定できます。

例: 属性に *DISABLED* HTML 修飾子を指定することで、フィールドが無効になります。この場合ほとんどのブラウザで、このフィールドが薄いグレーで表示されます。

例: HTML 修飾子を使用してユーザ定義の JavaScript 関数を呼び出すが、または ExtraView で定義済みの JavaScript 関数を呼び出します。この関数はサーバ上に置かれ、レイアウト用に作成された HTML に自動的に挿入されます。HTML 修飾子内で指定された、ユーザ定義の JavaScript 関数を呼び出すための構文は、次のようになります。

```
onclick=myFunction(param1, param2)
```

詳細については、『ExtraView User Custom Guide』を参照してください。

レイアウトの要素にスタイル属性を追加する場合は、(HTML 修飾子の属性ではなく)スタイルを使用します。スタイルを使用しないと、要素に 2 つのスタイル属性が指定されることになり、HTML 構文として無効になります。Netscape 4.x では、多数のスタイル属性はサポートされていません。http://css.nu/pointers/bugs-nn.html に、有効なスタイルを示すドキュメントが用意されています。

- i. **[MAXLENGTH]**. これにより、フィールドの HTML 表示タグに *MAXLENGTH=nnn* 属性が追加されます。属性が設定されていない場合のデフォルトは 50 文字です。

例:フィールドで属性 MAXLENGTH を 25 に設定すると、フィールドに
入力可能な文字数が 25 文字に制限されます。

- j. リストとユーザ・フィールドから [* Any *] エントリを削除。この属性により、レイアウトが追加画面または編集画面として使用される場合に、選択したリストの [* Any *] エントリが表示されなくなります。これにより、ユーザがリストから必ず値を選択するようになります。レイアウト上でフィールドを必須入力にするのと同様の効果があります。
- k. リストとユーザ・フィールドから [* None *] エントリを削除。この属性により、検索画面の選択リストの [* None *] エントリが削除され、エンド・ユーザが少なくとも 1 つのエントリを選択するようになります。
- l. [SELECTED]。タブまたはリスト値に応じて、画面上でどの埋め込みレイアウトを使用するかを示します。このメカニズムにより、ExtraView ではタブまたはリスト・フィールドの値に応じて別のレイアウトが表示されます。

例:ユーザがソフトウェアまたはハードウェアのどちらのカテゴリを選択するかによって、異なるフィールド・セットを持つ異なるレイアウトを編集フォームに埋め込みます。

埋め込みレイアウトを導入するために必要な正確な手順は、[埋め込みレイアウトの追加] という次のセクションに記載されています。

- m. [SIZE]。これにより、フィールドの HTML 表示タグに *SIZE=nnn* 属性が追加されます。属性が設定されていない場合のデフォルトは 11 文字です。

例:画面上のテキスト・ボックスの幅を変更して狭くします。それには、*SIZE=30* などの要素属性を指定します。

- n. [STYLE]。要素のフォント・スタイルを示します。他のフィールドに依存する場合があります。

レイアウトの要素にスタイル属性を追加する場合は、(HTML 修飾子の属性ではなく)スタイルを使用します。スタイルを使用しないと、要素に 2 つのスタイル属性が指定されることになり、HTML 構文として無効になります。Netscape 4.x では、多数のスタイル属性はサポートされていません。http://css.nu/pointers/bugs-nn.html に、有効なスタイルを示すドキュメントが用意されています。

例:レポート上のフィールドの優先度の値が *P1* になった場合に、そのフィールドを赤で表示します。

例: 例: データベースに issue が追加された後にのみ(つまり、ユーザが [add verification] 画面を開いたときのみ)、[Issueを追加] 画面に [ID] フィールドを表示するようにしたいとします。その場合、属性タイプ

は [Field Visible If] に、フィールドは ID に、同値は [null でない] に設定します。これにより、[ID] フィールドは [Add Issue verification] 画面にのみ表示されます。

- o. **[VALIDATE_HIDDEN_FIELD]**. この属性は、動作設定 REMEMBER_BETW_TABS と合わせて機能します。タブ間の検証により、ExtraView のレイアウトにある必須フィールドの存在が、画面に表示されていない場合でも検証されます。非表示になるのは、画面レイアウトが、全レコードの一部が選択した各タブに表示されるように設定されている場合などです。この機能は、現在選択しているタブに表示されているフィールドだけでなく、全レコードにわたるフィールドに値が存在することを検証する目的で使用されます。
[REMEMBER_BETW_TABS] を [YES] に設定すると、任意のフィールドまたはレイアウト全体について [Validate Hidden] の属性が設定され、現在表示されている画面にフィールドが表示されているかどうかにかかわらず、ユーザが必須フィールドに値を入力するようになります。これは多くの場合、レコードをサブミットする前に、ユーザが画面上の複数のタブに値を入力することを意味します。

レイアウト全体についての属性設定は、従属する(埋め込み)レイアウトが埋め込まれたレイアウトで行います。

[LAYOUT.embedded_layout_name] フィールドを選択します。このフィールドに [Validate Hidden] レイアウト・セル属性を追加すると、レイアウト内のすべてのフィールドがチェックされます。

埋め込みレイアウト内の個別のフィールドの属性を設定するには、レイアウト内のフィールドに属性を追加します。

注: [Validate Hidden] と、[Visible If] 属性を持つフィールドとの間には、重要な相互関係があります。レイアウト要素に VISIBLE_IF 条件が設定され、REMEMBER_BETW_TABS が [YES] に設定され、要素に VALIDATE_HIDDEN 属性が設定されている場合は、タブ間の検証を実行する必要があります。ExtraView では、このチェックが自動的に実行されます。

注: [Field Required] や [Field Visible If] などの条件属性は、1 つのフィールドに複数回適用できます。この機能を使用する場合、検証では 'OR' ロジックが使用されます。例えば、次のような 2 つの [Field Visible If] ルールを設定できます。

- (a) [ステータス] が [未解決] である場合に、[action] というフィールドが表示される。
- (b) [ステータス] が [修正済み] である場合に、[action] というフィールドが表示される。

このルールでは、(a) または (b) のいずれかが真であれば [action] フィールドが表示されず。

レイアウトの消去および削除



[画面およびレポートのレイアウト] 画面

レイアウトの消去

1. レイアウトを消去するには、[レイアウトのクリア] ボタンをクリックします。
2. 表示される警告メッセージの指示に従います。
3. [レイアウトを保存] をクリックします。

レイアウトの削除

1. [レイアウトを削除] ボタンをクリックします。
2. 表示される警告メッセージの指示に従います。
3. [レイアウトを保存] をクリックします。

埋め込みレイアウトの追加

この機能により、管理者は一連のレイアウトを設計して、追加画面や編集画面などのマスター・レイアウトで使用することができます。これらのレイアウトは、トリガ・フィールドの値に基づいています。例えば、追加する issue のカテゴリに従って、レイアウト内で一連のフィールドを設定するとします。[Issue Type] というタイトルの [ISSUE_TYPE] UDF フィールドの異なる値として、ソフトウェア、ハードウェア、ドキュメントごとに異なる埋め込みレイアウトを表示する場合は、[Issue Type] フィールドを選択します。

1. 最初に、異なる埋め込みレイアウトを表示するトリガとして使用されるフィールドを決定します。例えば、[Issue Type] フィールドの異なる値として、ソフトウェア、ハードウェア、ドキュメントごとに異なる埋め込みレイアウトを表示する場合は、[Issue Type] フィールドを選択します。
2. [ExtraView アドミニストレーション] 画面で、[レイアウトおよび表示] タブの [レイアウト・タイプの作成 / 変更] を選択します。

ExtraView アドミニストレーション アカウント: Bill Smith | ロール: Administrator | ビジネスエリア および

ユーザ リスト フィールド **レイアウトおよび表示** ワークフロー 電子メール通知 システム制御 高度な管理

- **スクリーンとレポートのレイアウト・エディタ**
すべての画面とレポートのレイアウトの作成と変更を行います。
- **レポートとクエリの設定**
このキーで、レポートとクエリに影響する動作設定を変更する許可を付与します。
- **サインオン・メッセージ**
すべてのユーザのホーム・ページに表示されるサインオン・メッセージを変更するためのアクセスを提供します。
- **フォントと色の設定**
ExtraViewの画面とレイアウト内で使用されるフォントと色の動作設定にアクセスします。
- **表示の設定**
画面とレイアウトの表示方法に影響する動作の制御と設定を行います。
- **レイアウト・タイプの作成 / 変更**
定義できる画面とレポートのレイアウトのタイプのリストを保持 

[ExtraView アドミニストレーション] 画面

次の画面が表示されます。

レイアウト・タイプの作成 / 変更 アカウント: Bill Smith | ロール: Admin

[Return](#)

[Add](#) データベースに新しいレイアウト・タイプを追加

	名前	タイトル	使用	作成	最終更新日
Edit	EMAIL_BRIEF	Email Body - brief	REPORT	2003/10/01 ExtraView	2003/10/01 ExtraView
Edit	ADD_PROBLEM	Add Problem Screen	SCREEN	2003/10/01 ExtraView	2003/10/01 ExtraView
Edit	EDIT_PROBLEM	Edit Problem Screen	SCREEN	2003/10/01 ExtraView	2003/10/01 ExtraView
Edit	SEARCH_QUICKLIST	Report - Quicklist	REPORT	2003/10/01 ExtraView	2003/10/01 ExtraView
Edit	SEARCH_DETAILED	Report - Detailed	REPORT	2003/10/01 ExtraView	2003/10/01 ExtraView
Edit	RELEASE	Release Record	SCREEN	2003/10/01 ExtraView	2003/10/01 ExtraView
Edit	SEARCH_EXPANDED	Search - Full Search	SEARCH	2003/10/01 ExtraView	2003/10/01 ExtraView
Edit	SUMMARY_REPORT	Report - Summary	REPORT	2003/10/01 ExtraView	2003/10/01 ExtraView
Edit	SIMPLE_COL_SELECT	Standard Column Layout	REPORT	2003/10/01 ExtraView	2003/10/01 ExtraView
Edit	SEARCH_QUICK	Search - Quick Search	SEARCH	2003/10/01 ExtraView	2003/10/01 ExtraView
Edit	EMAIL_FULL	Email Body - full	REPORT	2003/10/01 ExtraView	2003/10/01 ExtraView
Edit	HISTORY	Report - History	REPORT	2003/10/01 ExtraView	2003/10/01 ExtraView
Edit	SEARCH_EMAIL	Email Filter	SEARCH	2003/10/01 ExtraView	2003/10/01 ExtraView
Edit	SEARCH_RGFILTER	Relationship Group Filter	SCREEN	2003/10/01 ExtraView	2003/10/01 ExtraView
Edit	SEARCH_CHART_REPORT	Search Chart Report	SEARCH	2003/10/01 ExtraView	2003/10/01 ExtraView
Edit	DEV_SELECT_TABS	Select tabs for bugs area	SCREEN	2005/01/04 Bill Smith	2005/01/04 Bill Smith

合計 16レコードから選択された 16レコード

[Return](#)

画面およびレポートのレイアウト・タイプ

- ボタンをクリックすると、新しいレイアウト・タイプが ExtraView に追加されます。このレイアウトには、トリガ・フィールドの固定データベース名を付けます。この例では、[ISSUE_TYPE] になります。タイトルは [Issue Type] で、タイプは [画面] になります。
- [アドミニストレーション] セクションの [レイアウトおよび表示] タブに移動します。
- [スクリーンとレポートのレイアウト・エディタ] をクリックします。
- 次に、[システム全体に新しいレイアウトを追加] 選択リストから、作成したレイアウト・タイプを選択します。この場合も、名前は [Issue Type] になります。
- この新しいレイアウトにタイトルを付け、説明を加えます。このレイアウトは、異なる埋め込みレイアウトを作成するための参照用としてのみ使用されます。このレイアウトにフィールドを追加する必要はありません。レイアウトをそのまま保存します。これは、以後作成する埋め込みレイアウトのテンプレートになります。
- [Issue Type] フィールド(この例ではソフトウェア、ハードウェア、ドキュメント)のそれぞれの値について、手順 9 ~ 12 を繰り返します。これらの値それぞれについて、手順 7 で作成したテンプレートから埋め込みレイアウトを作成して保存します。
- 埋め込みレイアウトを追加画面に追加する場合は、該当する追加画面を編集します。まだ設定していない場合は、[Issue Type] フィールドをレイアウトに配置します。
- ここで画面上に埋め込みレイアウトを置きます。この例では、レイアウトの名前は [LAYOUT.ISSUE_TYPE] です。埋め込みレイアウトには、マスター・レイアウト内の適切な列間隔を指定します。
- [LAYOUT.ISSUE_TYPE] エントリの横にある属性アイコンをクリックします。このアイコンは  のように表示されます。[Issue Type] フィールドにレイアウト要素属性 [Selected] を追加し、適切な値を選択します。例えば、この埋め込みレイアウトがソフトウェアの値で使用される場合は、[ソフトウェア] を選択してレイアウトに戻ります。
- レイアウトを保存します。レイアウトは、**選択した他のレイアウト要素属性**を追加する前の、この時点で保存する必要があります。新しいレイアウトがレイアウトのリストに表示されます。[Select by] フィールドには [Issue Type] の値が入力され、[Select by Value] には [ソフトウェア] が値として入力されます。
- 他のそれぞれの値([ドキュメント]と[ハードウェア])について、手順 9 ~ 12 を繰り返します。各レイアウトを保存すると、[LAYOUT.ISSUE_TYPE] フィールドのレイアウト要素属性の編集に直接移行して、選択した値を変更し、レイアウトを保存できます。この手順のそれぞれの値について、新しい埋め込みレイアウトが自動的に作成されます。

リピーティング・レコード・レイアウトの作成

リリース・レイアウトなどのリピーティング・レコードは、特殊なケースです。これらのレコードは個別の画面ではなく、他の画面レイアウトに埋め込まれている画面レイアウトです。これにより、例えば各 issue 内に複数のリリース・レコードがある issue を設定するシステムを作成できます。異なる複数のレイアウトを設計して、必要に応じて追加画面と編集画面の両方に埋め込むことができます。

この場合、レイアウト自体にレイアウトを埋め込んで再帰が発生しないように注意してください。1 つのリピーティング行レコードしか使用しない(各 issue について 1 つのリリースが固定されている)システムを必要とする場合は、リピーティング行レコードを使用すべきではありません。他のすべてのフィールドと同様に、適切な画面レイアウトおよびレポート・レイアウトに、単純に適切なリリース・フィールドを埋め込む方法をとってください。この方法のほうが効率的で、またリリース・フィールドの追加を許可するプロンプトが画面に表示されることもありません。

リピーティング・レコードには、次の名前とデフォルトの画面タイトルを持つフィールドがあります。

RELEASE_FOUND	Version Found
RELEASE_FIXED	Version Fixed
RELEASE_SEVERITY_LEVEL	重要度レベル
RELEASE_PRIORITY	優先度
RELEASE_STATUS	ステータス
RELEASE_OWNER	所有者
RELEASE_ASSIGNED_TO	担当者
RELEASE_RESOLUTION	解決策

これらの各フィールドは、セキュリティ許可キー(追加画面用に 1 つ、編集および検索画面用に 1 つ)で保護されています。これらのセキュリティ許可キーは、「Grant Security Permissions」セクションで説明したように、標準的な方法で操作されます。

注: セキュリティ許可キーには、PR_ADD_PROBLEM.RELEASE と PR_RESOLUTION.RELEASE という 2 つの種類があります。これらのキーによってリピーティング・レコード全体の存在が制御され、個別のユーザ・ロールについて、構造全体の有効または無効が切り換えられます。リピーティング・レコード全体に対するアクセスの有効/無効を切り換えるには、書き込み権限を使用します。

メインの issue レコードに追加されるのではなく、リピーティング・レコードに添付される UDF を作成することもできます。ただしその場合は注意が必要です。例えば、リピーティング・レコードの各行にログ・エリアなどのフィールド表示タイプを追加することは、ユーザにとって、またレポート作成にとって問題になります。したがって、ログ・エリア・フィールドはリピーティング・レコード・レイアウトではサポートされていません。リピーティング・レコードに添付される UDF など、UDF の設定方法については、データ辞書に関するセクションで説明されています。

ExtraView では、issue が issue レベルだけでなくリピーティング・レコード・レベルでもトラッキングされるため、リピーティング・データは、メインの issue データの下の説明のような、長いテキスト・エリアの上に標準のレイアウトでグループ化されます。単一行のリピーティング・レコード・レイアウトを作成すると、[セキュリティ権限の付与] で設定した許可に従って、これらのフィールドが追加画面と編集画面に表示されます。これについては、次のセクションで詳細に説明します。

リピーティング行レイアウトのフィールド制限

リピーティング行のレイアウトでは、次のフィールドはサポートされていません。

- ログ・エリア表示タイプのフィールド
- 複数値表示タイプのフィールド
- [フィールド所属先] の値が [リピーティング・レコード] に設定されていないデータ辞書フィールド

リピーティング・レコード・レイアウトの作成

1. [Administration] メニューの [レイアウトおよび表示] タブで、[スクリーンとレポートのレイアウト・エディタ] をクリックします。
2. 画面上のリストの [Edit] ボタンをクリックします。

次の画面が表示されます。

画面およびレポートのレイアウト

アカウント: Bill Smith | ロール: Administrator | ビジネスエリア: および プロジェクト: 不具合 および Data | 関係者リスト

タイトル: Repeating Record 説明: Default layout for Release Record ローカライズ

ビジネスエリア: Master Area プロジェクト: Master Project

タイプ: Release Record ユーザ・ロール: *全ユーザ・ロールのデフォルト・レイアウト*

	Ins Del	Ins Del	Ins Del	Ins Del
	Col 1	Col 2	Col 3	Col 4
Ins Del Row 1	RELEASE_FOUND	RELEASE_FIXED	RELEASE_STATUS	RELEASE_RESOLUTION

行: 1 列: 1 フィールド名: *リストからフィールドまたはレイアウトを選択*

行間隔: 1 列間隔: 1

必須: Yes No 拡張: なし タブ順序: 列

セルを更新 セルを削除 レイアウトを保存 レイアウトのクリア レイアウトを削除

Return

リリース・レイアウトの追加

3. ExtraView の特定のインスタンスに適するフィールドを次の中から選択して追加します。
 - a. RELEASE_FOUND
 - b. RELEASE_FIXED
 - c. RELEASE_ASSIGNED_TO
 - d. RELEASE_OWNER
 - e. RELEASE_PRIORITY
 - f. RELEASE_SEVERITY_LEVEL
 - g. RELEASE_STATUS – このフィールドはワークフロー・ステータス・ルールで設定されたワークフロー・ルールに従うことに注意してください
 - h. RELEASE_OWNER

さらに、リピーティング・レコード・タイプである、作成した任意の UDF を選択できます。

4. [レイアウトを保存] ボタンをクリックして、現在のレイアウトを保存します。

適切な画面へのリピーティング・レコード・レイアウトの追加

1. [Administration] 画面で [スクリーンとレポートのレイアウト・エディタ] をクリックします。
2. 行のドロップダウン・リストから行を選択するか、新しい行を挿入する [Insert] ボタンをクリックして、リピーティング行情報を追加する行を選択します。
3. 追加画面と編集画面の両方で、ドロップダウン・リストから [LAYOUT.RELEASE] を選択します。
4. 変更を保存して結果を表示します (レイアウト内にレイアウトを埋め込む)。

	Ins Del	Col 1	Ins Del	Col 2	Ins Del	Col 3
Row 1	Ins Del	ID	DATE_CREATED	TIMESTAMP		
Row 2	Ins Del	STATUS	ORIGINATOR	LAST_CHANGE_USER		
Row 3	Ins Del	PRIORITY	ASSIGNED_TO			
Row 4	Ins Del	SHORT_DESCR				
Row 5	Ins Del	PRODUCT_NAME	CATEGORY			
Row 6	Ins Del	LAYOUT_RELEASE				
Row 7	Ins Del	DESCRIPTION				
Row 8	Ins Del	COMMENTS				

[画面およびレポートのレイアウト] 画面

履歴レイアウト

履歴レイアウトでは、プロセス全体で行われた、issue の各フィールドに対するすべての変更が表示されます。レポート - 履歴レイアウトには、監査証跡プロセスの一部として表示させたいフィールドが表示されます。履歴レイアウトには、次のような重要なポイントがあります。

- 監査証跡は、レイアウト上のフィールドだけでなく、すべてのフィールドについて保持されます。したがって、レイアウトにはいつでもフィールドを追加でき、新しいフィールドには issue の作成時に遡って監査証跡が表示されます。

- チェックボックス・フィールドが編集レイアウトにあって追加レイアウトになく、issue を最初に更新したときにフィールドの値を変更していない場合、このフィールドには変更の状態が [N] (またはデータ辞書で定義したオフを示すタイトル)と表示されます。これは、ExtraView では、フィールドが追加画面における null 状態から編集画面における N に変更されたと解釈されるためです。これを防ぐには、フィールドのデフォルト値をデータ辞書で [N] に定義します。

レイアウトの添付ファイル

以下に示すセキュリティ許可により、追加画面および編集画面のレイアウトからファイルを添付する許可を管理できます。これらのセキュリティ許可は、PR_ADD_PROBLEM および PR_RESOLUTION の両方のキーのセットそれぞれに対応するものがあります。

フィールド/セキュリティ許可キー	説明
ATTACHMENT	<p>このキーで、添付ファイルを作成する機能全体を制御します。このキーに対する書き込み許可は、添付ファイルの作成または保守を行うユーザ・ロールで必要になります。読み取り許可がない場合は、レイアウトに添付ファイル・レコードが配置されません。</p> <p>このフィールドは、詳細レポートなどの添付ファイルを表示する場合に、レポートに配置する唯一のフィールドです。添付ファイル用の残りのフィールドは、フィールドに読み取り許可があるかどうかに従い、ExtraView によってレポート上に配置されます。</p> <p>レポート上の添付ファイルに対する読み取り許可がある場合は、レポートに [View attachment] ボタンが自動的に配置され、これによって issue のすべての添付ファイルの内容を直接表示できます。</p>
ATTACHMENT_ID	ExtraView で使用される内部 ID です。どのようなユーザ・ロールに対しても、このキーについての許可を与えることはほとんどありません。
ATTACH_CONTENT_TYPE	添付ファイルの MIME コンテンツ・タイプです。このキーの表示は、読み取り許可で管理できます。このフィールドに書き込むことはできません。
ATTACH_CREATED_BY_USER	添付ファイルを作成したユーザ名です。この場合もフィールドに書き込むことはできず、表示および非表示は読み取りフラグによって管理します。
ATTACH_DATE_CREATED	添付ファイルが作成された日付です。この場合もフィールドに書き込むことはできず、表示および非表示は読み取りフラグによって管理します。
ATTACH_FILE_DESC	ユーザが入力する、添付ファイルについての説明です。このフィールドでは、読み取りと書き込みの両方を許可できます。

フィールド/セキュリティ許可キー	説明
ATTACH_FILE_NAME	issue に添付されているファイルの名前です。この場合もフィールドに書き込むことはできず、表示および非表示は読み取りフラグによって管理します。
ATTACH_FILE_SIZE	添付ファイルのサイズ(バイト数)です。この場合もフィールドに書き込むことはできず、表示および非表示は読み取りフラグによって管理します。
ATTACH_PATH	ファイル作成者のコンピュータのローカル・ファイル・システムにある、ファイルの元の保存場所へのパスです。この場合もフィールドに書き込むことはできず、表示および非表示は読み取りフラグによって管理します。

ユーザ・ロールに許可が与えられている場合、issue には、追加画面と編集画面の両方から複数のファイルを添付することができます。ただし、issue の追加画面から添付ファイルを削除することはできません。ユーザが issue 追加プロセスで誤ってファイルを添付した場合は、そのまま続行し、issue をデータベースに追加し、issue を編集してから添付ファイルを削除します。

issue の更新時に issue に添付ファイルを追加すると、issue 自体が直ちに更新されます。

添付と通知						
	Add	説明	ファイル名	所有者	サイズ	更新済み
添付ファイル	View Desc	issueのイメージ	bear.jpg	Bill Smith	117048	2005/05/27
	View Desc	この問題の解決策	security_permission_2.xls	Bill Smith	40960	2005/05/24

Notification Generate Email CC Email [@](#)

[Customer](#) [メールングリスト](#) [Marv Brown](#)

[更新](#) [削除](#) [複製](#) [関係者リスト](#) [履歴](#) [閉じる](#)

編集画面の添付ファイル表示部分

2005/05/30 [Copy](#)

ID # 10217 cloned from ID # 10216

添付ファイル

説明	ファイル名	サイズ	更新者
View issueのイメージ	bear.jpg	117048	Bill Smith 2005/05/27
View この問題の解決策	security_permission_2.xls	40960	Bill Smith 2005/05/24

[Refresh](#) [Return](#) 1の1へのレコード 1

詳細レポートの添付ファイル表示部分

レイアウト内のフィールド制限

フィールドはあらゆるレイアウトに無制限に追加できるわけではありません。また、リピーティング・レコード・レイアウトに多数のフィールドを配置することには制限があります。次の表に、すべての事前定義フィールドとそれらの使用に関する制限事項を示します。そのフィールドがデータ辞書のエントリで正しく定義されている限り、ユーザ定義フィールドはすべてのレイアウトに配置することができます。

データ辞書のフィールド名 – DATABASE フィールド・タイプ	説明
ALT_ID	リピーティング・レコード・レイアウトを除くレイアウト
AREA	このフィールドは、追加レイアウトまたは編集レイアウトに直接配置することはできません。ExtraView では、ビジネス・エリアが有効になっている場合に、このフィールドがレイアウト上に置かれます。リピーティング・レコードでは使用不可
ASSIGNED_TO	リピーティング・レコード・レイアウトを除くレイアウト
ATTACHMENT_ID	内部使用のみ
ATTACH_CONTENT_TYPE	添付ファイル・レコードの一部として、レイアウト上に自動的に配置されます。セキュリティ許可により管理
ATTACH_CREATED_BY_USER	添付ファイル・レコードの一部として、レイアウト上に自動的に配置されます。セキュリティ許可により管理
ATTACH_DATE_CREATED	添付ファイル・レコードの一部として、レイアウト上に自動的に配置されます。セキュリティ許可により管理
ATTACH_FILE_DESC	添付ファイル・レコードの一部として、レイアウト上に自動的に配置されます。セキュリティ許可により管理
ATTACH_FILE_NAME	添付ファイル・レコードの一部として、レイアウト上に自動的に配置されます。セキュリティ許可により管理
ATTACH_FILE_SIZE	添付ファイル・レコードの一部として、レイアウト上に自動的に配置されます。セキュリティ許可により管理
ATTACH_PATH	添付ファイル・レコードの一部として、レイアウト上に自動的に配置されます。セキュリティ許可により管理
AVAILABLE_FOR_DOWNLOAD	レイアウト上で使用不可
CATEGORY	リピーティング・レコード・レイアウトを除くレイアウト
CONTACT	リピーティング・レコード・レイアウトを除くレイアウト
DATE_CLOSED	編集画面での読み取り専用
DATE_CLOSED_SINCE	レポート・フィルタのみ
DATE_CODE_FREEZE	レイアウト上で使用不可

データ辞書のフィールド名 – DATABASE フィールド・タイプ	説明
DATE_CREATED	追加および編集画面での読み取り専用。リピーティング・レコードでは使用不可
DATE_CREATED_DAY	追加および編集画面での読み取り専用。リピーティング・レコードでは使用不可
DATE_CREATED_MONTH	追加および編集画面での読み取り専用。リピーティング・レコードでは使用不可
DATE_CREATED_SINCE	追加および編集画面での読み取り専用。リピーティング・レコードでは使用不可
DATE_CREATED_TRUNC	追加および編集画面での読み取り専用。リピーティング・レコードでは使用不可
DATE_CREATED_WEEK	追加および編集画面での読み取り専用。リピーティング・レコードでは使用不可
DATE_CREATED_YEAR	追加および編集画面での読み取り専用。リピーティング・レコードでは使用不可
DATE_FIRST_CUSTOMER_SHIP	レイアウト上で使用不可
DATE_LAST_STATUS_CHANGE	編集画面での読み取り専用。追加画面では使用不可。リピーティング・レコードでは使用不可
DATE_LAST_STATUS_CHANGE_SINCE	レポート・フィルタのみ
DATE_RELEASE_TO_QA	レイアウト上で使用不可
DAYS_IN_STATUS	レポートのみ
DAYS_OPEN	レポートのみ
ID	追加および編集画面での読み取り専用。リピーティング・レコードでは使用不可
ITEM_ID	レイアウト上で使用不可
LAST_CHANGE_USER	編集画面での読み取り専用。追加画面では使用不可。リピーティング・レコードでは使用不可
LAYOUT	レイアウト上で使用不可
LAYOUT_TYPE	レイアウト上で使用不可
MODULE_ASSIGNED	このフィールドは廃止されており使用できません。
MODULE_DATE_CREATED	このフィールドは廃止されており使用できません。
MODULE_ID	リピーティング・レコードでは使用不可
MODULE_NAME	レイアウト上で使用不可
MODULE_PRODUCT	このフィールドは廃止されており使用できません。
MODULE_STATUS	このフィールドは廃止されており使用できません。
MODULE_TIMESTAMP	このフィールドは廃止されており使用できません。

データ辞書のフィールド名 – DATABASE フィールド・タイプ	説明
MODULE_TITLE	レイアウト上で使用不可
MODULE_TYPE	このフィールドは廃止されており使用できません。
MODULE_VERSION	このフィールドは廃止されており使用できません。
MONTHS_IN_STATUS	レポートのみ
MONTHS_OPEN	レポートのみ
ORIGINATOR	リピーティング・レコード・レイアウトを除くレイアウト
OWNER	リピーティング・レコード・レイアウトを除くレイアウト
PRIORITY	リピーティング・レコード・レイアウトを除くレイアウト
PRIVACY	リピーティング・レコード・レイアウトを除くレイアウト
PROBLEM_RELEASE_ID	レイアウト上で使用不可
PRODUCT_LINE	リピーティング・レコード・レイアウトを除くレイアウト
PRODUCT_NAME	リピーティング・レコード・レイアウトを除くレイアウト
PRODUCT_NAME_HIST	レイアウト上で使用不可
PROJECT	このフィールドは、追加レイアウトまたは編集レイアウトに直接配置することはできません。ExtraView では、ビジネス・エリアが有効になっている場合に、このフィールドがレイアウト上に置かれます。リピーティング・レコードでは使用不可
RELATIONSHIP_GROUP_ID	レイアウト上で使用不可
RELATIONSHIP_GROUP_OWNER	レイアウト上で使用不可
RELATIONSHIP_GROUP_TITLE	レイアウト上で使用不可
RELATIONSHIP_GROUP_TYPE	レイアウト上で使用不可
RELATIONSHIP_GRP_PARENT_ID	レイアウト上で使用不可
RELEASE	レイアウト上で使用不可。[LAYOUT.RELEASE] フィールドを追加および編集画面に埋め込んで、リピーティング・レコードに対応できます。
RELEASE_ASSIGNED_TO	リピーティング・レコードおよびレポートのみ
RELEASE_DATE_CREATED	リピーティング・レコードおよびレポートのみ
RELEASE_DIRECTORY	レイアウト上で使用不可
RELEASE_DOC_FILENAME	レイアウト上で使用不可
RELEASE_FIXED	リピーティング・レコードおよびレポートのみ
RELEASE_FOUND	リピーティング・レコードおよびレポートのみ
RELEASE_FOUND_HIST	レイアウト上で使用不可
RELEASE_OWNER	リピーティング・レコードおよびレポートのみ

データ辞書のフィールド名 – DATABASE フィールド・タイプ	説明
RELEASE_PRIORITY	リピーティング・レコードおよびレポートのみ
RELEASE_PRODUCT	リピーティング・レコードおよびレポートのみ
RELEASE_RESOLUTION	リピーティング・レコードおよびレポートのみ
RELEASE_SEVERITY	リピーティング・レコードおよびレポートのみ
RELEASE_STATUS	リピーティング・レコードおよびレポートのみ
RELEASE_TIMESTAMP	リピーティング・レコードおよびレポートで読み取り専用
RELEASE_TYPE	廃止 – 使用不可
REL_GRP_DATE_CREATED	レイアウト上で使用不可
REL_GRP_TIMESTAMP	レイアウト上で使用不可
RESOLUTION	リピーティング・レコード・レイアウトを除くレイアウト
SEVERITY_LEVEL	リピーティング・レコード・レイアウトを除くレイアウト
SHORT_DESCR	リピーティング・レコード・レイアウトを除くレイアウト
START_DATE	レポートのみ
START_UPDATE	レポートのみ
STATUS	リピーティング・レコード・レイアウトを除くレイアウト
STATUS_HIST	レイアウト上で使用不可
STOP_DATE	レポートのみ
STOP_UPDATE	レポートのみ
TIMESTAMP	追加および編集画面での読み取り専用。リピーティング・レコードでは使用不可
TIMESTAMP_DAY	追加および編集画面での読み取り専用。リピーティング・レコードでは使用不可
TIMESTAMP_MONTH	追加および編集画面での読み取り専用。リピーティング・レコードでは使用不可
TIMESTAMP_SINCE	追加および編集画面での読み取り専用。リピーティング・レコードでは使用不可
TIMESTAMP_TRUNC	追加および編集画面での読み取り専用。リピーティング・レコードでは使用不可
TIMESTAMP_WEEK	追加および編集画面での読み取り専用。リピーティング・レコードでは使用不可
TIMESTAMP_YEAR	追加および編集画面での読み取り専用。リピーティング・レコードでは使用不可
WEEKS_IN_STATUS	レポートのみ
WEEKS_OPEN	レポートのみ

データ辞書のフィールド名 – LABEL フィールド・タイプ	説明
CC_EMAIL	レイアウト上で使用不可。このフィールドは、通知フィールドと合わせて追加および編集レイアウトに自動的に追加されます。
DELETE_BUTTON	レポートのみ
EDIT_BUTTON	レポートのみ。このフィールドは、すべてのカスタム・レポートに自動的に追加されます。
EMAIL	レイアウト上で使用不可
FILTER_CHILD_VALUES	レイアウト上で使用不可
GENERATE_EMAIL	レイアウト上で使用不可。このフィールドは、通知フィールドと合わせて追加および編集レイアウトに自動的に追加されます。
HISTORY_BUTTON	レポートのみ
KEYWORD	レポート・フィルタのみ
PROBLEM	レイアウト上で使用不可
RELATIONSHIP_GROUP_LINK	レイアウト上で使用不可
REPORT	レイアウト上で使用不可
REPORT_BY	レイアウト上で使用不可
REPORT_NAME	レイアウト上で使用不可
REPORT_OUTPUT	レイアウト上で使用不可
REPORT_TYPE	レイアウト上で使用不可
SORT	レイアウト上で使用不可
VIEW_BUTTON	レポートのみ。このフィールドは、すべてのカスタム・レポートに自動的に追加されます。

データ辞書のフィールド名 – SCREEN フィールド・タイプ	説明
ADD_PROBLEM	レイアウト上で使用不可
ADD_PROBLEM_SUMMARY	レイアウト上で使用不可
ADMINISTRATION	レイアウト上で使用不可
ATTACHMENT	添付ファイル・レコードを追加および編集画面に配置するフィールドです。詳細レポートとクイックリストにも配置することができますが、レポート・フィルタ・レイアウトに置くことはできません。[ATTACH_FILE_NAME] や [ATTACH_FILE_SIZE] などの個別のフィールドにセキュリティ許可を設定して、表示を管理します。

データ辞書のフィールド名 – SCREEN フィールド・タイプ	説明
BATCH_COMMANDS	レイアウト上で使用不可
COMPANY_NAME	レイアウト上で使用不可
CUSTOM_EMAIL	レイアウト上で使用不可
HOME_PAGE	レイアウト上で使用不可
PAGE_SIZE	レイアウト上で使用不可
PROBLEM_RELEASE_DELETE	レイアウト上で使用不可
PROBLEM_SUMMARY_EDIT	レイアウト上で使用不可
PROMO	レイアウト上で使用不可。このフィールドはサインオン画面に自動的に含まれ、ページ内に表示されるフィールドのタイトルに HTML を含めることができます。この HTML では画像や JavaScript を使用できます。
QUICK_LIST	レイアウト上で使用不可
RELATIONSHIP_GROUP	レイアウト上で使用不可
SEARCH_REPORT	レイアウト上で使用不可
SECURITY_GROUP	レイアウト上で使用不可
SECURITY_KEYS	レイアウト上で使用不可
SECURITY_PERMISSION	レイアウト上で使用不可
SIGN_ON	レイアウト上で使用不可
STATUS_CHANGE	レイアウト上で使用不可
SYSTEM_LOG_TYPE	レイアウト上で使用不可
UDF	レイアウト上で使用不可
USER_ACCOUNTS	レイアウト上で使用不可

データ辞書のフィールド名 – SESSION および SPECIAL フィールド・タイプ	説明
USER	レイアウト上で使用不可
SYSDATE	レイアウト上で使用不可

レポートおよびクエリ設定

これらの設定により、ExtraView 内のレポートとクエリの動作を制御します。これらの設定は次のように変更できます。

[レイアウトおよび表示]メニュー – [レポートとクエリの設定]	標準的な値	説明
ABBREVIATED_HISTORY	NO	値が YES の場合は、変更されたフィールドのみが履歴レコードに表示され、監査証跡を表示するためには履歴レイアウトは使用されません。値が NO の場合は、監査証跡の表示に履歴レイアウトが使用されます。YES の場合には NO の場合よりも結果が簡潔に表示されますが、変更を確認するための特定のレイアウトはありません。
ABBREVIATED_HOME_PAGE	NO	値が NO の場合は、サインオン・メッセージと、最大 3 つのユーザ定義レポートが ホーム・ページ に表示されます。値が YES の場合は、サインオン・メッセージだけが表示されます。
ALLOWED_ATTACH_SEARCH_FILE_EXT	txt、html、doc、htm、application/base64 ..	ユーザが [検索 添付ファイル?] ボックスにチェックを入れた場合に、このリストでキーワード検索の対象になる添付ファイルの形式。検索されるリスト内で、これらの拡張子を持たないファイルはスキップされます。この機能は、画像ファイルなどのファイル検索をスキップして、検索プロセスを効率化するために使用されます。
ALLOW_CHART_PRODUCT	YES	PRODUCT に基づいてユーザがグラフを作成できます。有効な値は YES と NO です。NO に設定すると、PRODUCT に基づいてグラフを表示するオプションが表示されません。
ALLOW_CHART_RELEASE	YES	RELEASE リピーティング・レコードに基づいてユーザがグラフを作成できます。有効な値は YES と NO です。NO に設定すると、RELEASE に基づいてグラフを表示するオプションが表示されません。
ALLOW_CHART_STATUS	YES	STATUS に基づいてユーザがグラフを作成できます。有効な値は YES と NO です。NO に設定すると、STATUS に基づいてグラフを表示するオプションが表示されません。
ALLOW_SEARCH_TEXT_UDFS	NO	YES に設定すると、キーワード検索に表示タイプが Text の UDF が含まれます。これは検索スピードに影響する場合があります。有効な値は YES と NO です。
ALLOW_UNLIMITED_SEARCH	YES	検索時のクエリで返される行数の制限の有無を指定します。有効な値は YES と NO です。サイズの大きいデータベースの場合、一般的にシステム管理者は、大量のリソースを消費するユーザのレポートの実行を禁止します。これは LIMIT_QUERY_ROWS と合わせて使用されます。
DEFAULT_SORT_ORDER	ID:DESC	レポートのデフォルトのソート順。
DEFAULT_TEXT_REPORT_DELIMITER	:	テキスト・レポートのデータ・フィールド間に置かれる単一の文字。結果をテキスト・ファイルに出力する場合、または API / CLI を通じて出力する場合は、この文字を使用して個々のフィールドを区切ります。
DRILLDOWN_ATTRIBUTE	ID	検索基準に使用するデータ辞書の入力名。これは一般的に issue の ID が使用されますが、システム構成に従って ALT_ID または別のフィールドになる場合があります。
EXCEL_CELL_CHAR_LIMIT	31000	Excel の単一のセルにエクスポートされる文字数を指定します。フィールドのテキスト長がこの数を超える場合は、余分な文字が切り捨てられます。Excel では 1 つのセルで最大 32,000 文字を使用できるため、この数値は小さくなります。

[レイアウトおよび表示]メニュー – [レポートとクエリの設定]	標準的な値	説明
FILL_IN_REPEATING_RECORDS	YES	テキスト形式および Microsoft Excel 形式のレポートで、空白のリピーティング行を親データで埋めるかどうかを指定します。NO を選択すると、各リピーティング行の子の値として親データが反復されます。値は YES または NO になります。
FOLD_TEXT_POSITION	100	テキスト・エリア および ログ・エリア・フィールドでテキスト行を折り返す文字位置を指定します。65 未満の数値を指定することはできません。99999 など大きい数値を指定すると、入力されたテキストは折り返されません。
FOLD_WORD_POSITION	100	テキスト・エリア および ログ・エリア・フィールドで文字数の多い単語を分割する文字位置を指定します。65 未満の数値を指定することはできません。99999 など大きい数値を指定すると、文字数の多い単語が分割されません。
HIGHLIGHT_LAST_CHANGE_USER	YES	YES に設定すると、電子メール通知や履歴レポートで、LAST_CHANGE_USER フィールドが常に強調表示されます。有効な値は YES と NO です。
HIGHLIGHT_TIMESTAMP	YES	YES に設定すると、電子メール通知や履歴レポートで、TIMESTAMP フィールドが常に強調表示されます。有効な値は YES と NO です。
HOME_PAGE_REFRESH_SECONDS	900	ホーム・ページ が自動的に更新される頻度を、秒数で指定します。0 を指定すると、ホーム・ページ は更新されません。これによって、新しい issue の発生と更新に従ってホーム・ページのレポートの情報が変更されるため、ユーザは常に更新されたデータを見ることができます。
INSERT_REPORT_HEADERS	YES	この設定により、Microsoft Excel または Text で出力されるレポートにヘッダおよびフッタ情報を挿入するかどうかを制御します。値は YES または NO を指定します。ヘッダおよびフッタは、常にブラウザおよび Microsoft Word へのレポート出力用に生成されます。
ITEM_TABLE_CARDINALITY		索引付けされたクエリの最適な順序。
LIMIT_QUERY_ROWS	10000	検索クエリによって返される最大行数。これは ALLOW_UNLIMITED_SEARCH と合わせて使用され、クエリおよび MAX_UNLIMITED_ROW_COUNT によって返される最大行数を指定します。
LIMIT_WORD_DETAILED_RECORDS	10000	MS Word レポートにおける詳細なレコードの最大数。Microsoft Word で、サイズの大きい HTML レポートのダウンロードまたは読み込み時にフリーズするバグが発生した場合に使用します。
LIMIT_WORD_RECORDS	25000	MS Word レポートの検索で返される最大レコード数。大量の HTML データの読み込み時に Word がフリーズするバグが発生した場合に、Word に送信される HTML データの量を制限するために使用します。
LOG_AREA_DISPLAY_CHARS	250	issue 編集画面で切り捨てられない、ログ・エリア・フィールドの最大文字数。切り捨てが行われると '詳細' という文字が表示され、ユーザがこれをクリックすると残りのテキストが表示されます。80 未満または 32000 を超える文字は設定しないでください。
MENUBAR_SEARCH_TARGET_WIN	main	ナビゲーション・バーから issue に移動すると、メイン・ウィンドウのナビゲーション・バーの横に表示される値が MAIN になります。値を _BLANK にすると、新しいウィンドウが表示されます。

[レイアウトおよび表示]メニュー – [レポートとクエリの設定]	標準的な値	説明
MINIMUM_SEARCH_FIELDS	0	キーワード検索を実行する前にさらに選択する必要があるフィルタ数。リソースが多量に消費されるデータベース全体に対する検索を、ユーザが行わないように指定するものです。小規模のインストールでは 0、中規模のインストールでは 1、大規模なインストールでは 2 以上を使用します。
MS_OFFICE_CHARSET	UTF-16LE	Microsoft Office 製品に送信されるレポート用のデフォルトの文字セット。デフォルト値は UTF-16LE です。この値は、MS Office の英語バージョン、およびその他のほとんどの各国語バージョンに適します。
RECORDS_PER_PAGE	20, 100, 500	レポートでユーザが選択可能な、表示ページあたりのレコード数。これらの値が [検索/レポート] 画面のリスト・ボックスに入力されます。[ALLOWED_UNLIMITED_SEARCH] が YES の場合は、値のリストに Unlimited が付加されます。
REFRESH_LIST_MAX_SIZE	200	リストがこのサイズより小さく、有効な値の関係についてリフレッシュ JavaScript オプションが選択されている場合に、JavaScript を使用した高速の更新が行われます。管理者はこの設定により、メタデータをブラウザに読み込んで高速の更新を行うか、サーバからメタデータ・リストを更新するという時間がかかる方法をとるかという選択肢をユーザに提供できます。
REPORT_FILTER_BY_CURRENT_ROLE	NO	NO に設定すると、現在のロールに応じたレポートだけが、ユーザの [検索/レポート] ページに表示されます。一般的にはこの場合、パーソナル・レポート、公開レポート、およびその他現在のロールに応じたレポートが表示されます。YES に設定した場合は、他のロールに対応するレポートのうち表示可能なものも表示されます。
REPORT_IN_NEW_WINDOW	NO	NO に設定すると、ExtraView のメイン・ウィンドウに [Quicklist] と [Detailed Report] が表示されます。YES に設定すると、[Quicklist] と [Detailed Report] が新しいウィンドウに表示されます。
REPORT_LABELS_POSITION	TOP	レポート上のデータに対するラベルの位置を指定します。有効な値は LEFT と TOP です。値を LEFT に設定すると、目的に従って定義されたレイアウトが詳細レポートで使用されます。値を TOP に設定すると、詳細レポートが 1 つの列で、ラベルが左に、値が上から下に表示されます。フィールドの順序は詳細レポートのレイアウトに従って、左から右、上から下の順序になります。
REPORT_SUPPRESS_BLANK_LINES	YES	YES に設定すると、詳細レポートでデータ値がすべて null であるすべての行が表示されなくなります。有効な値は YES と NO です。これは、空白のセルを多く含むレポートの長さを短縮するために使用します。
REPORT_WITH_FIXED_WIDTH_FONT	NO	YES に設定すると、表示タイプがテキスト・エリアおよびログ・エリアであるフィールドの内容が、FIXED_WIDTH_FONT で表示されます。NO に設定すると、これらのフィールドの内容が DEFAULT_FONT を使用して表示されます。この設定は、編集画面のログ・エリア・フィールドの表示にも適用されます。

[レイアウトおよび表示] メニュー – [レポートとクエリの設定]	標準的な値	説明
RESTRICT_ROLE_BASED_REPORTS		この設定は COMPANY_NAME の値をとるか、空白になります。COMPANY_NAME に設定すると、特定のユーザー・ロール用に保存されているレポートを見ることができるのは、動作設定 DEFAULT_USER_GROUP で定義されたロールを持ち、会社名がレポート作成者の会社名と一致するユーザーだけになります。COMPANY_NAME に設定しない場合は、ユーザーの会社名にかかわらず、あるユーザー・ロール用に保存されているすべてのレポートを見ることができます。
SEARCH_ATTACH_THRESHOLD	100000000	パフォーマンスに影響する旨の警告が出されることなくユーザーが検索可能な、添付ファイルのサイズを指定します。検索される添付ファイルのサイズがこの値を超えると、ユーザー画面にダイアログ・ボックスが表示され、検索を続行するかどうかを確認されます。

サインオン・メッセージ

多くの組織で、サインオン・メッセージ画面が、組織のメンバーに対するシステム全体にわたるメッセージングのための掲示板として使用されています。サインオン・メッセージは、HTML のすべての機能を使用して独自にカスタマイズできます。

The screenshot shows the 'ExtraView アドミニストレーション' (ExtraView Administration) interface. At the top, it displays the user account 'Bill Smith' with the role 'Administrator'. Below the header is a navigation menu with items: ユーザー, リスト, フィールド, レイアウトおよび表示 (highlighted with a red arrow), ワークフロー, 電子メール通知, システム制御, and 高度な管理. The main content area lists several configuration options:

- **スクリーンとレポートのレイアウト・エディタ**
すべての画面とレポートのレイアウトの作成と変更を行います。
- **レポートとクエリの設定**
このキーで、レポートとクエリに影響する動作設定を変更する許可を付与します。
- **サインオン・メッセージ**
すべてのユーザーのホーム・ページに表示されるサインオン・メッセージを変更するためのアクセスを提供します。
- **フォントと色の設定**
ExtraViewの画面とレイアウト内で使用されるフォントと色の動作設定にアクセスします。
- **表示の設定**
画面とレイアウトの表示方法に影響する動作の制御と設定を行います。
- **レイアウト・タイプの作成 / 変更**
定義できる画面とレポートのレイアウトのタイプのリストを保守します。

管理画面

企業のサインオン・メッセージの作成または変更

[ExtraView アドミニストレーション] 画面の [レイアウトおよび表示] で、[サインオン・メッセージ] をクリックします。次の画面が表示されます。



[サインオン・メッセージ] 画面

ブラウザとして Internet Explorer を使用している場合は、[HTML エリア] ユーティリティを使用してサインオン・メッセージの入力と編集を行います。このユーティリティを使用してメッセージを編集する方法については、付録 F を参照してください。その他のブラウザを使用している場合は、表示される編集ボックスでメッセージの HTML を直接編集します。

サインオン・メッセージは、有効な HTML を使用してどのような表示にも変更できます。この画面では、ページの最上部にあるホーム画面に HTML を表示できます。変更が終了したら、[更新] ボタンをクリックします。サインオン・メッセージが表示されたホーム画面の例を次に示します。



ホーム・ページ画面

このサインオン・メッセージの最大長は 4000 文字に制限されています。この文字数は HTML タグおよび属性のすべてを含みます。これを越える文字数を入力しようとするとエ

ラーが発生するため、メッセージのサイズを減らす必要があります。ただし、JavaScript 関数への参照を UserJavaScript.js に含めることが可能です。そこから document.write 文を使用して追加の HTML を生成することができます。

サインオンタグ・ページに有効な HTML を挿入することは、管理者の責任です。システムからすべてのユーザを効果的にロックアウトするサインオン・メッセージを導入することが可能です(例えば、対応する タグがない <A...> タグを用いて)。この場合は、admin ユーザ・アカウントとパスワードで ExtraView にサインオンする必要があります。これによってサインオン・メッセージがバイパスされ、メッセージを編集して、不具合のある HTML を削除することができます。

ここで、動作設定 SIGNON_BORDER_WIDTH を使用できます。これにより、ホーム・ページのサインオン・メッセージの周囲に、指定した幅の枠が付けられます。

フォントと色の設定

フォントと色の設定により、ExtraView のルック・アンド・フィールを指定する動作設定を行うことができます。これらの設定は、「初期設定および構成」セクションで説明されているように、ExtraView の CSS スタイル・シートと合わせて機能します。

次のような動作設定があります。

[レイアウトおよび表示]メニュー – [フォントと色の設定]	標準的な値	説明
BG_ALT_COLOR	#DEF0F8	選択可能なテーブルの背景色を指定します。BG_COLOR の補助色として使用されます。
BG_COLOR	#dddddd	テーブルの背景色を指定します。BG_ALT_COLOR の補助色として使用されます。
BORDER_COLOR	#C7C9C7	[検索/レポート] ページの枠の色を指定します。
DEFAULT_CHART_FONT	SansSerif	表示されるグラフで使用するフォントを指定します。指定するフォントは 1 つだけにして、また ExtraView の実行時にサーバで使用できるようにします。
DEFAULT_FONT	Arial, Helvetica, sans-serif	ほとんどすべてのページの本文で使用されるフォントを指定します。プラットフォームが異なる別のブラウザではリスト内のフォントの一部しか利用できない場合があるため、優先順位に従って 3 つのフォントを指定するようにしてください。
FIXED_WIDTH_FONT	'Lucida Console', Courier, monospace	ユーザ定義フィールドの出力テキストの表示に使用され、また REPORT_WITH_FIXED_WIDTH_FONT が YES である場合に、読み取り専用の説明フィールドと古いログ・エリア・フィールドで使用されるフォントを指定します。
HIGHLIGHT_COLOR	#FF0000	レイアウト要素の Highlight 属性を使用した場合に、テーブルのセルの強調表示色を指定します。
HIGHLIGHT_COLOR_ADD	#FF0000	履歴通知および電子メール通知で、レコードの更新時点で追加されている値を示す色を指定します。
HIGHLIGHT_COLOR_DELETE	#CCCCC	履歴通知および電子メール通知で、レコードの更新時点で削除された値を示す色を指定します。
HIGHLIGHT_COLOR_UPDATE	#ff0000	履歴通知および電子メール通知で、更新された値を示す色を指定します。
LABEL_COLOR	#0000FF	追加、編集、および検索画面のフィールド・ラベルの色

[レイアウトおよび表示] メニュー – [フォントと色の設定]	標準的な値	説明
MENU_TEXT_COLOR	#FFFFFF	ナビゲーション・バーのテキストの色を指定します。
RECORD_COUNTER_COLOR	#CC0000	レポートのレコード・カウンタの表示色を指定します。
SUPPORT_LINK	レポートに関する問題およびリクエストの拡張機能については、 <u>ExtraView サポート・サイト</u> に報告してください。	この HTML 文は、各画面の著作権表示の末尾のリンクに使用されます。通常、ユーザにサポートの問い合わせ先を示すために使用されます。
TAB_FONT_OFF_COLOR	#444444	タブ表示タイプによって生成され、管理エリア内に表示される、選択されていないタブのフォントの色を指定します。
TAB_FONT_ON_COLOR	#FFFFFF	選択されているタブのフォントの色を指定します。この設定は、管理エリア内で表示タイプがタブであるフィールドで使用されます。
TAB_OFF_COLOR	CCCCFF	Off 色は、タブ表示タイプによって生成され、管理エリア内に表示される、選択されていないタブの色です。
TAB_ON_COLOR	6666FF	On 色は、選択されているタブの色です。この設定は、管理エリア内で表示タイプがタブであるフィールドで使用されます。
TITLE_COLOR	#777777	各画面の上部にあるタイトル・バーのタイトルの色を指定します。
WINDOW_BG_COLOR	#ffffff	ウィンドウの背景色を指定します。

表示の設定

以下の設定により、ExtraView のさまざまな部分の動作設定を制御します。
[MENU_DIRECTION] を除き、すべての設定は直ちに有効になります。
[MENU_DIRECTION] は、次回 ExtraView にサインオンしたときに有効になります。

[レイアウトおよび表示] メニュー – [表示の設定]	標準的な値	説明
ADMIN_LIST_SIZE	400	ExtraView で検索およびドリルダウン機能を使用するために必要な、管理画面内のリストのレコード数を指定します。例えば、UDF リストのレコード数が 2,000 で、ADMIN_LIST_SIZE を 400 に設定すると、アルファベット順のドリルダウンが画面に表示され、さらにリストの検索が可能になります。
CACHE_AREA_PROJECT	YES	YES を指定すると、レイアウトから内部で作成されたテンプレートの内の、[area / project] ドロップダウン・リストのキャッシュが可能になります。NO を指定すると、各画面が追加モードまたは編集モードで更新されたときに、[area/project] リストが動的に更新されます。この設定では、USER_CUSTOM コードによる動的なリスト変更が行われない限り、YES を指定します。

[レイアウトおよび表示]メニュー – [表示の設定]	標準的 な値	説明
DB_TIMEZONE	PST	データベース・サーバが属するタイムゾーンと、各ユーザについてすべての現地時間が計算される基準を指定します。この値は ExtraView のインストール時に設定し、変更しないようにします。この設定を別のタイムゾーンに変更すると、システム内のすべてのタイムスタンプが、実際に作成された時間と異なる時間で表示されてしまいます。通常のこのタイムゾーンは、インストール先のサーバのシステム・クロックと同じタイムゾーンに設定します。
DEFAULT_DATE_FORMAT	MEDI UMD ATE	<p>システムのデフォルトの日付形式。次のいずれかを指定します。結果は例のように表示されます。</p> <p>SHORTDATE</p> <p>MEDIUMDATE Nov 28, 2003</p> <p>LONGDATE November 28, 2003</p> <p>FULLDATE Friday, November 28, 2003</p> <p>SHORTDATETIME 11/28/03 7:20 AM</p> <p>MEDIUMDATETIME Nov 28, 2003 7:20:08 AM</p> <p>LONGDATETIME November 28, 2003 7:20:08 AM WST</p> <p>FULLDATETIME Friday, November 28, 2003 7:20:08 AM WST</p>
FOLD_TEXT_POSITION	100	表示タイプがテキスト・エリアおよびログ・エリアであるフィールドの、テキスト行を折り返す文字位置を指定します。65 未満の数値を指定することはできません。99999 など大きい数値を指定すると、入力されたテキストは折り返されません。ただし、この設定より [FOLD_WORD_POSITION] の設定が優先されます。
FOLD_WORD_POSITION	100	[テキスト・エリア]、[出力テキスト]、および [ログ・エリア] フィールドで文字数の多い単語を分割する文字位置を指定します。65 未満の数値を指定することはできません。99999 など大きい数値を指定すると、文字数の多い単語が分割されません。これは FOLD_TEXT_POSITION と合わせて使用できます。テキスト・フィールドで頻繁に長い URL を使用する場合は、[FOLD_WORD_POSITION] に大きい数値を設定します。これにより、URL が複数行に分割されないようになり、ユーザが正しく URL をクリックできます。
HTMLAREA_ROW_HEIGHT	10	追加画面または編集画面で、表示タイプが HTML エリアであるフィールドに表示される行数を指定します。
LABEL_WRAP_POSITION	15	追加/編集画面および検索画面のラベル・テキストを折り返す文字の位置を指定します。[Alternative Title] フィールドでレイアウト要素の属性を設定した場合にはこの設定は無視され、管理者が独自にフィールドの形式を設定します。
LOG_AREA_DISPLAY_CHARS	250	issue 編集画面で切り捨てられない、ログ・エリア・フィールドの最大文字数。切り捨てが行われると「詳細」という文字が表示され、ユーザがこれをクリックすると残りのテキストが表示されます。80 未満または 32000 を超える文字は設定しないでください。
MANDATORY_FIELD_POST		必須フィールド・ラベルの後に配置する HTML タグまたは文字を指定します。デフォルトでは HTML 太字の終端タグが使用されますが、有効な HTML または文字で置換することができます。
MANDATORY_FIELD_PRE		必須フィールド・ラベルの前に配置する HTML タグまたは文字を指定します。デフォルトでは HTML の太字タグが使用されますが、有効な HTML または文字で置換することができます。
MENU_DIRECTION	VERTI CAL	画面上のメイン・ナビゲーション・バーを HORIZONTAL または VERTICAL に設定します。

[レイアウトおよび表示]メニュー – [表示の設定]	標準的な値	説明
MENU_SIZE	105	MENU_DIRECTION の VERTICAL または HORIZONTAL の指定に従って、ナビゲーション・バーの幅または高さをピクセルで指定します。
MULTI_VALUE_HIGHLIGHT_CHAR	▶	この値は、UDF の複数値リスト・フィールドで選択した値の強調表示に使用される文字を示します。デフォルトは ▶ です。単一の文字、またはブラウザが単一の Unicode 文字として解釈できる文字列を使用します。この文字が (Netscape Navigator 4.x のように) ユーザのブラウザで表示されない場合は、+ などの ASCII 文字を選択します。
NAV_BAR_GO_BUTTON	NO	これにより、ドリルダウン・ボックスの横のナビゲーション・バーに [Go] ボタンが配置されます。有効な値は YES と NO です。
POPUP_LIST_SIZE	100	項目のリスト自体から、A ~ Z の文字のリストを通じたアクセスに切り替わる、ポップアップ・リストの最大項目数を指定します。
SIGNON_BORDER_WIDTH	1	ホーム・ページ に表示されるサインオン・メッセージの枠の幅を指定します。デフォルトの値は 1 ですが、0 (枠なし) 以上の値を指定できます。
TABS_PER_ROW	10	追加画面や編集画面などのフォームのタブ数を、追加または編集画面に表示される場合に 1 行に制限します。この数値を超える数を表示する必要がある場合は、別の行に配置されます。
TEXTAREA_ROW_HEIGHT	4	表示タイプがテキスト・エリア、出力テキスト、ログ・エリアであるフィールドの追加画面および編集画面に表示される、データ行数の初期設定。
TITLE_HEIGHT	35	画面タイトルとユーザ・オプションが表示されるタイトル・バーの高さ (ピクセル) を指定します。

レイアウト・タイプの作成 / 変更

レイアウト・タイプは、異なるタイプのレポートまたはレイアウトそれぞれに名前とラベルを付けるために使用されます。これらは多くの場合、ExtraView で [Issueを追加] 画面や検索フィルタなどの組み込み機能を記述するために使用されます。

レイアウト・タイプを使用することで、同じタイプの個別のレイアウトを作成できます。例えば、システム全体のユーザ・ロール、エリア、プロジェクトそれぞれについて、[Issueを追加] 画面を作成できます。

管理者がレイアウト・タイプを新たに作成するのは、多くの場合、新しい埋め込みレイアウトを作成する必要があるときです。埋め込みレイアウトは、1 つまたは複数のレイアウトに含めることができます。一般的にこの機能は、[カテゴリ] などのフィールドの値に従って埋め込みレイアウトを選択するために使用されます。例えば Category = DOCUMENTATION と設定すると、埋め込みレイアウト上でドキュメントの issue に関するフィールドが表示されます。Category = HARDWARE と設定すると、ハードウェアの issue に関するフィールドが表示されます。

新しいレイアウト・タイプの作成

新しいレイアウト・タイプを作成するには、[レイアウトおよび表示] という管理タブで、[レイアウト・タイプの作成 / 変更] リンクをクリックします。

次の画面が表示されます。

レイアウト・タイプの作成 / 変更 アカウント: Bill Smith | ロール: Administrator | ビジネスエリア およ

[Return](#)

[Add](#) データベースに新しいレイアウト・タイプを追加

	名前	タイトル	使用	作成	最終更新日
Edit	EMAIL_BRIEF	Email Body - brief	REPORT	2003/10/01 ExtraView	2003/10/01 ExtraView
Edit	ADD_PROBLEM	Add Problem Screen	SCREEN	2003/10/01 ExtraView	2003/10/01 ExtraView
Edit	EDIT_PROBLEM	Edit Problem Screen	SCREEN	2003/10/01 ExtraView	2003/10/01 ExtraView
Edit	SEARCH_QUICKLIST	Report - Quicklist	REPORT	2003/10/01 ExtraView	2003/10/01 ExtraView
Edit	SEARCH_DETAILED	Report - Detailed	REPORT	2003/10/01 ExtraView	2003/10/01 ExtraView
Edit	RELEASE	Release Record	SCREEN	2003/10/01 ExtraView	2003/10/01 ExtraView
Edit	SEARCH_EXPANDED	Search - Full Search	SEARCH	2003/10/01 ExtraView	2003/10/01 ExtraView
Edit	SUMMARY_REPORT	Report - Summary	REPORT	2003/10/01 ExtraView	2003/10/01 ExtraView
Edit	SIMPLE_COL_SELECT	Standard Column Layout	REPORT	2003/10/01 ExtraView	2003/10/01 ExtraView
Edit	SEARCH_QUICK	Search - Quick Search	SEARCH	2003/10/01 ExtraView	2003/10/01 ExtraView

レイアウト・タイプの保守

レイアウト・タイプを新しく追加するには、[Add] ボタンをクリックして次の画面を使用します。

新しいレイアウト・タイプの作成 / 変更を追加 アカウント: Bill Smith | ロール: Administrator | ビジネスエリア

名前

表示するタイトル

使用

レイアウト・タイプの保守

[使用] で選択可能な値には [画面]、[レポート]、[検索]、[ユーザ・レポート] があります。

注: レイアウト・タイプは、管理者が独自に作成したもので、また ExtraView によって作成されたものでも、編集機能によって削除することができます。ただし、ExtraView によって作成されたレイアウト・タイプは削除しないでください。削除すると、ExtraView が正常に機能しなくなります。

ワークフローの設定および操作

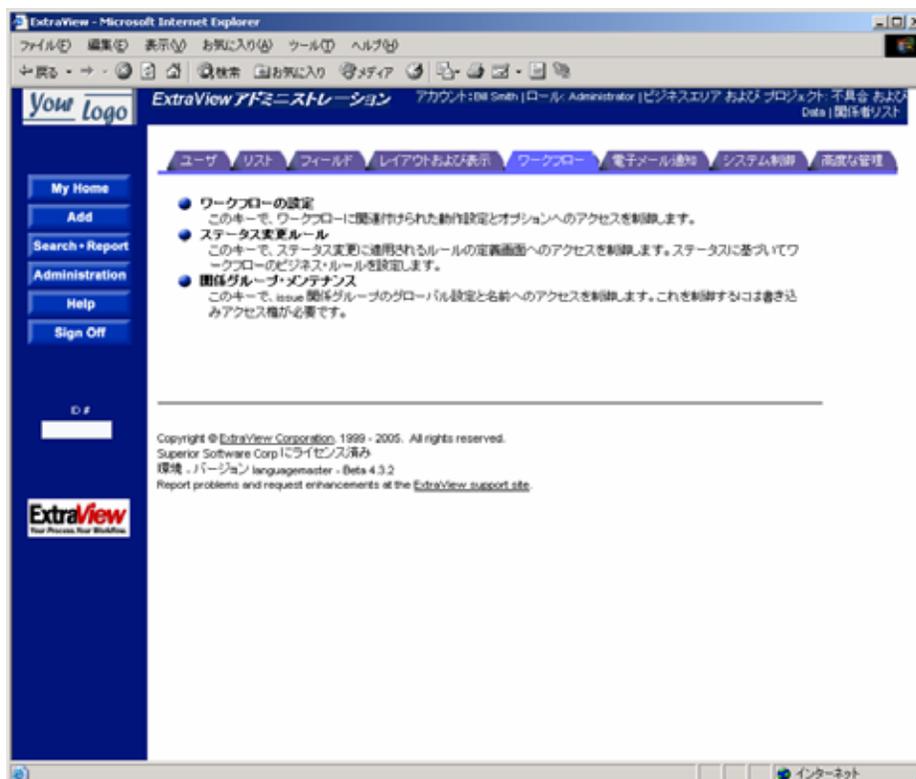
概念

ExtraView ではユーザ管理とセキュリティ管理に加えて、システム管理者がステータス変更ルールとステータス署名ルールを作成して実行することで、多数の動作設定によってワークフローとプロセスを管理できます。

またステータス変更ルールにより、ステータス間の有効な移行方法を決定できます。これは管理者が完全に管理することができ、ビジネス・エリア、プロジェクト、ユーザ・ロール(役割)ごとに個別に設定できます。

ステータス署名ルールに従い、ユーザは 1 つのステータスから別のステータスに移行する際に、さらに検証が必要になります。ステータス移行についてルールが適用される場合、ユーザはトランザクションを完了するためにユーザ ID とパスワードを入力する必要があります。これは、米国政府の FDA 21 CFR Part 11 など、さまざまな法令上の順守要件に準拠しなければならないシステムで必要です。

このセクションでは、関係グループの保守も可能です。関係グループにより、issue (案件、問題)を接続することができます。リンクされている場合に、issue の 1 つに更新を適用すると、関係グループ内の他の issue にステータス更新とコメントを自動的に適用できます。



ワークフロー管理メニュー

ワークフローの設定

[ワークフローの設定] は非常に重要なセクションです。これは、管理者が設定および保守を行うワークフローの動作設定を制御するための、主要な場所になります。

[ワークフローの設定] にアクセスするには、[Administration] の [ワークフロー] タブで [ワークフローの設定] リンクをクリックします。次のような画面が表示されます。

Workflow Settings			
アカウント: Bill Smith ロール: Administrator ビジネスエリア および プロジェクト: 不具合 および Data 関係者リスト			
Return			
	データベース・フィールド名	値	説明
Edit	ADMIN_BYPASS_GROUP	ADMIN	Name of role with state change override privileges. The status change rules are not obeyed for this user role
Edit	COPY_ATTACHMENT_ON_CLONE	YES	YESに設定すると、issue を複製した場合に添付ファイルが新しい issue にコピーされます。
Edit	DEFAULT_STATUS	UNASSIGNED	Default Status if none visible. Note that this is normally set in the data dictionary. This value is used if the field does not exist on any add issue form
Edit	DEFAULT_USER_GROUP	GUEST	役割が与えられていないユーザーのデフォルトの役割。
Edit	DISALLOW_AREA_0_DATA	YES	NOに設定すると、issue データが AREA 0 に入力されます。バージョン 4.2 以前のインストールに対する下位互換性として提供されています。バージョン 4.2 以上では、issue データを AREA 0 に配置することは許可されませんが、4.2 以上の場合は、この値を YES に設定する必要があります。
Edit	DISALLOW_PROJECT_0_DATA	YES	NOに設定すると、issue データが PROJECT 0 に入力されます。バージョン 4.2 以前のインストールに対する下位互換性として提供されています。バージョン 4.2 以上では、issue データを PROJECT 0 に配置することは許可されませんが、4.2 以上の場合は、この値を YES に設定する必要があります。
Edit	ENABLE_COMPANY_NAME_ACCESS	YES	この動作設定を YES (デフォルト値) に設定すると、ユーザーの会社名が issue のプライビシー設定に優先し、会社名が同じである他のユーザーが作成したすべてのレコードへのアクセスがユーザーに許可されます。有効な値は YES と NO です。
Edit	ENFORCE_STATE_CHANGE_RULES	YES	ステータス変更ルールの実施を切り換えます。有効な値は YES と NO です。
Edit	ENFORCE_UNIQUE_RELEASES	NO	リピーティング・レコード行での RELEASE_FOUND の固有性を指定します。このデフォルト値が YES である場合は、RELEASE_FOUND が null である場所からリリース行を追加することはできません。さらに、RELEASE_FOUND の値は単一のレコードで複製されません。このデフォルト値が NO である場合は、画面上のリピーティング・レコード行の書き込み可能フィールドが空白でない (デフォルト値を含む) 場合に、リリース行が追加されます。
Edit	FILTER_CHILD_VALUES	NO	YES: NOUSER
Edit	FILTER_MODULE_BY_CATEGORY	NO	カテゴリによるモジュールのフィルタを可能にします。有効な値は YES と NO です。
Edit	IGNORE_USER_GROUP	GUEST	この役割は issue を割り当てることができません。これは一般的なゲストまたは顧客ユーザーの役割になります。
Edit	LINK_MODULE_USER	ASSIGNED_TO	モジュール所有者フィールドと指定されたユーザー・フィールドとのリンクを設定します。値は [ASSIGNED_TO]、[CONTACT] または [OWNER] になります。
Edit	MULTIPLE_FIELD_SEPARATOR	-/-	子レベルの複数値 UDF の区切り文字として使用されます。
Edit	RELATIONSHIP_GROUP_EMAIL_LIMIT	30	関係グループ内の issue のステータスを更新すると、各 issue には標準の通知プロセスが適用されます。グループ内に [RELATIONSHIP_GROUP_EMAIL_LIMIT] を超える入力があった場合、通知は親 issue のユーザーのみ送られ、この情報についてのコメントが issue に挿入されます。
Edit	RELATIONSHIP_GROUP_MAX_DISPLAY	0	関係グループ画面の issue の最大数を指定します。0 は無制限を意味します。
Edit	RELATIONSHIP_LINK_DISPLAY	SELECT	編集画面の関係グループ・インジケータの表示を選択します (LINK または SELECT)。

ワークフローの動作設定

次のような設定があります。

[ワークフロー]メニュー-[ワークフローの設定]	標準的な値	説明
ADMIN_BYPASS_GROUP	ADMIN	<p>複数のセキュリティ制御をバイパスし、特殊なプロパティを持つユーザ・ロール名。現在のロール(役割)としてこの名前を指定されているユーザには、次のプロパティがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ステータス変更の優先権限。ステータス変更ルールは、このユーザ・ロールには適用されません。これが、ユーザ・ロール ADMIN_BYPASS_GROUP が通常の操作では使用されない大きな理由です。 ロール ADMIN_BYPASS_GROUP を持つすべてのユーザが、権限のないアクセスについて、「ExtraView に対するログインが X 分間に Y 回試みられ、失敗しました」などのメッセージを内容とする電子メール通知を受け取ります。これらのユーザには、攻撃者の IP アドレスも通知されます。 セキュリティ・キー CF_SECURITY_ROLES および CF_PRIVACY_GROUPS、さらにバイパス・グループによって、他のユーザのプライバシー・グループやユーザ・ロールの表示および編集に必要なユーザ・ロールが決定されます。例えば、ロール ADMIN が読み取り/書き込み権限を持ち、SUPPORT が ADMIN_BYPASS_GROUP のユーザ・ロールである場合、ユーザ・ロールが ADMIN であるメンバーは、プライバシー・グループと、ADMIN のその他のユーザ・ロールだけを編集できます。ADMIN_BYPASS_GROUP のユーザ・ロールが ADMIN である場合、ADMIN のメンバーはプライバシー・グループと、すべてのユーザ・ロールを編集できます。 ExtraView のアクセスが管理者によって無効になっている場合は、ExtraView へのアクセスが回復するまで、ユーザ・ロール ADMIN_BYPASS_GROUP のメンバーだけが ExtraView にアクセスできます。
COPY_ATTACHMENT_ON_CLONE	YES	YES に設定すると、issue を複製した場合に添付ファイルが新しい issue にコピーされます。
DEFAULT_USER_GROUP	GUEST	ロールが与えられていないユーザのデフォルトのロール。
DISALLOW_AREA_0_DATA	NO	NO に設定すると、issue データが AREA 0 に入力されます。これにより、バージョン 4.2 より前のインストールとの下位互換性が得られます。バージョン 4.2 以上で作成されたインストールでは、issue データを AREA 0 に置くことはできません。4.2 以上のインストールでは、YES に設定する必要があります。
DISALLOW_PROJECT_0_DATA	NO	NO に設定すると、issue データが PROJECT 0 に入力されます。これにより、バージョン 4.2 より前のインストールとの下位互換性が得られます。バージョン 4.2 以上で作成されたインストールでは、issue データを PROJECT 0 に置くことはできません。4.2 以上のインストールでは、YES に設定する必要があります。
ENABLE_COMPANY_NAME_ACCESS	YES	この動作設定を YES(デフォルト値)に設定すると、ユーザの会社名が issue のプライバシー設定に優先し、会社名が同じである他のユーザが作成したすべてのレコードへのアクセスがユーザに許可されます。有効な値は YES と NO です。
ENFORCE_STATE_CHANGE_RULES	NO	ステータス変更ルールの実施を切り換えます。有効な値は YES と NO です。

[ワークフロー]メニュー – [ワークフローの設定]	標準的な値	説明
ENFORCE_UNIQUE_RELEASES	YES	<p>リピーティング・レコード行での RELEASE_FOUND の固有性を指定します。このデフォルト値が YES である場合は、RELEASE_FOUND が null である場所にリリース列を追加することはできません。さらに、RELEASE_FOUND の値は単一のレコードで複製されません。</p> <p>このデフォルト値が NO である場合は、画面上のリピーティング・レコード行の書き込み可能フィールドが空白でない (デフォルト値を含む) 場合に、リリース列が追加されます。</p>
FILTER_CHILD_VALUES	NO	<p>YES、NO、USER のいずれかを指定します。この設定はクエリ・フィルタにリピーティング行の値が含まれる場合の検索の動作を制御します。YES に設定すると、検索基準に一致する行のみが検索結果として返されます。NO に設定すると、少なくとも一行が検索基準に一致する issue のすべての行が返されます。USER に設定すると、検索画面に表示されるチェックボックスによりこの動作が制御されます。</p>
FILTER_MODULE_BY_CATEGORY	NO	<p>カテゴリによるモジュールのフィルタを可能にします。有効な値は YES と NO です。</p> <p>これにより、モジュール・タイプとカテゴリの両方に基づいてモジュールのサブセットを選択できます。[カテゴリ]を選択すると、追加画面および編集画面のモジュールの選択リストで、対応するモジュール・タイプだけが有効な選択として表示されます。</p> <p>例えば、製品にハードウェア、ソフトウェア、ドキュメントの各モジュールがあるとします。issue がソフトウェアに関連する場合は、ソフトウェアのモジュールだけが選択可能になります。</p> <p>この機能は、項目レコードの [カテゴリ] フィールドを使用して、モジュール・タイプの値を保存します。FILTER_MODULE_BY_CATEGORY を YES に設定すると、CATEGORY に入力した値は、製品 ([PRODUCT_NAME] フィールド)を親の第 1 の値として使用する場合と同様に [MODULE_TYPE] の値を設定することで、モジュール ([MODULE_ID] フィールド)で親の第 2 の値として使用されます。</p> <p>この場合、[CATEGORY] と [MODULE_TYPE] の両方で同じ列挙値を使用する必要があります。</p> <p>[MODULE_ID] フィールドのデータ辞書設定で、次のように設定します。</p> <p>[First Parent Field Name] = PRODUCT_NAME [First Parent SQL] = and product_name [Second Parent Field Name] = CATEGORY [Second Parent SQL] = where module.category</p> <p>データ辞書でこれらの変更を行うには、ExtraView に admin ユーザ・アカウントでサインオンする必要があります。</p>
IGNORE_USER_GROUP	GUEST	<p>このロールには issue を割り当てることはできません。これは一般的にゲストまたは顧客ユーザ・ロールになります。</p>
LINK_MODULE_USER	ASSIGNED_TO	<p>モジュール所有者フィールドと指定されたユーザ・フィールドとのリンクを設定します。値は [ASSIGNED_TO]、[CONTACT] または [OWNER] になります。</p>
MULTIPLE_FIELD_SEPARATOR	-/-	<p>子レベルの複数值 UDF の区切り文字として使用されず。</p>

[ワークフロー]メニュー – [ワークフローの設定]	標準的な値	説明
RELATIONSHIP_GROUP_EMAIL_LIMIT	30	関係グループ内の issue のステータスを更新すると、各 issue には標準の通知プロセスが適用されます。グループ内に [RELATIONSHIP_GROUP_EMAIL_LIMIT] を超える数のエントリがあった場合、通知は親 issue のユーザにのみ送られ、この情報についてのコメントが issue に挿入されます。
RELATIONSHIP_GROUP_MAX_DISPLAY	0	関係グループ画面の issue の最大数を指定します。0 は無制限を意味します。
RELATIONSHIP_LINK_DISPLAY	SELECT	編集画面の関係グループ・インジケータの表示を選択します (LINK または SELECT)。
RELEASE_SORT_ORDER	DESCENDING	ASCENDING または DESCENDING
REMEMBER_BETW_TABS	YES	追加画面および編集画面のタブ間の値を記憶します。
SAVE_AREA_PROJECT_CHANGES	NO	この動作設定が YES の場合、ユーザが issue の追加/更新時にビジネス・エリアおよびまたはプロジェクトを変更すると、その変更が現在のセッションとユーザのパーソナル・デフォルトの両方に反映されます。NO の場合、ビジネス・エリアおよびまたはプロジェクトに対する変更はユーザのパーソナル設定または現在のセッションでの値には影響しません。
SEPARATE_WORK_FLOW	PRODUCT	USERGROUP(ロール)、PRODUCT、または NONE ごとに異なるワークフローを許可します。
SHOW_CLOSED_REL_GROUPS_PERIOD	0	関係グループの項目リストが、この値によって指定した最小日数ですべての issue が解決するまで表示されます。有効な値は 0 以上の数値です。0 は、関係グループ内のすべての項目が STATUS_CLOSED_NAME で指定されたステータスになると、関係グループのリストに表示されなくなることを意味します。
STATUS_CLOSED_NAME	CLOSED	issue が解決したステータスのデータ辞書名。この値は通常新しいシステムの構成時に設定されますが、それ以降は変更しないでください。値を変更して異なる値を使用すると、履歴が保持されず、過去の issue がいつクローズされたかを知ることができなくなります。
STATUS_SIGNATURES	NO	ステータス・ルールの変更に電子署名が必要かどうかを決定します。有効な値は YES と NO です。YES に設定すると、ステータス変更が承認されるためには、ユーザはユーザ ID とパスワードの再認証を受ける必要があります。

ステータス変更ルール

ステータス変更ルールにより、管理者は issue のステータスを変更するプロセスを制御できます。自社のワークフローに適合するために、ExtraView では次の 3 つの異なるワークフロー・フォーマットに基づいて、ステータス変更ルールを作成できます。

- I. **デフォルト・フォーマット:**すべてのユーザが、すべての異なる製品、プロジェクト、カテゴリ、モジュールなどについて、同じルールに従う必要があります。
- II. **ユーザ・ロール・フォーマット:**会社内の異なるユーザ・ロールに対して、異なるステータス変更ルールが適用されます。

- III. **製品フォーマット**:特定の製品について、他の製品に適用されるステータスと異なるステータスに変更できます。

ステータス変更ルールは、動作設定 ENFORCE_STATE_CHANGE_RULES によって一括してオンまたはオフに切り換えることができます。

さらに、ビジネス・エリアやプロジェクトを使用している場合は、ステータス変更ルールを組み合わせごとに個別に設定できます。これにより、エリア、プロジェクト、ユーザ・ロール、またはエリア、プロジェクト、製品の任意の組み合わせに対して、柔軟にステータス変更ルールを設定できるようになります。ステータス変更ルールにより、1つのデータベース内で、独自のプロセスとワークフローを持つ多様なトラッキング・システムを設定できます。

ステータス変更ルールには、継承という重要な概念があります。ユーザ・ロールまたは製品と合わせてビジネス・エリアとプロジェクトの組み合わせを定義すると、継承によって、階層の任意のポイントのワークフローを定義し、すべての従属ポイントで同じワークフローが継承されます。これにより、ビジネス・エリア、プロジェクト、ユーザ・ロール、プロジェクトのすべての組み合わせについてワークフローを設定することなく、ワークフローを効率的に定義できます。

注:階層の任意のレベルでワークフロー・マトリックスに1つでも値を入力すると、すべてのレベルのワークフローで使用されます。

ステータス変更ルールの有効化

1. [Administration] メニューの [ワークフロー] タブで、[ワークフローの設定] をクリックします。
2. ENFORCE_STATE_CHANGE_RULES のデフォルト値の横にある [Edit] ボタンをクリックします。
3. 値を NO から YES に変更して、[更新] ボタンをクリックします(値がすでに YES である場合はそのままにします)。

ADMIN_BYPASS_GROUP 動作設定との相互関係

ステータス変更ルールは、現在のロールが動作設定 ADMIN_BYPASS_GROUP で設定されたロールであるユーザには適用されません。したがって、現在のロールが管理者であるユーザは、一般的に issue のステータスがある値から別の値に任意に変更できます。この場合も、issue の監査証跡には移行が表示されます。

自社のワークフロー・プロセスの選択

注:この手順では、自社に最適なワークフローを決定する必要があります。この場合は(上記のように)、DEFAULT、PRODUCT、USERGROUP から選択できます。

注:この設定は、ステータス署名ルールと共有されます。

1. [Administration] の [ワークフロー] タブで、[ワークフローの設定] をクリックします。
2. SEPARATE_WORK_FLOW のデフォルト値の横にある [Edit] ボタンをクリックします。この設定は、ステータス署名ルールを定義する機能と共有されます。同じ設定が、ステータス変更ルールでも使用されます。
3. 値を DEFAULT、USERGROUP、または PRODUCT に変更して、[更新] ボタンをクリックします。

ステータス変更ルールのカスタマイズ

[Administration] メニューの [ワークフロー] タブで、[ステータス変更ルール] をクリックします。選択したワークフロー・フォーマットに基づいて、次の 3 つの画面の 1 つが表示されます (各画面はここに示すものとわずかに異なる場合がありますが、機能は同じです)。

表の行と列の [移行先ステータス] と [移行元ステータス] では、値 [* なし *] が使用されます。異なる値間での issue の移動を制御するほかに、[* なし *] を許容値にするかどうかも指定できます。[* なし *] は、データ辞書のステータス・フィールドのデフォルト値として設定できます。

Status Change Rules Account: System Administrator | Role: Administrator | Interest list

Status change rules can be defined for one Business Area by filling in the matrix. To fill out the matrix, check the boxes of the status changes you want to allow users to make.
Remember that the rules can be switched off or on altogether using the ENFORCE_STATE_CHANGE_RULES setting in the "Workflow Settings" administration screen. The current value of ENFORCE_STATE_CHANGE_RULES is NO.

View All View Disallowed View Unpermitted

		To Status				
		Unassigned	Open	Fixed	Closed	* None *
From Status	Unassigned		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	Open	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	Fixed	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	Closed	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
	* None *	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

すべての issue に対するステータス変更ルールの適用

ステータス変更ルール

アカウント: Bill Smith | ロール: Administrator | ビジネスエリア: および プロジェクト: 不具合 および Data | 関係者リスト

- 1 設定の定義 ラジオ ボタンに続いて、リストで変更するステータス・ルールの値を設定します。
- 2 設定の定義 ラジオ ボタンを選択して、マトリックスを埋めることにより、1つのユーザ・ロールおよびビジネスエリアとプロジェクトに対してステータス変更ルールを定義できます。マトリックスを埋めると、ユーザに実行できるようにステータス変更のボックスをチェックしてください。
- 3 継承元 ラジオ ボタンを押し、次に [更新] ボタンを押し、継承元) リストで選択したユーザ・ロールから [設定の定義] リストで選択したユーザ・ロールに継承できます。
- 4 You may press the 'Copy From' radio button and then the Update button to copy from the user role to the current selection in the 'Define Settings' list.
- 5 [Workflow Settings] 管理画面の ENFORCE_STATE_CHANGE_RULES 設定を使用して、ルールを一括してオフまたはオンに切り替えることができます。ENFORCE_STATE_CHANGE_RULES の現在の値は YES です。

設定の定義 継承元 コピー元

ユーザ・ロール: Administrator
 ビジネスエリア: Customer
 プロジェクト: IT Support

継承元: ユーザ・ロール: Administrator
 ビジネスエリア: Master Area
 プロジェクト: Master Project

コピー元: ユーザ・ロール: Administrator
 ビジネスエリア: Master Area
 プロジェクト: Master Project

すべて表示 不許可

		移行先ステータス						
		新規	オープン	Fixed	クローズ	デュプリケート	Not Found	*なし*
移行元ステータス	新規	<input type="checkbox"/>						
	オープン	<input type="checkbox"/>						
	Fixed	<input type="checkbox"/>						
	クローズ	<input type="checkbox"/>						
	デュプリケート	<input type="checkbox"/>						
	Not Found	<input type="checkbox"/>						
なし	<input type="checkbox"/>							

更新

異なるユーザ・ロールに対するステータス変更ルールの適用

Status Change Rules

Account: System Administrator | Role: Administrator | Interest list

- 1 Set the values for the status rules to be modified in the list following the 'Define Settings' radio button.
- 2 Status change rules can be defined for one Product, by selecting the 'Define Settings' radio button and filling in the matrix. To fill out the matrix, check the boxes of the status changes you want to allow users to make.
- 3 You may press the 'Copy From' radio button and then the Update button to copy from the 'Copy From' Product selected, to the current selection in the 'Define Settings' list.
- 4 Remember that the rules can be switched off or on altogether using the ENFORCE_STATE_CHANGE_RULES setting in the "Workflow Settings" administration screen. The current value of ENFORCE_STATE_CHANGE_RULES is NO.

Define Settings Copy From

Product: Product A Product: Product A

View All View Disa Unpermitted

		To Status				
		Unassigned	Open	Fixed	Closed	* None *
From Status	Unassigned	<input type="checkbox"/>				
	Open	<input type="checkbox"/>				
	Fixed	<input type="checkbox"/>				
	Closed	<input type="checkbox"/>				
	* None *	<input type="checkbox"/>				

Update

異なる製品に対するステータス変更ルールの適用

ステータス変更ルールの適用

- 製品またはユーザ・ロールのワークフローについて、[設定の定義] リストにあるドロップダウン・リストから製品またはユーザ・ロールを選択します。
- 最初に [移行元ステータス] (左側) から [移行先ステータス] (上部) の各チェック・ボックスをクリックします。ステータス移行を許可する、[移行元ステータス] と [移行先ステータス] の交点にあるボックスをクリックします。
- [移行元ステータス] と [移行先ステータス] の値を決定したら、[更新] ボタンをクリックします。

- リストから別の製品またはユーザ・ロールを選択し、上記の 3 つの手順に従います。この手順を各製品またはユーザ・ロールについて繰り返します。
- 任意の製品またはユーザ・ロールの設定を、異なる製品またはユーザ・ロールからコピーすることができます。次の手順に従います。
 - [設定の定義] リストで、定義する製品またはユーザ・ロールを選択します。
 - [コピー元] リストから、設定をコピーする製品またはユーザ・ロールを選択します。
 - [コピー元] ラジオ・ボタンをクリックします。

コピーした値が配置されて画面が更新されます。

最後の更新の後で、ステータス変更ルールが完全に導入されます。これにより、issue を編集してステータスを変更し、機能をテストすることができます。どの時点でも、issue の現在のステータスに従って、リストにはステータスの移動先として有効なステータスだけが表示されます。

エリアとプロジェクトに対するステータス変更ルールの適用

上記のように、継承の原則を使用して、複数のユーザ・ロール、複数のエリア、複数のプロジェクトについて、ステータス変更ルールを管理できます。

1 [設定の定義] ラジオ・ボタンをクリックして、リストで変更するステータス・ルールの値を設定します。
2 [設定の定義] ラジオ・ボタンを選択して、マトリックスを埋めることにより、1つのユーザ・ロールおよびビジネスエリアとプロジェクトに対してステータス変更ルールを定義できます。マトリックスを埋めるには、ユーザに実行できるようにしたいステータス変更のボックスをチェックしてください。
3 [継承元] ラジオ・ボタンをクリックし、[更新] ボタンを押して、[継承元] リストで選択したユーザ・ロールから [設定の定義] リストで選択したユーザ・ロールに継承できます。
4 You may press the 'Copy From' radio button and then the Update button to copy from the user role to the current selection in the 'Define Settings' list.
5 [Workflow Settings] 管理画面の ENFORCE_STATE_CHANGE_RULES 設定を使用して、ルールを一括してオフまたはオンに切り替えることができます。ENFORCE_STATE_CHANGE_RULES の現在の値は YES です。

設定の定義	継承元	コピー元
ユーザ・ロール: Administrator	ユーザ・ロール: Administrator	ユーザ・ロール: Administrator
ビジネスエリア: Master Area	ビジネスエリア: Master Area	ビジネスエリア: Master Area
プロジェクト: Master Project	プロジェクト: Master Project	プロジェクト: Master Project

すべて表示 不許可を表示 不許可を表示

		移行先ステータス						
		新規	オープン	Fixed	クローズ	デュプリケート	Not Found	*なし*
移行元ステータス	新規		<input type="checkbox"/>					
	オープン	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>				
	Fixed	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	クローズ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	デュプリケート	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	Not Found	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>				
	なし	<input type="checkbox"/>						

更新

異なるエリアまたはプロジェクトからのステータス・ルールの継承

ユーザ・ロール、エリア、プロジェクトの階層のすべてのレベルで、デフォルトでは階層の上位のレベルからステータス変更ルールが継承されます。詳細については、本書の「レイアウト・エディタ」の継承のセクションで説明しています。

上のスクリーンショットは、マスター・レベルでのビューを示しています。このように、上位のレベルからの継承はできません。マスター・エリアとマスター・プロジェクトの下位のレベルについて [設定の定義] を選択すると、値を継承できるレベルが [継承元] フォームのセクションに表示されます。これを [設定の定義] のレベルの要件に適する値に変更します。

また、異なる組み合わせのユーザ・ロールまたは製品、およびエリアとプロジェクトから、[設定の定義] で設定した場所に設定をコピーすることもできます。

ステータス変更ルールおよび許容値と許可の設定

ExtraView では、無制限にステータスを作成することができます。これにより、表示されるマトリックスの縦横の幅が非常に大きくなることで、ステータス変更ルールを 1 つの画面で表示および設定するのがむずかしくなる場合があります。一般的に、ビジネス・エリアでは許容値の関係で [AREA] フィールドが親になり、[STATUS] フィールドが同じ関係で子になります。

[ステータス変更ルール] 画面では、現在のビジネス・エリアの子であるステータスだけが表示されるように制限されます。これにより、画面がより使いやすくなります。

同時に、ユーザ・ロールとビジネス・エリアの任意の有効な組み合わせでセキュリティ許可キーを使用し、ステータスを無効にすることができます。

有効なステータス変更の移行を制限し、セキュリティ許可を有効にするか、または許容された移行用に許容値を変更すると、画面上での移行についてチェックボックスが表示されなくなるため、問題が発生する場合があります。

これらの条件の下でメタデータの管理を容易にするため、ステータス変更ルール画面には 3 つのチェックボックスがあり、これにより非表示になった移行を表示し、誤った設定をチェックすることができます。



[すべて表示] – 許可や許容値にかかわらず、すべてのチェックボックスが表示されます。

[不許可を表示] – 許容値の関係によって無効になっていたチェックボックスが表示されます。

[不許可を表示] – セキュリティ許可の設定によって無効になっていたチェックボックスが表示されます。

issue のクローズ

ExtraView では、各 issue がクローズされた正確な日付のレコードが保持されます。これは、issue がクローズ・ステータスに移行したときに、システムの現在のタイムスタンプが issue に挿入されることで可能になります。クローズ・ステータスは、動作設定 STATUS_CLOSED_NAME によって定義されます。デフォルト値は [クローズ] ですが、これは管理者が変更することができます。

ただし、ワークフローによっては、クローズされた issue を再度オープンにすることができない場合もあります。データベースの [DATE_CLOSED] の日付を設定するルールは次のとおりです。値の変更は新しいシステムの実装中にのみ行うべきです。システムにデータが蓄積された後にこの設定を変更すると、issue がクローズされた時点の履歴を参照することができなくなります。

1. [DATE_CLOSED] の初期値は [NULL] です。issue のステータスを動作設定 [STATUS_CLOSED_NAME] の値に設定しない限り、[DATE_CLOSED] は [NULL] になります。
2. ステータスを [STATUS_CLOSED_NAME] に変更すると、現在の日付の値が [DATE_CLOSED] に割り当てられます。
3. ユーザがセキュリティ許可キー [PR_RESOLUTION.ALLOW_EDIT_CLOSED] に対する書き込み許可を持つ場合に、[STATUS_CLOSED_NAME] 以外の値にステータスを変更すると、issue が [STATUS_CLOSED_NAME] のステータスに再度変更されるまで、[DATE_CLOSED] の設定が NULL に戻ります。

注: [DATE_LAST_STATUS_CHANGE] フィールドの初期値は、常に issue が最初に作成された日付に設定され、その後ステータスの値が変更された場合のみ変更されます。

ステータス・ルールの変更例

会社には、次の図に示すように、不具合のトラッキング・システムについて設定されたルールがあります。この場合、会社内のすべてのユーザ・ロールで、同じルールが使用されます (動作設定 SEPARATE_WORK_FLOW が NONE に設定)。

リストの上部の [* なし *] の値のないステータスリストにするためには、編集レイアウトにある [ステータス] フィールド内のレイアウト・セル属性 [Remove None] を設定します。

Status Change Rules Account: Carl Koppel | Role: Administrator | Business Area: Defects | Interest list

Check the boxes of the allowable status changes you want to allow users to make. Remember that all the rules can be switched off or on together using the ENFORCE_STATE_CHANGE_RULES setting in the "Workflow Settings" administration screen

Select Business Area: Defects

Select Project: Data

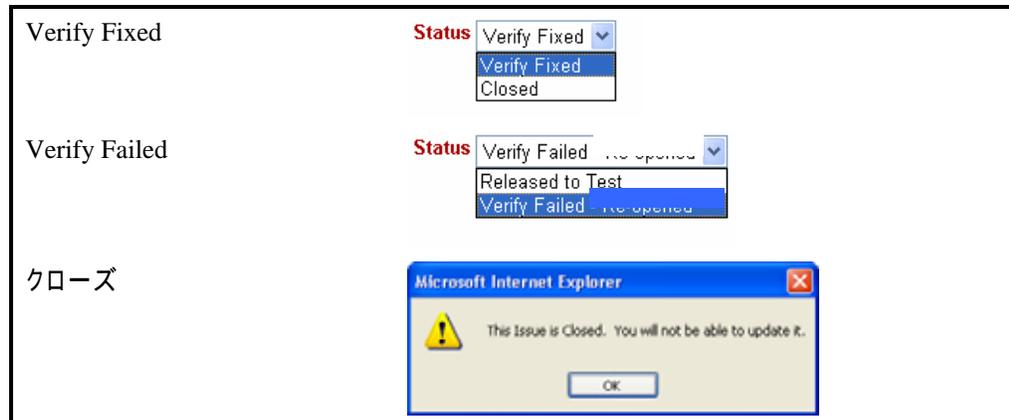
From Status	To Status								
	Open	Released to Test	Verify Fixed	Verify Failed	Closed	Duplicate	Rejected	* None *	
Open	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
Released to Test	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
Verify Fixed	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
Verify Failed	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
Closed	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>							
Duplicate	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
Rejected	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
* None *	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

Update

ステータス・ルールの例

この図で、編集画面の [ステータス] フィールドは、[ステータス] の値に従って次のようになります。

ステータス	[ステータス] リストの表示
オープン	<p>Status: Open</p> <ul style="list-style-type: none"> Open Released to Test Duplicate Rejected
Released to Test	<p>Status: Released to Test</p> <ul style="list-style-type: none"> Released to Test Verify Fixed Verify Failed



ステータス署名ルールの作成

ステータス署名ルールにより、管理者は issue のステータス変更が行われた時点でユーザの再認証を要求することで、プロセスを制御できます。これは例えば、21 CFAR Part 11 として知られる米国政府の FDA 規則に準拠するために、システムで要求される電子署名ルールを適用する場合に使用できます。

自社のワークフローに適合するために、ExtraView では次の 3 つの異なるワークフロー・フォーマットに基づいて、ステータス署名ルールを作成できます。

- I. **デフォルト・フォーマット:**すべてのユーザが、すべての異なる製品、プロジェクト、カテゴリ、モジュールなどについて、同じルールに従う必要があります。
- II. **ユーザ・ロール・フォーマット:**会社内の異なるユーザ・ロールに対して、異なるステータス署名ルールが適用されます。
- III. **製品フォーマット:**ステータス署名ルールは、システム内の各製品について個別に作成できます。

さらに、ビジネス・エリアやプロジェクトを使用している場合は、ステータス署名ルールを組み合わせごとに個別に設定できます。

ステータス署名ルールの有効化

1. [Administration] メニューの [ワークフロー] タブで、[ワークフローの設定] をクリックします。
2. STATUS_SIGNATURES のデフォルト値の横にある [Edit] ボタンをクリックします。
3. 値を NO から YES に変更して、[更新] ボタンをクリックします (値がすでに YES である場合はそのままにします)。

4. 動作設定 REAUTH_URL(再認証が要求された場合の ExtraView のアクセス先を指定)および REAUTH_REDIRECT_PARAM(再認証が完了した場合の ExtraView サーバのアクセス先を指定)の値を入力します。

自社のワークフロー・プロセスの選択

注:この手順では、自社に最適なワークフローを決定する必要があります。この場合は(上記のように)、DEFAULT、PRODUCT、USERGROUP から選択できます。

注:この設定は、ステータス変更ルールと共有されます。

1. [Administration] の [ワークフロー] タブで、[ワークフローの設定] をクリックします。
2. SEPARATE_WORK_FLOW のデフォルト値の横にある [Edit] ボタンをクリックします。この設定は、ステータス署名ルールを定義する機能と共有されます。同じ設定が、ステータス変更ルールでも使用されます。
3. 値を DEFAULT、USERGROUP、または PRODUCT に変更して、[更新] ボタンをクリックします。

ステータス署名ルールのカスタマイズ

1. [Administration] メニューの [ワークフロー] タブで、[ステータス署名ルール] をクリックします。選択したワークフロー・フォーマットに基づいて、次の 3 つの画面の 1 つが表示されます(各画面はここに示すものとわずかに異なる場合がありますが、機能は同じです)。

Status Signature Rules Account: Carl Koppel | Role: Administrator | Interest list

Check the boxes of the status signatures you want to enforce. Remember that all the signatures can be switched off or on together in the "Workflow Settings" administration screen using the STATUS_SIGNATURES setting

		To status			
		Closed	Fixed	Open	Unassigned
From status	Closed		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	Fixed	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	Open	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
	Unassigned	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

すべての issue に対するステータス署名ルールの適用

ステータス署名ルール アカウント: System Administrator | ロール: Administrator | ビジネスエリア: および プロジェクト: 不具合 および Data | 関係者リスト

適用したいステータス署名のチェックボックスをチェックしてください。 [Workflow Settings] 管理画面で、すべての署名を一括してオフまたはオンに切り替えることができます。

選択 ビジネスエリア

選択 プロジェクト

ユーザ・ロールを選択

		移行先ステータス					
		新規	オープン	Fixed	クローズ	デュプリケート	Not Found
移行元ステータス	新規	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	オープン	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	Fixed	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	クローズ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	デュプリケート	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
	Not Found	<input type="checkbox"/>					

異なるユーザ・ロールに対するステータス署名ルールの適用

Status Signature Rules Account: Carl Koppel | Role: Administrator | Interest list

Check the boxes of the status signatures you want to enforce. Remember that all the signatures can be switched off or on together in the "Workflow Settings" administration screen using the STATUS_SIGNATURES setting

Select Product

		To status			
		Closed	Fixed	Open	Unassigned
From status	Closed		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	Fixed	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	Open	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
	Unassigned	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

異なるユーザ・ロールに対するステータス署名ルールの適用

ステータス署名ルールの適用

1. 製品またはユーザ・ロールのワークフローについて、ドロップダウン・リストから製品またはユーザ・ロールを選択します。
2. 最初に [移行元ステータス] (左側) から [移行先ステータス] (上部) の各チェック・ボックスをクリックします。ステータス移行を許可する、[移行元ステータス] と [移行先ステータス] の交点にあるボックスをクリックします。
3. [移行元ステータス] と [移行先ステータス] の値を決定したら、[更新] ボタンをクリックします。
4. リストから別の製品またはユーザ・ロールを選択し、1 ~ 3 の手順に従います。この手順を各製品またはユーザ・ロールについて繰り返します。

最後の更新の後で、ステータス署名ルールが完全に導入されます。これにより、issue を編集してステータスを変更し、機能をテストすることができます。どの時点でも、issue の現在のステータスに従って、リストにはステータスの移動先として有効なステータスだけが表示されます。

関係グループ

関係グループにより、ExtraView のユーザは個別の issue を相互に関連付けることができます。関係グループは、多数の異なるタイプの動作について構築できます。事前定義による標準的な 2 層の関係グループには、次のような特性と動作があります。

- 1 つの issue がグループ内で親 issue になります。
- 関係グループには、子の issue を無制限に追加できます。
- ある関係グループに属する 1 つの issue を更新すると、グループ内の他の issue に同じステータスを適用し、更新されたすべての issue にコメントを付加する旨のプロンプトが表示されます。
- 各ユーザは関係グループ内の個々の issue を操作できるため、関係グループで issue を追加または削除することができます。
- 管理者はさらにすべての関係グループを管理し、すべてのグループの追加および削除を行うことができます。グループを削除しても、グループ内の issue は変更されません。
- レポートは、任意のフィルタを持つあらゆるユーザが作成することができます。また適切なセキュリティ許可により、ユーザは簡単な操作で issue をグループ化することができます。

関係グループ用のセキュリティ・キー

キー	説明
CF_RELATIONSHIP_GROUP_VIEW_PROBLEM_BUTTON	[関連する issue] 画面の [View] ボタンの外観を指定します。
PR_RESOLUTION.RELATIONSHIP_GROUP	[関連する issue](編集画面上の ID の横にあるボタン)へのアクセスを管理します。
PR_RESOLUTION.RELATIONSHIP_GRP_ADMIN	編集画面上の [Manage Relationship Group] ボタンの表示/非表示を指定します。

関係グループ用の動作設定

キー	説明
RELATIONSHIP_GROUP_MAX_DISPLAY	関係グループ画面に表示される issue の最大数。0 は、制限がないことを示します。

キー	説明
RELATIONSHIP_LINK_DISPLAY	<p>データ辞書のエントリの RELATIONSHIP_GROUP_LINK が編集画面レイアウトに配置されている場合は、タイトルの横にリンクまたはリストが表示されます。フィールドの表示は、動作設定 RELATIONSHIP_LINK_DISPLAY によって制御します。このフィールドの値には SELECT または LINK を指定します。RELATIONSHIP_GROUP_LINK のエントリは、追加画面に配置することはできません。</p> <p>値が LINK の場合は、フィールドが編集画面にグループ内の issue の数を指定するリンクとして表示されます。このリンクをクリックしてオンにすると、ユーザが [関連する issue] 画面にリダイレクトされます。</p> <p>値が SELECT の場合、フィールドが選択リストとして表示されます。これにより、ユーザは、変更する issue をリストから選択してリンク・ボタンをクリックし、その issue の編集画面に移動できます。動作設定 POPUP_LIST_SIZE で指定した数を超えるエントリがリストにある場合は、[* More *] というエントリがリストに追加されます。ユーザがこの値を選択してリンク・ボタンをクリックすると、ユーザは [関連する issue] 画面にリダイレクトされ、グループ化されているすべての issue のリストを使用できます。</p>

関係グループの使用

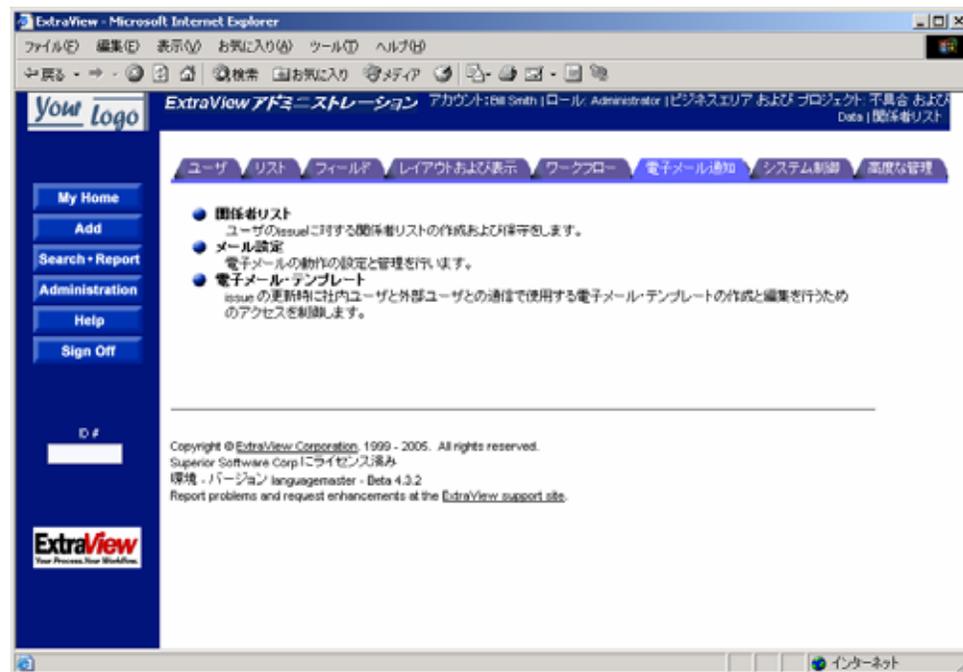
関係グループの詳細な使用方法については、『ExtraView User Guide』を参照してください。

注：多くの企業が issue を関連付ける方法に対して、異なる動作を定義したいと考えています。このセクションでは ExtraView に組み込まれている、関係グループを扱う一つの方法が定義されています。この動作を変更し、企業のニーズに合わせてカスタマイズすることが、通常は容易にできます。詳細については ExtraView サポートにご連絡ください。

電子メール通知

概念

ExtraView には、グループ間、部門間、企業と顧客間の通信管理を最大限に効率化することを目的とした、多数の電子メール通知機能があります。通常のデフォルト設定で、ExtraView は issue(案件、問題)を作成したユーザ、issue の担当ユーザ、issue の所有者として選ばれたユーザに電子メールを送信します。これらの設定は変更可能です。



電子メール管理画面

管理者が制御する機能

- システム全体の電子メールを有効または無効にします。
- ユーザ・ロール(役割)のための電子メール作成を無効にします。
- 外部ユーザへの電子メールを有効または無効にします。
- 新しい issue または更新された issue の通知を自動受信するモジュール所有者をオプションで割り当てます。
- 新しい issue または更新された issue の製品マネージャを通知するための、製品の電子メール・アドレスをオプションで設定します。
- 現在の issue 内のテキストまたは任意のフィールドを入れて、電子メールの件名をカスタマイズできます。

- 電子メール受信者に対して通知先の CC リストをオプションで表示します。
- テキストまたは HTML で、電子メールのテンプレートを管理者が定義できます。これらのテンプレートには、ExtraView ユーザに対する issue の標準通知に必要な分だけのデータを入れることができます。
- 管理者は、現在の issue からのデータと事前定義のテキストを統合して、顧客またはユーザとの通信に使用できる電子メール・テンプレートの範囲をオプションで定義できます。これらのテンプレートは、ユーザ・ロールごとに使用できます。

システム全体の電子メールを有効または無効にする

1. [Administration] メニューの **[電子メール通知]** タブで、**[メール設定]** をクリックします。
2. 下へスクロールして、EMAIL_NOTIFICATION を表示します。
3. **[Edit]** をクリックして、システム全体で電子メール通知を有効にするときは値を YES に変更し、無効にするときは値を NO に設定します。
4. **[更新]** ボタンをクリックします。

モジュール所有者を割り当てる

特定のモジュールの issue が変更された場合に、指定された所有者に自動的に電子メール通知が送信されるように、システム管理者はモジュール所有者を指定できます。

さらに、[ワークフローの設定] 画面の LINK_MODULE_OWNER_ASSIGNED_TO という動作設定の値を YES に設定している場合、モジュール所有者を使用して [Issueを追加] 画面の **[担当者]** フィールドに値を自動的に入力できます。それによって、リストからモジュールを選択すると、担当者が自動的にモジュール所有者に設定されるように [Issueを追加] 画面を作成できます。

1. [Administration] メニューの **[リスト]** タブで **[モジュール名]** をクリックします。
2. *所有者を割り当てるモジュール* を特定し、関連する **[Edit]** ボタンをクリックします。

モジュール名 - エントリを変更

アカウント: Bill Smith | ロール:

製品名 AAA

モジュール名 固定名 PROCESSOR

モジュール名 タイトル Processor ローカライズ

モジュール名 タイプ Packaging

ユーザ ID を選択 Mary Brown

ソート・シーケンス

更新 削除 キャンセル

モジュール所有者の更新

3. 該当ユーザのリストをスクロールするか、ポップアップ・テキスト・ボックスから所有者を選択します。
4. [更新] ボタンをクリックします。

製品の電子メールアドレスを設定する

管理者は、特定の製品の電子メールアドレスを設定して、その製品に関連付けられた ExtraView ユーザが製品関連の issue に関する自動電子メール通知を受信できるようにできます。これは、管理メニューの [リスト] タブにある [製品] のリストを使って行います。

電子メール通知の件名をカスタマイズする

ExtraView では、issue の挿入や更新が行われると自動的に送信される電子メールの件名を管理者がカスタマイズできます。

1. [Administration] メニューで [電子メール通知] タブをクリックし、[メール設定] をクリックします。
2. 下へスクロールして、EMAIL_SUBJECT_TEMPLATE という動作設定を表示し、関連する [Edit] ボタンをクリックします。
3. 表示するフィールド名を入力します。電子メールの件名には、ExtraView で設定されている任意のフィールドを入れてカスタマイズできます。この値は、特定の issue に基づき動的に生成されます。
4. 電子メールの件名に値を入れる場合は、その値を “\$\$” で囲みます。通常の静的な値が入力されます。以下の例をご覧ください。

サンプル・テキスト	件名の出力結果
\$\$ID\$\$ - \$\$SHORT_DESC\$\$	12345 - リスト・エントリの問題
\$\$ASSIGNED_TO\$\$ (\$\$PRODUCT_NAME\$\$; \$\$MODULE_ID\$\$) - これは電子メールです	rlloyd (製品 X; モジュール Y) - これは電子メールです

サンプル・テキスト

件名の出力結果

Issue # \$\$ID\$\$ - これは \$\$ASSIGNED_TO\$\$ に割り当てられます
Issue # 12345 - これは rlloyd に割り当てられます

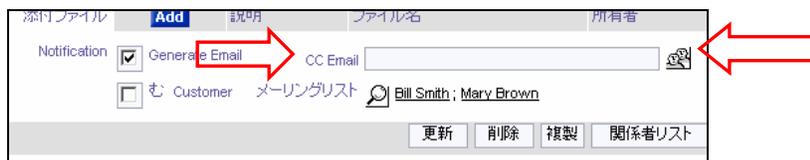
CC メール機能

この機能を使うと、特定の issue に直接関係していない人たちに電子メールを1回限りの送信することができます。

この機能は、以下に示すセキュリティ権限設定によって制御します。システム内のユーザ・ロールごとに異なる設定を使用できます。

セキュリティ・キー名	説明
[PR_RESOLUTION.CC_EMAIL]	[Issue を編集] 画面の [CC メール] 入力ボックスの外観を定義します。
[PR_ADD_PROBLEM.CC_EMAIL]	[Issue を追加] 画面の [CC メール] 入力ボックスの外観を定義します。
[PR_RESOLUTION.CC_EMAIL_BUTTON]	[Issue を編集] 画面のユーザ・ポップアップ・ボタンの有無を制御します。このボタンを使って、メールを送信できる ExtraView のユーザのリストにアクセスできます。
[PR_ADD_PROBLEM.CC_EMAIL_BUTTON]	[Issue を追加] 画面のユーザ・ポップアップ・ボタンの有無を制御します。このボタンを使って、メールを送信できる ExtraView のユーザのリストにアクセスできます。

CC メール機能を活用するには、[CC メール] フィールドに電子メール・アドレスを入力 (カンマまたはセミコロンで区切る) してから issue を更新するか、はじめに人のアイコンをクリックして、リストから特定のユーザを選択します。



[追加] または [編集] 画面での電子メール通知

自動電子メール作成を無効にする

issue を追加または編集するたびに、[追加] および [編集] 画面の一番下にある [メールを生成] チェックボックスのチェックを外すことにより、すべての電子メールの作成を停止することができます。

これは次のセキュリティ許可キーによって制御されます。

セキュリティ・キー名	説明
[PR_RESOLUTION.EMAIL_SWITCH]	[Issueを編集] 画面の [メールを生成] チェックボックスの表示を制御します。
[PR_ADD_PROBLEM.EMAIL_SWITCH]	[Issueを追加] 画面の [メールを生成] チェックボックスの表示を制御します。



[追加] または [編集] 画面での電子メール通知

外部ユーザへの電子メール作成を無効にする

顧客が issue に入力する必要があっても、その issue のあらゆるステータス変更をその顧客には見せたくないという状況がしばしば発生します。issue への追加や更新を行う際に、オプションで外部ユーザへの電子メールを停止することができます。

これは、次のような各ユーザ・ロールのセキュリティ許可キーによって制御します。

セキュリティ・キー名	説明
[PR_RESOLUTION.EMAIL_CUSTOMER]	[Issue を編集] 画面の [Include Guests] チェックボックスの表示を制御します。
[PR_ADD_PROBLEM.EMAIL_CUSTOMER]	[Issue を追加] 画面の [Include Guests] チェックボックスの表示を制御します。

[追加] および [編集] 画面の一番下に、次のスクリーン・ショットのようなものが表示されます。デフォルト設定では、外部ユーザに電子メールを送信しません。「Guests」という用語は、各組織でゲストまたは顧客を表すのに使っていることばに置き換えられます。



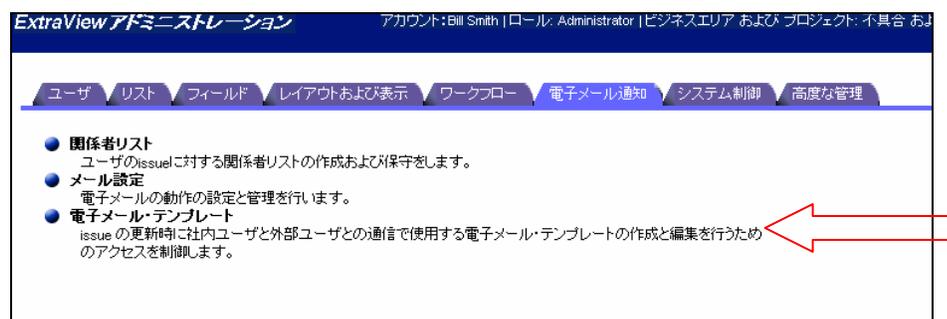
[追加] または [編集] 画面での電子メール通知

外部ユーザも電子メールを受信できるようにする場合は、[通知リストに顧客ユーザを含める] チェックボックスをクリックして issue の更新を続行します。

電子メールテンプレート

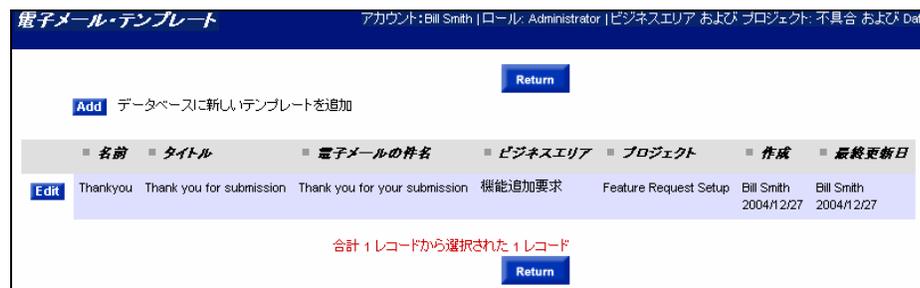
この機能を使用すると、管理者は確実に標準の返信が返ってくる電子メール通知用として、標準の電子メール・テンプレートを作成できます。例えば、ベータ・テスト・グループのメンバーが入力した複数の issue が製品チームにあり、解決策があれば必ずグループ・メンバーに標準の確認を送信できるようにする場合、この機能を採用できます。もう一つの例として、カスタマ・サポート担当者が、issue をレポートしている顧客への返信を、いくつかの標準の返信から選択できるということが挙げられます。このような返信により、issue の受信確認、顧客に対する issue 解決に向けての進捗状況報告、または issue が解決した旨の通知を連動して行うことができます。

[Administration] メニューの [電子メール通知] タブで、[電子メール・テンプレート] ボタンをクリックします。



管理メニュー画面

次の画面が表示されます。



[電子メール・テンプレート] 画面

新しい電子メール・テンプレートを追加するには、[Add] ボタンをクリックします。使用しているブラウザが Internet Explorer の場合、HTML エリア・ユーティリティを活用した画面により、電子メール・テキストの入力が楽になります。その他のブラウザでは、HTML またはプレーン・テキストを入力するための、テキスト入力ボックスが表示されます。ユーティリティの詳細については、付録 F を参照してください。次の画面が表示されます。

電子メール・テンプレート

アカウント: Bill Smith | ロール: Administrator | ビジネスエリア: および プロジェクト: 不具合 および Data | 関係者

テンプレート名

テンプレート・タイトル

電子メールの件名

電子メール本文にアップロードするファイル

電子メール本文を入力します。

またば

Arial | 1 (8 pt) | **B** | *I* | U | | | | |

電子メール・テンプレート追加画面

- テンプレートの名前を入力します。
- テンプレートのタイトルを入力します。
- 送信する電子メールの件名を入力します。以下で説明しますが、ここには電子メールを送信するときにフィールド値に置き換わるトークンを含めることができます。
- 送信する電子メールをテキスト・エリアで作成します。電子メールのテキストはプレーン・テキストでも HTML でもかまいません。

注: ExtraView では、<HTML> というタグがテキストの最初の行にあり、同じ行に他のタグやテキストがない場合にのみ、テキストが HTML で書かれていると認識します。

メールの件名および本文には、電子メールを送信するときに置き換えられるトークンを挿入することができます。これらのトークンは、メールの送信中に表示されているレコードのフィールドに関連付けられた値を表します。例えば、メールの issue ID を置き換える場合は \$\$ID\$\$ を使用します。issue ステータスを挿入するには、\$\$STATUS\$\$ を使用します。有効なトークンは、データ辞書フィールド名、データ辞書 UDF、および \$\$SYSDATE\$\$ です。

本文の例:

```

$$CUSTOMER_NAME$$ 様

$$DATE_CREATED$$ 付で貴殿から報告のありました issue については、現在早急に対応しているところです。弊社の記録によると、貴殿からの issue の報告は以下の内容となっています。

$$DESCRIPTION$$

貴殿の報告に対する解決策が見つかり次第、ご連絡いたします。

よろしく願い申し上げます。

$$OWNER$$

```

これが次のような電子メールとして出力されます。

ブライアン・ジョーンズ様

12/11/2002 付けで貴殿から報告のありました issue については、現在早急に対応しているところです。弊社の記録によると、貴殿からの issue の報告は以下の内容となっています。

電源キャビネット内の一番上の装置は、電源をオフにして電気を遮断した状態にしなければ取り扱うことができません。このような変更は、機器の電源を切らなくても行えるのではないかと思います。解決策を教えてくださいませんか？

貴殿の報告に対する解決策が見つかり次第、ご連絡いたします。

よろしく願い申し上げます。

トニー・スミス

1. **[更新]** ボタンをクリックします。
2. 与えられた issue の **[編集]** 画面から **[電子メール]** ボタンをクリックすると、テンプレートのドロップダウン・ボックスにユーザのためのテンプレートが表示されるようになりました。

注: EMAIL_ADDRESS というフィールドは、表示タイプがテキストである UDF フィールドとして使用できます。このフィールドは、レイアウトの際に設定できます。これは特殊な用途に使用します。編集画面からカスタム電子メール機能にアクセスして、アドホック電子メールまたは事前定義したテンプレートから作成した電子メールを送信するとき、ユーザはこのフィールドを使用して、メール送信先の電子メール・アドレスにデータを自動入力します。それによって、例えば issue をレポートするときに電子メール・アドレスを入力するユーザとの通信が簡単になります。このフィールドに保存された値は、自動的にアドレスを返します。

電子メール設定

ここまで詳細を説明したすべての電子メール設定を以下に示します。

[電子メール通知] メニュー – [メール設定]	標準的な値	説明
[AD_HOC_EMAIL_FROM_ADDRESS]		テンプレートまたはアドホック・テキスト入力を使用して送信されたすべての電子メールに、アドレスを返します。これらは、編集画面の [電子メール] ボタンを使用して送信された電子メールです。
[AD_HOC_EMAIL_FROM_SENDER]		編集画面の [電子メール] ボタンを使用してテンプレートおよびテキスト電子メールを送信した、すべてのユーザのユーザ ID。ユーザの電子メール・アドレスは、ユーザのアカウント情報を基に決定されず。

[電子メール通知] メニュー – [メール設定]	標準的な値	説明
[CHECK_EMAIL_ADDRESS_FORMAT]	YES	YES に設定すると、ユーザ・アカウント画面で入力した電子メール・アドレスが、完全修飾ドメインを持つ有効な形式であるかどうかチェックされます。NO に設定すると、電子メール・アドレスの形式はチェックされません。
[DEFAULT_USER_FOR_EMAIL]	ADMIN	issue を割り当てられているユーザがない場合に、ExtraView で電子メールを受信するユーザ ID。これは、通知されずに issue が入力されないことがないようにするための代替策です。
[EMAIL_ADMINISTRATOR_NAME]	ExtraView 管理者	ExtraView 管理者の電子メール・アドレスまたはエイリアス。ExtraView で自動的に作成される電子メールは、この名前が送信元になります。例としては、ユーザの自己登録時、または権限のないアクセス時に送信される電子メールなどがあります。
[EMAIL_ADMINISTRATOR_USER_ID]	admin@my_company.com	ExtraView から送信される電子メールの、送信先電子メール・アドレス。通常、これは、管理者の電子メール・アドレスまたは管理者のエイリアスになります。
[EMAIL_CHARSET]	UTF-8	ExtraView サーバにより電子メール通知が送信される際、各ユーザが使用するデフォルト文字セット
[EMAIL_BCC_ARCHIVE]		テンプレートとアドホック電子メールのコピーが BCC として送信される電子メール・アドレス。
[EMAIL_CUSTOMER_BOX]	UNCHECKED	この設定では CHECKED または UNCHECKED を指定します。CHECKED を指定すると、IGNORE_USER_GROUP のユーザ (主に顧客) を制御する、追加画面および編集画面のチェックボックスが、デフォルトでチェックされます。
[EMAIL_DIRECTORY]	/usr/local/extraview/BatchMail / mailbox	送信されるメッセージが保存される電子メール・ディレクトリを指定します。これは、バッチメール・プロセスで、送信するメールをプロセスがサーバ上で特定する場所です。
[EMAIL_FROM_USER_ID]	support@yourcompany.dom	ExtraView から送信されるすべての電子メールのアドレスを返します。これにより電子メールの受信者は電子メールに返信することができ、有効な宛先があることを認識できます。
[EMAIL_FROM_USER_NAME]		電子メールの送信元になる実際のユーザ名のエイリアス。送信される通知のヘッダ情報に挿入されます。
[EMAIL_MODULE_OWNER_ALWAYS]	YES	issue に割り当てられているかどうかにかかわらず、電子メール・モジュールの所有者。有効な値は YES と NO です。
[EMAIL_NOTIFICATION]	YES	変更に関する電子メール通知のオン/オフを切り換えます。有効な値は YES と NO です。これは、電子メールの有効と無効を切り換えるマスター・コントロールになります。NO に設定すると、ユーザの作成または編集時に電子メールアドレスが必須ではなくなります。

[電子メール通知] メニュー – [メール設定]	標準的な値	説明
[EMAIL_SUBJECT_TEMPLATE]	.text {font-size : 10pt} .report_text {font-size : 10pt}	HTML 電子メールのスタイル。ユーザが電子メールを読むときにサーバにアクセスする必要がないように、これは送信される電子メール通知の本文に挿入されます。
[EMAIL_SUBJECT_TEMPLATE]	ExtraView Notification [\$\$ID\$\$]: \$\$STATUS\$\$ - \$\$SHORT_DESCR\$\$	電子メールの件名行のフォーマット。\$\$ 記号間のトークンは、現在のレコードの実際の値によって置換されます。
[GENERATE_EMAIL_BOX]	CHECKED	追加画面および編集画面の [Generate Email] ボックスのデフォルト値。有効な値は CHECKED と UNCHECKED です。
[SET_EMAIL_ENCRYPTION]	NO	アドホック電子メール画面の暗号化オプションを表示します。有効な値は YES と NO です。

ユーザが制御する通知機能

- ユーザ自身の更新通知を有効または無効にします。
- 受信電子メールの表示形式をテキストと HTML から選択します。
- テキストを受信する際の通知形式を全文と要約から選択します。
- 自動電子メール作成を無効にします。
- CC メール
- 顧客その他のユーザへ情報を送る際に、管理者が設定したテンプレートを使用して、事前定義した形式の電子メールを送信します。

注：本書では、ユーザが制御する電子メール機能を管理者機能とともに説明します。この機能をおさらいしておくことで、ExtraView の電子メール機能をより確実に把握できます。

ユーザ自身の更新の通知

この機能により、個々のユーザは、issue を追加または更新するとユーザ自身に送られてくる自動電子メールを無効にすることができます。管理者がこのオプションをユーザに代わって適用することも可能です。

1. 個別のユーザとして、タイトル・バーにあるアカウント名をクリックし、アカウントの詳細を編集するか、[Administration] メニューの [ユーザ] タブで [ユーザ・アカウント・メンテナンス] オプションをクリックし、アカウントを変更したいユーザを編集します。

次のような画面が表示されます。

ユーザーの詳細を変更 アカウント: Bill Smith | ロール: Administrator | ビジネスエリア および プロジェクト: 不具合 および Data | 関係者

更新 キャンセル ユーザ ID を無効にする

個人情報	パーソナル・オプション
ユーザ ID BSMITH 名 Bill 姓 Smith パスワード ***** パスワードを確認 ***** 電子メール・アドレス bill@extraview.com 職位 Development Engineer 会社名 Superior Software Corp アドレス 都市 州都 郵便番号 国 勤務先電話番号 自宅電話 携帯電話 Fax ボケベル	テキスト・サイズ 小 言語 日本語(日本) デフォルトに設定 ビジネスエリア 不具合 デフォルトに設定 プロジェクト Data 電子メール形式 HTML ユーザ自身の更新を通知 <input checked="" type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ タイムゾーン (GMT -8:00) AmericaLos_Angeles 日付形式 Long: 2005/05/27 カスタム日付マスク 24 時間形式の時間 <input type="radio"/> はい <input checked="" type="radio"/> いいえ レポート形式を印刷ダウン クイックリスト 開始ページ Home ホーム・ページ・レポート #1 *なし* ホーム・ページ・レポート #2 *なし* ホーム・ページ・レポート #3 Public: Assigned to you, Issues assigned to you by product ブラウザの文字セット UTF-8 Unicode 8-bit Transfer MS Office 文字セット UTF-16LE Unicode 16-bit LittleEndian グラフのフォント SansSerif File attachment char. set Shift_JIS Kanji 管理オプション パスワードの失効 <input type="checkbox"/> ユーザ・ロールを設定 <input checked="" type="checkbox"/> Administrator <input checked="" type="checkbox"/> Customer <input checked="" type="checkbox"/> Customer Support <input checked="" type="checkbox"/> Development Engineer <input type="checkbox"/> Engineering Manager <input checked="" type="checkbox"/> IT Support

[ユーザーの詳細を変更] 画面

2. [ユーザー自身の更新を通知] ラジオ・ボタンをクリックして、オプションのオン/オフを切り替えます。
3. [更新] ボタンをクリックします。

電子メール形式の選択

この機能により、個々のユーザは、受信通知の電子メールの形式をテキストと HTML のどちらかから選ぶことができます。管理者がこのオプションをユーザに代わって適用することも可能です。受信電子メールの表示形式を HTML、プレーン・テキスト(全文)およびプレーン・テキスト(要約)の 3 種類の形式から選択します。プレーン・テキスト(全文)は電子メールの全文を表示し、プレーン・テキスト(要約)は issue がわかるように数行だけを表示します。

1. 個別のユーザとして、タイトル・バーにあるアカウント名をクリックし、アカウントの詳細を編集するか、[Administration] メニューの [ユーザ] タブで [ユーザ・アカウント・メンテナンス] オプションをクリックし、アカウントを変更したいユーザを編集します。

次のような画面が表示されます。

ユーザーの詳細を変更 アカウント: Bill Smith | ロール: Administrator | ビジネスエリア および プロジェクト: 不具合 および Data | 関係者

更新 キャンセル ユーザ ID を無効にする

個人情報	パーソナル・オプション
<p>ユーザー ID BSMITH</p> <p>名 Bill</p> <p>姓 Smith</p> <p>パスワード *****</p> <p>パスワードを確認 *****</p> <p>電子メール・アドレス bill@extraview.com</p> <p>職位 Development Engineer</p> <p>会社名 Superior Software Corp</p> <p>アドレス</p> <p>都市</p> <p>州郡</p> <p>郵便番号</p> <p>国</p> <p>勤務先電話番号</p> <p>自宅電話</p> <p>携帯電話</p> <p>Fax</p> <p>ボケベル</p>	<p>テキスト・サイズ 小</p> <p>言語 日本語(日本)</p> <p>デフォルトに設定 ビジネスエリア 不具合</p> <p>デフォルトに設定 プロジェクト Data</p> <p>電子メール形式 HTML</p> <p>ユーザ自身の更新を通知 <input type="radio"/> はい <input checked="" type="radio"/> いいえ</p> <p>タイムゾーン (GMT -8:00) America/Los_Angeles</p> <p>日付形式 Long: 2005/05/27</p> <p>カスタム日付マスク</p> <p>24 時間形式の時間 <input type="radio"/> はい <input checked="" type="radio"/> いいえ</p> <p>レポート形式をドрилダウン クイックリスト</p> <p>開始ページ Home</p> <p>ホーム・ページ・レポート #1 *なし*</p> <p>ホーム・ページ・レポート #2 *なし*</p> <p>ホーム・ページ・レポート #3 Public: Assigned to you, Issues assigned to you by product</p> <p>ブラウザの文字セット UTF-8 Unicode 8-bit Transfer</p> <p>MS Office 文字セット UTF-16LE Unicode 16-bit LittleEndian</p> <p>グラフのフォント SansSerif</p> <p>File attachment char. set Shift_JIS Kanji</p>
	<p>管理オプション</p> <p>パスワードの失効 <input type="checkbox"/></p> <p>ユーザ・ロールを設定 <input checked="" type="checkbox"/> Administrator</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> Customer</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> Customer Support</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> Development Engineer</p> <p><input type="checkbox"/> Engineering Manager</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> IT Support</p>

[ユーザーの詳細を変更] 画面

2. デフォルトの電子メール形式は、HTML です。電子メール通知を別の形式で表示したい場合は、電子メール形式のリストから希望の形式を選択します。
3. [更新] ボタンをクリックします。
各種の電子メール形式の例を以下に示します。

Subject: DEV - 12231
 Date: Fri, 15 Jun 2001 16:53:09 -0700 (PDT)
 From: "ExtraView" <extraview.qa@sesame.com>
 To: "Robbie Lloyd" <rloyd@sesame.com>

Edit	Bug #	Title		
	12231	test		
Product	Owner	Created	Last Modified	
NetOp	udele malaban	08-MAR-2001	15-JUN-2001 16:51	
Category	Assigned To	View	Alt ID	Changed By
Hardware	rob lloyd	Private		ROB LLOYD
Severity	Priority			
	m2			
Module				
PM				
A Component	Platforms	OS	Clarify ID	Customer
	800 TDM			
Test Case ID	Test Case Location			
Version Open	Status	Version Closed	Disposition	
1	Closed			
Description				
test				
Comments				
Workaround				
Release Notes				
Enclosures				
Attachments				

cc: Michelle Medina, rob lloyd, Robbie Lloyd.

HTML の電子メール

```

Subject: Open [#19419]: Category doesn't seem tied to Product anymore
Date: Wed, 2 May 2001 13:57:53 -0700 (PDT)
From: "ExtraView" <extraview-user@customer.com>
To: <support@sesame.com>

ExtraView Notification for Bug # 19419
*Synopsis: Category doesn't seem tied to Product anymore
Link: http://www.extraview.net/extraviewsql/SE_Signon.FrameSet?p_case_id=19419
*Product: Dev Tools
*Originator: rloyd
*Owner: rloyd
*Changed By: dwong
*Priority: 1
Severity:
*View: Private
*Last Modified: 02-MAY-2001 13:57
*Category: Software
  Alt ID:
  Created: 02-MAY-01
*Module: ExtraView
Component:
*Platform: all
OS:
Clarify ID:
Test Case ID:
Test Case Location:
Problem Reproducible in SQA:
*Version Open: 3.1.2.1
*Status: Open
Version Closed:
Disposition:
*Description:
If you select Product=EV, Category=Software, you will see two modules called
"EV". Go into Admin... Modules and one is Hardware, one is Software.

Comments:

-----
ExtraView - Copyright Sesame Technology 1999, 2000. All rights reserved.

```

プレーン・テキスト(全文)

```
Subject: Open [#19419]: Category doesn't seem tied to Product anymore
Date: Wed, 2 May 2001 13:57:53 -0700 (PDT)
From: "ExtraView" <extraview-user@customer.com>
To: <support@sesame.com>

ExtraView Notification for Bug # 19419

*Synopsis: Category doesn't seem tied to Product anymore
Link: http://www.extraview.net/extraviewsql/SE_Signon_FrameSet?p_case_id=19419

*Product: Dev Tools
*Originator: rlloyd
*Owner: rlloyd
*Priority: 1
Severity:

-----
ExtraView - Copyright Sesame Technology 1999, 2000. All rights reserved.
```

プレーン・テキスト(要約)

注: これらの標準の電子メール形式は、レイアウト・エディタを使用して変更できます。

電子メール関係者リスト

ExtraView では、システム内のほぼすべてのフィールドの関係者リストにユーザが登録することができます。関係者リストにより、システム内の特定のメタデータに関する電子メールをユーザが受信できます。例えば、特定のユーザに対して、issue が [Critical] の重要度や [オープン] のステータスになるたびに通知したいとします。関係者リストは、製品、モジュール、ステータス、優先度、解決策、重要度、およびユーザ定義フィールドについて作成できます。

以下に示す最初の例では、通常の構成項目(製品、モジュール、優先度など)の関係者リスト・メンバーを追加したり管理する方法を示します。その次に、ユーザ定義フィールド(ユーザ独自のフィールド)についての例を示します。

データベース・フィールドの関係者リストを作成する

通常の構成項目には、製品、モジュール、優先度などの項目が含まれます。この例では製品(PRODUCT_NAME)を使用します。他の構成項目に关系者リストメンバーを追加する方法も同じです。

1. [Administration] メニューの [フィールド] タブで、[データ辞書] をクリックします。
2. [事前定義フィールド] タブをクリックします。
3. 下へスクロールして製品(PRODUCT_NAME)を表示し、この値の横にある [Edit] ボタンをクリックします。

データ辞書 エントリを変更 アカウント: Bill Smith | ロール: Administrator | ビジネスエリア およ

フィールド所属先 Issue レコード
 固定データベース名 PRODUCT_NAME

表示するタイトル 製品名

タイプを表示 リスト

レポート上での選択を許可 はい いいえ

最後の値を記憶 はい いいえ

関係者リストを有効にする はい いいえ

フィルタ基準 はい いいえ

ソート可能です。 はい いいえ

URLとして表示 はい いいえ

URL

デフォルト値

ヘルプテキスト 製品名

ヘルプ URL helpGlossary.html#product

関係者リストを有効にするオプション

4. [関係者リストを有効にする] オプションの [はい] ラジオ・ボタンにチェックを付けて、このデータ辞書エントリの関係者リストを有効にします。
5. 画面の一番下にある [更新] ボタンをクリックします。
6. [Administration] メニューに戻り、[リスト] タブから [製品] リンクをクリックします。
7. 関係者リストのメンバーに対して追加を行う製品を 1 つまたは複数特定し、該当する [Edit] ボタンをクリックします。

次の画面が表示されます。

エントリを製品に変更 アカウント: Bill Smith | ロール: Administrator | ビジネスコ

固定データベース名 AAA

表示するタイトル Tracker

ソート・シーケンス

電子メール・アドレス

有効 Yes No

製品詳細の変更ページ

8. [Interest List] ボタンをクリックします。ポップアップ画面が現れ、現在画面に表示されている情報が保存されることを警告します。[OK] ボタンをクリックして続行します。

次の画面が表示されます。

関係者リスト アカウント: Bill Smith | ロール: Administrator | ビジネスエ

[Return](#)

[Add](#) 関係者リストに新しいメンバーを追加

管理したい関係者リストのタイプを選択する 製品名(PRODUCT_NAME) ▼

Tracker ▼

ユーザ名	削除したことをチェックする	会社	関係者リストのタイプ	製品名
Chris Robinson	<input type="checkbox"/>	Superior Software Corp	製品名	Tracker
Jimmy Duncan	<input type="checkbox"/>	Superior Software Corp	製品名	Tracker
Mary Dickens	<input type="checkbox"/>	Superior Software Corp	製品名	Tracker

合計 3 レコードから選択された 3 レコード

[Return](#)

製品の関係者リスト画面

9. **[関係者リストに新しいメンバーを追加]** ボタンをクリックすると、次の画面が表示されます。

新しい関係者リストエントリを追加 アカウント: Bill Smith | ロール: Administrat

関係者リストのタイプ 製品名

関係者リスト項目 Tracker

ユーザを選択 Allan Rofer ▼

[製品の関係者リストに新しいメンバーを追加] 画面

10. 上の画面から、**製品**関係者リストに追加する組織のメンバーを、ユーザ名を選択して選ぶことができます。
11. **[更新]** ボタンをクリックします。

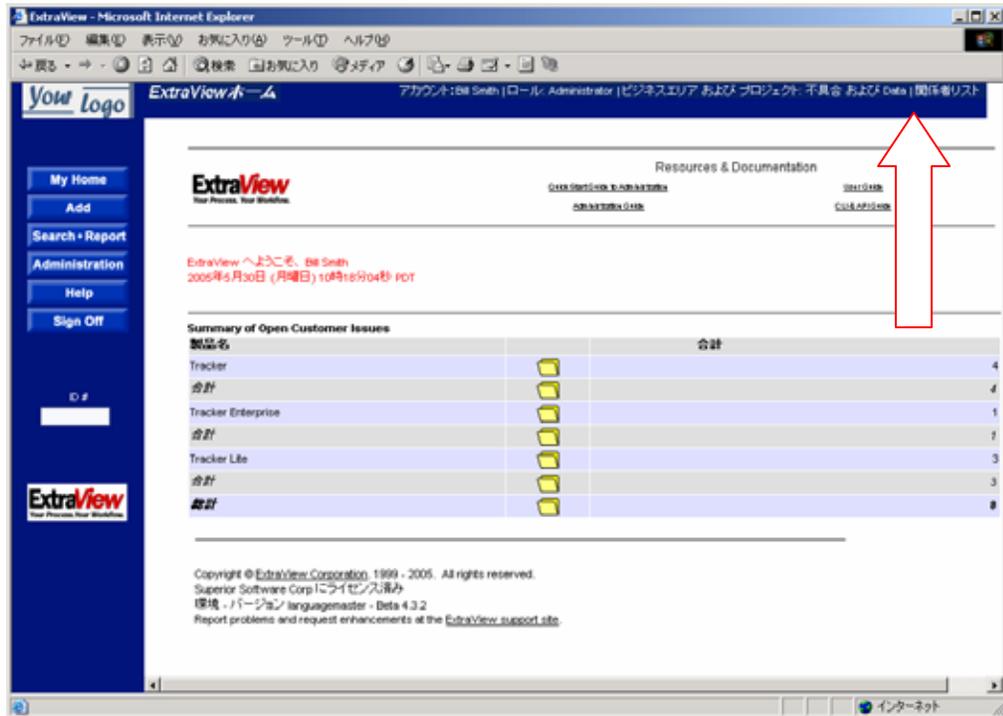
関係者リストのすべてのメンバーには、その製品に関連した *issue* が発生するたびに電子メールが自動送信されます。同じプロセスを他のデータベース・フィールドやユーザ定義フィールド、例えば *product_name*、*module_id*、*status*、*priority*、*resolution*、*priority*、*resolution*、*severity_level* などに適用できます。

パーソナル電子メール関係者リストの編集

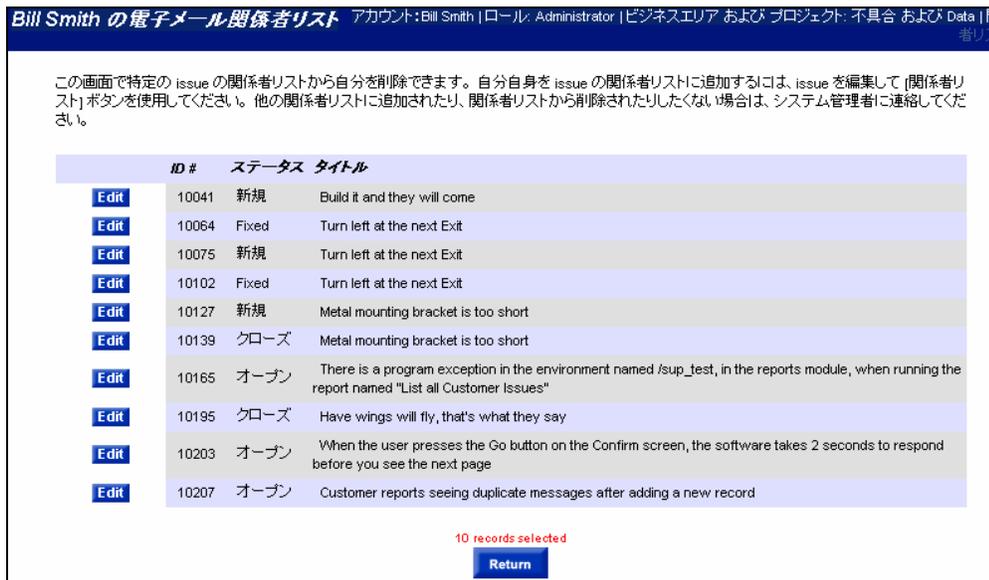
パーソナル関係者リストを保守して、*issue* の所有者以外のユーザが *issue* の進捗を追跡できます。*issue* がパーソナル関係者リストに置かれると、ユーザはデータベース内の *issue* に変更が行われるたびに電子メールを受け取ります。

電子メールは、*issue* の所有者および入力された新しい *issue* の担当者に自動的に作成されます。*issue* に関連するステータスまたはその他の情報を変更すると、*issue* の所有

者、作成者、および担当者に電子メールが送信されます。これらの値のいずれかが同一の場合、1 ユーザにつき電子メールが 1 通だけ作成されます。さらに、ユーザはどの issue の関係者リストにも登録できます。



ホーム・ページ画面



パーソナル電子メール関係者リストの画面

パーソナル関係者リストへの追加

1. 特定の [編集] 画面の一番下にある [関係者リスト] ボタンをクリックします。
2. [関係者リストに新しいメンバーを追加] ボタンをクリックして、関係者リストに自分自身か他のユーザを追加します。
3. 表示されるリストからユーザの名前を選択します。
4. [更新] ボタンをクリックします。関係者リストから自分の名前を削除することは可能ですが、他の名前は削除できません。

関係者リストへの追加

関係者リストからユーザ自身を削除する

1. 画面のタイトル・バーにある [関係者リスト] ボタンをクリックします。
2. ユーザ自身を削除する issue 番号の横にある [Edit] アイコンをクリックします。次の画面が表示されます。

[関係者リスト・エントリを削除] 画面

3. [削除] ボタンをクリックすると、ユーザ自身が関係者リストから削除されます。

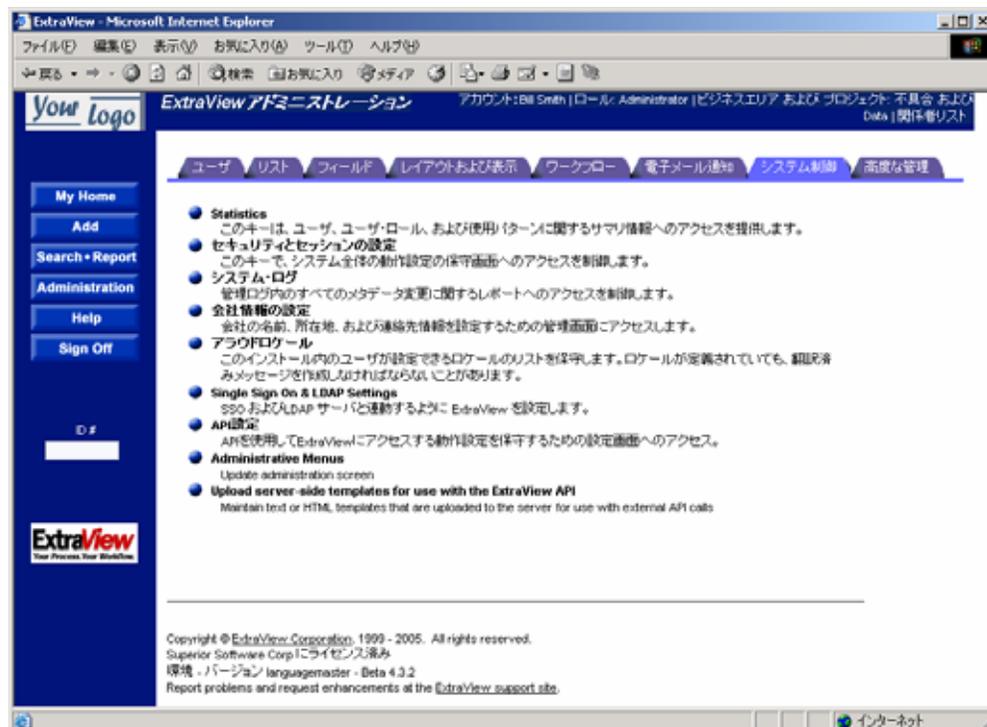
システム制御

概念

[システム制御] は、全体の設定や環境に影響する ExtraView 内での動作設定です。その設定は、次のセクションに分かれています。

- [セキュリティとセッションの設定] – システム全体の設定のタイミングとデフォルト。
- [会社情報の設定] – 会社名、アドレス、連絡先の情報。
- [シングルサインオンと LDAP の設定] – ExtraView を SSO および LDAP サーバとともに動作するように設定します。
- [API 設定] – API を経由して ExtraView にアクセスするときのデフォルト。

また、[システム制御] 管理セクションでは、ExtraView の使用状況全般に関する情報が提供されるとともに、システム・ログにアクセスすることもできます。システム・ログには個別のユーザが行った操作が表示されるので、だれがいつ何を行ったかがわかります。



システム制御 管理メニュー

セキュリティとセッションの設定

これらの動作設定では、セキュリティのアクセスおよびセッションの制限に影響する ExtraView へのアクセスを制御します。次のような設定があります。

[システム制御] メニュー – [セキュリティとセッションの設定]	標準的な値	説明
[AUTO_SIGNOFF_ON_USER_EXIT]	NO	YES または NO を指定して、ユーザが ExtraView の最後のウィンドウを閉じた場合、または別のサイトに移動した場合に、サインオフするかどうかを設定します。NO を指定すると、セッションの cookie が残り、ユーザはブラウザの [戻る] ボタンを押して、ExtraView のセッションに戻るができます。YES を指定すると、ユーザが別のサイトに移動するか、または ExtraView のウィンドウを閉じると、ユーザのセッションが終了します。
[CACHE_COHERENCY_POLL_TIME]		更新されたキャッシュ情報がチェックされる間隔を示す秒数。これは、複数のアプリケーション・サーバが同じ物理データベースにアクセスしている場合に使用されます。稼働しているアプリケーション・サーバが 1 台だけである場合には使用されません。
[CLIENT_IP_ADDRESS_CHECK]	YES	YES または NO を指定して、セッション中にクライアント・ワークステーションが一定の IP アドレス を保持していることをチェックするかどうかを設定します。通常は YES に設定しますが、サーバがプロキシ・サーバによってアクセスされる場合は、NO に設定します。
[DEFAULT_TIMEZONE]	America/Los_Angeles	このタイムゾーンは、作成されたすべての新しいユーザのデフォルトとして使用されます。タイムゾーンのスペルが正しいことを確認してください。有効なタイムゾーンのリストについては、付録 C を参照してください。
[KEEP_FAMILY_SESSIONS_TIMEOUT]	NO	この動作設定を NO にすると、ExtraView で新しいセッションを開始する各ウィンドウで、SESSION_EXPIRE_TIME_HOURS に対する独自の測定基準が設定されます。YES に設定すると、すべてのウィンドウのすべてのセッションで、1 つの SESSION_EXPIRE_TIME_HOURS が共有されます。NO に設定すると、サーバの使用メモリが効率化されます。ただし個別のユーザが開くウィンドウ数が多すぎると、そのユーザについて、ExtraView で予期しないセッションのタイムアウトが発生する場合があります。
[MAX_SIGNON_ATTEMPTS]	3	個別のユーザが連続してサインオンを試みることができる最大回数。これを超えると、そのユーザのアカウントが無効になります。許可される失敗の回数は、SIGNON_PERIOD_MINUTES で定義される期間内で測定されます。

[システム制御] メニュー – [セキュリティとセッションの設定]	標準的な値	説明
[NOSPILL_SESSION_COUNT]	500	<p>2つの数値を指定して、任意のある時点でメモリが許容するセッション数を定義します。</p> <p>- SPILL_SESSION_COUNT - NOSPILL_SESSION_COUNT</p> <p>セッションは、ユーザからのログインに応じて、または以前に作成したセッションのサブセッションとして、メモリで作成されます。これらのセッションでは、メモリのリソースで、個別のユーザとExtraViewとの対話のコンテキストが保持される必要があります。セッション数が多くなりすぎると、メモリなどのリソース消費量が過大になり、システムが連続して稼動することがむずかしくなります。そのため、あふれた古いセッションをディスクに移行させて、必要に応じて取り出すメカニズムがあります。</p> <p>メモリ内のセッション数がNOSPILL_SESSION_COUNTの数値以上になると、最も古い部類に入るセッションがデータベースに書き込まれ、メモリから削除されます。この場合、最も古いセッションとは、ユーザによって最も長い期間アクセスされていなかったセッションです。ディスクへのセッション・データの書き込みはバックグラウンドのタスクとして行われ、メモリ内のセッションの作成または使用には直接影響しません。反応性に影響があるのは、セッションのシリアル化解除のために短い遅延を必要とし、データベースからメモリに再構成されるユーザのアクティビティによって、ディスク上のセッションが実行される場合だけです。</p> <p>メモリ内のセッション数がSPILL_SESSION_COUNTの数値に達すると、メモリ内のセッション・キャッシュが満杯になり、新しいセッションのリクエストは、古いセッションがデータベースに書き込まれるまで待機しなければなりません。この場合、ユーザは、古いセッションが書き込まれ、メモリ内のセッション・スロットが使用可能になるまで待機する必要があります。そのため、反応性に対する直接的な影響が発生します。多くの場合、この遅延は認識できません。</p> <p>別の面から見ると、システムは任意の時点で常に次の3つの状態のうちの1つになります(N_SESSIONSは、メモリ内のセッション数を示す)。</p> <ol style="list-style-type: none"> あふれなし状態: N_SESSIONS < NOSPILL_SESSION_COUNT この状態では、データベースに書き込まれるセッションはなく、新しいセッションが直接メモリに作成されます。 あふれ状態: SPILL_SESSION_COUNT > N_SESSIONS >= NOSPILL_SESSION_COUNT この状態では、バックグラウンド・タスクで最も古いメモリ内セッションがディスクに書き込まれ、新しいセッションが遅延なくメモリに作成されます。 満杯状態: SPILL_SESSION_COUNT <= N_SESSIONS この状態では、新しいセッションの作成リクエストは、少なくとも1つの古いセッションがディスクに書き込まれ、新しいセッション用のスロットが解放されるまで遅延されます。 どのような場合でも、NOSPILL_SESSION_COUNT < SPILL_SESSION_COUNTになります。動作設定がこの不変式に反する場合は、デフォルト値(480/500)が使用されます。 <p>また、これらの動作設定はExtraViewの起動時に設定する必要があり、起動後に調べられることはありません。変更した設定を反映させるには、ExtraViewアプリケーション・サーバを再起動する必要があります。</p>

[システム制御] メニュー – [セキュリティとセッションの設定]	標準的な値	説明
[REAUTH_REDIRECT_PARAM]		
[REAUTH_URL]		ステータス署名ルールによる再認証を行う場合は、これが再認証を行う URL になります。
[REAUTH_REDIRECT_PARAM]		ステータス署名による再認証後は、これが ExtraView が参照する URL およびパラメータになります。
[SECURITY_CACHE_MINUTES]	30	セッション・セキュリティ・キャッシュが行われるまでの分数。セキュリティ許可設定の変更後に、このサイクルで設定が自動的に更新されるまで待てない場合は、一度サインオフしてからサインオンすることで更新されます。
[SESSION_EXPIRE_TIME_HOURS]	24	ユーザに再ログインが要求されるまでの、セッションの最大アイドル時間を時間数で指定します。1 時間未満の時間設定が必要な場合は、0.5 などの小数を使用できます。
[SIGNON_PERIOD_MINUTES]	5	パスワードが無効であるためにユーザがサインオンに失敗した場合は、この期間内に MAX_SIGNON_ATTEMPTS で設定されている回数までサインオンを試みることができます。
[SPILL_SESSION_COUNT]	1000	[NOSPILL_SESSION_COUNT] の項目を参照してください。
[SYSTEM_LOG_EXPIRE_TIME_DAYS]	30	入力した日数はシステム・ログ・テーブルに保存されます。

セッション失効コード

ユーザが [Session expired or removed] という警告を受けた場合、理由は次のうちの 1 つである可能性があります。

警告コード	意味
RC1	最も考えられる理由は、管理者が [SESSION_EXPIRE_TIME_HOURS] の動作設定で割り当てた時間よりも、ユーザが長くアイドル状態にあったことです。そのため、ExtraView はユーザをシステムからサインオフしました。この状態は、ユーザが作業している最中に管理者がサーバを再起動することによっても起きる場合があります。
RC2	ブラウザによって返される cookie がサーバに保持されているセッションの cookie と一致しません。
RC3	フォアグラウンドでセッションの有効期限が切れました。
RC4	セッションが管理者によって削除されました。これは、管理者が [Manage Connected Users] 管理機能を使用してユーザのセッションをキャンセルすると起こります。
RC5	セッション中にユーザの IP アドレスが変更され、[CLIENT_IP_ADDRESS_CHECK] が "YES" になっています。通常、ExtraView はセキュリティ目的で、ユーザの IP アドレスが一定であることを確認するチェックを実行します。ただし、ユーザの IP アドレスがなんらかの理由で自動的に変更されるネットワークにユーザが加入している場合は、このチェックを無効にできます。これは、プロキシ・サーバにより VPN 経由で会社のネットワークにアクセスする場合によくあります。

統計情報

ExtraView は、重要な情報に関する統計情報を保持しています。統計情報には、[Administration] メニューの [システム制御] タブからアクセスします。

[統計情報] をクリックすると、統計情報が表示されます。

このページは、[ユーザ統計情報]、[Issue統計情報]、[添付ファイル] という 3 つの主要セクションに分かれています。

準備済みレポート 2005/05/30	
ユーザ統計情報	
ユーザの合計数 (有効および無効)	16
有効なユーザ数	15
有効な顧客ユーザ数	2
内部ユーザ数 (顧客以外)	13
ユーザ・ロール Administrator の有効なユーザ数	6
ユーザ・ロール Customer の有効なユーザ数	7
ユーザ・ロール Customer Support の有効なユーザ数	6
ユーザ・ロール Development Engineer の有効なユーザ数	9
ユーザ・ロール Engineering Manager の有効なユーザ数	5
ユーザ・ロール IT Support の有効なユーザ数	6
ユーザ・ロール Quality Assurance の有効なユーザ数	7

[ユーザ統計情報] セクション

- **[ユーザの合計数 (有効および無効)]**。ExtraView のデータベースに保存されているユーザの総数。有効なユーザ・アカウントと無効なユーザ・アカウントの両方が含まれます。
- **[有効なユーザ数]**。有効なユーザ・アカウント数。無効なアカウントは除外されません。
- **[有効な顧客ユーザ数]**。[IGNORE_USER_GROUP] の動作設定で指定されたユーザ・ロール内で有効なユーザ数。
- **[内部ユーザ数 (顧客以外)]**。[IGNORE_USER_GROUP] 以外のユーザ・グループに割り当てられたユーザの数。あるユーザに [IGNORE_USER_GROUP] とその他のグループが両方割り当てられている場合は、この合計で表示されます。
- **[ユーザ・ロール *group_name* の有効なユーザ数]**。*group_name* というユーザ・ロール内の有効なユーザ数。

Issue 統計情報	
データベース内の issue の合計数	208
今月の今日までに作成された issue 数	0
先月に作成された issue 数 (4月)	1
最近 30 日間に作成された issue 数	0
今月の今日までに適用された更新数	3
先月に適用された更新数 (4月)	25
最近 30 日間に適用された更新数	3

[Issue 統計情報] セクション

添付ファイル	
システム内の添付ファイル数	2
添付ファイルの平均サイズ(kB)	77
添付ファイルの最大サイズ(kB)	114

[添付ファイル] セクション

システム・ログ

管理者はシステム・ログを使用することで、全ユーザによる重要なメタデータ・トランザクションのすべてを、ユーザのサインオンとサインオフを除いて明らかにすることができます。サインオンとサインオフの操作については、管理メニューの [ユーザ] タブにある [ユーザ・サインオン・ログ] ログで見ることができます。システム・ログにアクセスするときには、フィルタを選択します。

デフォルトのフィルタを選択すると、前月に行われたすべてのユーザの全エントリのリストが表示されます。あるいはログのエントリ・タイプ(サインオン、サインオフ、失敗したサインオン)、単一のユーザ、または任意の日付の範囲でフィルタをかけることができます。

このオプションは、[Administration] の [システム制御] セクションの [システム・ログ] という見出しの下にあります。

システム・ログ アカウント: Bill Smith | ロール: Administrator | ビジネスエリア および プロジェクト: 不具合 および Data | 関係者リスト

リストから表示したいエントリ・タイプと、単一のユーザ ID または全ユーザを選択してください。任意の日付範囲を指定できます。デフォルトの日付範囲は最近 30 日間です。

ログ・エントリ・タイプを選択

ユーザ ID

開始日を入力します。

終了日を入力します。

システム・ログにアクセスするためのフィルタを選択する

システム・ログの例を以下に示します。このリストは、[Log entry #]、[Date]、[User ID]、[Type]、[Log entry] のうち任意の列によってソートできます。ヘッダをクリックして、列をソートします。矢印は現在ソートに使用されている列を示します。選択されている列をクリックするとレポートが再度ソートされますが、昇順ではなく降順でソートされます。

システム・ログ アカウント: Bill Smith | ロール: Administrator | ビジネスエリア および プロジェクト: 不具合 および Data | 関係者リスト

リストの文字は選択したフィルタ列の最初の文字を示しています。最初に、フィルタとして使用する列を選択してください。次に、これらの項目だけのリストを作成するために文字をクリックするか、または

① レポートの列を選択

② 文字をクリックします。
または検索ボタンを入力して、Enter キーを押してください

Log entry #	Date	User ID	Type	Log entry
62393	2005/05/06	QA	Update Existing SECURITY_USER	update security_user set ADDRESS_LINE1 = ?, ADDRESS_LINE2 = ?, ALPHA_TIMEZONE = ?, AREA_ID = ?, CELL_PH...
62398	2005/05/06	QA	Delete SECURITY_GROUP_USER	delete from security_group_user where security_user_id = ? (*QA*)
62403	2005/05/06	QA	Add SECURITY_GROUP_USER	Add to security_group_user, insert into security_group_user(security_user_id, security_group_id) values(?, ?) (*QA*,ADMIN)
62408	2005/05/06	QA	Add SECURITY_GROUP_USER	Add to security_group_user, insert into security_group_user(security_user_id, security_group_id) values(?, ?) (*QA*,ADMIN) (*QA*,GUEST)
62413	2005/05/06	QA	Add SECURITY_GROUP_USER	Add to security_group_user, insert into security_group_user(security_user_id, security_group_id) values(?, ?) (*QA*,ADMIN) (*QA*,GUEST) (*QA*,DEV_ENGINEER)
62418	2005/05/06	QA	Add SECURITY_GROUP_USER	Add to security_group_user, insert into security_group_user(security_user_id, security_group_id) values(?, ?) (*QA*,ADMIN) (*QA*,GUEST) (*QA*,DEV_ENGINEER) (*QA*,DEV_QA)
62423	2005/05/06	QA	Delete PRIVACY_GROUP_USER	delete from privacy_group_user where security_user_id = ? (*QA*)
62428	2005/05/06	QA	Update Existing SECURITY_USER	update security_user set ADDRESS_LINE1 = ?, ADDRESS_LINE2 = ?, ALPHA_TIMEZONE = ?, AREA_ID = ?, CELL_PH...
62433	2005/05/06	QA	Delete SECURITY_GROUP_USER	delete from security_group_user where security_user_id = ? (*QA*)
62438	2005/05/06	QA	Add SECURITY_GROUP_USER	Add to security_group_user, insert into security_group_user(security_user_id, security_group_id) values(?, ?) (*QA*,ADMIN)
62443	2005/05/06	QA	Add SECURITY_GROUP_USER	Add to security_group_user, insert into security_group_user(security_user_id, security_group_id) values(?, ?) (*QA*,ADMIN) (*QA*,GUEST)
62448	2005/05/06	QA	Add SECURITY_GROUP_USER	Add to security_group_user, insert into security_group_user(security_user_id, security_group_id) values(?, ?) (*QA*,ADMIN) (*QA*,GUEST) (*QA*,DEV_ENGINEER)
62453	2005/05/06	QA	Add SECURITY_GROUP_USER	Add to security_group_user, insert into security_group_user(security_user_id, security_group_id) values(?, ?) (*QA*,ADMIN) (*QA*,GUEST) (*QA*,DEV_ENGINEER) (*QA*,DEV_QA)
62458	2005/05/06	QA	Delete PRIVACY_GROUP_USER	delete from privacy_group_user where security_user_id = ? (*QA*)
62463	2005/05/08	TOYO	Update Existing SECURITY_USER	update security_user set ADDRESS_LINE1 = ?, ADDRESS_LINE2 = ?, ALPHA_TIMEZONE = ?, AREA_ID = ?, CELL_PH...

[ExtraView サイン・オン・ログ]

ログ・エントリから、ExtraView データベースの更新で実際に使用した SQL がわかります。SQL 文には疑問符が多数含まれています。各疑問符は、実行時に順次パラメータ・リストの値に置き換えられます。

会社情報の設定

[会社情報の設定] を使用して、管理者はユーザの企業名および所在地の詳細を設定できます。これらの設定には、[Administration] の [システム制御] セクションの [会社情報の設定] という見出しのページからアクセスします。

次のスクリーン・ショットのような画面が表示されます。

データベース・フィールド名	値	説明
COMPANY_ADDRESS1		会社の所在地
COMPANY_ADDRESS2		会社の所在地(2行目)
COMPANY_CITY		会社の所在地(都道府県)
COMPANY_EMAIL		会社の電子メール・アドレス
COMPANY_NAME	Superior Software Corp	会社名
COMPANY_PHONE		会社の電話番号
COMPANY_STATE		会社の所在地(州)
COMPANY_ZIP		会社の郵便番号
ENABLE_COMPANY_NAME_ACCESS	YES	この動作設定を YES(デフォルト値)に設定すると、ユーザの会社名が issue のプライマシー設定に優先し、会社名が同じである他のユーザが作成したすべてのレコードへのアクセスがユーザに許可されます。有効な値は YES と NO です。

合計 9 レコードから選択された 9 レコード

[会社情報の設定]

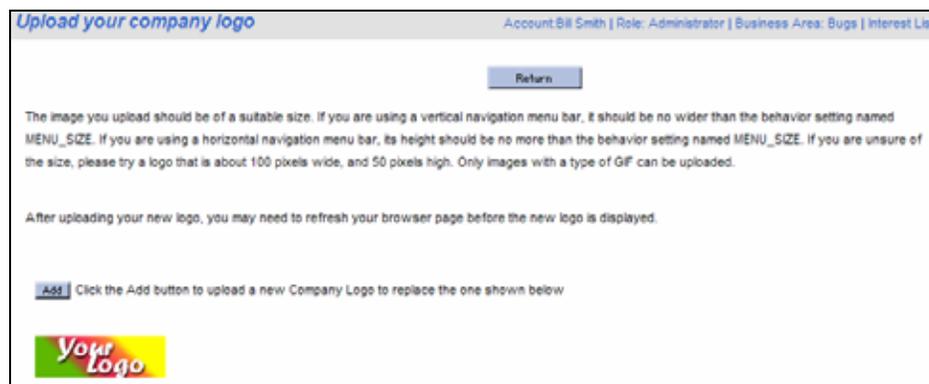
設定できる動作設定は次のとおりです。

[システム制御] メニュー – [会社情報の設定]	標準的な値	説明
[COMPANY_NAME]		会社名
[COMPANY_ADDRESS1]		会社の所在地
[COMPANY_ADDRESS2]		会社の所在地(2行目)
[COMPANY_CITY]		会社の所在地(都道府県)
[COMPANY_STATE]		会社の所在地(州)
[COMPANY_ZIP]		会社の郵便番号
[COMPANY_PHONE]		会社の電話番号
[COMPANY_EMAIL]		会社の電子メール・アドレス

[システム制御] メニュー – [会社情報の設定]	標準的 な値	説明
[ENABLE_COMPANY_NAME_ACCESS]	YES	この動作設定を YES(デフォルト値)に設定すると、ユーザの会社名が issue のプライバシー設定に優先し、会社名が同じである他のユーザが作成したすべてのレコードへのアクセスがユーザに許可されます。有効な値は YES と NO です。

新しい会社ロゴ画像のアップロード

ナビゲーション・バーの左上に表示される会社ロゴを、ユーザ独自の画像に置き換えることができます。これを行うには、[管理]メニューから[システム管理]タブをクリックし、[ユーザの会社ロゴをアップロード]というリンクをクリックします。すると次のような画面が表示されます。



会社ロゴのアップロード

追加 ボタンをクリックすると、ダイアログ・ボックスが表示され、ユーザのローカル・コンピュータからアップロードするファイルを選択することができます。

ExtraView ではアップロード可能なファイルの大きさに制限を設定していませんが、当然ながら、ロゴのバランスが不適切であるとききれいに表示できません。通常、幅が 100 ないし 150 ピクセル、高さが 30 ないし 60 ピクセルのロゴが最適です。

gif タイプのファイルのみアップロードが可能です。

注: 新しい会社ロゴの画像は(特に以前のものと同じロゴをアップロードする場合)、すぐに表示されないことがあります。その理由は、ブラウザは画像をキャッシュしており、新しいコピーをダウンロードする必要があることを常に検出するとは限らないためです。ブラウザの[更新] ボタンを押してブラウザのページを更新し、新しい画像を表示させてください。

注: ExtraView を 配備済み War ファイルから起動している場合、この機能を使用することはできません。

利用可能なロケール

この機能により、ユーザ管理画面の [言語] プロンプトによりユーザが選択可能なロケールを定義することができます。このオプションを管理画面に表示するには、MULTI_LOCALE という動作設定を YES に設定し、CF_ALLOWED_LOCALES というセキュリティ許可キーに対する読み取りおよび書き込み権限がそのユーザに付与されていなければなりません。

この機能への初回アクセスの際、設定されているロケールのリストが表示されます。[編集] ボタンを押してこれらの設定を変更するか、新しいロケールを追加することができます。

	Language	Region	Variant	Allowed	Created	Last updated
Edit	en	US		Y	ExtraView 10/1/03 12:00 AM	ExtraView 10/1/03 12:00 AM
Edit	ja	JP		Y	ExtraView 10/1/03 12:00 AM	ExtraView 10/1/03 12:00 AM

利用可能なロケールのリスト

新しい言語パッケージを追加するとき、直ちにユーザがその言語に切り替えられるようにできますが、その言語用にローカライズされたメッセージが存在しない可能性があります。[システム・メッセージおよびプロンプトを翻訳]、または定義した任意の新しい言語でのメッセージを指定するために表示される[ローカライズ] ボタンを利用することができます。

新しいロケールを加えると、メッセージをその言語に翻訳する機能が利用できるようになるだけではありません。すべての日付形式とその他ロケール固有の機能で異なるデフォルトを使用できるようになります。例えば、デフォルト・ロケールが en_US (アメリカ英語) であり、en_GB というイギリス英語の新しいロケールを追加したいとします。これを行うと、デフォルト日付形式は米国のユーザが通常使う従来の形式ではなく、英国のユーザが通常使う形式になるでしょう。

利用可能なローカライズされたメッセージが存在しない場合、またはプログラムで特定言語のローカライズされたメッセージが見つからない場合、ExtraView は DEFAULT_LOCALE という動作設定の言語エントリを表示します。通常、これは en_US です。英国などの国のユーザはいくつかのローカライズされたメッセージを置き換えて、アメリカ英語のスペルを排除することができます。

LDAP サーバと Single Sign On サーバ

ExtraView は、Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) サーバと Single Sign On (SSO) サーバの両方で機能するように構成できます。

これらの機能を設定するには、LDAP (および必要であれば SSO も) の管理に長けたリソースにアクセスすることを強くお勧めします。

LDAP サーバに直接接続することも、SSO 経由で LDAP サーバに接続することも可能です。一般に、LDAP サーバのみを構成するよりも、LDAP サーバと SSO サーバを組み合わせて構成する方が少し簡単です。

このセクションでは、まず ExtraView を SSO と LDAP の両方に接続する方法を説明した後、SSO を介さずに LDAP と直接接続する方法を説明します。

ExtraView の動作設定

LDAP と SSO を有効にするには、次の動作設定を正しく設定します。

動作設定	説明
[CUSTOM_AUTHENTICATION]	組み込みのユーザ認証方式ではなく、カスタマイズされた認証 (LDAP または SSO など) が使用されます。YES に設定すると、UserCustom ルーチンによって ExtraView ユーザの認証が行われます。NO に設定すると、ExtraView に組み込まれている標準の認証方式が使用されます。簡潔に言うと、UserCustom ルーチンは TRUE を応答として返すだけで、それ以上の認証サービスを提供しませんが、必要な特定の認証を実行するようプログラムできます。
[LDAP_DEFAULT_AREA]	LDAP サーバから詳細を取得して新しいユーザを追加する場合に設定される、デフォルトの area_id。
[LDAP_DEFAULT_PROJECT]	LDAP サーバから詳細を取得して新しいユーザを追加する場合に設定される、デフォルトの project_id。
[LDAP_HOST]	LDAP サーバの URL (ldap://blah.com:389 など)。
[LDAP_PSWRD]	LDAP サーバへのパスワード。
[LDAP_ROOT]	LDAP サーバまたは検索ベースのルート・ディレクトリ (ou=blahWorker, o=blah.com など)。
[LDAP_USER_LOOKUP]	この動作設定を YES に設定すると、あるユーザが別のユーザの詳細を検索した場合、ExtraView では必要な情報が LDAP サーバから取得されます。これと同時に、ExtraView 内のユーザが取得する情報は、LDAP レコード内の情報と同期がとられます。
[SSO_STATE]	このインスタンスで [Single Sign On and LDAP] を有効にします (YES/NO)。

Single Sign On (SSO) 接続

Single Sign On 機能を使用すると、別のアプリケーションが ExtraView へのユーザ・アクセスを制御することができます。ExtraView の動作設定によってこの機能を有効にすると(上記を参照)、SSO アプリケーションが各ユーザの認証をすべて担当します。認証が完了すると、SSO アプリケーションが認証情報を ExtraView へ転送し、ExtraView が自動的にユーザをサインオンします。必要であれば、またライセンス上の制限によっては、新しいユーザを ExtraView 内部で作成します。

ユーザ認証メカニズムとして SSO を使用するように ExtraView を構成するには、ブラウザを SSO サインオン・ページにポイントします。ExtraView はユーザ ID とその他の関連データを HTTP リクエスト・ヘッダから抽出し、そのユーザを ExtraView へ自動的にログインさせます。ExtraView のサインオン・ページは表示されません。サインオン処理の間に、ExtraView は LDAP サーバが構成されているという前提で、このサーバ内にあるユーザの全情報にアクセスします。このユーザが存在しない場合は、新規の ExtraView ユーザが作成されます。このユーザが ExtraView データベースに存在する場合は、レコードが更新されて LDAP サーバとの同期がとられます。

SSO ヘッダのマッピング

SSO からの “login” HTTP ヘッダには、認証を受けるユーザの情報が含まれます。ExtraView 管理データで、ExtraView が使用するヘッダと、各フィールドが ExtraView のどこに保存されるかを定義します。これらのフィールドはすべて、ユーザ・データにマッピングされます。このマッピングは、LDAP ユーザ・データと併せて使用されるので、管理者はこの情報を指定する新規のユーザを追加する必要がありません。

ExtraView の構成ファイル(Configuration.properties)では、これらのフィールドがホストのヘッダ・データと一致するようにマッピングされます。

```
#####  
##      SSO HEADER MAPPING      ##  
#####  
SSO_PRIMARYKEY      =  USER_NAME  
SSO_SURNAME         =  SURNAME  
SSO_GIVENNAME       =  GIVEN_NAME  
SSO_EMAIL           =  EMAIL_ADDRESS  
SSO_STREET          =  STREET  
SSO_CITY            =  CITY  
SSO_STATE           =  STATE  
SSO_POSTALCODE     =  POSTALCODE  
SSO_COUNTRY         =  COUNTRY  
SSO_PHONE           =  TELEPHONE_NUMBER  
SSO_MOBILE          =  MOBILE_NUMBER  
SSO_PAGER           =  PAGER_NUMBER
```

SSO を使用した Lightweight Directory Access Protocol(LDAP) 接続

ExtraView は、ユーザの詳細用として LDAP ディレクトリを使うように構成できます。これはオプションであり、SSO が有効か無効か(SSO_STATE)を表すのと同じ動作設定によって制御されます。

LDAP サーバ情報

もう一度、接続を制御する上記の ExtraView の動作設定を確認してください。また、ExtraView 構成ファイル Configuration.properties は、LDAP サーバへアクセスするのに必要なパラメータを指定します。

LDAP サーバが 1 つだけ構成されるということが前提になっています。以下の情報も、管理者が LDAP サーバの構成を熟知していることが前提となります。

ExtraView の構成ファイルでは、以下のフィールドがホストの LDAP データ構造と一致するようにマッピングされます。

```
#####  
## LDAP SEARCH MAPPING ##  
#####  
LDAP_PRIMARYKEY           = primary_key  
LDAP_SURNAME              = surname  
LDAP_GIVENNAME            = given_name  
LDAP_COMMONNAME           = common_name  
LDAP_DISTINGUISHEDNAME   = distinguishedname  
LDAP_EMAIL                = email_address  
LDAP_STREET               = street_address  
LDAP_CITY                 = city  
LDAP_STATE                = state  
LDAP_POSTALCODE           = postal_code  
LDAP_COUNTRY              = country_name  
LDAP_PHONE                = telephone_number  
LDAP_MOBILE               = mobile_number  
LDAP_PAGER                = pager_number  
LDAP_COMPANYNAME         = your_companyname
```

ExtraView によって以下の LDAP フィールドが使用されるよう構成され、LDAP にアクセス可能な場合、ExtraView はこれらのフィールドをマッピングします。

ExtraView フィールド	LDAP フィールド	マッピング 済み	コメント
[ユーザ ID]	LDAP_PRIMARYKEY	Yes	ログインおよびユーザ認証に使用されます。
[名]	LDAP_GIVENNAME	Yes	
[姓]	LDAP_SURNAME	Yes	
[パスワード]	LDAP_PRIMARYKEY	Yes	ログインおよびユーザ認証に使用されます。パスワードは、LDAP 接続によって新しいユーザを挿入したとき、および [CUSTOM_AUTHENTICATION] の動作設定が [NO] に設定されているときに限り使用されます。
[パスワードの失効]	該当なし	No	
[ユーザ・ロール]	該当なし	オプション	このフィールドのマッピングにはルール・マッピングを使用できます。

ExtraView フィールド	LDAP フィールド	マッピング 済み	コメント
[プライバシー・グループ]	該当なし	オプション	このフィールドのマッピングにはルール・マッピングを使用できます。
[Set Default Area]	該当なし	オプション	このフィールドのマッピングにはルール・マッピングを使用できます。
[Set Default Project]	該当なし	オプション	このフィールドのマッピングにはルール・マッピングを使用できます。
[電子メール・アドレス]	LDAP_EMAIL	Yes	
[日付形式]	該当なし	No	
[24 時間形式の時間]	該当なし	No	
[レポート形式をドリルダウン]	該当なし	No	
[タイムゾーン]	該当なし	Yes	
[ユーザ自身の更新を通知]	該当なし	No	
[Job title]	該当なし	Yes	
[会社名]	LDAP_COMPANYNAME	Yes	これはマッピングに使用しません。
[アドレス]	LDAP_STREET	Yes	
[都市]	LDAP_CITY	Yes	
[州/郡]	LDAP_STATE	Yes	
[郵便番号]	LDAP_POSTALCODE	Yes	
[国]	LDAP_COUNTRY	Yes	
[勤務先電話番号]	LDAP_PHONE	Yes	
[自宅電話]	該当なし	Yes	
[携帯電話]	LDAP_MOBILE	Yes	
[Fax]	LDAP_FAX	Yes	
[ポケベル]	LDAP_PAGER	Yes	
[Any UDF field]	識別名	Yes	
[User Expired]	該当なし	Yes	値は使用しますが、ExtraView 内には保存されません。
[Session expiration limit]	該当なし	No	

注: 上記の表で太字で示したフィールドは、ExtraView では通常必須となっています。

注: ExtraView のフィールドのほとんどは、ユーザの管理画面からアクセス可能です。

注: ExtraView のユーザ・ロール情報は、LDAP サーバに保存されません。

Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) の直接接続

ExtraView が直接 LDAP サーバと連動するように構成すると、ExtraView 内でまったくカスタム・プログラミングを行わなくても、以下の機能が有効になります。

- 無制限数の LDAP フィールドへのアクセス。
- ExtraView の 1 つ以上のフィールドから 1 つ以上の LDAP フィールドへのマッピングをカスタマイズ。
- ExtraView の追加および編集画面上で、マップ済みのフィールドの事前データ入力をカスタマイズ。
- ポップアップ・リンクによるフィールドの事前入力をカスタマイズ。
- 設定値に基づき、ExtraView ユーザ・テーブルへのデータの「upsert」が可能。「upsert」とは、挿入 (insert) と更新 (update) を組み合わせたものです。レコードが存在すれば更新し、存在しない場合は挿入します。

Configuration.properties ファイル内の LDAP フィールドの設定

アプリケーション・サーバの構成ファイル (Configuration.properties) には、LDAP_FIELDS というパラメータがあります。このパラメータは、LDAP とともに使用するマッピングのメタ名です。これらはカンマで区切り、1 行に表示します。

以下のフィールドは必須であり、upsert 操作のフィールドとして入力する必要があります。

```
LDAP_FIELDS = LDAP_PRIMARYKEY,
              LDAP_SURNAME,
              LDAP_GIVENNAME,
              LDAP_COMMONNAME,
              LDAP_EMAIL,
              LDAP_STREET,
              LDAP_CITY,
              LDAP_STATE,
              LDAP_POSTALCODE,
              LDAP_COUNTRY,
              LDAP_PHONE
```

他のフィールドも追加できます。同じ命名規則に従ってください。これらは、情報を取得するフィールドを表しています。例えば、以下のようなフィールドを追加することができます。

```
LDAP_MOBILE,
LDAP_PAGER,
LDAP_COMPANYNAME,
LDAP_DEPARTMENT,
LDAP_TITLE
```

LDAP_FIELDS 内のフィールドを LDAP ディレクトリ内の値にマッピングする

これらのフィールドは、以下の例のように 1 対 1 の関係でマッピングされます。

```
LDAP_PRIMARYKEY = employeenumber
LDAP_SURNAME    = sn
```

LDAP_GIVENNAME	=	<i>givenname</i>
LDAP_COMMONNAME	=	<i>cn</i>
LDAP_EMAIL	=	<i>mail</i>
LDAP_STREET	=	<i>street</i>
LDAP_CITY	=	<i>l</i>
LDAP_STATE	=	<i>st</i>
LDAP_POSTALCODE	=	<i>postalcode</i>
LDAP_COUNTRY	=	<i>postaladdress</i>
LDAP_PHONE	=	<i>telephonenumber</i>
LDAP_MOBILE	=	<i>mobile</i>
LDAP_PAGER	=	<i>pager</i>
LDAP_COMPANYNAME	=	<i>displayname</i>
LDAP_DEPARTMENT	=	<i>department</i>
LDAP_TITLE	=	<i>title</i>

LDAP_FIELDS 内のフィールドを ExtraView の値にマッピングする

2 つ以上の ExtraView フィールドを 1 つの LDAP_FIELD にマッピングできます。その場合、LDAP フィールドのメタ名の先頭に *EV_* という文字を付ける必要があります。例えば、LDAP_PRIMARYKEY は EV_LDAP_PRIMARYKEY とします。複数の値はカンマで区切ってください。

EV_LDAP_PRIMARYKEY	=	USR_ID
EV_LDAP_SURNAME	=	USR_LNAME
EV_LDAP_GIVENNAME	=	USR_FNAME
EV_LDAP_COMMONNAME	=	USR_NAME
EV_LDAP_EMAIL	=	USR_EMAIL
EV_LDAP_STREET	=	
EV_LDAP_CITY	=	USR_CITY
EV_LDAP_STATE	=	USR_STATE
EV_LDAP_POSTALCODE	=	
EV_LDAP_COUNTRY	=	
EV_LDAP_PHONE	=	USR_PHONE,USR_PHONE2
EV_LDAP_MOBILE	=	USR_MOBILE
EV_LDAP_PAGER	=	
EV_LDAP_COMPANYNAME	=	
EV_LDAP_DEPARTMENT	=	USR_DEPT
EV_LDAP_TITLE	=	

[追加] 画面および [編集] 画面でフィールドを事前入力する

各フィールドはカンマで区切り、必ず 1 行で入力します。

ADD_SCREEN_LDAP_FIELDS =	USR_NAME, USR_TITLE, USR_DEPT, USR_EMAIL, USR_PHONE, USR_PHONE2, USR_MOBILE, USR_FAX, USR_CITY, USR_STATE,
--------------------------	---

```

                                USR_BUILDING

EDIT_SCREEN_LDAP_FIELDS =      USR_NAME,
                                USR_TITLE,
                                USR_DEPT,
                                USR_EMAIL,
                                USR_PHONE,
                                USR_PHONE2

```

ExtraView ユーザ情報を最新の LDAP サーバの情報に更新するかどうかを指定する

これを YES に指定した場合、各ユーザが ExtraView にサインオンすると、コードが LDAP ディレクトリから直接ユーザ情報を ExtraView ユーザ・テーブルに upsert します。

```
LDAP_UPSERT = YES
```

LDAP および SSO の接続例

以下は、LDAP サーバと SSO サーバの両方と接続するときの入力を示す Configuration.properties ファイルからの抜粋です。

```

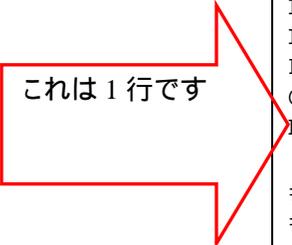
... ..
... ..

#####
## SSO HEADER MAPPING ##
#####
SSO_PRIMARYKEY      = SM_USER
SSO_SURNAME         = SSO_SURNAME
SSO_GIVENNAME       = SSO_GIVENNAME
SSO_EMAIL           = SSO_MAIL
SSO_STREET          = SSO_STREET
SSO_CITY            = SSO_CITY
SSO_STATE           = SSO_STATE
SSO_POSTALCODE      = SSO_POSTALCODE
SSO_COUNTRY         = SSO_COUNTRY
SSO_PHONE           = SSO_TELEPHONENUMBER
SSO_MOBILE          = SSO_MOBILE
SSO_PAGER           = SSO_PAGER

LDAP_FIELDS =
LDAP_PRIMARYKEY,LDAP_SURNAME,LDAP_GIVENNAME,LDAP_COMMONNAME,LDAP_
P_EMAIL,LDAP_STREET,LDAP_CITY,LDAP_STATE,LDAP_POSTALCODE,LDAP_C
OUNTRY,LDAP_PHONE,LDAP_MOBILE,LDAP_PAGER,LDAP_COMPANYNAME,LDAP_
DEPARTMENT,LDAP_TITLE

#####
## LDAP SEARCH MAPPING ##
#####
LDAP_PRIMARYKEY     = employeenumbr
LDAP_SURNAME        = sn
LDAP_GIVENNAME      = givenname
LDAP_COMMONNAME     = cn

```



これは 1 行です

```

LDAP_EMAIL      = mail
LDAP_STREET     = street
LDAP_CITY       = l
LDAP_STATE      = st
LDAP_POSTALCODE = postalcode
LDAP_COUNTRY    = postaladdress
LDAP_PHONE      = telephonenumber
LDAP_MOBILE     = mobile
LDAP_PAGER      = pager
LDAP_COMPANYNAME = displayname
LDAP_DEPARTMENT = department
LDAP_TITLE      = title

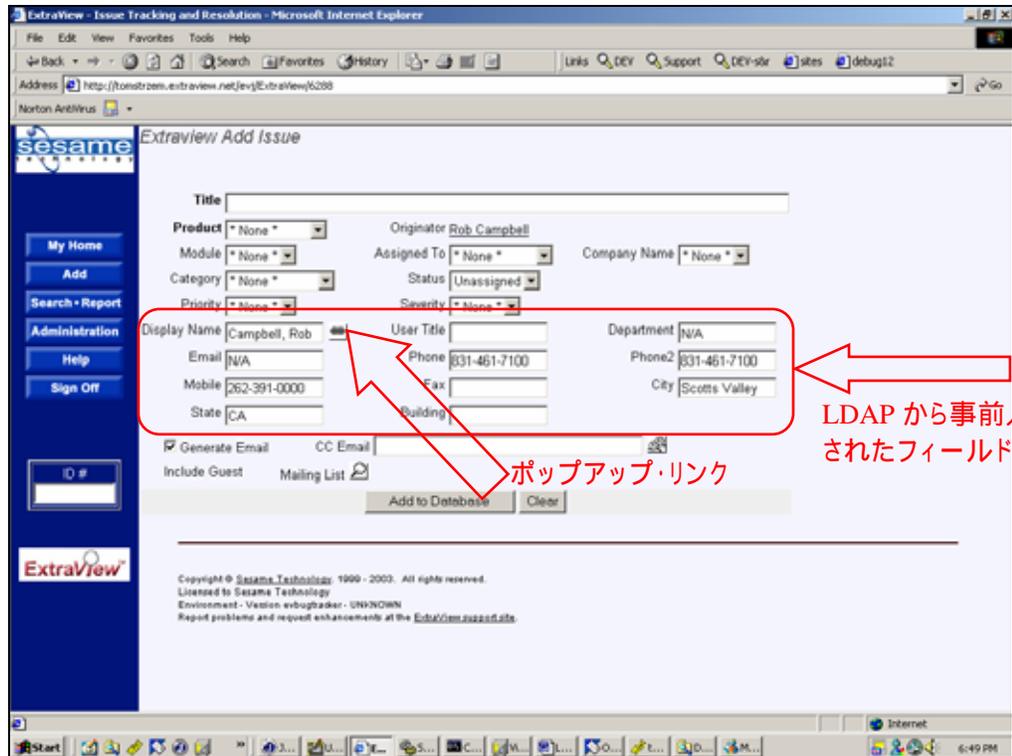
EV_LDAP_PRIMARYKEY = USR_ID
EV_LDAP_SURNAME    = USR_LNAME
EV_LDAP_GIVENNAME  = USR_FNAME
EV_LDAP_COMMONNAME = USR_NAME
EV_LDAP_EMAIL      = USR_EMAIL
EV_LDAP_STREET     =
EV_LDAP_CITY       = USR_CITY
EV_LDAP_STATE      = USR_STATE
EV_LDAP_POSTALCODE =
EV_LDAP_COUNTRY    =
EV_LDAP_PHONE      = USR_PHONE, USR_PHONE2
EV_LDAP_MOBILE     = USR_MOBILE
EV_LDAP_PAGER      =
EV_LDAP_COMPANYNAME =
EV_LDAP_DEPARTMENT = USR_DEPT
EV_LDAP_TITLE      =
... ..
... ..

```

ExtraView の [追加] および [編集] 画面のフィールドに事前入力する

上記の構成パラメータが設定済みであると仮定して、ExtraView の [追加] 画面をロードすると、Configuration.properties の ADD_SCREEN_LDAP_FIELDS に対して選択したフィールドに、Configuration.properties で構成した LDAP のマッピングに従って LDAP ディレクトリからの値が事前入力されます。

以下の例の線で囲んだフィールドはすべて、現在のユーザ (Campbell, Rob) に基づき、LDAP から事前入力されます。



LDAP サーバから事前入力されたフィールドの例

ポップアップ・リンクの構成

[追加] 画面および [編集] 画面のレイアウトにどのフィールドを入れるかを決定したら、そのうちの 1 つ (通常はユーザ名などの基本識別子) をピックアップして、その横に URL リンクのポップアップ・ウィンドウを設定することができます。このポップアップ・ウィンドウにより、LDAP ディレクトリの動的検索が可能です。また、[追加] 画面および [編集] 画面の複数のフィールドに、基本識別子の値が入力されます。ExtraView のフィールドには、Configuration.properties で設定したマッピングに基づいて LDAP ディレクトリの値が入ります。

まず、データ辞書内で該当する URL のリンクを構成します。この方法についての詳細は、本書のデータ辞書に関するセクションをご覧ください。

データ辞書 エントリを変更 アカウント: Bill Smith | ロール: Administrator | ビジネスエリア および プロジェクト: 不具合 および Data | 閉

フィールド所属先 Issue レコード
 固定データベース名 OWNER

表示するタイトル 所有者

タイプを表示 ユーザ

レポート上での選択を許可 はい いいえ

最後の値を記憶 はい いいえ

フィルタ基準 はい いいえ

ソート可能です。 はい いいえ

URL として表示 はい いいえ

URL

デフォルト値

ヘルプテキスト Issue の所有者

ヘルプ URL

ポップアップ・リンクを構成するデータ辞書の項目

- [URL として表示] を [はい] に設定します。
- URL の最初の部分を表示のとおりに入力します。フィールドの入力を完結させないでおいてください。

`?p_action=doDisplay&p_option=security.SearchLDAPDisplay`

- この URL に、事前入力させたいフィールドのリストを以下のパターンで付け加えます。ただし、インストールで使っているフィールドを使用してください。

```
&FIELD=USR_NAME&FIELD=USR_TITLE&FIELD=USR_DEPT
&FIELD=USR_EMAIL&FIELD=USR_PHONE
&FIELD=USR_PHONE2&FIELD=USR_MOBILE
&FIELD=USR_FAX&FIELD=USR_CITY&FIELD=USR_STATE
&FIELD=USR_BUILDING
```

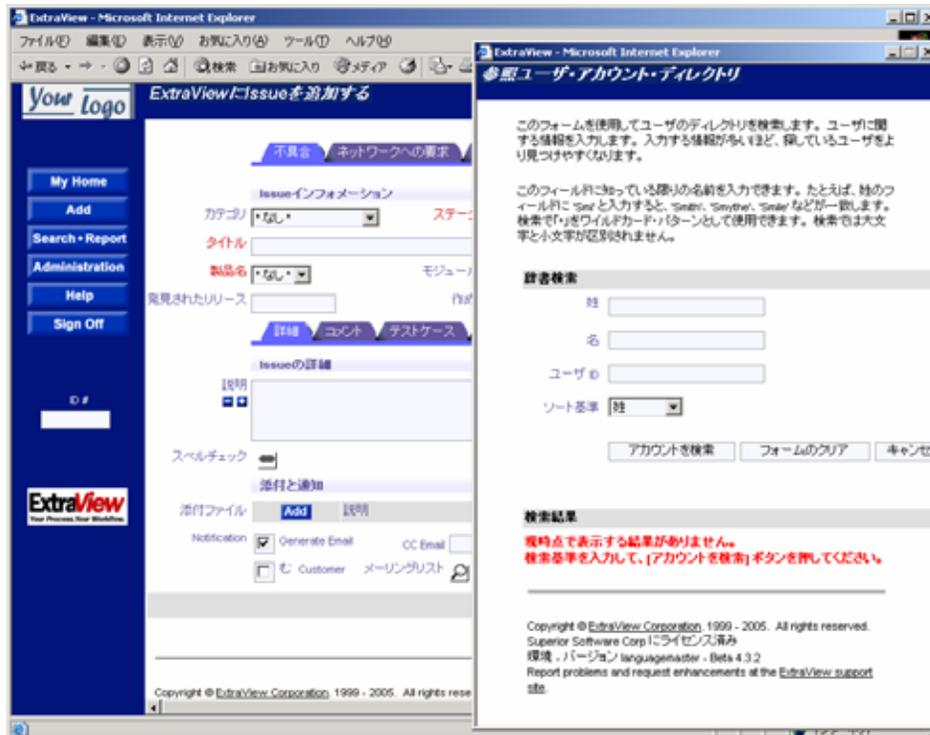
各フィールドのパターンは `&FIELD=DataDictionaryName` です。

最終的に、URL は次のように表示されます。

```
?p_action=doDisplay&p_option=security.SearchLDAPDisplay
&FIELD=USR_NAME&FIELD=USR_TITLE&FIELD=USR_DEPT
&FIELD=USR_EMAIL&FIELD=USR_PHONE
&FIELD=USR_PHONE2&FIELD=USR_MOBILE
&FIELD=USR_FAX&FIELD=USR_CITY&FIELD=USR_STATE
&FIELD=USR_BUILDING
```

ポップアップ・リンクの使用

基本識別子の横にあるポップアップ・リンクをクリックすると、ExtraView は新しいウィンドウを開きます。このウィンドウで検索基準を入力することにより、ユーザを検索できます。以下のスクリーン・ショットにその画面を示します。



LDAP ディレクトリ内でユーザを検索する

検索基準を使用した後、ID フィールド内の結果の 1 つをクリックします。親の [追加] 画面や [編集] 画面のフィールドには、リクエストしたすべてのフィールドが入ります。

ExtraView ユーザ・テーブルの更新

LDAP_UPSERT = YES 機能を Configuration.properties で設定すると、ExtraView のユーザ情報が LDAP ディレクトリ内の最新情報に更新されます。これは、ユーザ側が何の操作もしなくても、ユーザが ExtraView にサインオンすると自動的に行われます。

この機能により、ExtraView 管理者は、LDAP ディレクトリ内の LDAP_PRIMARYKEY と同じ固有の ID を使用して、新しいユーザのアカウントを作成するだけで済みます。ユーザがサインオンした時点で、ExtraView 内のアカウント情報が更新されます。マッピングされたすべてのフィールドが更新され、その後も自動的に最新情報に保たれます。

注：ユーザは継続してユーザ・テーブルに新しいライセンスを追加できますが、この機能は ExtraView のコンカレント・ライセンスを使用している場合のみ使用できます。

API 設定

この動作設定のセクションには、[Administration] メニューの [システム制御] タブからアクセスします。

	データベース・フィールド名	値	説明
Edit	ALLOW_ANONYMOUS_API_ACCESS	NO	これを YES に設定すると、ユーザは有効なユーザ名とパスワードを持たなくても API を呼び出すことができます。一般に、ExtraView を自社の Web サイトに統合したときに、外部ユーザ(主に顧客)に ExtraView のユーザ ID を与えたくない場合に使用します。これは、ANONYMOUS_API_USER_ID と合わせて使用します。有効な値は YES と NO です。
Edit	ANONYMOUS_API_USER_ID	guest	[ALLOW_ANONYMOUS_API_ACCESS] を YES に設定している場合は、ORIGINATOR の issue で設定されているユーザ ID になります。
Edit	CLI_EDIT_MULTI_VALUE_FIELDS	NO	CLI から複数値 UDF を編集できるかどうかを示します。
Edit	DEFAULT_TEXT_REPORT_DELIMITER	:	テキスト・レポートのデータ・フィールド間に置かれる単一の文字。結果をテキスト・ファイルに出力する場合や、API / CLI を通じて出力する場合は、この文字を使用して個々のフィールドを区切ります。
Edit	MULTI_RELEASE_XML	NO	API から複数のリリースを XML に出力できるようにします。有効な値は YES と NO です。

合計 5 レコードから選択された 5 レコード

[API 設定] 画面

次のような設定があります。

[システム制御] メニュー - [API 設定]	標準的な値	説明
[ALLOW_ANONYMOUS_API_ACCESS]	NO	これを YES に設定すると、ユーザは有効なユーザ名とパスワードを持たなくても API を呼び出すことができます。一般に、ExtraView を自社の Web サイトに統合したときに、外部ユーザ(主に顧客)に ExtraView のユーザ ID を与えたくない場合に使用します。これは、ANONYMOUS_API_USER_ID と合わせて使用します。有効な値は YES と NO です。
[ANONYMOUS_API_USER_ID]	guest	[ALLOW_ANONYMOUS_API_ACCESS] を YES に設定している場合は、issue で ORIGINATOR として設定されているユーザ ID になります。
[CLI_EDIT_MULTI_VALUE_FIELDS]	NO	CLI から複数値 UDF を編集できるかどうかを示します。
[DEFAULT_TEXT_REPORT_DELIMITER]	:	テキスト・レポートのデータ・フィールド間に置かれる単一の文字。結果をテキスト・ファイルに出力する場合や、API/CLI を通じて出力する場合は、この文字を使用して個々のフィールドを区切ります。
[MULTI_RELEASE_XML]	NO	API から複数のリリースを XML に出力できるようにします。有効な値は YES と NO です。

管理メニューのタイトルの変更

このオプションが使われることはあまりありませんが、これにより管理者がメニューのタイトル変更やローカライズを行うことができます。このオプションを画面に表示させたくない場合は、CF_ADMIN_MENU というセキュリティ許可キーを使用して無効にすることができます。

Administration Menu Titles Acco

Add a new field to the database

	Administration Menu Number	Title to display	Sort sequence
<input type="button" value="Edit"/>	1	Users	1
<input type="button" value="Edit"/>	5	Lists	2
<input type="button" value="Edit"/>	3	Fields	3
<input type="button" value="Edit"/>	8	Layouts & Display	4
<input type="button" value="Edit"/>	7	Workflow	5
<input type="button" value="Edit"/>	9	Email Notification	6
<input type="button" value="Edit"/>	4	System Controls	7
<input type="button" value="Edit"/>	6	Advanced	8

8 record(s) selected from a total of 8 record(s)

管理画面のオプションのタイトルを変更

タイトルの変更やローカライズを行うには、この機能にアクセスし、編集ボタンをクリックします。ここでタイトルの変更またはローカライズされたタイトルを指定することができます。タイトル変更後に更新を行うと、直ちに管理画面に新しいタイトルが表示されます。

サーバ側テンプレートの管理

サーバ側テンプレートは、API からクライアント・ブラウザまたはスクリプトへ返される情報をフォーマットするために使用されます。例えば、新しい issue を API から ExtraView に入力する場合、コマンドにより返される情報(issue のID、またはコマンド失敗の場合はエラー)をテンプレートを使って、ユーザの企業のウェブサイトと同じ形式の出力にフォーマットすることができます。

このことは『ExtraView CLI & API Guide』に詳しく記述されています。通常テンプレートは WEB-INF/user_templates というディレクトリに格納されます。お使いのサーバのディレクトリ構造にアクセスできない場合にサーバにテンプレートを格納するため、この管理機能を使えばサーバ側テンプレートのアップロードおよび削除を行うことができます。これらはユーザのクライアント・コンピュータ上で編集する必要があります。

この機能へのアクセスは、CF_UPLOAD_USER_TEMPLATES というセキュリティ・キーによって制御されます。

管理メニューから、[システム管理] タブをクリックします。そして ExtraView API を使用するため、[サーバ側テンプレートをアップロード] というリンクをクリックします。すると以下のような画面が表示されます。

Manage Server-Side Templates Account: Bill Smith | R

Upload a new template to the server

	<i>File Name</i>	<i>File Size</i>
<input type="button" value="Delete"/>	ConnectionPoolMonTemplate.html	911
<input type="button" value="Delete"/>	tHeader.html	783
<input type="button" value="Delete"/>	tHeaderMultiSelect.html	1631

サーバ側テンプレートの管理

[追加] ボタンを使って新しいテンプレートを追加することができます。テンプレートがサーバにアップロードされた後は、[削除] ボタンを使ってそれを削除することができます。

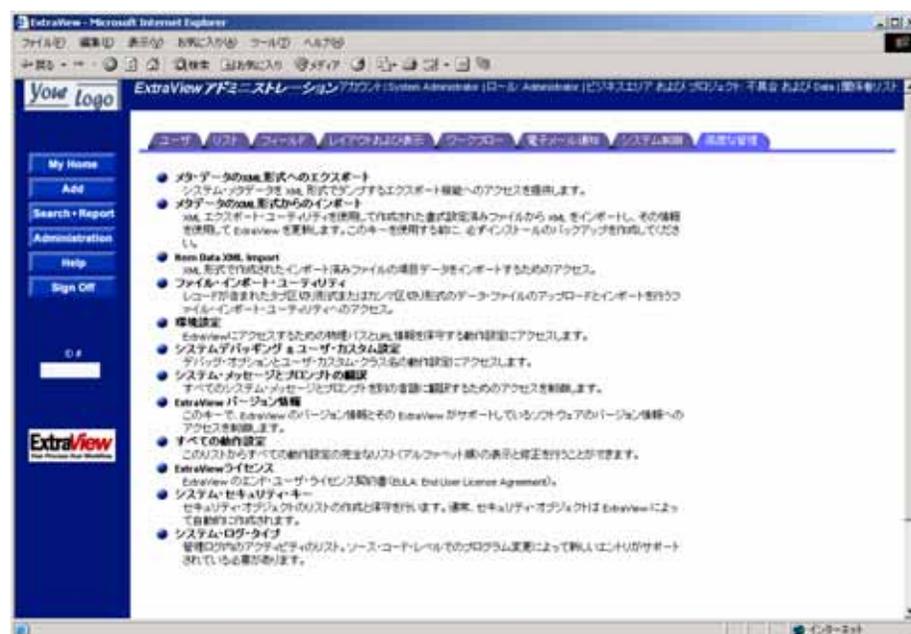
注: ExtraView を配備済み War ファイルから稼動している場合は、この機能を使用できません。

高度な管理設定

概念

このセクションでは、高度な管理機能について説明します。使用できる主要オプションでは、管理者がメタデータをインポートまたはエクスポートしたり、ExtraView 内部で基本設定を表示したり変更することが可能です。

サポートおよびデバッグを目的としたオプションと動作設定があります。



XML のインポートとエクスポートの基本

メタデータのエクスポートとインポート

注：インポート機能を使用する前に、標準機能を使用してデータベース全体をバックアップすることを強くお勧めします。インポートしたメタデータ、レイアウト、レポート、およびユーザーデータは元に戻せませんし、処理中に失敗が発生することもあるからです。

メタデータのエクスポートは、データベース全体のバックアップとは異なります。エクスポートは、使用しているデータベースのベンダが提供するツールか、そのタスク専用開発されたサード・パーティのツールを使用して実行します。

ExtraView 内のデータは、メタデータと issue データの 2 つに分けられます。メタデータは、製品の一部分として提供される情報、使用できる製品名の全リストなどユーザが提供するデータ、可能なステータス値の全リスト、およびユーザが設計した画面レイアウトなど、アプリケーションのサポート・データです。issue データは、追跡する項目に関連した物理データです。これには、issue (案件、問題) の ID、特定の製品名、現在割り当てられている特定のステータス、および issue に関連するすべての履歴情報が含まれます。

ExtraView のインスタンス内でメタデータのみをエクスポートまたはインポートするには、次のようないくつかの理由があります。

- 復元できるフォームでメタデータの全部または一部のバックアップを作成するため。メタデータは XML 形式でエクスポートされるので、これはデータベース・インスタンスそのものをバックアップするのとは異なります。
- メタデータを試験または段階的環境から生産データベースへ転送するため。転送時には、更新だけを行うのか、更新と統合を一緒に行うのかを選択できます。
- 他のシステムとインタフェースできる標準形式 (XML) でデータを取得するため。

強制はしませんが、メタデータ転送ユーティリティを使用する際に ExtraView のスキーマを理解しておく役に立ちます。

エクスポートを実行するには、XML ファイルに送るテーブルのファミリーを選択します。このファミリーは、機能をサポートするのに必要な全データで構成されます。エクスポートされるファミリーは以下のとおりです。

- **Metadata** – 動作設定、データ辞書、ユーザ定義フィールドの定義、リスト値などの ExtraView メタデータをサポートするテーブルがすべて含まれます。
- **Layouts** – すべての画面やレポートのレイアウトの定義と、それらのサポート情報が含まれます。
- **Reports** – すべてのパーソナル・レポートおよびパブリック・レポートの定義と、フィルタ設定およびソート順序が含まれます。
- **Users** – システム内の各ユーザ・アカウントに関する情報と、個々のパーソナル設定が含まれます。

情報をエクスポートすると、そのファミリーに関連付けられたすべてのテーブルとそれに付随する情報もエクスポートされます。情報をインポートするときには、次の 2 つのモードがあります。

- **更新**– エクスポート・イメージと同じ名前およびタイプのオブジェクトがすでにあれば、エクスポート・イメージに置き換えます。
- **更新/マージ**– 更新に加え、エクスポート・ファイルに新しいデータ項目があればそれを統合します。

注：一般的にインポートを行う際は更新/マージ 機能を使用します。新しいデータは追加され、既存のデータは更新されるので、最も望ましい結果が期待されるからです。

保存されているディスク・イメージからオブジェクトをインスタンスにロードすると、必要なすべての参照整合性と固有性制限が維持されます。固有性制限の維持には、インスタンス内の特定オブジェクトの連続した値を適切に増やしたり、変更することが必要となります。参照整合性の維持では、複数のテーブルを更新することもあります。新しい値が依存する行があらかじめ存在していない場合、それらの行を追加する必要があるからです。

ターゲット・データベース内のオブジェクトを削除するときは、カスケード削除ポリシーを使用してすべての参照整合性が維持されます。つまり、インポートによってオブジェクト

が削除される場合、そのオブジェクトを参照するメタデータ・オブジェクトも削除されるということです。この方針は、関連オブジェクトがインポート時に復元されることがあるため、情報が失われないようにすることを目的としています。

新しいメタデータを追加する際には、ユーザの issue データの相互関係に対して、追加のルールが適用されることがあります。その場合、既存の issue データすべてが新しい関係についてチェックされます。

ファミリ情報のエクスポート

ファミリ	エクスポートされるテーブル
Metadata	TITLE_MAP AREA PROJECT SECURITY_GROUP SECURITY_MODULE SECURITY_PERMISSION CATEGORY CHART_PROPERTY_GROUP CHART_TYPE DATA_DICTIONARY LAYOUT_TYPE PRIORITY PRIVACY_GROUP PRODUCT RESOLUTION SECURITY_USER SEVERITY_LEVEL STATUS CHART FILTER_GROUP LAYOUT MODULE_TYPE UDF ALLOWED_VALUE_TYPE FILTER ITEM_GROUP_TYPE LAYOUT_ELEMENT MODULE STATUS_SIGNATURE PRODUCT_LINE REPORT SORT_ORDER UDF_LIST ALLOWED_VALUES APPLICATION_DEFAULT CALCULATED_FIELD CHART_PROPERTY CUSTOMER EV_TEMPLATE FILTER_CRITERIA INTEREST_LIST LAYOUT_ELEMENT_ATTRIBUTE PRIVACY_GROUP_USER PRODUCT_PRODUCT_LINE PRODUCT_RELEASE SECURITY_GROUP_USER SORT_ORDER_FIELD STATUS_RULE
Layout	TITLE_MAP AREA PROJECT SECURITY_GROUP SECURITY_MODULE SECURITY_PERMISSION DATA_DICTIONARY LAYOUT_TYPE LAYOUT UDF LAYOUT_ELEMENT LAYOUT_ELEMENT_ATTRIBUTE UDF_LIST

ファミリ	エクスポートされるテーブル	
Report	TITLE_MAP	LAYOUT
	AREA	UDF
	PROJECT	CHART
	SECURITY_GROUP	FILTER
	SECURITY_MODULE	LAYOUT_ELEMENT
	SECURITY_PERMISSION	SORT_ORDER
	DATA_DICTIONARY	FILTER_CRITERIA
	LAYOUT_TYPE	LAYOUT_ELEMENT_ATTRIBUTE
	CHART_PROPERTY_GROUP	REPORT
	CHART_TYPE	SECURITY_USER
	FILTER_GROUP	SORT_ORDER_FIELD
User	TITLE_MAP	PROJECT
	AREA	SECURITY_USER

項目データのインポート

XML 形式から項目データをインポートするときには、3 つのモードがあります。

- **Batch Mode.** このモードでは、XML 形式の入力ファイルが連続的に処理され、ExtraView データベース内に新しい issue を作成します。これは管理画面から実行します。
- **API Command.** このモードでは、API コマンドを実行します。単一の issue を HTTP データ・ストリームの一部として ExtraView に渡します。この issue は処理に成功するとデータベースに追加されます。API コマンドは成功のメッセージか失敗のエラー・メッセージを返します。
- **API Command with Input File.** このモードでは、API コマンドを実行します。このコマンドは、ExtraView にインポートする 1 つ以上の issue のある入力ファイルを参照します。ファイルは処理され、その結果が呼び出しコマンドに返されます。

インポートする XML データは、以下に説明する Document Type Definition (DTD) に従う必要があります。DTD は ExtraView とともに提供されるものであり、WEB-INF/data/xml_dtd ディレクトリに格納されています。ユーザの XML インポート・ファイルまたはデータ・ストリームから直接参照できます。命名されているファイル名は extraview_item.dtd です。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" ?>

<!ELEMENT locale (EMPTY) >
  <!ATTLIST locale region CDATA "US">
  <!ATTLIST locale language CDATA "en">
  <!ATTLIST locale variant CDATA " ">

<!ELEMENT item_list (item*) >

<!ELEMENT item (short_descr, severity_level, priority, status, product_name,
  date_created, owner, timestamp, assigned_to, privacy,
  last_change_user, alt_id, area_id, project_id, category,
  resolution, product_line, date_last_status_change,
```

```

        date_closed, release_found, release_fixed, contact,
        originator, item_id, item_udf*, item_release*, item_module*,
        item_attachment* )>

<!ELEMENT item_udf (title_specifier?, name_specifier?, CDATA*)>

<!ELEMENT item_release (title_specifier?, name_specifier?,
        short_descr, severity_level, priority, status, product_name,
        date_created, owner, timestamp, assigned_to, privacy,
        last_change_user, alt_id, area_id, project_id, category,
        resolution, product_line, date_last_status_change,
        date_closed, release_found, release_fixed, contact,
        originator, item_id, item_udf*)>

<!ELEMENT item_module (title_specifier?, name_specifier?, assigned_to,
        status, timestamp, rc_version, last_change_user,
        item_module_id )>

<!ELEMENT title_specifier (CDATA)>
<!ELEMENT name_specifier (CDATA)>
<!ELEMENT short_descr (CDATA) >
<!ELEMENT severity_level (CDATA) >
<!ELEMENT priority (CDATA) >
<!ELEMENT status (CDATA) >
<!ELEMENT product_name (CDATA) >
<!ELEMENT date_created (CDATA) >
<!ELEMENT owner (CDATA) >
<!ELEMENT timestamp (CDATA) >
<!ELEMENT assigned_to (CDATA) >
<!ELEMENT privacy (CDATA) >
<!ELEMENT last_change_user (CDATA) >
<!ELEMENT alt_id (CDATA) >
<!ELEMENT area_id (CDATA) >
<!ELEMENT project_id (CDATA) >
<!ELEMENT category (CDATA) >
<!ELEMENT resolution (CDATA) >
<!ELEMENT product_line (CDATA) >
<!ELEMENT date_last_status_change (CDATA) >
<!ELEMENT date_closed (CDATA) >
<!ELEMENT release_found (CDATA) >
<!ELEMENT release_fixed (CDATA) >
<!ELEMENT contact (CDATA) >
<!ELEMENT originator (CDATA) >
<!ELEMENT item_id (CDATA) >
<!ELEMENT rc_version (CDATA) >
<!ELEMENT item_module_id (CDATA) >

<!ELEMENT item_attachment (CDATA)>
  <!ATTLIST item_attachment file_desc CDATA #IMPLIED >
  <!ATTLIST item_attachment file_name CDATA #IMPLIED >
  <!ATTLIST item_attachment path CDATA #IMPLIED >
  <!ATTLIST item_attachment content_type CDATA #IMPLIED >
  <!ATTLIST item_attachment file_size CDATA #IMPLIED >
  <!ATTLIST item_attachment date_created CDATA #IMPLIED >
  <!ATTLIST item_attachment created_by_user CDATA #IMPLIED >

```

リピーティング・レコード、UDF、および添付ファイルなどの項目に関連するすべてのデータが DTD で記述されており、すべて ExtraView でインポートすることができます。

XML ファイルの例の一部を以下に示します。ここでは 2 つの issue をインポートします。このファイルは上記の DTD を参照します。この例のインポート・ファイルでは、簡略化のため添付ファイルを短縮しています。

項目のインポートに関して、以下の点に注意してください。

- DOCTYPE は DTD を参照しており、パスはユーザのサーバでこれが保存されているパスに対応しています。
- UDF は、NAME または TITLE によって参照できます。TITLE フィールドはインストール全体で固有とは限らないので、できるだけ NAME を使用することをお勧めします。また、TITLE は DTD で指定したロケールによって変わることがあります。各ロケールに対して別々の DTD を作成し、インポートする XML ファイル内でローカライズした TITLE を使用することができます。
- すべての文字データを CDATA タグに埋め込むことをお勧めします。
- XML では、Web インタフェース・ルールに従った構成が要求されます。例えば、file-name-attribute は、必ず item-attachment-attribute のリストに表示されます。
- UserCustom メソッドの prAddPreInsert および prAddPostInsert は、各項目の挿入で実行されます。
- このインタフェース経由でレコードをインポートする場合、フィールド間の許容値は無視されます。無効な親子関係を誤って作成した場合、Web インタフェース経由でレコードを更新しようとするとその誤りが指摘されます。
- ITEM_ID は、XML 入力から読み取る issue を ExtraView コードが確認した時点で新しい issue に割り当てられます。レコードがなんらかの理由で拒否されると、ITEM_ID は破棄され、この ID を持つ issue は今後作成されません。次にインポートするレコードには、すぐ次の数が割り当てられます。
- 追加画面のレイアウト(ユーザ・ロール(役割)、ビジネス・エリア、issue のプロジェクトで定義)上で、あるフィールドが読み取り専用の場合、項目インポート機能を考慮しています。さらに、このフィールドにデータ辞書で定義したデフォルト値がある場合、この値が挿入されます。
- 添付ファイルは、Base64 アルゴリズムを用いて暗号化する必要があります。
- その他の CDATA セクションの値は、必要に応じて Base64 に暗号化します。文字列が暗号化されているかどうかは、CDATA 文字列の先頭にあるセンチネル (“%25S”) によって示されます。暗号化は、以下のどれかが発生した場合に必要となります。
 - a. 文字列の値がセンチネル値 (“%25S”) で始まっている場合。
 - b. 文字列の値に CDATA エンド・マーカ (“]]>”) が含まれている場合。
 - c. 文字列の値に非 CDATA 許容文字が含まれている場合。CDATA 許容文字は、Web ページ (<http://www.w3.org/TR/REC-xml - NT-Char>) から取得した以下の Unicode 文字の値を使用して定義します。
Char ::= #x9 | #xA | #xD | [#x20-#xD7FF] | [#xE000-#xFFFD] |

[#x10000-#x10FFFF]

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<!DOCTYPE item SYSTEM "c:/extraview42/etc/extraview_item.dtd">
<ITEM_LIST>
<ITEM>
  <ITEM_CATEGORY> <![CDATA[Software Bug]]> </ITEM_CATEGORY>
  <ITEM_PRODUCT_NAME> <![CDATA[ExtraView]]> </ITEM_PRODUCT_NAME>
  <ITEM_UDF><TITLE>OP_SYS</TITLE><![CDATA[Solaris]]></ITEM_UDF>
  <ITEM_RELEASE><PRODUCT_NAME>ExtraView</PRODUCT_NAME><ITEM_RELEASE_FOUND>
    <![CDATA[4.1.0.1]]></ITEM_RELEASE_FOUND></ITEM_RELEASE>
  <ITEM_RELEASE><PRODUCT_NAME>ExtraView</PRODUCT_NAME>
    <ITEM_UDF><NAME>OP_SYS_RELEASE</NAME><![CDATA[Mac]]></ITEM_UDF>
  </ITEM_RELEASE>
</ITEM>
<ITEM>
  <ITEM_CATEGORY> <![CDATA[Software Bug]]> </ITEM_CATEGORY>
  <ITEM_PRODUCT_NAME> <![CDATA[ExtraView]]> </ITEM_PRODUCT_NAME>
  <ITEM_UDF><NAME>OP_SYS</NAME><![CDATA[Solaris]]></ITEM_UDF>
  <ITEM_RELEASE><PRODUCT_NAME>ExtraView</PRODUCT_NAME><ITEM_RELEASE_FOUND>
    <![CDATA[4.1.0.1]]></ITEM_RELEASE_FOUND></ITEM_RELEASE>
  <ITEM_RELEASE><PRODUCT_NAME>ExtraView</PRODUCT_NAME>
    <ITEM_UDF><NAME>OP_SYS_RELEASE</NAME><![CDATA[Mac]]></ITEM_UDF>
  </ITEM_RELEASE>
  <ITEM_ATTACHMENT FILE_DESC='HTML color chart' FILE_NAME='colors.html'
    PATH='C:\WINDOWS\Desktop' CONTENT_TYPE='text/html' FILE_SIZE='20616'>
  <![CDATA[PGh0bWw+DQoNCjxib2R5IGJnY29sb3I9IiINGRkZGRkYiPg0KPHpZHRoPSI0ODAiIGJv
cmRlcj0iMSIgc3R5bGU9ImZvbnQtZmFtaWx5OihBcm1hbCwgagVsdmV0aWNhLCBzYW5zLXNlcm1m
OyBmb250LXNpemU6IDhwdCI+DQogIDx0cj4NCiAgICA8dGQgd2lkdGg9IjQ1Ij4jRUVFRUVFPC90
ZD4NCiAgICA8dGQgYmdjb2xvcj0iI0VFRUVFRSIgd2lkdGg9Ij... ..
... ..
... ..
L3RkPg0KICAgICAgICAgICAgICAgICAgICA8dGQgd2lkdGg9IjQ1Ij4jRkZGRkZGPC90ZD4NCiAg
ICAgICAgICAgICAgICAgICAgICAgPHRkIHdpZHRoPSIxNSIyYm9j0iI0ZGRkZGRiI+Jm5ic3A7
PC90ZD4NCiAgICAgICAgICAgICAgICAgICAgICAgIDvwdHI+DQogICAgICAgICAgICAgICAgPC90YWJsZT4N
CiAgICAgICAgICAgICAgICAgICAgPC9ib2R5Pg0KPC9odG1sPg0K]]>
</ITEM_ATTACHMENT>
</ITEM>
</ITEM_LIST>
```

項目データのエクスポート

ExtraView のデータを XML 形式でエクスポートするには、コマンド・ライン・インタフェース (CLI) コマンドの `evget` および `evsearch` を使用します。これらのコマンドの詳細については、『ExtraView CLI and API Guide』を参照してください。

注：このバージョンの ExtraView では、前述のインポート機能とエクスポート機能で別々の DTD を使用します。したがって、ExtraView からエクスポートしたレコードは、ここで説明する機能によって直接インポートすることができません。将来のバージョンでは、CLI を変更することにより、XML のインポート・データとエクスポート・データの間で互換性を持たせるようにする予定です。

メタデータの XML 形式へのエクスポート

エクスポートにより、XML 形式のメタデータを含むフラット・ファイルが作成されます。このファイルは、異なるプラットフォームや ExtraView の異なるインスタンスの間でやりとりできます。ファイル内のオブジェクトの順序は、ユーザが定義するのではなく、ExtraView の要件によって定義されます。データのエクスポートは、データのインポートを実行し、新しいオブジェクトを作成するための要件を満たすように定義されます。つまり、すべての関連データは依存するデータに従うことになります。

このオプションは、[Administration] の [高度な管理] タブから設定できます。

メタデータエクスポートユーティリティにより、以下の目的のいずれかに必要なすべてのメタデータを含むコンピュータ上に XML ファイルが作成されます。

- 別の ExtraView インスタンスにインポートする
- メタデータのバックアップとして使用する
- データを別のシステムへのデータのインタフェースおよびソースとして使用する

メタデータがファミリにエクスポートされています。各ファミリには別のインスタンスでのファミリの再構築に必要な全データが含まれています。下のファミリのリストから、保存したいセットをクリックしてください。

1 ~ 2 分後にメタデータファミリのセットをクリックしてください。保存したテーブルのリストが表示されます。

出力をビジネスエリアまたはビジネスエリアとプロジェクトでフィルタできます。

ビジネスエリア

プロジェクト

ExtraView ファミリのエクスポート

エクスポートは簡単に実行できます。インストール全体のメタデータをエクスポートする (ビジネス・エリアとプロジェクトが有効なときは、選択リストから [* すべて *] オプションを選択します) ことも、個々のビジネス・エリアやプロジェクトのメタデータをエクスポートすることも可能です。

次に、以下のリストからオプションをクリックして、エクスポートするデータ・ファミリを選択します。

- すべてのメタデータ・テーブル
- すべてのレイアウトと付随する情報
- すべてのレポートと付随する情報
- すべてのユーザ・プロフィール情報

エクスポート・ファイルの名前を入力するよう要求されます。このファイルは、ユーザのクライアント・コンピュータのローカル・ファイル・システムに保存されます。

システム内のメタデータの量により、エクスポートには時間がかかることがあります。メタデータの量により、作成されるファイルのサイズは、数メガバイトのこともあれば、50 メガバイトを超えることもあります。

エクスポート・ファイルは、ExtraView の同じインスタンスや別のインスタンスにインポートできます。また、ファイルを他のアプリケーションに統合して使用することもできます。

メタデータの XML 形式からのインポート

注: 繰り返しますが、インポート機能を使用する前に、データベースの標準機能を使用してデータをバックアップすることを強くお勧めします。インポートしたメタデータ、レイアウト、レポート、およびユーザ・データは元に戻せませんし、処理中に失敗が発生することもあるからです。

インポート・メニューは、管理メニューの [高度な管理] タブの中にあります。管理者はそこでロードするファイルを指定できます。

インポート機能は、XML 形式のフラットなイメージ・ファイルを読み取り、管理者が選択したロードするオブジェクトの要求のとおりテーブルを更新します。ユーティリティは依存関係とすべての内部番号の付け直しを必要に応じて考慮し、整合性のある正確なインスタンスの更新を行います。

データが新しいルールを遵守しているかどうかの妥当性チェックは、できるだけ早く行います。妥当性の障害によってインポートが終了しても、その影響を最小限にできるからです。

ほとんどのインポートでは、[更新/マージ] 操作を使います。この操作では、すでに存在するレコードは更新され、インポートする XML ファイルに含まれている新しいレコードはデータベースに統合されます。

メタデータのXML形式からのインポート

アカウント: Bill Smith | ロール: Administrator | ビジネスエリア および プロジェクト: 不具合 および Data | 関係者リスト

指示

- 1 インポートを開始する前にデータベース全体の最新のバックアップを取ってあることを確認してください。
- 2 インポート・ファイルをマージまたは更新/マージするための操作を選択します。
- 3 インポート・ファイルと現在の宛先データベースで一致しないリストのタイトルを再マッピングするコマンド (Map unmatched titles) のボックスをチェックします。タイトルの再マッピングを選択すると、ExtraView はアップロードされたファイルをインポートする前に前処理します。
- 4 [Browse] ボタンを押して、アップロードする XML ファイルを選択してください。
- 5 ExtraView がファイルをアップロードするまでお待ちください。ファイルがコンピュータからサーバーにアップロードされ、データベースへのインポートが開始されるまでに数分かかる場合があります。

操作

マージ: ターゲット・スキーマ内の既存のレコードはそのままにして、新しいシーケンス番号を使って XML ファイル内の新しいレコードを追加します。

更新/マージ: 更新とマージを組み合わせ、ターゲット・スキーマにレコードがある場合はそのレコードを更新し、ない場合は新しいレコードを挿入します。

アップロードされたファイルと宛先データベースで一致しないタイトルをマッピングしてください。

参照...

XML ファイルをアップロード

Return

インポート・プロセスの開始

画面上の指示に従ってください。画面からわかるように、主なインポート方法は次の 2 つです。

[マージ] ターゲット・スキーマ内の既存のレコードはそのままにして、インポートする XML ファイル内の新しいレコードを追加します。ExtraView では、データベース内でその操作に対し新しい連続番号を使用します。

[更新/マージ] 更新と統合を組み合わせた操作であり、ターゲット・スキーマ内にすでにあるレコードは更新され、インポートするレコードが存在しない場合は新しいレコードとして挿入されます。

出力先データベース内のリストで、オブジェクトのタイトルなどのメタデータを変更し、これと同様のデータ変更を XML エクスポートを行ったソース・データベースで行っていない場合、ExtraView では、インポート・ファイルから新しいフィールドを作成して出力先データベースに挿入する代わりに、フィールドを再度マッピングする機会が与えられます。このチェックを実行するときは、「一致しないタイトルをマッピングしてください」のプロンプトにチェックが付いているかを確認してください。

チェックを実行するとき、インポートは 2 つの部分に分けられます。最初に、アップロードされた XML ファイルが前処理され、インポート内の各リストの値と、ターゲットの出力先データベースとが照合されます。出力先データベースに存在しない値がインポート・ファイル内にある場合、インポート・ファイル内の値と一致する値がないということが表示されます。ユーザは、インポート・ファイル内で指定された値を持たない値をターゲット・データベースから選択することができます。マッピングする値を選択した後で不一致がある場合は、インポートの第 2 段階へ進みます。ファイルが再度処理され、出力先データベースが更新され、選択したマッピングが適用されます。

The screenshot shows the 'Metadata XML Import' window. At the top, it says 'Account: Carl Koppel | Role: Admin, Level 1 | Area and Project: Defects and Defects | Interest list'. Below this, there's a section titled 'Results of preprocessing' with the following text: 'Update/Merge: Combines update and merge, updates records if they exist in the target schema, and inserts new records if they do not.' Below that, there are statistics: 'Number of rows read: 28,881', 'Number of rows inserted: 0', 'Number of rows updated: 0', and 'Number of tables read: 49'. A table follows with columns: 'Data Dictionary Title', 'Data Dictionary Name', 'Unmatched Import Title', and 'Target Title'. The table has two rows: one for 'BatchMail' with 'CLIENT_BATCHMAIL_VERSION' and '4', and another for 'Application Server' with 'CLIENT_APP_SERVER' and 'Tomcat 3.3'. Both 'Target Title' columns have a dropdown menu set to '*None*'. Below the table is a button that says 'Proceed to import uploaded XML file with mappings' and a 'Return' button at the bottom left.

インポート・ファイルの前処理結果

データの前処理中やインポート中には、次のようなステータス・バーが表示されます。

The screenshot shows the 'Metadata XML Reader & Updater' window. At the top, it says 'Account: Carl Koppel | Role: Admin, Level 1 |'. Below this, there's a status message: 'Executing database changes, processing row 1,438 of 5,733'. Below the message is a progress bar that is partially filled with green. At the bottom, there's a warning: 'Do not interrupt this process'.

インポート処理中の進捗状況バー

注：データのインポートにはある程度時間がかかります。インストールの規模が小さい場合は 10 分程度ですが、大規模なインストールの場合は 30 分以上かかることもあります。ブラウザの性能の限界により、処理の初めの段階ではフィードバックがほとんどありませんが、その

間ブラウザはクライアント・マシンからサーバへインポート・ファイルをアップロードしています。この作業の間、特にレイアウトをインポートしている場合は、各ユーザが ExtraView を使用できないようにしておくことをお勧めします。データのインポート中に、ユーザをシステムからロックアウトしておくことができます。これは、管理メニューの [ユーザ] タブにある [ユーザアクセスの有効化 / 無効化] を使って行います。

注：インポート・ファイルを ZIP 形式で圧縮しておく、インポート操作の実行時間を短縮できます。XML ファイルであれば、元のファイル・サイズの 10% 程度まで大幅に圧縮されます。ただし、ZIP ファイルはアップロードする前に .xml という拡張子の名前に変更する必要があります。ExtraView はファイルが圧縮されていることを検出し、適切な処理を行います。

注：いったんインポート操作を開始したら、中断はしないでください。実際にインポートが開始すると、ユーザがブラウザを終了しても ExtraView はサーバ操作をキャンセルしません。

Results of update			
UpdateMerge: Combines update and merge, updates records if they exist in the target schema, and inserts new records if they do not.			
Number of rows read	5,733		
Number of rows inserted	1		
Number of rows updated	5,732		
Number of tables read	4		
Table PROJECT	Updates 3	Inserts 0	Errors 0
Table AREA	Updates 3	Inserts 0	Errors 0
Table TITLE_MAP	Updates 5,568	Inserts 1	Errors 0
Table SECURITY_USER	Updates 158	Inserts 0	Errors 0

インポート・データのサマリ画面

インポート・プロセス内でのユーザ・データの取り扱い

ユーザは ExtraView を使用する際、頻繁にパーソナル設定を変更します。例えば、ユーザはホーム・ページ・レポートや、タイムスタンプの表示形式、あるいはその他多くの属性の 1 つを変更することがあります。エクスポートする開発システムおよび本稼動システムにインポートするメタデータは、最近変更したユーザ・データを無効にする可能性があります。OMITTED_IMPORT_USER_COLUMNS という動作設定により、管理者は特定の列を無視できるように設定できます。このフィールドの値は、セキュリティ・ユーザ・オブジェクトのインポート時に、更新から除外される列名のカンマ区切りリストです。このリストに追加できる値には、以下のようなものがあります。

列名	意味
LAST_NAME	ユーザの姓
FIRST_NAME	ユーザの名前
SECURITY_PASSWORD	ユーザのパスワード
JOB_TITLE	ユーザの職位
WORK_TELEPHONE	職場の電話番号

列名	意味
HOME_TELEPHONE	自宅の電話番号
CELL_PHONE	携帯電話の番号
FAX	ファクス番号
PAGER	ポケット・ベルの番号
COMPANY_NAME	会社名
ADDRESS_LINE1	住所 1 行目
ADDRESS_LINE2	住所 2 行目
CITY	都市名
STATE	州名
POSTAL_CODE	郵便番号
COUNTRY	国名
LAST_ACCESS_DATE	ユーザが最後に ExtraView にアクセスしたときのタイムスタンプ
EMAIL	電子メール・アドレス
EMAIL_FORMAT	受信電子メールの形式
LANGUAGE	表示言語
DATE_FORMAT	日付の表示形式
TIMEZONE	ユーザのタイムゾーン
NOTIFY_ON_OWN_UPDATES	更新時のユーザへの通知
USER_ROLE	ユーザの現在のロール(役割)
DRILLDOWN_REPORT	ユーザがレポートをドリルダウンする場所
VARIANT	ロケールのバリエーション
REPORT_EXPANDED_QUERY	標準または圧縮されたクエリ・フィルタ
AREA_ID	ユーザの現在のエリア
PROJECT_ID	ユーザの現在のプロジェクト
TWENTY_FOUR_HOUR_TIME	12 時間または 24 時間形式で時刻を表示
REPORT_1_ID	ホーム・ページ・レポート 1
REPORT_2_ID	ホーム・ページ・レポート 2
REPORT_3_ID	ホーム・ページ・レポート 3
HTTP_CHARSET	ブラウザの文字セット
REGION	ロケールの地域
CHART_FONT	グラフのフォント
STYLESHEET	ブラウザ内のテキスト・サイズ
MS_OFFICE_CHARSET	MS Office アプリケーションへの出力文字セット

メタデータのインポート中のエラー・ログ

XML の更新が実行されると、エラーのテキスト・ログがサーバ上に作成されます。各エラー・エントリには、テーブル、行番号、その時点で使用していたデータ、および例外メッセージなどの役立つ情報が可能な限り含まれます。このエラー・ログは、ブラウザのサマリ画面に表示されます。

エラー・ファイルは、次の名前ですべてのシステムの一時ディレクトリに格納されます。

```
<time_in_ms>_<user_id>_XML_ERRORS.txt
```

以下に例を示します。

```
1026520070671_JEFF.SYKES_XML_ERRORS.txt
```

エラー・メッセージはすべて、次の行で開始します。

```
::XML_UPDATE_ERROR::
```

その後新しい行が追加され、最後は次の行で終わります。

```
::END_XML_UPDATE_ERROR::
```

この後に 2 つの改行文字が続きます。エラーの例を以下に示します。

```
::XML_UPDATE_ERROR::  
An error occurred updating row 125 of ITEM_MODULE with this data:  
{blah = blah, this = that, you = them}  
  
Exception:  
java.sql.SQLException: ORA-00904: invalid column name  
::END_XML_UPDATE_ERROR::  
  
::XML_UPDATE_ERROR::  
An error occurred updating row 126 of ITEM_MODULE with this data:  
{blah = blah, this = those, you = me}  
  
Exception:  
java.sql.SQLException: ORA-00904: invalid column name  
::END_XML_UPDATE_ERROR::
```

メタデータのインポート中に拒否されたレコードの取り扱い

ExtraView が XML インポート・ファイルを処理していて、更新ルーチンを開始すると、更新を妨げるエラーが発生した場合、障害のある XML ノードのデータがキャプチャされ、新しい XML ファイルを作成するのに使用されます。このファイルは元のファイルと同じ構造ですが、正常に更新できない項目が含まれています。更新処理中にエラーが発生しなかった場合、このファイルは空なので、更新処理の終了時に削除されます。

このファイルは、次の名前ですべてのシステムの一時ディレクトリに保存されます。

```
<time_in_ms>_<user_id>_XML_REJECTS.xml
```

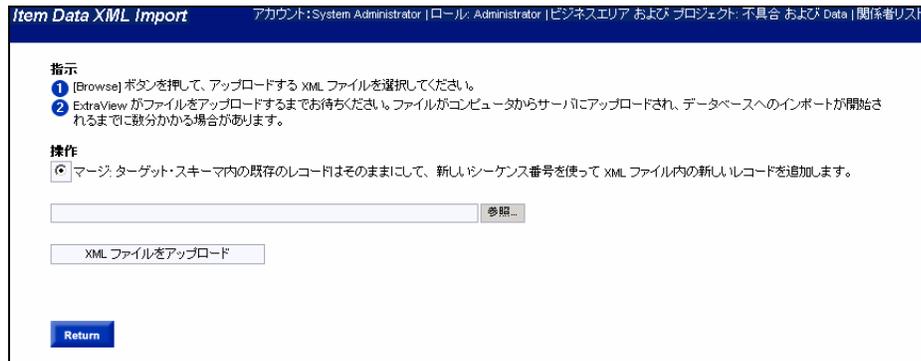
以下に例を示します。

1026520070671_JEFF.SYKES_XML_REJECTS.xml

項目データの XML のインポート

Batch Mode

この機能は、[Administration] メニューの [高度な管理] タブにある [項目データのXMLインポート] という機能で実行します。この機能にアクセスすると、次のような画面が表示されます。

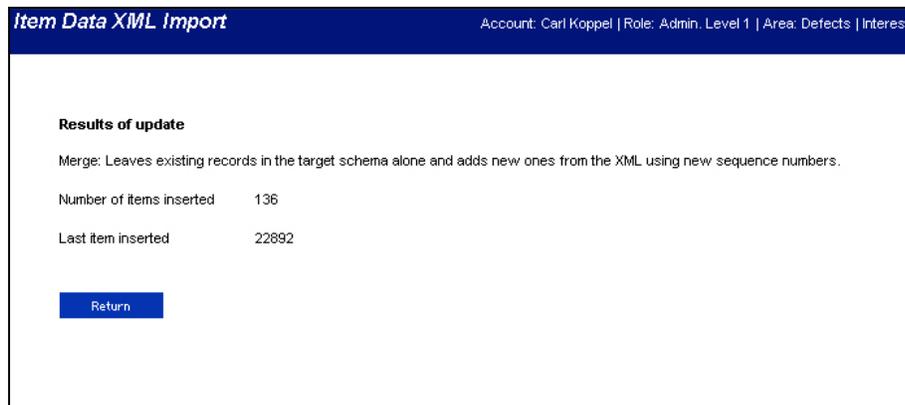


XML 項目ファイルをロードするためのバッチ・インタフェース

現時点では、「マージ」機能でのインポートにしか対応しておりません。将来のバージョンでは、他の方法による項目データのインポートにも対応していく予定です。

[参照] ボタンを使用して、インポートする項目データを含む XML ファイルに移動します。次に、[XML ファイルをアップロード] をクリックします。XML データ・ファイルがサーバにアップロードされるのを待ちます。ファイルのサイズによっては、少々時間がかかることがあります。

注: 大きなファイルのインポートにかかる時間を短縮するため、入力ファイルを ZIP 形式で圧縮し、その ZIP ファイルをアップロードしてもかまいません。ExtraView では、アップロードされた ZIP ファイルを自動的に解凍します。



バッチ XML インポートの結果画面

ファイルの処理中には、進捗状況を知らせるステータス・バーが表示されます。処理が完了すると、上のような画面が表示されます。インポート・ファイル内にエラーがあれば、結果画面に表示されます。

API コマンド

このコマンドについては、『ExtraView CLI & API Guide』で詳細を説明しています。

xml_insert という API 操作では、XML 形式の入力から、ExtraView データベース内に新しいレコードを作成します。この入力は HTTP データ・ストリームの一部として作成されたものでも、あるいは XML 形式のファイルからの入力でもかまいません。

構文:

```
http://www.myserver.com/evj/ExtraView/ev_api.action?  
user_id=username  
&password=password  
&statevar=insert_xml  
&xml_file_name=filename | &xml_string=xml_data  
&template_file=file.html
```

- xml_file_name または xml_string のどちらかを入力しますが、両方は使用しないでください。コマンド実行時に存在するファイルからの入力であれば、xml_file_name を使用します。挿入するデータが HTTP リクエストの一部として提供される場合は、xml_string を使用します。この文字列には、解析される XML データが含まれます。
- template_file は、戻り値文字列の生成に使用するテンプレート名です。通常、このテンプレート・ファイルは、サーバの WEB-INF/user_templates ディレクトリ内に格納されます。操作が正常に完了すると、このテンプレートのパラメータは以下の変数名に置き換えられます。

タグ	説明
__ID__	最後に挿入された項目の項目番号
__NUMBER_ITEMS_INSERTED__	挿入された項目の番号
__ITEM_TITLE__	ITEM_ID 辞書エントリのタイトル

ユーザ・テンプレートの作成方法の詳細は、『ExtraView CLI & API Guide』のテンプレートに関するセクションを参照してください。

テンプレート・ファイルがリクエストされていない場合、コマンドは HTTP を経由して呼び出しプログラムへ完了メッセージを返します。

エラーで完了したときに返される文字列には、次の形式の error.html ユーザ・テンプレートに値が入れられたエラー・メッセージが含まれています。

```
error-message "at line=xxx and column number=yyy"
```

xxx および yyy は、XML 構文解析ツールによって返される値です。

一例として、次のメッセージが返されたとします。

“The end-tag for element type "ITEM" must end with a '>' delimiter at line=8 and column number=9”

- API の 1 回の呼び出しでは、XML_STRING に 1 つのレコードしか挿入できません。入力データが 1 つのファイル内にあるときは、1 回の操作でのレコード数に制限はありません。

項目データのインポート・エラー

エラー・メッセージ	説明
Ambiguous Area title: <i>title</i>	XML 内のビジネス・エリアのタイトルがデータベース内で固有ではありません。代わりにビジネス・エリアの名前を使用してください。
Ambiguous Module title: <i>title</i>	そのタイトルを持つモジュールが固有ではありません。この場合は衝突を避けるためにモジュール名を使用してください。
Ambiguous Project title: <i>title</i>	XML 内のプロジェクトのタイトルがデータベース内で固有ではありません。代わりにプロジェクトの名前を使用してください。
Ambiguous Repeating record title: <i>title</i>	そのタイトルを持つリピーティング・レコードが固有ではありません。この場合は衝突を避けるために名前を使用してください。
Ambiguous UDF title: <i>title</i>	そのタイトルを持つ UDF が固有ではありません。この場合は衝突を避けるために UDF 名を使用してください。
Bad zip file or invalid XML tag at beginning of file	ExtraView が XML データを含む ZIP ファイルを読み取ることができません。または、ファイルの先頭にある XML タグが無効です。
Cannot dereference list entry for ddname [<i>value</i>]	データ辞書名の <i>value</i> に対応するリスト値がありません。
End Attachment tag outside Attachment	添付終了タグは添付データの最後に置く必要があります。
End item tag outside item	項目終了タグは項目データの最後に置く必要があります。
End module tag outside module	モジュール終了タグはモジュール・データの最後に置く必要があります。
End <i>name</i> tag outside <i>name</i>	名前終了タグは名前データの最後に置く必要があります。
End Repeating record tag outside Repeating record	リピーティング行終了タグは、リピーティング行データの最後に置く必要があります。

エラー・メッセージ	説明
End UDF tag outside UDF	UDF 終了タグは UDF データの最後に置く必要があります。
Illegal NAME construct ignored	有効な名前構造を使用してください。
Invalid characters in the title value:[value]	タイトルの値に不正な文字が含まれています。
No dentry for dereferenced name:dd_name	dd_name に対応するデータ辞書エントリがありません。
No Area with title:title	そのタイトルを持つビジネス・エリアがデータベース内に存在しません。
No Module with title:title	そのタイトルを持つモジュールが存在しません。
No product name for module:name	モジュールを追加するときは、必ず XML 内の product_name フィールドを使用する必要があります。
No product name for release:name	このフィールドに依存するリピーティング・レコードを追加するときは、必ず XML 内の product_name フィールドを使用する必要があります。
No Project with title:title	そのタイトルを持つプロジェクトがデータベース内に存在しません。
No Repeating record with title:title	そのタイトルを持つリピーティング・レコードが存在しません。
No such XML file:file_name	入力した XML ファイルが存在しないことを示しています。
No UDF with title:title	そのタイトルを持つ UDF がデータ辞書内に存在しません。
Nothing to convert from XML to DB; quitting	入力した XML ファイルが空のようです。
Unrecognized end element tag:name	その名前の終了タグが、その名前の開始タグと一致していません。
Unrecognized start element tag:tag_name	要素タグ名が有効ではありません。
WARNING: this source locale: [locale] is not available in target system	ExtraView のインストール内に存在しないロケールを使おうとしていることを DTD が指摘しました。
Validation exception:exception	一般検証例外 (exception を参照)。

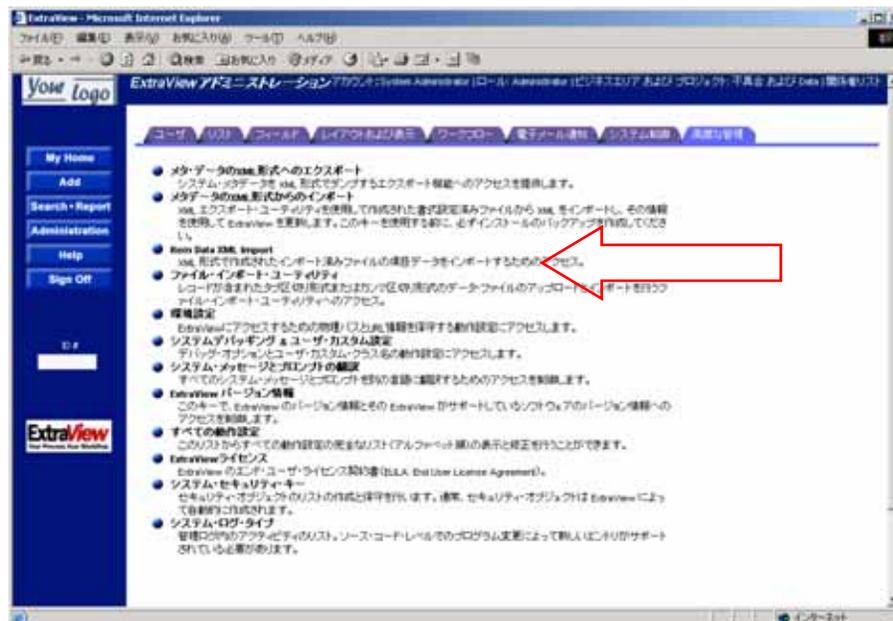
ファイル・インポート・ユーティリティ

ファイル・インポート・ユーティリティを使用することにより、管理者はクライアント・コンピュータからタブ区切りファイルまたはカンマ区切りファイルをアップロードして、そのファイル内のフィールドや値を ExtraView の値にマッピングし、データを検証して最終的にそのデータをインポートします。

一般に、インポートするファイルには他のシステムのデータが含まれています。Microsoft Excel は、インポートに適した形式でデータを作成するのに役立つツールです。以下のプロセスを実行します。

- ファイルをインポートしたりアップロードするためのテンプレートを作成します。
- ExtraView は、アップロードするファイルと ExtraView データベースの両方にあるフィールドに対して、自動的にマッピングを行います。
- ExtraView は、アップロードするファイルと ExtraView データベースの両方にあるフィールド値に対して、自動的にマッピングを行います。
- マッピングの結果が表示されるので、フィールドまたはフィールド値のマッピングを修正します。
- このとき、アップロードされたデータを検証し、アップロード実行前のファイルにエラーがないことを確認します。
- エラーがある場合はそれを修正して、同じテンプレートにファイルを再度アップロードします。
- 最後に、インポートを実行してレコードを挿入します。

注: ExtraView では、データをインポートする際にフィールドが必須かどうかを区別しません。また、データをインポートするときにフィールドの値が適切で許容される関係になっているかも見ません。ただし読み取り専用のフィールドについては無視しないので、編集画面のレイアウトで読み取り専用になっているフィールドをインポートする方法について、このセクションで後ほど説明します。また、Web インタフェースまたは CLI を経由してこのようなレコードを編集し更新しようとする、適切な検証が実行されるので、その時点でこのタイプのエラーがあれば修正する必要があります。



ファイル・インポート・メニュー

アップロード・ファイルの作成

Issue #	Category	Title	Assigned To	Last Modified	Product	Priority	Committe	Customer	Status
23763	Feature Enhancement	RELATIONSHIP_GROUP	rep.Jon Green	11/6/2003	Global Pw	P 3	4.2.3	Small Inc	Open
23768	Product Bug	Reformat the Home Page HT	Jim Smithers	2/3/2004	Galaxy	P 3	4.2.3	Big Corp	Open
23767	Product Bug	STATUS field changes when	Jon Green	8/9/2003	Galaxy	P 2	4.2.2		Fixed
23766	Product Bug	MODULE_ID cannot be set b	Jon Green	1/6/2004	Galaxy	P 3	4.2.3		Open
23765	Product Bug	Different reports in areport	tr.Jim Smithers	11/16/2003	Global Pw	P 3	4.2.2	Midding In	Open
23764	Product Bug	Pyflakes in awadlist not work	Jon Green	2/6/2004	Galaxy	P 3	4.2.2		Open
23763	Product Bug	Can't use titles with spaces	Jim Smithers	10/3/2004	Galaxy	P 3	4.2.3	ABC	Not a Bug
23762	Product Bug	Assigning invalid user on eva	Dave Eison	1/5/2003	Global Pw	P 3	4.2.2		Open
23756	Product Bug	timezone vs. alpha_timezone	Ed Baumann	1/6/2004	Galaxy	P 2			Fixed

Excel で作成したアップロード・ファイルの例

図の上の矢印は、スプレッドシートの 1 行目を指しています。それぞれの列に、入力の一部であるフィールド名が入っています。スプレッドシートの残りの行には、フィールド名に対応するデータが含まれています。以下の点に注意してください。

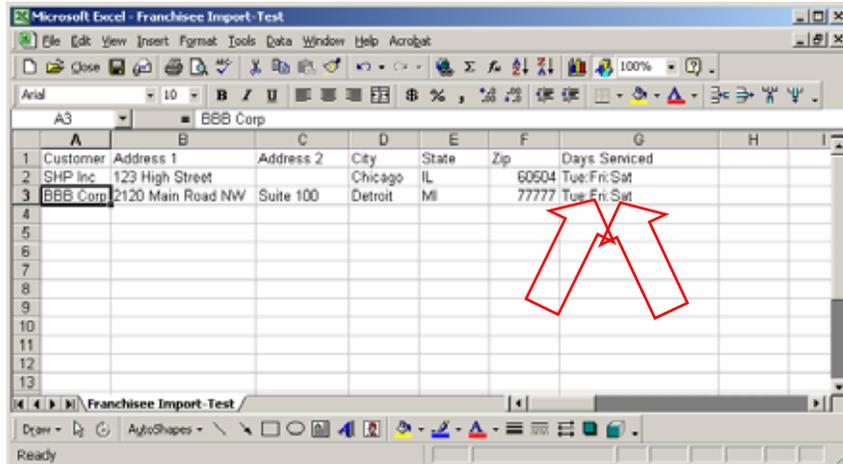
- インポート・ファイル内のフィールドには、ExtraView 内のフィールドと異なる名前が付いていることがあります。しかし、これらの名前が同じであれば(大文字・小文字を区別せずに比較した場合)、ExtraView はインポート・ファイルのフィールドを固有のデータ辞書へ自動的にマッピングします。
- ExtraView は、表示タイプが リスト、タブ、ポップアップ、または ユーザ であるフィールド内の値を自動的にマッピングしようとします。このとき、大文字と小文字は区別しません。例えば、*open* という名前のインポート・ファイルのステータスは、*Open* という ExtraView のステータス値に自動的にマッピングされます。ExtraView によって値がマッピングできない場合は、レコードをアップロードする前にマッピングを行う必要があります。
- インポート・ファイル内の、表示タイプが リスト、タブ、ポップアップ、または ユーザ であるフィールド内の値は、データをインポートする前に ExtraView 内に存在してはなりません。ExtraView がレガシー・システムから不具合のあるデータを受け継ぐおそれがあるため、ExtraView は新しい値を自動的に作成しません。ただし、ExtraView では存在しない値から有効な値へのマッピングをユーザが行うことは可能です。
- あるフィールドのデフォルト値がデータ辞書で設定されている場合、インポート・ファイル内に値がなければ、そのデフォルト値がすべてのレコードの中に挿入されます。

スプレッドシートの作成が終わったら、Excel の [ファイル]、[名前を付けて保存] メニューで、テキスト(タブ区切りファイル)または CSV(カンマ区切りファイル)のどちらかをファイル・タイプとして選択し、保存します。

注: インポートできるファイルのサイズは 20,000,000 バイトまでです。インポートするデータが非常に大きい場合は、複数のインポート・ファイルに分割して、個別に処理を行った方が効率的です。

複数値フィールド

インポートするフィールドが複数値タイプの場合は、インポート・ファイル内で特別な準備が必要です。インポートするすべての値は、ファイルの区切り文字(タブまたはカンマ)の間に存在する必要があります。ただし ExtraView では、異なる値の区別が可能です。これを行うには、DEFAULT_TEXT_REPORT_DELIMITER という名前の動作設定で、システム全体の区切り文字を使用します。この設定のデフォルト値は“:”です。この区切り文字を使用して値を区別します。例えば、Sun、Mon、Tue、Wed、Thu、Fri、Sat の曜日のリストがあるとします。レコード内で有効なデータ値を Tue、Fri、Sat と指定する必要がある場合は、スプレッドシートで Tue:Fri:Sat というエントリを使用します。



Customer	Address 1	Address 2	City	State	Zip	Days Serviced
SHP Inc	123 High Street		Chicago	IL	60604	Tue:Fri:Sat
BBB Corp	2120 Main Road NW	Suite 100	Detroit	MI	77777	Tue:Fri:Sat

複数値フィールドのインポート

テキスト・フィールド

テキスト・エリア、ログ・エリア、出力テキストの表示タイプにマッピングされるフィールドには、復帰文字(ASCII 13)を含む値をインポートできるようにするための特別な扱いがあります。この文字は通常、1 行のデータの終了を示すために多くのアプリケーションで使用されています。これは、復帰文字の後のデータが新しいレコードであることを意味しています。残念ながら、Excel その他のアプリケーションからカンマ区切りファイルやタブ区切りファイルをエクスポートすると、これらの復帰文字がレコードの終了として扱われます。Excel と ExtraView のインポート機能の両方に対応した、この問題の是正方法は次のとおりです。

1. 復帰文字で区別された新しい行が、引用文字列(二重引用符のみ)の内側にあるかを確認します。これらはそのままレコードに挿入されます。詳しく説明すると、復帰文字は Unix ファイル内には存在せず、またブラウザは改行文字を受け取ったときにのみ正しく動作するので、復帰文字は ExtraView によって破棄されます。
2. タブ文字は、引用符で囲んだレコード(タブ区切りの場合)または別の場所(カンマ区切りの場合)に挿入できます。これらはそのままレコードに挿入されます。
3. 二重引用符をフィールドに入れるには、この二重引用符を二重にします。つまり、"" が 1 つの引用文字を表します。ただし、1 つの単語の中で二重引用符が最初の非空白文字ではないのであれば、フィールドの中に二重引用符を入れることもできます。したがって、abc"def は修正が不要ですが、“abcdef” は修正が必要となります。

最大フィールド・サイズ

インポートするフィールドには、フィールドのタイプに応じて次のような最大サイズの制限があります。

フィールド/フィールド・タイプ	最大サイズ
[List field titles] (メタデータとしてロード)	100 バイト
[ユーザ ID] (メタデータとしてロード)	30 バイト
[ユーザ 名] (メタデータとしてロード)	128 バイト
[ユーザ 姓] (メタデータとしてロード)	128 バイト
[SHORT_DESCR]	255 バイト
[ALT_ID]	30 バイト
UDF テキスト・フィールドの表示タイプ	256 バイト
UDF テキスト・エリア、ログ・エリア、出力テキストの表示タイプ	約 31k バイト

データのマッピングとインポートの実行

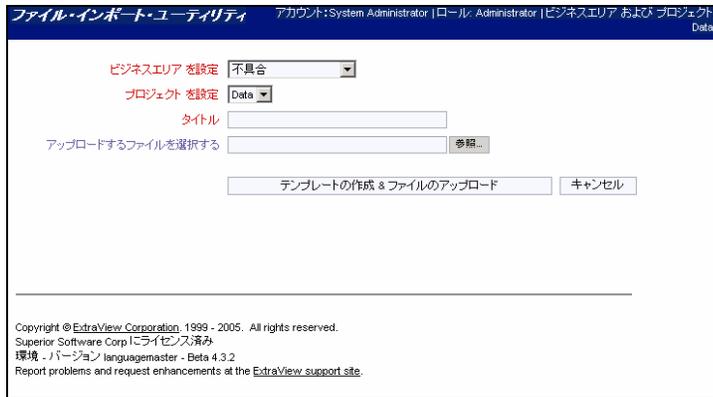
ExtraView の管理メニューからファイル・インポート・ユーティリティを起動します。次の画面が表示されます。

■ テンプレート・タイトル	■ ビジネスエリア	■ プロジェクト	■ 作成	■ 最終更新日
Edit CS	カスタマーサポート	Calls	System Administrator 2004/06/30	System Administrator 2004/06/30
Edit Defects	不具合	Data	System Administrator 2004/06/30	System Administrator 2004/06/30
Edit Feature Requests	機能追加要求	Feature Requests	System Administrator 2004/06/30	System Administrator 2004/06/30
Edit IT - Desktop	ネットワークへの要求	Desktop	System Administrator 2004/06/30	System Administrator 2004/06/30
Edit IT - ERP Apps	ネットワークへの要求	ERP Apps	System Administrator 2004/06/30	System Administrator 2004/06/30
Edit IT - General Issues	ネットワークへの要求	General Issues	System Administrator 2004/06/30	System Administrator 2004/06/30
Edit IT - Network	ネットワークへの要求	Network	System Administrator 2004/06/30	System Administrator 2004/06/30
Edit IT - Telecom	ネットワークへの要求	Telecom	System Administrator 2004/06/30	System Administrator 2004/06/30
Edit IT - Servers	ネットワークへの要求	Servers	System Administrator 2004/06/30	System Administrator 2004/06/30

合計 9レコードから選択された 9レコード

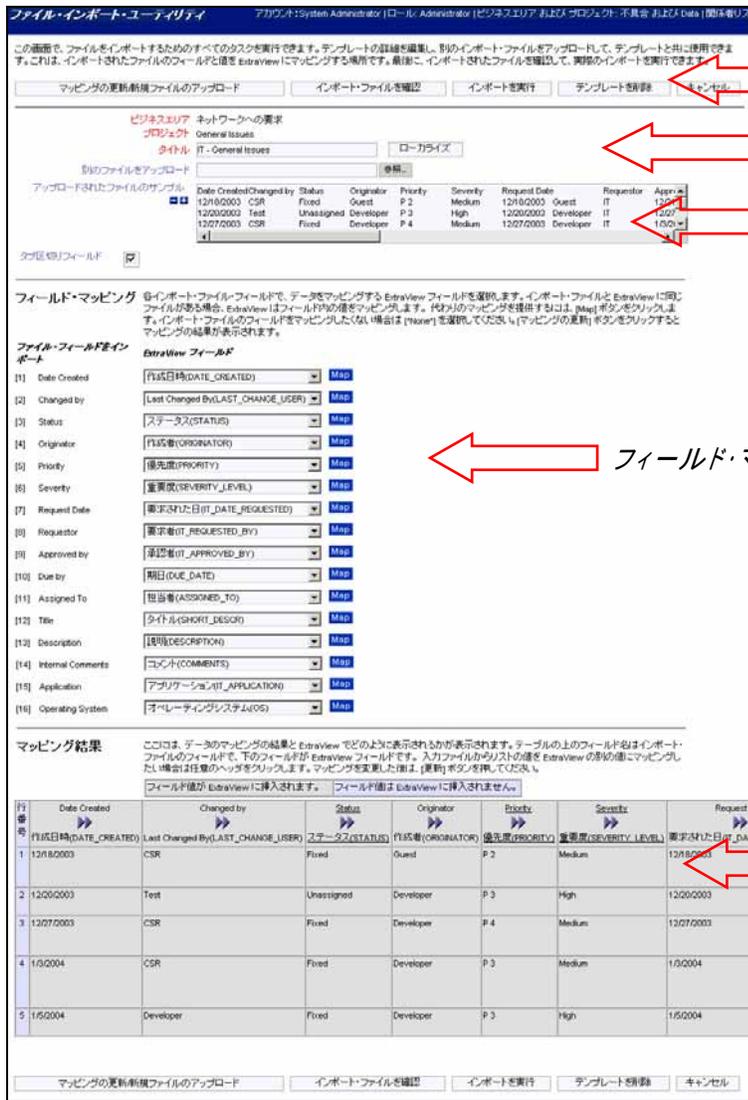
ファイル・インポート・ユーティリティ

新しいインポート・テンプレートを作成すると、次の画面が表示されます。テンプレート名を入力し、アップロードするファイルを選択するだけです。インストールでビジネス・エリアとプロジェクトを使用している場合は、これらの選択リストが画面に表示されます。いったん特定のビジネス・エリアとプロジェクト用のテンプレートを作成すると、変更はできません。



インポート・テンプレートの作成

次のようなインポートのメイン画面が表示されます。



インポート画面

機能ボタン – 以下の機能を実行します。

- **[マッピングの更新]** – フィールド・マッピング・セクションでフィールドのマッピングを変更したり、[Map] ボタンを使用して値のマッピングを変更した場合、このボタンをクリックすると画面が更新され、結果セクションが改めて表示されます。
- **[インポート・ファイルを確認]** – この機能は、インポート・ファイルの各行をチェックして、入力ファイル内のエラーを表示します。このエラーをソース・ファイルで修正し、インポートを実行する前に再度ファイルをアップロードします。この操作は、インポート画面を終了しなくても行えます。インポート・ファイルにエラーがまったくなくなるまで、必要があれば随時インポート・ファイルを検証し、ファイル内のエラーを修正し、再度ファイルをアップロードすることができます。
- **[インポートを実行]** – マッピングが完了してデータが検証されたら、このボタンによって最終検証を実行し、データを ExtraView にインポートします。ExtraView は、新しい ID も含めて、アップロードした各行に対し新しい issue を作成します。
- **[テンプレートを削除]** – 現在のテンプレートとすべてのマッピングを削除します。
- **[キャンセル]** – テンプレートのリストを表示したファイル・インポートの初期画面に戻ります。

テンプレートの詳細 – テンプレートのタイトルを表示するとともに、別のファイルをテンプレートにアップロードすることができます。インストールでビジネス・エリアとプロジェクトを使用している場合は、これらが現在のインポート・テンプレートとして表示されます。

サンプル・データ – このセクションには、アップロードしたファイルのデータ・サンプルが表示されます。このテキスト・ボックス内でデータの編集はできませんが、ソース・データに戻って修正を行う必要があります。

フィールド・マッピング – インポート・ファイル内の各フィールド・ヘッダの固定フィールド名と、その列をマッピングできる ExtraView 内の使用可能な全フィールドを示した選択リストが表示されます。インポートに有効なフィールドであるためには、そのフィールドが追加画面のレイアウトか、該当するビジネス・エリアおよびプロジェクトの埋め込みレイアウトの 1 つ(インポートを実行しているユーザの現在のロールのために使用されている場合)に存在していなければなりません。フィールドは、フィールドを更新できるようにセキュリティ許可を設定していることが条件です。また、ID フィールドへのマッピングはできません。ExtraView では ID フィールドが維持されるので、外部ソースからこのフィールドに値を割り当てることは絶対にできません。追加画面レイアウトでの読み取り専用フィールドの取り扱いについては、このセクションで後ほど説明します。

ExtraView では、インポート・ファイル内のフィールド名を編集画面レイアウト上のフィールドのデータ辞書タイトルと比較することにより、インポート・ファイル内のフィールドを編集画面レイアウト上のフィールドとマッピングします。この比較では、大文字と小文字を区別しません。一致が検出されると、ExtraView は ExtraView のフィールドをマッピングで選択されたフィールドとして設定します。この選択を無効にして、フィールドに合った選択を自分で行うことができます。これには、フィールドを [* なし *] にマッピングして、インポート中にこのフィールドをスキップすることも含まれます。

フィールドがマッピングされるのと同じ方法で、ExtraView は表示タイプがリスト、タブ、ポップアップ、ユーザのどれかであるフィールドに値をマッピングしようとします。検証を

実行すると、どのフィールド値がマッピングされていないかがわかります。値をフィールドにマッピングするには、フィールドの右側にある [Map] ボタンをクリックします。表示される画面は、次のようになります。



フィールド値のマッピング

[Add] をクリックして新しいマッピングを作成するか、既存のマッピングを編集します。マッピングで大文字と小文字を区別するかしないかを選択します。

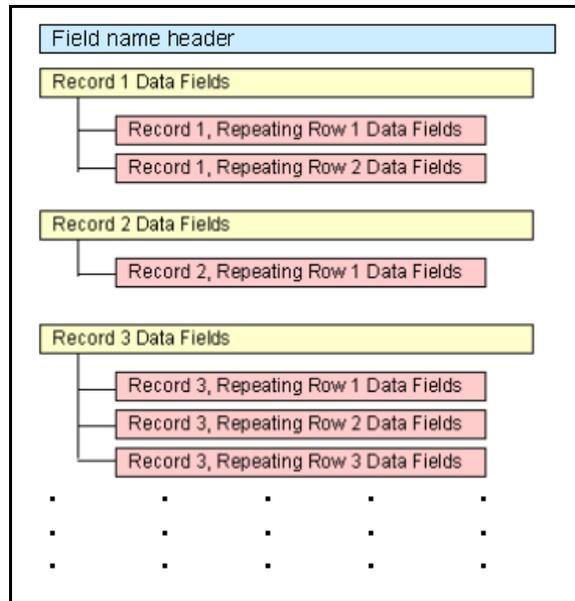
注意する点は、null 値のフィールドを ExtraView の特定の値にマッピングしたり、値をデフォルトとして設定されている以外の値にマッピングできることです。それによって、インポートするデータを柔軟に変更できます。

注：フィールド・マッピングはテンプレート内で保持されます。つまり、複数のマッピングを設定し、その設定を別のインポート・ファイルでも使用したい場合は、同じテンプレートを再利用すれば済みます。

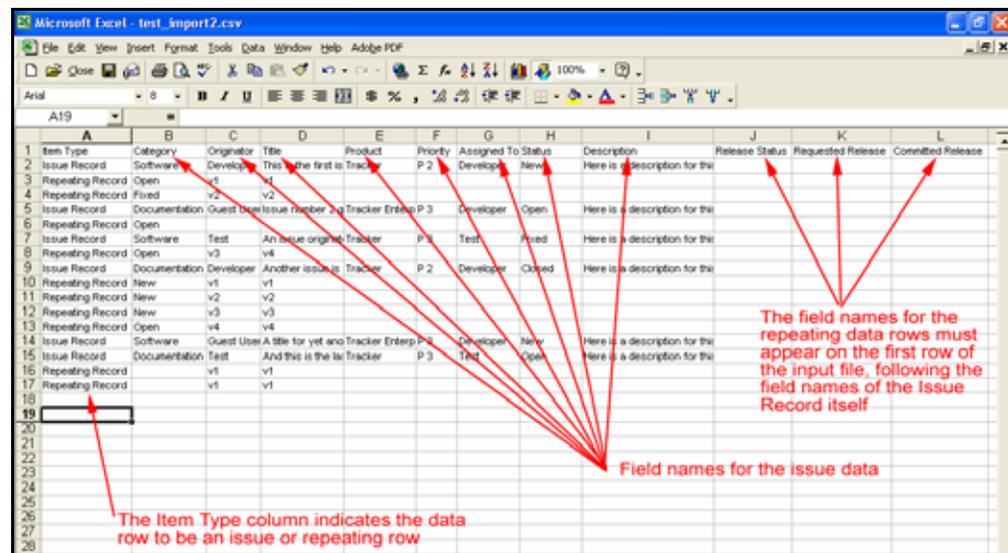
マッピング結果 – 画面のこのセクションには、インポートを実行した際にどの値がどのレコードに挿入されるかが表示されます。データをインポートする際にスキップされるフィールドや、ExtraView データベースの特定のフィールドに挿入される特定の値は、色分けで表示されます。

リピーティング行データのインポート

ご使用の ExtraView のインストールが、定義されたプロセス内でリピーティング行を使用するように構成されている場合、入力ファイルの作成においてリピーティング行フィールドを記述し、そのリピーティング行に対してデータを提供するよう、特別な配慮が必要です。次の図に構造を示します。



作成するインポート・ファイル内において、この構造はカンマ区切り値ファイルの作成に使用する Excel で次のスクリーンショットのように反映されます。



リピーティング行データのあるインポート・ファイル

リピーティング行を含むインポート・ファイルを作成するときは、以下の相違点に注意してください。

- フィールド名が入るヘッダ行の最初の列の値は [Item Type] です。
- データの各行の最初は、その行のデータ・タイプです。有効なエントリーは [Issue レコード] または [リピーティング・レコード] のどちらかです。
- データの 1 行目の 2 列目以降には、[Issue レコード] データのフィールド名が入ります。

- 1 行目の最後の方の列には、リピーティング行データのフィールド名が入ります。これらの行の見出しの下には、必ずしも値があるとは限りません。
- [Issue レコード] タイプの各行には、フィールド名に対応する列見出しの下の各フィールドに値を入れます。
- [リピーティング・レコード] タイプの各行には、リピーティング行の値のすぐ後に、2 列目のデータから各フィールドの値を入れます。

インポートの方針

レガシー・データの問題

レガシー・システムからデータをインポートする場合は、いくつかの理由により問題が発生することがしばしばあります。具体的な問題を以下に挙げます。

- レガシー・システム内のデータが「クリーン」であることは、ほぼありえません。例えば、ExtraView のリスト値となるエントリを要求されているとします。データの手入力は間違いが起きることが多く、異なるエントリへのマッピングが困難になります。ExtraView では、複数の入力値をリスト値にマッピングできます。
- すべてのユーザをレガシー・システムから ExtraView に移動させたくない場合も考えられます。例えば、ExtraView の issue を作成した従業員がすでに退職している場合は、その人の分まで ExtraView のライセンスを購入したくないでしょう。その場合は、ExtraView でユーザ・アカウントを作成してそのアカウントを無効にするか、ExtraView でユーザ名を別の人にマッピングします。
- ExtraView の優れた機能をフルに活用するには、ワークフローと取得したデータ項目を、大幅に変更した方がよいかもしれません。すべてのレガシー・データがこの環境下で値を持っているわけではありませんが、履歴のためにインポートしたいこともあるでしょう。ExtraView ではそれが行えます。
- issue を更新するモードのときに読み取り専用データをインポートしたい場合は、一時的にそのフィールドを読み取り/書き込み可能に変更し、データをインポートしてから、そのフィールドを読み取り専用に変更します。

ID フィールド

レガシー・システムからデータをインポートするときに特に注意が必要なフィールドが、ID フィールドです。ExtraView のライセンスには、レガシー番号をそのまま保持したいと考える人もいます。ExtraView では、固有の連続番号を使用する必要があります。この要件を容易に満たすには、ALT_ID というテキスト・フィールドを ExtraView のデータ辞書で定義します。使用しているレガシー・フィールドを ExtraView のこのフィールドにマッピングして、移行を行っている間、レイアウト上に保持します。このフィールドは、最終的に ExtraView のレイアウトから削除してかまいません。

その他に特別な扱いが必要なフィールド

レコードを ExtraView に挿入したり、ExtraView によって更新する場合、自動的に維持されるフィールドがいくつかあります。これらは、Web ベースのインターフェースである API

や CLI を経由して挿入したり、更新することができません。しかし、レガシー・データをインポートする際には、これらのフィールドから値をインポートする必要も出てきます。ExtraView はこのようなニーズにも対応しています。ただし、そのフィールドが追加画面レイアウト上にあり、インポート・ユーティリティに対応するための書き込みアクセス権を持っていることが条件です。このようなフィールドの処理については、次の表のとおりです。

データ辞書フィールド名	処理
DATE_CREATED	これがインポート・ファイル内に存在しマッピングされると、入力された値が挿入されますが、そうでない場合は現在の日付と時刻が使用されます。
DATE_CLOSED	これがインポート・ファイル内に存在しマッピングされ、issue の STATUS が STATUS_CLOSED_NAME という動作設定で定義された STATUS と同じであれば、入力された値が挿入されますが、そうでない場合は値が挿入されません。
DATE_LAST_STATUS_CHANGE	これがインポート・ファイル内に存在しマッピングされると、入力された値が挿入されますが、そうでない場合は現在の日付と時刻が使用されます。
LAST_CHANGE_USER	これがインポート・ファイル内に存在しマッピングされると、入力された値が挿入されますが、そうでない場合は現在のユーザ ID が使用されます。
ORIGINATOR	これがインポート・ファイル内に存在しマッピングされると、入力された値が挿入されますが、そうでない場合は現在のユーザ ID が使用されます。
TIMESTAMP	これがインポート・ファイル内に存在しマッピングされると、入力された値が挿入されますが、そうでない場合は現在の日付と時刻が使用されます。

ビジネス・エリアとプロジェクト

インポート・ユーティリティは、1 つのビジネス・エリアおよびプロジェクトにしかデータをインポートしません。複数のビジネス・エリアやプロジェクトにデータをマッピングしたりインポートすることはできません。また、メインの項目構造とリピーティング・レコード構造に対して、同時にインポート機能を使用することもできません。複雑な構造を取り扱うための方法は、ExtraView で別に用意されています。ここで説明するユーティリティは、単純構造のインポートを目的としており(この方法によって、インポート全体の約 80% に対処できます)、使用方法も迅速かつ簡単です。複雑なデータ移行を行う場合は、XML インポート・ユーティリティか、CLI の evimport 機能の使用を検討してください。

複数のエリアやプロジェクトにデータをインポートする際の方針としては、インポート・ファイル内でデータをエリアやプロジェクトごとに分割し、個別にインポートします。

読み取り専用フィールド

たいていの場合、インポートするデータは使用している追加画面レイアウト全体で書き込み可能です。インポートに使用するレイアウトは以下によって定義されます。

- インポート・テンプレートによって定義されるビジネス・エリア(ご使用のインストールでビジネス・エリアを使用している場合)
- インポート・テンプレートによって定義されるプロジェクト(ご使用のインストールでビジネス・エリアとプロジェクトを使用している場合)
- インポートを実行するユーザの現在のロール。通常これは、*admin* などの管理ロールです。

インポートの方針

単純なファイルをインポートする場合は、作成済みの追加画面レイアウトを使用し、その内容を反映したインポート・ファイルを作成するだけです。

しかし、管理ロールが追加画面のすべてのフィールドを持っているわけではなく、またすべてが書き込み可能でない場合もあります。また、使用しているシステムが、複数のビジネス・エリアやプロジェクトがあるなど比較的複雑な場合もあります。このようなときは、以下に示す方針に従うのが賢明です。特に、各 *issue* に関するメタデータが大量に含まれている高度なトラッキング・システムからデータをインポートする必要がある企業に適しています。

- *import* または同様の名前を付けた新しいユーザ・ロールを作成します。
- これに対して新しいユーザ・ロールが新しい追加画面レイアウトを作成します。これを最も手早く行うには、ロールの追加画面または編集画面のレイアウトで希望に近いものを選択し、そのレイアウトの編集画面上のユーザ・ロールを新しいユーザ・ロールに変更してから、レイアウトをこのロールの追加画面として保存します。
- この新しいレイアウトでフィールドが書き込み可能であることを確認します。
- 現在のロールを新しいユーザ・ロールに変更します。
- インポートを実行します。

環境設定

環境設定には、[Administration] メニューの **[高度な管理]** セクションからアクセスします。環境設定は、インストールの基本属性です。初期インストールの完了後にこの設定を変更することはあまりありません。



[環境設定]

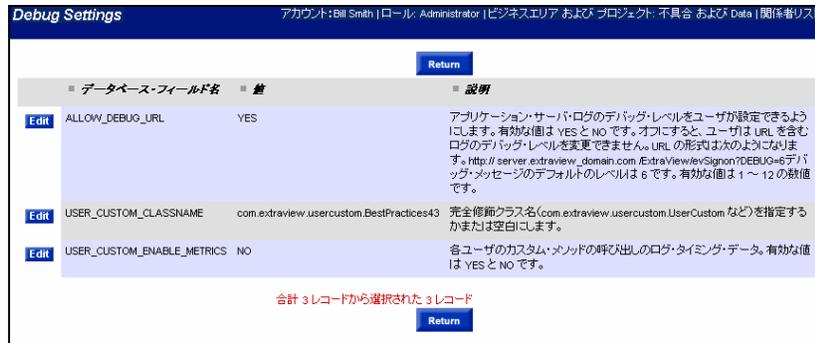
次のような設定があります。

[高度な管理]メニュー - [環境設定]	標準的な値	説明
[APP_HOME]		値がシステムのデフォルト値でない場合のみ使用されます。これは ExtraView Java servlet へのパスになります。
[DEFAULT_ATTACHMENT_CHARSET]	UTF-8	ExtraView にアップロードされるファイルのデフォルトの文字エンコード。新規ユーザ作成時に管理者に示す初期値の選択に使用されます。
[CSS_HOME]		これは ExtraView で、Web インタフェースのすべての画面で使用されるカスケード・スタイル・シートが検索されるディレクトリです。値を設定しない場合、アクセスされるディレクトリは IMG_HOME/stylesheets になります。ExtraView で独自のスタイルシートを使用する場合は、別のディレクトリに保存して、この設定でディレクトリを指定してください。それにより、インストールをアップグレードしても、独自に作成したスタイルシートが無効になることを防止できます。
[DEFAULT_LANGUAGE]	En	インストールでデフォルトで使用される言語。通常は EN(英語)になります。
[DEFAULT_REGION]	Us	インストールでデフォルトで使用される地域設定。通常は US(米国)になります。
[DEFAULT_VARIANT]		インストールでデフォルトで使用される別形式。通常は使用されません。
[DOMAIN]		cookie のドメイン。
[ENABLE_AREAS]	YES	この設定により、複数のビジネス・エリアと単一のビジネス・エリアのどちらを扱うかを指定できます。値は YES または NO を指定します。
[ENABLE_PROJECTS]	YES	この設定により、各ビジネス・エリアで複数のプロジェクトを実行できるかどうかを指定します。有効な値は YES または NO です。YES を指定した場合は、[ENABLE_AREAS] も YES に設定する必要があります。

[高度な管理] メニュー - [環境設定]	標準的な値	説明
[HELP_HOME]		デフォルトは null で、その場合 ExtraView はデフォルトのロケールの ../WEB-INF/locales/en_US/help を参照します。ローカライズ版のヘルプは別の locales/xx_XX ディレクトリの下に置くことができます。その場合、ExtraView はロケールが作成されていると見なし、自動的にディレクトリを探します。また、HELP_HOME に絶対 URL を設定することもできます。値が「http://」、「https://」または「file://」で始まる場合、その url の下にヘルプファイルが格納される「help」ディレクトリがあると見なされます。
[HTTP_CHARSET]	UTF-8	ユーザのブラウザで 사용되는デフォルトの文字セットの名前。これは「UTF-8」に設定することを推奨します。
[IMG_HOME]		値がシステムのデフォルト値でない場合のみ使用されます。これは、画像ディレクトリの APP_HOME に関連するパスになります。
[LOCALIZE_TITLES]	NO	管理画面のローカライズ・ボタンのオンとオフの切り替えに使用されます。ユーザ・インターフェイスで複数言語を使用している際に使われます。このオプションが YES に設定されると、「Localize」というタイトルのボタンが、異なる言語へのローカライズが可能ならすべてのメタデータ・タイトルおよび値の横に表示されません。有効な値は YES または NO です。
[MS_OFFICE_CHARSET]	UTF-16LE	Microsoft Office 製品に送信されるレポート用のデフォルトの文字セット。デフォルト値は UTF-16LE です。この値は、MS Office の英語バージョン、およびその他のほとんどの各国語バージョンに適します。
[MULTI_LOCALE]	NO	この値が NO の場合、ExtraView は DEFAULT_LANGUAGE という動作設定で指定された言語を使用して単一ロケールのシステムとして動作します。YES に設定すると、管理者が別の言語ロケールをシステムに追加し、ロケールごとにローカライズされたメッセージやメタデータを設定することができます。
[SITE_URL]		<p>サイトの完全な URL (http://extraview.company_name.com など)。この値の指定は任意です。値を指定しない場合、ExtraView では、会社のネットワークで使用される値、および外部に対して使用される値の 2 つの値が割り当てられます。</p> <p>ExtraView アプリケーション・サーバが初期化されると、この動作設定の値が参照されます。サーバを起動するリクエストを SSL セッションから受信した場合、内部で設定される 2 つの値は例えば次のようになります。</p> <p>サイトの URL: http://extraview.company_name.com/evj サイトの EXT URL: https://extraview.company_name.com/evj</p> <p>設定した値はアプリケーション・サーバ・ログで確認できます。</p> <p>サーバを起動するリクエストが標準の HTTP セッションから送信された場合は、2 つの URL が同じになります。</p> <p>管理者は状況によっては、異なる URL を設定する必要があります。その場合は、[SITE_URL] に URL を直接入力します。この設定が必要になる一般的な状況としては、ExtraView から受け取った電子メールに [Edit] ボタンがなく、URL が誤っている場合などがあります。</p> <p>Web サーバで転送設定を行っている場合には、これらの URL が異なっていることがあります。</p> <p>環境内で SSL が使用されており、ExtraView にアクセスする URL が https:// で開始する場合は、電子メールやその他のリモート・アプリケーションからの参照が正しく機能するように、SITE_URL を https://extraview.companyname.com/evj に設定する必要があります。</p>

システムデバッグ & ユーザ・カスタム設定

この設定は、[Administration] の [高度な管理] メニューから行います。このオプションにアクセスすると、次のような画面が表示されます。



システムのデバッグとユーザのカスタム設定画面

設定とそれぞれの意味は次のとおりです。

[高度な管理] メニュー – [システムデバッグ & ユーザ・カスタム設定]	標準的な値	説明
[ALLOW_DEBUG_URL]	YES	アプリケーション・サーバ・ログのデバッグ・レベルをユーザが設定できるようにします。有効な値は YES または NO です。オフにすると、ユーザは URL を含むログのデバッグ・レベルを変更できません。URL の形式は次のようになります。 http:// server.extraview_domain.com /ExtraView/evSignon?DEBUG=6 デバッグ・メッセージのデフォルトのレベルは 6 です。有効な値は 1 ~ 12 の数値です。
[USER_CUSTOM_CLASSNAME]		完全修飾クラス名 (com.extraview.usercustom.UserCustom など) を指定するかまたは空白にします。
[USER_CUSTOM_ENABLE_METRICS]	NO	各ユーザのカスタム・メソッドの呼び出しのログ・タイミング・データ。有効な値は YES と NO です。

システム・メッセージとプロンプトの翻訳

このオプションが有効な場合、エンド・ユーザはパーソナル設定として、操作時の言語を選択できます。ローカライズしたメッセージを入力し、保持できる基本エリアが 3 つあります。

- すべてのシステム・メッセージおよびプロンプトを含む ExtraView のユーザ・インタフェース。一般に、これらのメッセージは ExtraView のすべてのインストールで共通です。例えば、ExtraView ソフトウェアからの通知メッセージやエラー・メッセージなどです。
- 管理者が提供するメタデータ値。これはインストールごとにローカルなものです。例えば、管理者が所属する組織全体で使用する各ステータス値のタイトルを英語で作成し、それをフランス語、ドイツ語、日本語にローカライズする場合は、該当する翻訳を挿入できます。
- ユーザが提供するメタデータ値。これはインストールごとにローカルなものです。例えば、ユーザが所属する組織全体で使用するレポートのタイトルを英語で作成し、それをフランス語、ドイツ語、日本語にローカライズする場合は、そのユーザが別のユーザが該当する翻訳を挿入できます。

これらのローカライズ・エリアは独立しており、互いに排他的に使用できます。

ローカライズ版の画像をサーバにインストールすることも可能です。詳しくは『初期設定および構成』のセクションを参照してください。

注: 特定の用語やメッセージが特定の言語に翻訳されていない場合、ExtraView はその項目をデフォルトのロケールで表示するように選択します (通常はアメリカ英語)。これは、例えばイギリス英語にローカライズする場合、アメリカ英語とスペルが異なるメッセージやメタデータを翻訳するだけの作業で済むので便利です。

注: ユーザの言語設定がどのようになっているにも、ユーザの文字セットやブラウザが必要なサポートを提供していれば、データの入力や更新に任意の言語を使用できます。このため ExtraView では、Oracle データベースのインストールで使用するデフォルトの文字セットは UTF-8、Microsoft SQL Server データベースの文字は UCS-2 を使用することを推奨しています。

注: ローカライズを実行する前に、使用しているブラウザが UTF-8 の文字セットを使用するように設定されているかを確認してください。これを怠ると、以前に保存したアクセント記号付き文字や全角文字を含むメッセージが壊れてしまう可能性があります。ブラウザが適切に構成されているかどうか不明な場合は、データベースのバックアップを取ってから作業を開始してください。

ExtraView のメタデータやプロンプトを他言語にローカライズする際、テストは非常に重要な作業です。本稼働環境への導入を行う前に、自分の行った作業を徹底的にチェックしてください。

アクセント記号付き文字をローカライズ・システムに入力する

前述したように、ブラウザでは UTF-8 文字セットを使用するように設定します。

ただし、文字を入力する際に注意するいくつかの問題が残っています。最も問題となる文字は、引用符 (‘) と二重引用符 (“) です。その理由は、これらの文字がコンピュータ・プログラム内で、ユーザ・インタフェースへ送られる文字列値を指定するのにしばしば使用されるからです。例えば、次の文

```
document.write(‘Today is Wednesday’)
```

が JavaScript 機能により画面に書き込まれます。これをフランス語に翻訳すると、次のように表示されます。

```
document.write(‘Aujourd’hui est mercredi’)
```

テキストの途中に付け加えられた引用符は、ブラウザが文字を表示するときに構文エラーを発生します。このため、引用符の文字の値を次のように置き換える必要があります。

```
document.write(‘Aujourd&#39hui est mercredi’)
```

または

```
document.write(‘Aujourd&#x27hui est mercredi’)
```

最初の方法では引用符の 10 進値を、2 つ目の方法では 16 進値を使用しています。

同じ原則がすべての文字に適用されます。付録 E の文字のリストに、それぞれの 10 進値と 16 進値を記載していますので参照してください。ちなみに二重引用符は次のような形になります。

"

エンドユーザの言語選択

個々のユーザは、アカウント・オプションを更新することによって使用言語を選択できます。各画面の一番上にあるタイトル・バーから、[アカウント:] リンクをクリックし、パスワードを入力すると、次のような画面が表示されます。

[言語] のプルダウン・リストに、そのインストールで使用できる言語が表示されます。言語を選択すると、アカウントが更新され、すべてのシステム・メッセージ、プロンプト、およびメタデータの表示にその言語が使用されます。

The screenshot shows the '新しいユーザを追加' (Add New User) form. The '言語' (Language) dropdown menu is highlighted with a red arrow, showing options for '英語(アメリカ合衆国)' (English - United States), '英語(オーストラリア)' (English - Australia), and '日本語(日本)' (Japanese - Japan). The form includes fields for personal information, company details, and system options.

ユーザ・アカウント画面

システム・メッセージとプロンプトの翻訳

この機能には、[Administration] の [高度な管理] タブにある [システム・メッセージとプロンプトの翻訳] からアクセスします。このリンクを選択すると、次のような画面が表示されます。



翻訳する言語の選択

ローカライズする言語を選択すると、画面が次のように更新されます。



メッセージのローカライズ画面

翻訳元の言語のメッセージがアルファベット順に表示されます。任意のメッセージまたはプロンプトを編集してから、画面の下にある更新ボタンをクリックします。

- メッセージには、次のようにカッコで囲んだ数字が 1 つ以上含まれていることがあります。

Add entry to the {0} for {1}

カッコで囲んだ数字は、ローカライズしたメッセージから削除しないでください。

カッコで囲んだ数字は、ローカライズしたメッセージのどこに置いてもかまいません。

- 次のような HTML 形式のタグがメッセージ内にある場合:

`<i>ExtraView</i>` will not function correctly without cookies.

HTML タグは任意で変更可能ですが、そのままにしておくことをお勧めします。

メタデータ値の翻訳

ExtraView のインストール内でローカライズを開始すると、管理セクション内のタイトルでローカライズ可能なすべてのタイトルに [ローカライズ] という新しいボタンが表示されます。例えば、リストの付いている項目のタイトルがローカライズ可能であれば、データ辞書内のタイトルもローカライズできます。

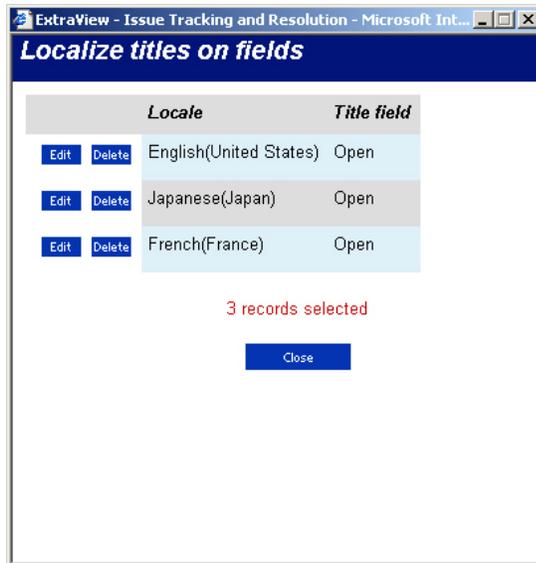
繰り返しますが、ある値に対してローカライズした値を提供しない場合、ExtraView はデフォルト・ロケールの言語に表示を戻します。通常はアメリカ英語です。

例えばステータス値を編集すると、画面は次のように表示されます。



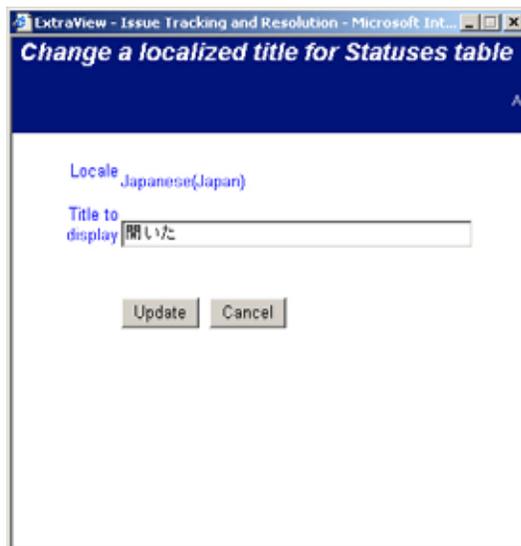
メタデータの [ローカライズ] ボタン

[ローカライズ] ボタンを初めてクリックすると、次のような画面が表示されます。



メタデータのローカライズ

この値に対するローカライズがまだ完了していないので、すべての対応言語の値も「Open」と表示されています。日本語の値に編集すると、次のような画面が表示されます。



日本語のステータス値の作成

ローカライズしたステータス・フィールドの値をすべて編集し終わると、この値の画面は次のように表示されます。

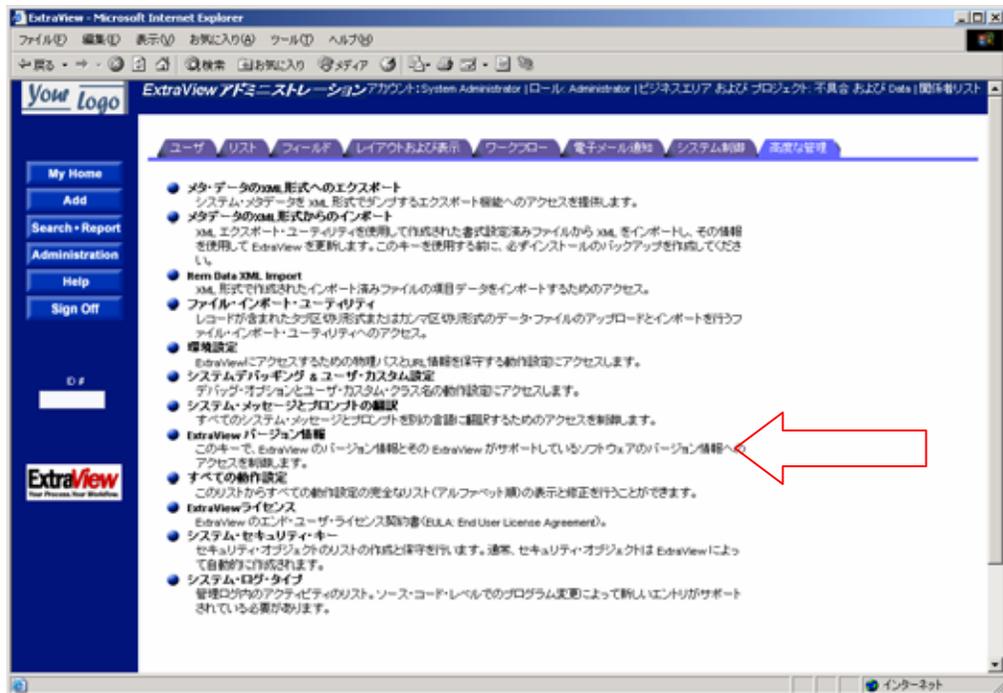


ローカライズが完了したステータス値のテキスト

ExtraView バージョン情報

この機能は [Administration] メニューの [高度な管理] タブにあり、システム・ユーザに対して特定の ExtraView インストールの操作、メンテナンス、トラブルシューティングに関する最重要情報を提供します。自社のサーバを ExtraView のホスト・コンピュータとして使用している企業では、この機能を使用すると、ExtraView のビルド番号、サード・パーティ・ソフトウェアのバージョン、オペレーティング・システムの詳細、Java 環境の詳細など、環境に関する情報を容易に検索できます。

ExtraView のバージョン情報を表示するには
[高度な管理] タブから、[ExtraView バージョン情報] ボタンをクリックします。



管理画面

次のような画面が表示されます。

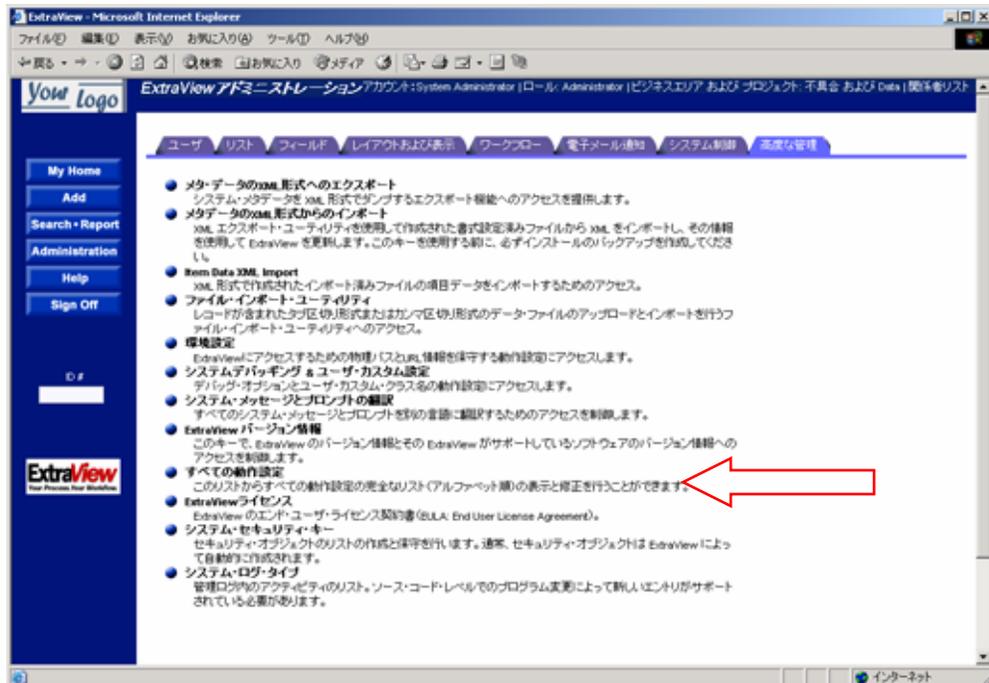
ExtraView バージョン情報		アカウント: Bill Smith ロール: Administrator ビジネスエリア および プロジェクト: 不具合 および Data 関係者リス
Build ラベル	Beta 4.3.2 Build 30	
Build の日付	Thu 05/12/2005 10:38:08.25	
この Build の OS	Windows_NT	
この Build の DB ホスト	127.0.0.1	
この Build の DB SID	evj	
この Build の DB ユーザ	extraview	
この Build の DB URL	jdbc:oracle:thin:@(DESCRIPTION=(ADDRESS=(HOST=127.0.0.1)(PROTOCOL=TCP)(PORT=1521))(CONNECT_DATA=(SID=evj)))	
この Build のインスタンス	/evj	
この Build のドメイン	172.18.10.89	
Build Connection Pool のサイズ	20	
Build Connection Pool の最大値	200	
Build Connection の使用カウント	500	
Build Connection のタイムアウト	10	
Build Connection Pool のタイムアウト	20	
ライセンス有効期限日#時	NEVER	
データベース製品名	Oracle	
データベース製品名	Oracle9i Enterprise Edition Release 9.2.0.1.0 - Production With the OLAP and Oracle Data Mining options JServer Release 9.2.0.1.0 - Production	
JDBC バージョン	9.2.0.3.0	
java.runtime.name	Java(TM) 2 Runtime Environment, Standard Edition	
sun.boot.library.path	C:\Program Files\Java\j2re1.4.2_03\bin	
java.vm.version	1.4.2_03-b02	
java.vm.vendor	Sun Microsystems Inc.	
java.vendor.url	http://java.sun.com/	
path.separator	;	
java.vm.name	Java HotSpot(TM) Client VM	
file.encoding.pkg	sun.io	
user.country	JP	
sun.os.patch.level	Service Pack 2	
java.vm.specification.name	Java Virtual Machine Specification	
user.dir	C:\WINDOWS\system32	
java.runtime.version	1.4.2_03-b02	
java.awt.graphicsenv	sun.awt.Win32GraphicsEnvironment	
java.endorsed.dirs	C:\ExtraView\Tomcat4.1\common\endorsed	
os.arch	x86	
java.io.tmpdir	C:\WINDOWS\TEMP\	

バージョン情報画面

この情報はサポートの際に役立ちます。ExtraView のサポート担当者は、デバッグ障害が発生した場合、この画面の情報を確認するようお願いすることがあります。

すべての動作設定

[Administration] メニューの [高度な管理] セクションにあるこのメニュー項目は、動作設定の全リストをアルファベット順に表示します。これらはすべて、各管理タブにある個別の動作設定メニューから複製したものです。使い勝手を考えて、このように 1 カ所にまとめてあります。このメニューから任意の動作設定を編集するのは、専用のメニューからオプションを編集するのと結果的に同じです。



動作設定の全リストへのアクセス

ユーザ向け開始ページリストの管理

この機能を使用する前に、USER_DEFINED_START_PAGE という動作設定を YES にしておかなければなりません。この機能により管理者は新規に開始ページを追加して有効にすることができます。開始ページとは、ユーザがサインオンに成功した後に到達するページです。利用可能なデフォルト・ページは、ホームページ、Issue の追加画面、検索/レポート画面、管理画面です。これ以外のページが必要となることはあまりありませんが、必要に応じてこの画面を使って追加することができます。新しいエントリを追加する前に、使用すべき呼び出し規則を知っておく必要があります。これらは ExtraView の内部にあり、Action および Option という用語で定義されます。新しい開始ページが必要な場合、ExtraView サポートと相談してこれらの値を定義することをお奨めします。

Manage the list of start pages available to users Account: Smith, Bill | Role: Administrator | Business Area and Pr

Add a new field to the database

	Title to display	Permission	Action	Option	Created	Last updated
<input type="button" value="Edit"/>	Home	MENU_HOME	doDisplay	HomeDisplay	10/1/03 12:00 AM SYSTEM	10/1/03 12:00 AM SYSTEM
<input type="button" value="Edit"/>	Search/Report	MENU_RESOLUTION	doDisplay	search.SearchDisplay	10/1/03 12:00 AM SYSTEM	10/1/03 12:00 AM SYSTEM
<input type="button" value="Edit"/>	Add Issue	MENU_ADD_PROBLEM	doAddDisplay	Display	10/1/03 12:00 AM SYSTEM	10/1/03 12:00 AM SYSTEM
<input type="button" value="Edit"/>	Administration	MENU_ADMINISTRATION	doDisplay	admin.AdminDisplay	10/1/03 12:00 AM SYSTEM	10/1/03 12:00 AM SYSTEM

4 records selected

開始ページのリスト

ExtraView ライセンス

ExtraView エンド・ユーザ・ライセンス契約書 (EULA) は、[Administration] メニューの [高度な管理] セクションで読むことができます。

System Security Keys

ExtraView 内の各フィールド、ボタン、および機能には対応するシステム・セキュリティ・キーがあります。[フィールド] タブの [セキュリティ権限の付与] セクションから、これらのキーによって管理される要素の表示を制御できるので、これらのフィールド、ボタン、機能へのアクセスを制限できます。

注: システム・セキュリティ・キー・エリアの変更は、システム全体に関わります。ExtraView Corporation では、表示タイトル ([セキュリティ権限の付与] 画面に表示) の編集以外でこのエリアを変更するときには、あらかじめ ExtraView のサポート窓口へ連絡してください強くお願いしております。新しいキーを作成する必要はまず考えられません。

システム・セキュリティ・キー アカウント: Bill Smith | ロール: Administrator | ビジネスエリア および プロジェクト: 不具合 および Data | 関係者リスト

[Return](#)

Add 新しいセキュリティ・キーを追加

リストの文字は選択したフィルタ列の最初の文字を表示しています。最初に、フィルタとして使用する列を選択してください。次に、これらの項目だけのリストを作成するために文字をクリックするか、またはワイルドカード(*)などの検索パターンを入力します。

1 レポートの列を選択 セキュリティ・キー固定名 ▼

2 文字をクリックします。 A | C | M | P | S | <all>

または検索パターンを入力して、Enter キーを押してください

	セキュリティ・キー固定名	画面に表示する タイトル	説明
Edit	CF_ADMIN_MENU	Administrative Menus	Update administration screen
Edit	CF_ALLOWEDLOCALES	アラウドロケール	このインストール内のユーザが設定できるロケールのリストを保守します。ロケールが定義されていても、翻訳済みメッセージを作成しなければならないことがあります。
Edit	CF_ALLOWEDVALUE_TYPE	許容値タイプ	2つのフィールド間の親子階層関係の定義と指定を行います。
Edit	CF_ALLOWED_VALUES	許容値リスト	許容値リストの保守のための画面へのアクセス。許容値リストの保守は、子リスト保守画面から個別に行うこともできます。
Edit	CF_ALL_BEHAVIOR_SETTINGS	すべての動作設定	このリストからすべての動作設定の完全なリスト(アルファベット順)の表示と修正を行うことができます。
Edit	CF_API_SETTINGS	API設定	APIを使用してExtraViewにアクセスする動作設定を保守するための設定画面へのアクセス。
Edit	CF_AREA	ビジネスエリア	事前定義の[AREA]フィールドのビジネス・エリアのリストを保守します。
Edit	CF_CATEGORY	カテゴリー	事前定義の[CATEGORY]フィールドのカテゴリのリストを保守します。
Edit	CF_COMPANY_SETTINGS	会社情報の設定	会社の名前、所在地、および連絡先情報を設定するための管理画面にアクセスします。
Edit	CF_DATA_DICTIONARY	データ辞書	フィールドのタイトル、表示タイプ、基本動作、およびデフォルト値の修正など事前定義フィールド、ユーザ定義フィールド、およびその他のオブジェクトの作成および保守を行うためのデータ

システム・セキュリティ・キーのサマリ画面

既存のセキュリティ・キーの編集

1. [ExtraView Administration] メニュー の [高度な管理] タブで、[システム・セキュリティ・キー] オプションをクリックします。
2. [Edit] をクリックして、必要に応じて説明やタイトルを変更します。

システムログ・タイプ

管理者がシステム・ログへのエントリ・タイプを追加したり変更する必要が発生することは、あまりありません。各エントリは、個別のユーザによる ExtraView メタデータ変更の使用状況を監視し、だれがどのメタデータを変更したかを監査するために使用されます。システム・ログ自体は、[システム制御] 管理メニューから表示することができます。

管理レポート/クエリ・オプション

概念

このセクションでは、システムの利用者に許可されるレポート・オプションと許可されないレポート・オプションに関する情報を管理者に提供します。

クイックリストと詳細レポート

クイックリストのレイアウトと詳細レポートのレイアウトに限り、システム内のビジネス・エリアごとに定義できます。これらのレポートは、画面レイアウトを作成したり保守するのと同様の方法で、レイアウト・エディタ内で定義します。実行時に作成されるクイックリストや詳細レポートは、利用者の現在のビジネス・エリアとプロジェクトに依存します。次のセキュリティ許可キーを覚えておくと、クイックリストや詳細レポートを作成したり保守するときに役立ちます。

セキュリティ・キー	説明
PR_RESOLUTION.QUICKLIST	ユーザ・ロール(役割)によるクイックリスト・レポートへのアクセスを制御します。ほとんどのユーザ・ロールにこの権限が与えられます。

レポート・レイアウトを作成するときに覚えておきたいいくつかのポイントがあります。

- レイアウト・リストに VIEW_BUTTON というフィールドがあります。これを使用すると、詳細レポートへのドリルダウン・ボタンを画面上に置くことができます。クイックリストでは頻繁に使われますが、詳細レポートそのものにはまったく使用されません。
- レイアウト・リストに HISTORY_BUTTON というフィールドがあります。これを使用すると、履歴レポートへのドリルダウン・ボタンを画面上に置くことができます。このボタンを画面上に置くには、PR_RESOLUTION.MENU_HISTORY セキュリティ・キーの読み取り許可を利用者が持っていないとできません。
- レイアウト・リストに EDIT_BUTTON というフィールドがあります。これを使用すると、issue 編集画面へのドリルダウン・ボタンを画面上に置くことができます。
- レイアウト・リストに DELETE_BUTTON というフィールドがあります。これを使用すると、issue (案件、問題)の削除機能をレポート上に置くことができます。issue を削除するには、PR_RESOLUTION.DELETE_BUTTON セキュリティ・キーの権限を利用者が持っていないとできません。
- レイアウト要素の Highlight 属性を使用して、一部のフィールドで表示色を変更することができます。例えば、重要な issue を赤で表示することができます。これを行う場合、使用する色は HIGHLIGHT_COLOR という動作設定で定義します。

- レイアウトの 1 つのフィールド内で、Highlight などレイアウト上の別のフィールドとの間に依存関係がある場合、両方のフィールドがそのレイアウト上になくてもなりません。

ExtraView がフィルタ値を記憶する方法

セッションの間でも、ExtraView は詳細検索画面上のフィルタ値を記憶しています。ユーザは ExtraView の使用を再開する際、中断した箇所に戻りたいことがしばしばあるので、これは時間を節約できる機能です。また、1 回のクリック操作だけでフィルタは消去されます。

ただしこれは、フィルタをサポートしているメタデータを管理者が変更したり、あるユーザのフィールドへのアクセスを管理者が削除することもありうるという点が問題です。この問題に対処するため、管理者が検索レイアウトなどのメタデータを変更した場合には、記憶したフィルタ値をすべて削除します。

グラフ

[検索/レポート] 画面からグラフ作成へのアクセスや、個別のグラフ・タイプ作成へのアクセスを完全に制御できます。これらはすべて、次の表で説明するセキュリティ許可キーによって制御されます。

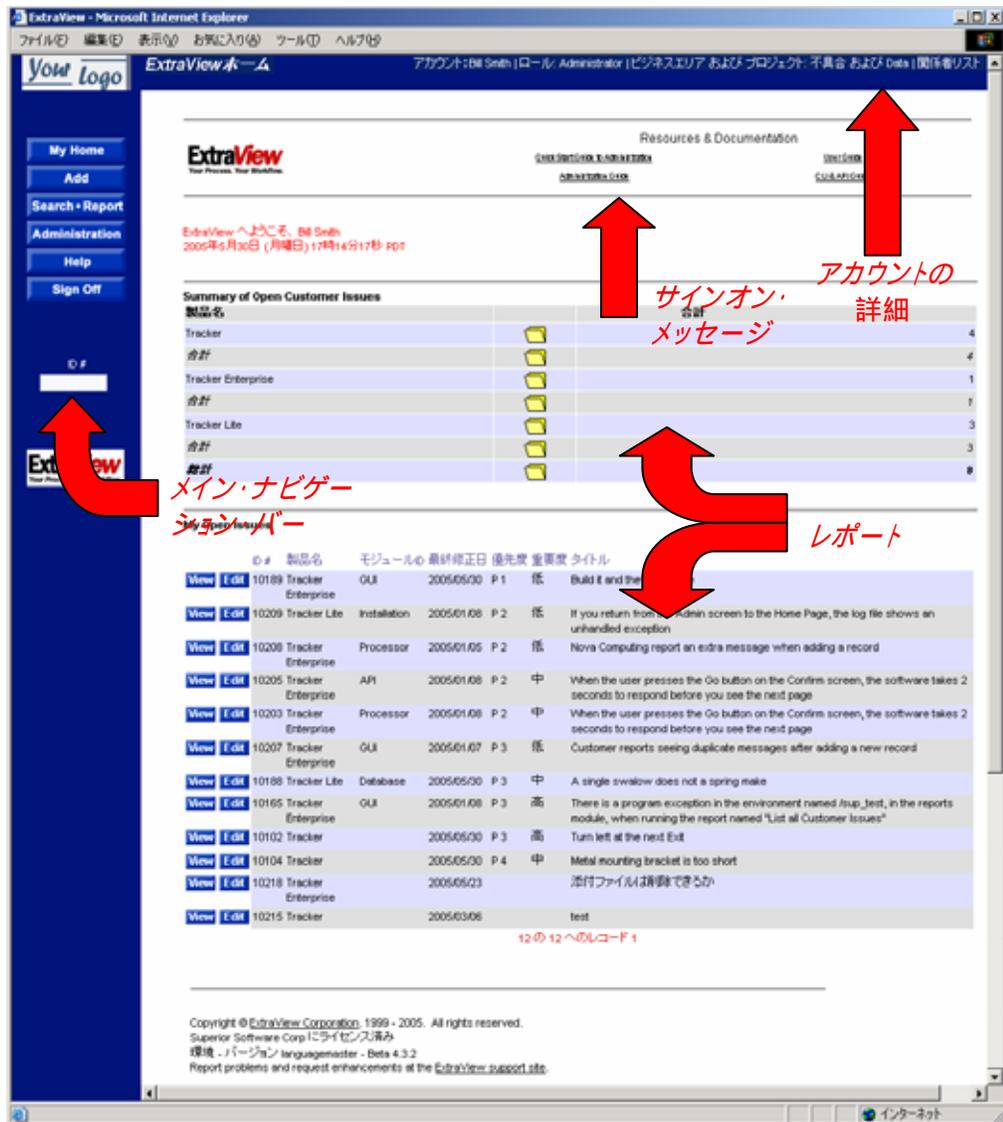
セキュリティ・キー	説明
SR_PERSONAL_CHART	このセキュリティ許可キーは、パーソナルな目的でグラフを作成し保存するためのアクセスを許可します。読み取り許可が必要です。
SR_PUBLIC_CHART	このセキュリティ許可キーは、パブリックな目的でグラフを作成し保存するか、個別のユーザ・ロールで使用することを目的に保存するためのアクセスを許可します。読み取り許可が必要です。
PR_RESOLUTION.STATUS	issue のステータスに基づいてグラフを作成できるようにするには、このセキュリティ許可キーの読み取り許可が必要です。
PR_RESOLUTION.PRODUCT_NAME	issue の製品名フィールドに基づいてグラフを作成できるようにするには、このセキュリティ許可キーの読み取り許可が必要です。
PR_RESOLUTION.RELEASE	リピーティング・レコードに基づいてグラフを作成できるようにするには、このセキュリティ許可キーの読み取り許可が必要です。ご使用のインストールでリピーティング・レコードを使用していない場合、またはリピーティング・レコードの使用に基づいてグラフを作成する意味がない場合は、このキーの許可を N に設定します。

ExtraView ホーム・ページ画面のカスタマイズ

ユーザは、ホーム・ページを自分用にカスタマイズできます。ホーム・ページは次のセクションで構成されます。

- キー・オプションと、ユーザが ID を知っている issue にすばやくアクセスするための入力エリアがあるナビゲーション・バー。
- 画面のヘッダ・エリアにあるオプションのリスト。ユーザは、次の機能の一部または全部にヘッダからアクセスできます。
 - [Account details] – ユーザのアカウント設定とオプション。
 - [ユーザ・ロール] – そのユーザのロール(役割)を変更するための画面を表示します。これは、ユーザにロールを変更する権限がある場合にのみ表示されます。
 - [ビジネスエリア および プロジェクト] – 新しいデフォルトのエリアやプロジェクトを選択するための画面を表示します。これも、ビジネス・エリアまたはプロジェクトを変更する権限をユーザが持っている場合にのみ表示されず。
 - [Interest list access] – ユーザがこれらにアクセスする許可を持っていることが前提です。
- システム管理者が事前定義したサインオン・メッセージ。
- ナレッジベースの任意指定の検索ボックス。KB_ON_HOME_PAGE という動作設定によりオンとオフを切り替えられます。
- 最大 3 つの事前定義したレポートのリスト。

注: ホーム・ページは、HOME_PAGE_REFRESH_SECONDS という動作設定で定義した時間(秒数)に応じて、自動的に更新されます。この設定は、[レポートとクエリの設定] 管理メニューの [レイアウトおよび表示] タブにあります。



ホーム・ページ画面

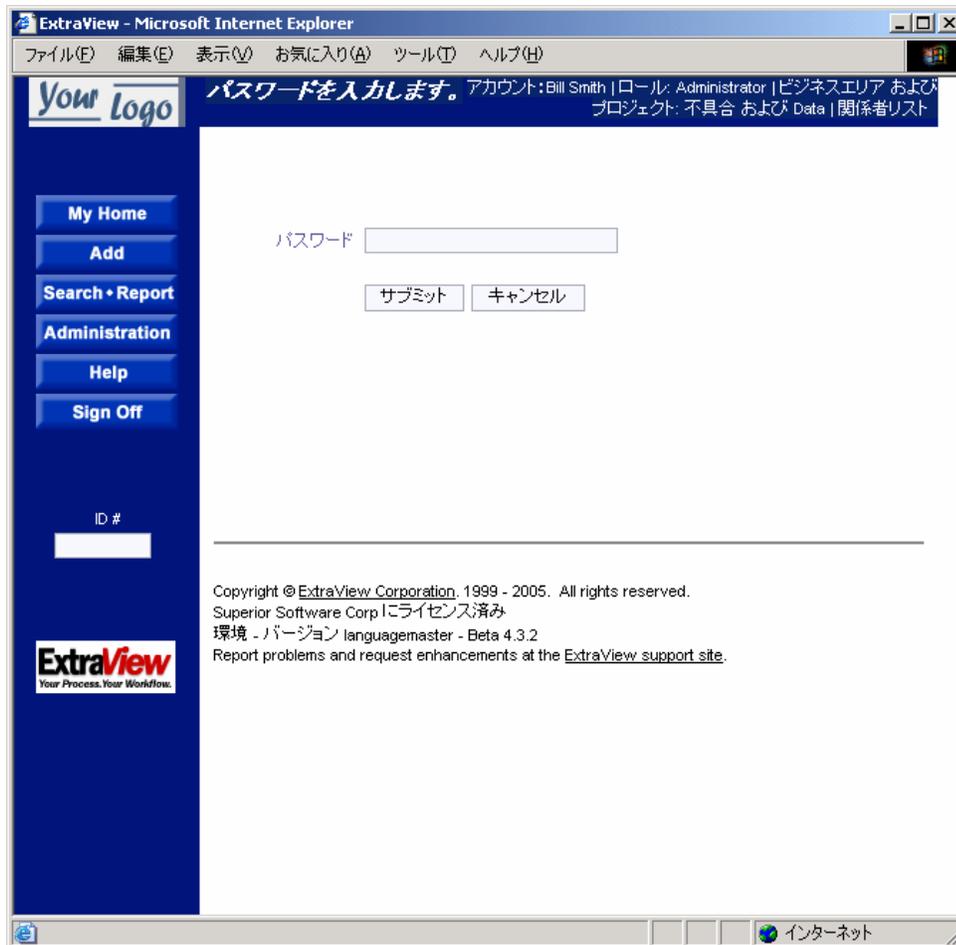
アカウントの詳細の編集

ユーザのアカウントの詳細を編集することにより、システムに日付を入力する方法、パスワードの形式、他のユーザに対して表示されるユーザ情報、電子メールによる通知、1ページに表示されるレコード数などの各種表示オプションを制御できます。

アカウントの詳細を編集するには

1. [アカウント:] リンクまたはユーザ名をクリックします。

次の画面が表示されます。



パーソナル・オプションの [パスワード] 画面

2. 使用しているパスワードを確認したら、[ユーザの詳細を変更] 画面に新しい情報を入力します。
3. 入力が完了したら、[更新] ボタンをクリックします。

注:

- 太字のフィールドは必須です。
- 該当する権限を持っている管理者の場合、ロールの変更、プライバシー・グループへのアクセスの変更、デフォルトのビジネス・エリアおよびプロジェクトの選択を行うための画面のエリアのみがユーザに対して表示されます。
- スタート・ページの変更オプションは、動作設定 USER_DEFINED_START_PAGE が YES に設定されている場合のみ表示されます。これによってユーザは、ホーム・ページ、[Issue を追加] 画面、[レポート] 画面、[アドミニストレーション] 画面の中から、ExtraView にサインオンしたとき最初に表示される画面を選択できます。ただし画面が表示されるまでに、ユーザがこの画面にアクセスする許可を持っていることが条件です。
- ホーム・ページに表示されるレポートは 3 つまで選択できます。

ユーザの詳細を変更 アカウント: BSMITH | ロール: Administrator | ビジネスエリア: およびプロジェクト: 不具合 および Data | 関係者リスト

更新 キャンセル ユーザ ID を無効にする

個人情報	パーソナル・オプション
ユーザ ID BSMITH 名 Bill 姓 Smith パスワード ***** パスワードを確認 ***** 電子メール・アドレス bill@extraview.com 職位 Development Engineer 会社名 Superior Software Corp アドレス 都市 州郡 郵便番号 国 勤務先電話番号 自宅電話 携帯電話 Fax ポケベル	テキスト・サイズ 小 言語 日本語(日本) デフォルトに設定 ビジネスエリア 不具合 デフォルトに設定 プロジェクト Data 電子メール形式 HTML ユーザ自身の更新を通知 <input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ タイムゾーン (GMT -8:00) America/Los_Angeles 日付形式 Long: 2005/05/31 カスタム日付マスク 24 時間形式の時間 <input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ レポート形式をダウンロード クイックリスト 開始ページ Home ホーム・ページ・レポート #1 Public: Summary of Open Customer Issues, By Product ホーム・ページ・レポート #2 Public: My Open Issues, for Home Page ホーム・ページ・レポート #3 *なし* ブラウザの文字セット UTF-8 Unicode 8-bit Transfer MS Office 文字セット UTF-16LE Unicode 16-bit LittleEndian グラフのフォント SansSerif File attachment char. set Shift_JIS Kanji
	管理オプション パスワードの失効 <input type="checkbox"/> ユーザ・ロールを決定 <input checked="" type="checkbox"/> Administrator <input checked="" type="checkbox"/> Customer <input checked="" type="checkbox"/> Customer Support <input checked="" type="checkbox"/> Development Engineer <input type="checkbox"/> Engineering Manager <input checked="" type="checkbox"/> IT Support <input checked="" type="checkbox"/> Quality Assurance <small>(既定の定義) ラジオボタンに続いて、リストで変更するステータス・ロールの値を設定します。 プライバシー・グループを利用できません。</small>

更新 キャンセル ユーザ ID を無効にする

個人情報の変更画面

レポートからの issue の一括更新

この機能は issue の一括更新を行うものなので、ユーザに対してこの機能へのアクセス権を与えることはお勧めしません。この機能は、次のようなタスクで頻繁に使用されます。

- issue の担当者を別の担当者に割り当て直すとき。
- 「オープン」の issue をあるリリースから次のリリースへ割り当て直すとき。
- 多数の issue のフィールドを単一の特定値に設定するとき。

この機能へのアクセスは、動作設定 PR_RESOLUTION.MASS_UPDATE_ISSUES によって制御します。

この機能を使用できるように許可が設定されている場合、クイックリスト・レポート、詳細レポート、およびユーザが作成したカスタム・レポートに [Update] ボタンが表示されます。このボタンにより、使用できるフィールドのリストをバッチまたは一括で更新できます。

この方法では更新できないフィールドもあります。更新できるのは、書き込みアクセス権のあるフィールドおよび表示タイプが「リスト」、「ポップアップ」、「タブ」、「テキスト」および「ユーザ」のフィールドだけです。それぞれの issue レコード内で複数のレコードを作成できる ExtraView の機能を使用している場合、リピーティング・レコード上のフィールドをこの機能によって更新することはできません。

この機能を使用するには、次の操作を実行します。

- まず、レポートを準備します。
- レポートのメニュー・バーの **[Update]** ボタンをクリックします。
- 提供されたリストから更新したいフィールドを選択します。
- フィールドに新しい値の入力を求めるプロンプトおよび更新されるすべての issue のリストが表示されます。このリストから更新の対象外としたい issue のチェックを外すことができます。
- 各 issue が更新されたことを知らせる標準通知を送りたい場合は、**[メールを生成]** ボタンをチェックする必要があります。更新とその電子メール通知の非常に大きなリストを作成しなければならない可能性があるため、この設定はデフォルトでは電子メールを送信しない設定にします。
- **[Update]** をクリックします。多数の issue を更新した場合、処理に少し時間がかかる場合があります。1 つの issue につき 1 ~ 3 秒程度です。

注: 更新しているフィールドが多数の値を持つ複数値フィールドまたはリピーティング・レコードの一部である場合、更新によって、更新するフィールドの値の既存のリストに新しい値が追加されます。

注: フィールドの値を **[* なし *]** に更新しようとする、ExtraView はこれが有効なエントリであるかを、そのフィールドが必須かどうか、あるいは **[Visible If]** レイアウトのセル属性が適用されるかどうかに基づいてチェックします。そのフィールドが必須の場合、**[* なし *]** は値のリストに表示されません。フィールドに **[Visible If]** 制限が適用される場合、ExtraView が **[Visible If]** ルールに違反する方法でフィールドを更新しようすると、エラーになります。

注: この一括更新操作は取り消しできないため、**[Update]** ボタンを押す前によく検討してください。

注: データベース・リソースを節約するため、ExtraView では一回の一括更新機能で更新できる issue の数を 5,000 までとしています。これより多くの更新を行う必要がある場合は、複数回に分けて更新を実行してください。

注: 更新しようとする値が処理を行うユーザの現在のユーザ・ロール、ビジネス・エリア、プロジェクトの *required* および *required if* レイアウト・セル属性に違反しない限り、複数のビジネス・エリアとプロジェクトにまたがって issue を更新することも可能です。また、ユーザの現在のユーザ・ロール、ビジネス・エリア、プロジェクトにおける issue の許容値の関係に違反することはできません。条件に違反した場合、issue が更新できない理由を示すエラー・メッセージが表示されます。

例:この例では、特定の製品について「オープン」の issue をすべて、ある担当者から別の担当者に再割り当てできる方法を示しています。

[製品]、**[担当者]**、**[ステータス]** をフィルタとして使用するクイックリスト・レポートを用意します。結果のレポート出力から **[Update]** ボタンを押します。

次のような画面が表示されます。

更新するフィールドの選択

リストから [担当者] フィールドを選択すると、画面が更新され、次のような表示になります。

ID #	現在の値 ASSIGNED_TO(担当者)	タイトル	ビジネスエリア	プロジェクト		
<input type="checkbox"/> View	<input checked="" type="checkbox"/>	10207	Bill Smith	Customer reports seeing duplicate messages after adding a new record	不具合	Data
<input type="checkbox"/> View	<input checked="" type="checkbox"/>	10189	Bill Smith	Build it and they will come	不具合	Data
<input type="checkbox"/> View	<input checked="" type="checkbox"/>	10188	Bill Smith	A single swallow does not a spring make	不具合	Data
<input type="checkbox"/> View	<input checked="" type="checkbox"/>	10165	Bill Smith	There is a program exception in the environment named /sup_test, in the reports module, when running the report named "List all Customer Issues"	不具合	Data
<input type="checkbox"/> View	<input checked="" type="checkbox"/>	10104	Bill Smith	Metal mounting bracket is too short	不具合	Data
<input type="checkbox"/> View	<input checked="" type="checkbox"/>	10102	Bill Smith	Turn left at the next Exit	不具合	Data

リスト内のすべての issue をチェックまたはチェック解除するにはここをクリックします。

6 選択されたレコード

一括更新画面

[Assigned Toの新しい値] というラベルの選択リストから、issue を割り当て直したい担当者を選択します。更新に含めるかどうかを確認する issue を表示でき、さらに任意の issue のチェックを外すことができます。

更新しようとするフィールドが別のフィールドに依存する場合 (例えば、[module] フィールドは [product] に依存する場合があります)、親フィールドの入力を求められた後、子フィールドの入力を求められ、両方の値の関係が損なわれないことが保証され、有効な組み合わせだけが保存されます。

子のレコードを無効にする親フィールドを更新しようとする場合 (例えば、[product] フィールドに特定のモジュールにふさわしくない値を設定しようとする場合など)、その issue に関するエラー・メッセージが表示され、issue は更新されません。

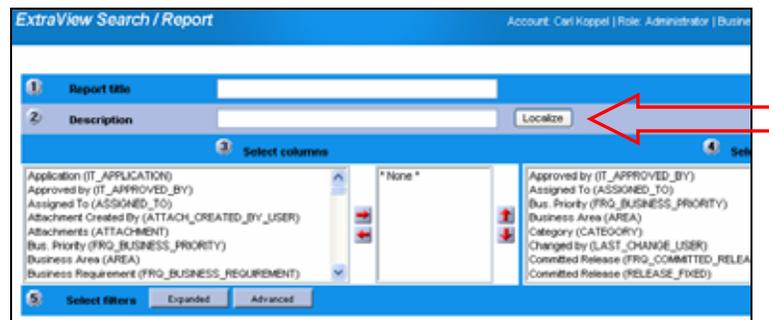
準備ができれば、[Update] ボタンを押すことができます。

issue を更新するかどうかの確認を求められます。

デフォルトでは、issue の一括更新を実行する際に電子メール通知は送信されません。ただし [メールを生成] チェックボックスをクリックして有効にすれば、電子メール通知が送信されるようになります。

レポートのローカライズ

管理者であるユーザ (すなわちユーザの現在のロールは動作設定 ADMIN_BYPASS_GROUP で定義したロールと同じ) がローカライズを有効にすると、次の画面のように [Custom Report]、[サマリ・レポート]、[グラフ] 画面の一番上にプロンプトが追加されます。



レポートの説明のローカライズ

[ローカライズ] ボタンは、ユーザが定義した各ロケールのレポートに関する説明をローカライズするのに使用できます。ただし、レポート・タイトルはローカライズできません。これは、個々のレポート・タイトルがシステム全体で固有でなくてはならないためです。

データ量の多い検索の制御

大容量のデータベースを使う場合、実行するレポートのデータ量を制御し、ユーザが何十万というレコードを返すような検索を繰り返し実行するのを制限したいと考えるかもしれません。以下に示す動作設定を使って、適切な制限を設定することができます。

- ALLOW_UNLIMITED_SEARCH – この動作設定を使用して、データベース上で無制限の検索を実行できないようにすることができます。これを NO にすると、次の LIMIT_QUERY_ROWS と連動して使用されます。
- LIMIT_QUERY_ROWS – 単一のユーザ検索により返される行の数の制限が設定されます。ALLOWED_UNLIMITED_SEARCH が YES である場合、この設定は影響しません。
- MINIMUM_SEARCH_FIELDS – この設定は、ユーザ検索が実行される前に、任意の数のフィルタを選択することをユーザに強制するために使用されます。通常は 2 または 3 に設定することにより、一度にデータベースの小さいセクションのみが検索されるように制御することができます。

キーワード検索

以下に示すアクションにより、キーワード検索を有効にすることができます。

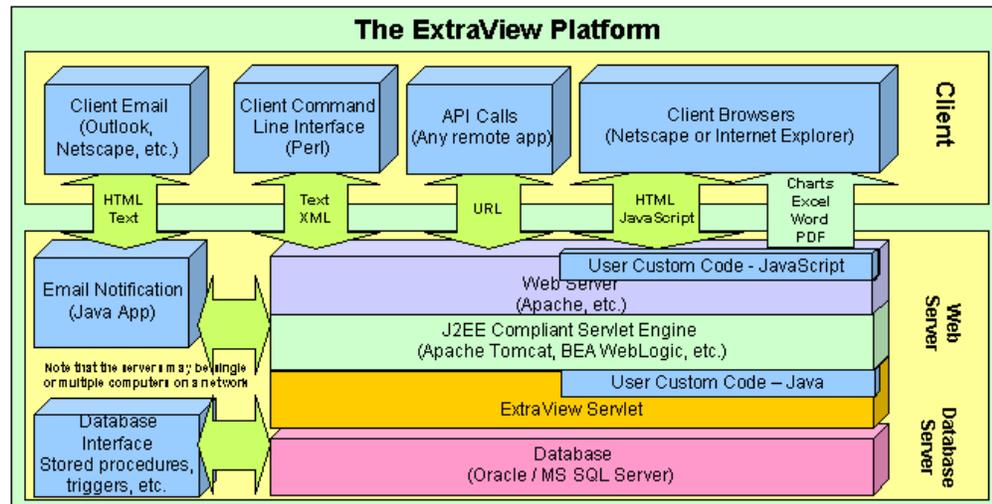
- KEYWORD という組み込みフィールドをクエリ・フィルタ・レイアウト上に配置します
- これは通常の PR_RESOLUTION.KEYWORD セキュリティ許可キーの対象であるため、機能にアクセスできるロールを制御することができます。
- さらに、PR_RESOLUTION.SEARCH_ATTACHMENTS というセキュリティ許可キーが用意されています。これがあるユーザ・ロールに対して有効な場合、キーワード検索の下にチェックボックスが表示されます。このボックスにチェックを入れると、issue の添付ファイルに対しても入力されたキーワードが検索されます。
- ALLOWED_ATTACH_SEARCH_FILE_EXT – この動作設定では、検索対象の添付ファイルのタイプを制御します。例えば、データベースに容量の大きい画像ファイルがある場合、キーワード検索の対象にするのは無意味です。
- ALLOW_SEARCH_TEXT_UDFS – これを YES に設定すると、表示タイプが TEXT であるすべてのユーザ定義フィールドがキーワード検索対象に含まれます。
- SEARCH_ATTACH_THRESHOLD – 添付ファイルのキーワード検索を利用する際に大容量の検索を回避するための、もう一つの制御方法です。ExtraView は初めにキーワード検索対象となる添付ファイルの総容量を計算します。サイズ(バイト単位)がこの設定値よりも大きい場合、ExtraView はユーザに検索を実行したいかどうか確認します。

Microsoft ドキュメントのキーワード検索

Word や Excel などの Microsoft ドキュメントは **UTF-16LE Unicode 16-bit LittleEndian** という文字セットを使って格納されています。これらのドキュメントのキーワード検索を行いたい場合は、アップロードの際に上記の文字エンコードを指定してドキュメントを保存してください。これはアジアの言語では非常に重要です。アルファベットでの検索の多くは、Microsoft ドキュメントで文字セットを正しく指定しなくても正しく動作します。

ExtraView のカスタム・コーディング拡張

ExtraView の最も強力な機能の一つとして、ユーザ独自の“ユーザ・カスタム”コードを追加することにより、ExtraView に組み込まれた機能を拡張したり変更できる点が挙げられます。これについての詳細は、『ExtraView CLI and API Guide』に記載されています。本書では簡単な説明だけを行います。



ExtraView のアーキテクチャ

Java カスタム・コーディング

Java カスタム・コーディングは、標準の ExtraView コードの動作を補完したり変更するものです。ExtraView の多くの組み込み機能では、ユーザ・カスタム・モジュール内のメソッドへのコード終了が発生します。このメソッド内にユーザ・カスタム・コードが存在しない場合、ExtraView は動作を継続します。ユーザ・カスタム・コードがメソッド内に存在する場合は、そのコードが実行されます。

ExtraView 内部で提供される UserCustom.java クラス内で、プログラマはこのクラスから継承を行い、関係するメソッドに優先して使用することができます。

ユーザ・カスタム・コードを挿入できるのは、次のような位置です。

- オブジェクト(画面など)の表示の前後。
- オブジェクト(画面など)の画面更新の前後。
- データ・リストの内容の変更時。
- ボタン([関係グループ] ボタン、[削除] ボタン、[複製] ボタンなど)をクリックしたときの機能の変更時。
- 電子メール通知機能の変更時。

- issue の更新の前後。
- issue の削除の前。
- API による関数呼び出し。

ユーザ・カスタムの Java コードを作成するには、完全な Java 開発環境と JDK が必要です。さらに、Borland の JBuilder などの IDE を使用することをお勧めします。

注: ExtraView では、ユーザ・カスタム・コードを導入するには弊社に相談していただくよう強くお願いしております。ExtraView の環境は複雑なので、Java 言語によるプログラミングの経験と、ExtraView の内部構造に関する十分な理解の両方が揃っていないと、ExtraView のユーザ・カスタム拡張の設計および構築はうまくいきません。

注: ユーザ・カスタム・コードをインストールした ExtraView 環境でエラーが発生する場合は、その問題を ExtraView のサポートへ報告する前に、ユーザ・カスタム・コードを削除した状態でもエラーが発生するかどうかを確認することをお勧めいたします。

JavaScript カスタム・コーディング

JavaScript カスタム・コーディング関数は、一般に追加画面や編集画面の個別のフィールドから呼び出します。JavaScript には、次のような多くの機能があります。

- ユーザによるフィールド入力の検証。
- フォーム上の多数のフィールド値の比較を含む複雑な検証。
- 機能のロジックに従って、メッセージをポップアップすることにより、ユーザに警告を出します。

ユーザ・カスタムの JavaScript は、UserJavaScript.js という 1 つのファイルに入れられます。このファイルは、ご使用の Web サーバのツリー構造にある /user_javascript ディレクトリ内にあります。

JavaScript 関数は、ユーザの画面上にフォームが生成された時点でクライアント・ブラウザにダウンロードされます。ユーザが関数を呼び出すときにサーバの呼び出しが不要なので、とても効率的です。コードはブラウザ内で実行されます。

ほとんどの JavaScript カスタム関数は、HTML MODIFIER を使用してフィールドのレイアウト・セル属性内で定義されます。この HTML 変更子は、ユーザがサーバの特定の場所に作成した JavaScript 関数を呼び出します。

例えば、編集画面上の *product_code* というフィールドのエントリが、常に大文字でサーバへ送信されているかを確認したい場合は、次の操作を行います。

- 編集画面の *product_code* フィールドで、レイアウト・セルの属性を定義します。タイプは HTML Modifier、値は次のとおりです。

```
onclick=checkUpperCase()
```

- user_javascript ファイル内で、次のようにユーザ・カスタムの JavaScript 関数を作成します。

```
function checkUpperCase() {  
  var s = document.editForm.product_code.value;  
  document.editForm.product_code.value = s.toUpperCase();  
}
```

ExtraView のヘルプ

組み込みのヘルプ・システム

ExtraView アプリケーションには、総合的な HTML ベースのヘルプ・システムが含まれており、ナビゲータ・フレームの **[Help]** ボタンをクリックすることにより、いつでもアクセスできます。さらに、アプリケーション全体にわたって、多くのツール・チップと状況依存のリンクが定義されています。

ツール・チップのある画面のラベルにマウス・カーソルを置くと、マウス・カーソルの横にこのラベルの機能を定義した小さなウィンドウが表示されます。このようなラベルにより、ユーザに対してヘルプのヒントを定義することができます。ラベルの上でマウス・ボタンをクリックすると、ヘルプ・システム内の特定のページに移動します。画面名の管理セクションで特定のページを定義していない場合は、[Help Index] ページに移動します。このページは、システムの詳細情報へのリンクで構成されています。

ExtraView ユーザ・ヘルプ索引

バージョン 4.3

これは、ExtraView issue トラッキングおよびワークフロー管理システムのメインのヘルプ索引です。これらのリンクを使用して、ヘルプ・システム内のトピックをナビゲートします。トピックは、ExtraView のさまざまなインタフェース画面に表示されるフィールド名のリンクをクリックしてもアクセスできます。

ここで説明する特長と機能は一般的なもの、画面の「ルック・アンド・フィール（見た目と操作感）」はユーザ固有のインストールと一致しない場合があります。ご質問がある場合は、所轄のシステム管理者にお問い合わせください。

ヘルプ・トピック・リスト

- [始める前に](#)
- [ユーザ・サインオン](#)
- [ホーム・ページおよびナビゲーション](#)
- [タイトル・バーからの個人オプションの変更](#)
- [新しい issue の追加](#)
- [既存の issue の編集](#)
- [クエリおよびレポート](#)
- [拡張クエリ](#)
- [詳細クエリ](#)
- [電子メール通知機能](#)
- [フィールドタイプの動作](#)

ExtraView のヘルプ画面

独自のヘルプ・システムの定義

ExtraView 内で独自のヘルプ・システムを開発するのは簡単です。ExtraView の組み込みシステムと完全に分けることも、組み込みシステムと完全に置き換えることも可能です。

デフォルト・ヘルプ・システムのパス

標準ヘルプ・システムの HTML ファイルは、ExtraView がインストールされているインストール・ディレクトリ内の `en_US/help` というパス名のディレクトリに格納されています。ヘルプ・システムの組み込み画像は、デフォルトで `en_US/images` というパスに格納されています。ヘルプ・システムのメニュー・ボタンは、システムの標準画像ディレクトリに格納されていますので、注意してください。

独自のヘルプ・システムにパスを定義する

ヘルプ・システム全体を開発する場合は、[管理] タブにある [すべての動作設定] で動作設定 `HELP_HOME` を設定することをお勧めします。

次に、このディレクトリ内に通常の `index.html` ファイルを設定し、そこからシステム全体をセットアップすることができます。

メイン・メニューで [Help] ボタンをクリックすると、新しいウィンドウが開いてこのページにアクセスします。

独自のヘルプ・システムへのアクセス

ページを移動するための内部リンクを設定したヘルプ・ファイルを作成することができます。また、データ辞書の各フィールドでヘルプ URL を使用することにより、[Issueを追加] や [Issueを編集] などの各画面のそれぞれのフィールドに、状況依存のヘルプを表示することができます。

さらに、標準の HTML ブックマーク規則を使用して、データ辞書からヘルプ・ページ内の特定の場所へドリルダウンすることもできます。

ExtraView のシステム・ログ

ExtraView には、情報、アクティビティ、エラーを記録する 4 つの主要なログがあります。

- **サインオン・ログ**。すべてのサインオンおよびサインオフのアクティビティと、権限のないアクセスを記録します。このログの詳細と使用方法については、本書のユーザ管理に関するセクションを参照してください。
- **システム・ログ**。すべてのメタデータ・トランザクションを記録します。このログの詳細と使用方法については、本書のシステム・コントロールに関するセクションを参照してください。
- **アプリケーション・サーバ・ログ**。ExtraView servlet へのそれぞれのアクセスの開始と終了を記録します。このログには、だれがどのアクセスを実行し、アクセスにどれだけ時間がかかったかの記録が残されます。
- **BatchMail ログ**。ExtraView からの電子メール通知の送信状況を記録します。

アプリケーション・サーバ・ログ

アプリケーション・サーバ・ログは ExtraView に常駐しておらず、また ExtraView からアクセスすることもできません。管理者は、サーバのファイル・システムからこのログにアクセスします。

ログ・ファイルへのパスは、ExtraView の Configuration.properties ファイルで指定します。このファイルは通常、デフォルトで ExtraView の WEB-INF ディレクトリに格納されています。パスは、LOG_FILE_PATH_NAME というエントリで定義されます。例えば、ExtraView の Apache Tomcat インストールのホーム・ディレクトリが /evj だとすれば、ログ・ファイルへのパスは /evj/tomcat/webapps/golden411/WEB-INF/logs のようになります。

Configuration.properties ファイル内で定義できるパラメータとそれぞれの意味のリストを以下に示します。

パラメータ	説明
LOG_FILE_PATH_NAME_ABSOLUTE	絶対フルパス名(ディレクトリとファイル名)
LOG_FILE_PATH_NAME	相対パス名(ディレクトリとファイル名)
LOG_FILE_DIR_ABSOLUTE	絶対ディレクトリ名(ディレクトリのみ)
LOG_FILE_DIR	相対ディレクトリ名(ディレクトリのみ)
LOG_FILE_NAME	ログ・ファイルのファイル名。何も指定していない場合、ログ・ファイルの名前は error.log になります。
WEB_SERVER_NAME	インスタンス名(名前に .log が付きます)

パラメータ	説明
LOG_FILE_MAX_SIZE	ログ・ファイルの最大サイズ(キロバイト数)。ログ・ファイルがこのサイズを超えると自動的にアーカイブされ、新たなログ・ファイルが作成されます。古いログには、LOG_TIME_AT_CREATION で設定した規則によってファイル名が付けられます。クラスタ化したアプリケーション・サーバ環境で作業している場合、クラスタ上のすべてのノードが 1 つのログ・ファイルを共有します。デフォルトの最大サイズは 20,000 です。
LOG_FILE_MAX_RETAINED	最も古いログ・ファイルが削除されるまで保持されるログ・ファイルの最大数。デフォルトは 10 です。
LOG_FILE_MANAGE_SCRIPT	このスクリプトはログ・ファイルを削除する代わりに呼び出されます。ログ・ファイルのスクリプトとファイル名は別のプロセスで実行されます。ファイル名は単一のパラメータとしてスクリプトに渡されます。
XML_LOG_FLAG	これが真の場合、ログは XML 形式になります。デフォルトは偽なので、ログ・ファイルはプレーン・テキストになります。
LOG_TIME_AT_CREATION	これが真の場合、ログの名前に DATETIME スタンプが付きます。作成時に名前の変更は行われません。デフォルトは偽です。
DEFAULT_LOG_LEVEL	<p>起動時に DEBUG_LEVEL を設定します。</p> <p>ログに転送されるメッセージのレベルは、デバッグ・レベルによって制御されます。これは 1 ~ 12 の数字であり、数字が大きいほどログ・ファイルに多くの情報が書き込まれます。デフォルトは 6 です。この数字は理由もなく増やしてはなりません。システム性能に影響があると同時に、ログ・ファイルのサイズが急激に大きくなっていくことがあるからです。</p> <p>ログに送られるメッセージのレベルは次の URL で制御しますが、ドメインとアプリケーションの名前は該当する名前に置き換えます。</p> <p><code>http:// server.extraview_domain.com /ExtraView/evSignon?DEBUG=6</code></p> <p>[高度な管理] 管理メニューの [システムデバッグ & ユーザ・カスタム設定] で動作設定</p> <p>ALLOW_DEBUG_URL を YES に設定していない限り、ユーザおよび管理者はこの URL にアクセスする権限がありません。</p>

注: LOG_FILE_PATH_NAME_ABSOLUTE、LOG_FILE_PATH_NAME、LOG_FILE_DIR_ABSOLUTE、または LOG_FILE_DIR でパスを指定していない場合、ログ・ファイルの場所は java.tmpdir になります。

アプリケーション・サーバ・ログ・ファイルの形式

プレーン・テキストのログ・ファイルは、一般に次のように表示されます。

```
2003-07-17 17:45:46 [ info ] ExtraView. ,6544,Thread-31,>>>Entering
service,security.LoginDisplay.getMenu,sc,0,tmem,126,fmem,75,,,,uid,SHOYDIC,nid,http://avalon.extr
aview.net/med ON WS_A:
2003-07-17 17:45:46 [ info ] ExtraView. ,6544,Thread-31,>>>Leaving
service,security.LoginDisplay.getMenu ,sc,0,tmem,126,fmem,75,cc,22,time,20,uid,SHOYDIC,nid,http://
avalon.extraview.net/med ON WS_A:
2003-07-17 17:45:46 [ info ] ExtraView. ,6544,Thread-21,>>>Entering
service,security.LoginDisplay.getMain,sc,0,tmem,126,fmem,75,,,,uid,SHOYDIC,nid,http://avalon.extr
aview.net/med ON WS_A:
2003-07-17 17:45:46 [ info ] ExtraView. ,6544,Thread-21,>>>Leaving
service,security.LoginDisplay.getMain ,sc,0,tmem,126,fmem,75,cc,22,time,10,uid,SHOYDIC,nid,http://
avalon.extraview.net/med ON WS_A:
2003-07-17 17:45:46 [ info ] ExtraView. ,6544,Thread-31,>>>Entering
service,Display.doEditDisplay,sc,0,tmem,126,fmem,75,,,,uid,SHOYDIC,nid,http://avalon.extraview.ne
t/med ON WS_A:
2003-07-17 17:45:46 [ info ] ExtraView. ,6547,Thread-29,>>>Leaving service,Display.evSignon
action ,sc,1,tmem,126,fmem,72,cc,24,time,54,uid,SHOYDIC,nid,http://avalon.extraview.net/med ON
WS_A:
2003-07-17 17:45:47 [ info ] ExtraView. ,6547,Thread-15,>>>Entering
service,security.LoginDisplay.getMenu,sc,1,tmem,126,fmem,82,,,,uid,SHOYDIC,nid,http://avalon.extr
aview.net/med ON WS_A:
2003-07-17 17:45:47 [ info ] ExtraView. ,6547,Thread-29,>>>Entering
service,security.LoginDisplay.getMain,sc,2,tmem,126,fmem,82,,,,uid,SHOYDIC,nid,http://avalon.extr
aview.net/med ON WS_A:
2003-07-17 17:45:47 [ info ] ExtraView. ,6547,Thread-29,>>>Leaving
service,security.LoginDisplay.getMain ,sc,2,tmem,126,fmem,82,cc,24,time,10,uid,SHOYDIC,nid,http://
avalon.extraview.net/med ON WS_A:
2003-07-17 17:45:47 [ info ] ExtraView. ,6547,Thread-15,>>>Leaving
service,security.LoginDisplay.getMenu ,sc,1,tmem,126,fmem,82,cc,24,time,27,uid,SHOYDIC,nid,http://
avalon.extraview.net/med ON WS_A:
2003-07-17 17:45:47 [ info ] ExtraView. ,6547,Thread-15,>>>Entering
service,Display.doEditDisplay,sc,1,tmem,126,fmem,76,,,,uid,SHOYDIC,nid,http://avalon.extraview.ne
t/med ON WS_A:
2003-07-17 17:45:48 [ info ] ExtraView. ,6545,Thread-31,>>>Leaving
service,Display.doEditDisplay ,sc,0,tmem,126,fmem,74,cc,25,time,1842,uid,SHOYDIC,nid,http://avalon
.extraview.net/med ON WS_A:
2003-07-17 17:45:48 [ info ] ExtraView. ,6548,Thread-15,>>>Leaving
service,Display.doEditDisplay ,sc,1,tmem,126,fmem,82,cc,25,time,1322,uid,SHOYDIC,nid,http://avalon
.extraview.net/med ON WS_A:
2003-07-17 17:45:48 [ info ] ExtraView. ,6544,Thread-21,>>>Entering
service,security.LoginDisplay.doMenuLoadDone,sc,0,tmem,126,fmem,81,,,,uid,SHOYDIC,nid,http://aval
on.extraview.net/med ON WS_A:
2003-07-17 17:45:48 [ info ] ExtraView. ,6544,Thread-21,>>>Leaving
service,security.LoginDisplay.doMenuLoadDone ,sc,0,tmem,126,fmem,81,cc,25,time,10,uid,SHOYDIC,nid,
http://avalon.extraview.net/med ON WS_A:
2003-07-17 17:45:49 [ info ] ExtraView. ,6547,Thread-29,>>>Entering
service,security.LoginDisplay.doMenuLoadDone,sc,0,tmem,126,fmem,81,,,,uid,SHOYDIC,nid,http://aval
on.extraview.net/med ON WS_A:
2003-07-17 17:45:49 [ info ] ExtraView. ,6547,Thread-29,>>>Leaving
service,security.LoginDisplay.doMenuLoadDone ,sc,0,tmem,126,fmem,81,cc,25,time,10,uid,SHOYDIC,nid,
http://avalon.extraview.net/med ON WS_A:
2003-07-17 17:46:08 [ info ] ExtraView. ,6537,Thread-24,>>>Entering
service,search.SearchDisplay.doDisplay,sc,0,tmem,126,fmem,81,,,,uid,SHOYDIC,nid,http://avalon.ext
raview.net/med ON WS_A:
2003-07-17 17:46:08 [ info ] ExtraView. ,6537,Thread-24,>>>Leaving
service,search.SearchDisplay.doDisplay ,sc,0,tmem,126,fmem,77,cc,25,time,400,uid,SHOYDIC,nid,http:
//avalon.extraview.net/med ON WS_A:
```

- 各エントリはタイムスタンプから始まります。
- 「>>>Entering Service」の各メッセージには対応する「>>>Leaving Service」というログ・エントリがあります。これによって、ExtraView への各リクエストを、リクエストが出された時点からリクエストが処理され ExtraView がタスクを完了した時点まで追跡することができます。

- 「>>>Leaving service」エンタリには、サーバ上でリクエストを実行するのに要した時間が示されます。
- ファイルはカンマ区切りファイルです。ログ・ファイルの情報をソートおよび抽出して分析したい場合は、Microsoft Excel などのツールにログ・ファイルを簡単にインポートできます。

ファイルの形式は次のとおりです。

タイムスタンプ、ログ・エンタリ・タイプ、servlet 名、セッション ID、スレッド #、開始/終了、クラスと実行メソッド、サービス・カウント、サービス・カウント値、使用可能総メモリ量、使用可能総メモリ量の値、[使用可能空きメモリ量、使用可能空きメモリ量の値、キャッシュ・カウント、キャッシュ・カウント値、時間、時間値]、ユーザ ID、ユーザ ID 値、ネットワーク ID、ネットワーク ID 値

パラメータ	説明
タイムスタンプ	エンタリの日付と時刻。
ログ・エンタリ・タイプ	通常のエンタリは INFO と表示されます。ERROR や WARNING などのエンタリが表示されることもあります。
servlet 名	常に ExtraView です。
セッション ID	セッションの固有の識別子。
スレッド #	このタスクが実行のために使用しているスレッド番号。
開始/終了	タスクがこれから開始するのか終了するのかを示します。
クラスと実行メソッド	クラスのパスと、実行されているクラス内のメソッド。
サービス・カウント	このリクエストを受信した時点でサービスを待機しているプロセスの数。この数が小さいほど、システムの性能は向上します。短時間でこの数字が 5 を超えることもありますが、これはユーザがタスクを実行するためにマシンのリソースを待っていることを意味します。この数字が常時大きい場合は、複数のアプリケーション・サーバを設定して負荷を分配するのがよい解決策です。
使用可能総メモリ量	このアプリケーション・サーバに割り当てられている総メモリ量。通常は、管理者がアプリケーション・サーバの起動スクリプトで設定します。
使用可能空きメモリ量	未使用のメモリ量。この値が非常に低下した場合、メモリ不足エラーが発生することがあります。このような状況になったら、このアプリケーション・サーバに割り当てる総メモリ量を増やしてください。
キャッシュ・カウント	このリクエストを実行した時点でのキャッシュ内のユーザ・セッションの総数。この時点でサインオンしているユーザ数とだいたい同じです。
時間	リクエストの実行に要した時間(ミリ秒)。
ユーザ ID	リクエストを出したユーザのユーザ ID。
ネットワーク ID	リクエストを出したアプリケーション・サーバ・クラスタ内のネットワーク ID とノード名。

アプリケーション・サーバ・ログ内のエラー

ログ内のエラーは、不測のイベントやプログラミング・エラーが発生した場合に ExtraView によって生成されます。すべてのエラーが致命的な訳ではありません。実際、エラーが発生した ExtraView のユーザにまったく何の影響もないようなエラーもログの中にはあります。しかし、ExtraView ではログの中にプログラミング・エラーや例外が発生するのを最小限に抑えるよう努めています。ログの例外は次のようなエラーとして表示されます。このエラーは、ExtraView のプレリリース版に含まれていたプログラミング・エラーによるものです。

```
2003-07-07 12:22:07 [ info ] ExtraView. ,5388,Thread-15,>>>Entering
service,admin.LayoutDisplay.doEdit,sc,0,tmem,126,fmem,106,,,,,uid,ADMIN,nid,http://avalon.extravie
w.net/med ON WS_A:
2003-07-07 12:22:09 [ ERROR] PSP: Invocation Target is:java.sql.SQLException: ORA-00001: unique
constraint (MED.PK_TITLE_MAP) violated
2003-07-07 12:22:09 [ ERROR] PSP: SQL was: insert into title_map (title_map_key, language,
region, variant, text , date_created, last_date_updated, last_updated_by_user, created_by_user)
values (?, ?, ?, ?, ?, SYSDATE , SYSDATE , ?, ?)
2003-07-07 12:22:09 [ ERROR] PSP: Bind Values are: '6436','ja','JP',' ','null','ADMIN','ADMIN'
2003-07-07 12:22:09 [ ERROR] PSP: SQL State is:23000
2003-07-07 12:22:09 [ ERROR] Exception = java.sql.SQLException: ORA-00001: unique constraint
(MED.PK_TITLE_MAP) violated
java.sql.SQLException: ORA-00001: unique constraint (MED.PK_TITLE_MAP) violated

    at oracle.jdbc.dbaccess.DBError.throwSQLException(DBError.java:180)
    at oracle.jdbc.ttc7.TTIoer.processError(TTIoer.java:208)
    at oracle.jdbc.ttc7.Oall7.receive(Oall7.java:543)
    at oracle.jdbc.ttc7.TTC7Protocol.doOall7(TTC7Protocol.java:1451)
    at oracle.jdbc.ttc7.TTC7Protocol.parseExecuteFetch(TTC7Protocol.java:862)
    at oracle.jdbc.driver.OracleStatement.executeNonQuery(OracleStatement.java:1839)
    at oracle.jdbc.driver.OracleStatement.doExecuteOther(OracleStatement.java:1764)
    at oracle.jdbc.driver.OracleStatement.doExecuteWithTimeout(OracleStatement.java:2354)
    at oracle.jdbc.driver.OraclePreparedStatement.executeUpdate
        (OraclePreparedStatement.java:421)
    at sun.reflect.GeneratedMethodAccessor13.invoke(Unknown Source)
    at sun.reflect.DelegatingMethodAccessorImpl.invoke(DelegatingMethodAccessorImpl.java:25)
    at java.lang.reflect.Method.invoke(Method.java:324)
    at com.extraview.util.PreparedStatementProxy.invoke(PreparedStatementProxy.java:91)
    at oracle.jdbc.driver.$Proxy1.executeUpdate(Unknown Source)
    at com.extraview.util.Message.insertOneTitle(Message.java:611)
    at com.extraview.util.Message.insertTitle(Message.java:580)
    at com.extraview.applogic.layout.LayoutElementAttribute.executeTransaction
        (LayoutElementAttribute.java:244)
    at com.extraview.applogic.layout.LayoutElement.insertAttributes(LayoutElement.java:495)
    at com.extraview.applogic.layout.LayoutElement.executeTransaction(LayoutElement.java:344)
    at com.extraview.applogic.layout.Layout.insertElements(Layout.java:1388)
    at com.extraview.applogic.layout.Layout.executeTransaction(Layout.java:1131)
    at com.extraview.applogic.fltool.LayoutDbMaster.executeSave(LayoutDbMaster.java:390)
    at com.extraview.applogic.fltool.LayoutDbMaster.saveLayout(LayoutDbMaster.java:303)
    at com.extraview.presentation.fltool.FlexibleLayout.service(FlexibleLayout.java:494)
    at com.extraview.presentation.admin.LayoutDisplay.doEdit(LayoutDisplay.java:362)
    at sun.reflect.GeneratedMethodAccessor24.invoke(Unknown Source)
    at sun.reflect.DelegatingMethodAccessorImpl.invoke(DelegatingMethodAccessorImpl.java:25)
    at java.lang.reflect.Method.invoke(Method.java:324)
    at ExtraView.service(ExtraView.java:250)
    at javax.servlet.http.HttpServlet.service(HttpServlet.java)
    at org.apache.tomcat.facade.ServletHandler.doService(Unknown Source)
    at org.apache.tomcat.core.Handler.invoke(Unknown Source)
    at org.apache.tomcat.core.Handler.service(Unknown Source)
    at org.apache.tomcat.facade.ServletHandler.service(Unknown Source)
    at org.apache.tomcat.core.ContextManager.internalService(Unknown Source)
    at org.apache.tomcat.core.ContextManager.service(Unknown Source)
    at org.apache.tomcat.modules.server.Ajpl3Interceptor.processConnection(Unknown Source)
    at org.apache.tomcat.util.net.TcpWorkerThread.runIt(Unknown Source)
    at org.apache.tomcat.util.threads.ThreadPool$ControlRunnable.run(Unknown Source)
    at java.lang.Thread.run(Thread.java:536)
```

```
2003-07-07 12:22:10 [ info ] ExtraView.5388,Thread-15,>>>Leaving
service,admin.LayoutDisplay.doEdit ,sc,0,tmem,126,fmem,109,cc,1,time,2630,uid,ADMIN,nid,http://ava
lon.extraview.net/med ON WS_A:
```

ExtraView サポート・チームでは、ExtraView でエラー状態が発生したユーザに対して、アプリケーション・サーバ・ログを調べてからサポート・チームにログを送信するようお願いすることがあります。弊社のサポート・チームは、エラー・エントリからどこでエラーが発生したかを特定できます。また、この情報を使ってプログラミング・エラーをデバッグし、修正します。

BatchMail ログ

BatchMail は、ご使用のサーバが起動すると同時に起動する別の Java プログラムです。このプログラムには、ExtraView から電子メール通知が出力されるとその通知を処理するコードが含まれています。ExtraView は、ユーザの SMTP メール・サーバには直接電子メール通知を送信しません。これは、なんらかの理由でサーバがダウンしてしまった場合、ExtraView がいつまでも応答を待つことになるからです。

そうならないように、ExtraView ではそれぞれの電子メール通知を一時ディレクトリに送ります。BatchMail プログラムが常駐するメール・ディレクトリのパスは、ExtraView の Configuration.properties ファイルで指定します。このファイルは、ExtraView の WEB-INF ディレクトリに格納されています。パスは、MAILBOX というエントリで定義されます。例えば、ExtraView の Apache Tomcat インストールのホーム・ディレクトリが /evj だとすれば、ログ・ファイルへのパスは /evj/tomcat/webapps/golden411/WEB-INF/BatchMail/logs のようになります。

BatchMail ログ・ファイルからの抜粋を以下に示します。

```
2003-07-18 15:47:52 [ ALERT] mail.send() executed ExtraView Notification [10000]: Unassigned-
Newly reported issue concerning XY module
to--->ed@baumanns.org in 0 seconds
2003-07-18 15:51:18 [ ALERT] mail.send() executed ExtraView Notification [10001]: Unassigned-
bug created by swengl, assigned to qaengl
to--->ed@baumanns.org in 0 seconds
2003-07-18 15:56:15 [ ALERT] mail.send() executed ExtraView Notification [10001]: Unassigned-
bug created by swengl, assigned to qaengl
to--->ed@baumanns.org in 0 seconds
2003-07-18 18:06:07 [ ALERT] mail.send() executed Open[19397]-[P 3]-[Admin Admin] overriding
value for title
to--->leeann@extraview.com in 0 seconds
2003-07-18 18:06:09 [ ERROR] Error Occured ... javax.mail.SendFailedException: Sending failed;
nested exception is:
    javax.mail.SendFailedException: Invalid Addresses;
nested exception is:
    javax.mail.SendFailedException: 550 unknown user

2003-07-18 18:06:09 [ ERROR] Error Occured processing file 19397HtmlQA1058576763923.html for
dpuiia@extraview.com
2003-07-18 18:06:09 [ ERROR] Renaming
/usr/local/extraview/BatchMail/mailbox/19397HtmlQA1058576763923.html
to :/usr/local/extraview/BatchMail/mailbox/___19397HtmlQA1058576763923.html
2003-07-18 18:07:15 [ ALERT] mail.send() executed Open[19398]-[P 3]-[Admin Admin] overriding
value for title
to--->lpultz@extraview.com in 0 seconds
2003-07-18 18:07:15 [ ALERT] mail.send() executed Open[19398]-[P 3]-[Admin Admin] overriding
value for title
to--->robbie@extraview.com in 0 seconds
2003-07-18 18:07:15 [ ALERT] mail.send() executed Open[19398]-[P 3]-[Admin Admin] overriding
value for title
to--->support@extraview.com in 0 seconds
```

BatchMail ログ内のエラー

エラーが発生した場合、ログに特定のエラーを表示します。上記のログに示したエラーでは、ユーザが不明となっています。エラーが発生した場合、電子メール通知ファイルは名前が変更されてサーバに残ります。

変更後のファイル名は、元のメールの先頭に「_」という文字を加えた名前になります。

付録 A – 日付と時間の形式

概要

ExtraView の各ユーザは、日付と時間の形式を設定できます。日付と時間の形式により、出力テキストまたは HTML で日付と時間を表示する方法とユーザが入力したときに解析する方法が決まります。ユーザは [パーソナル・オプション] 画面で自分の日付と時間の形式を選択できます。内蔵の形式から 1 つを選択するか、[日付形式] を [カスタム日付マスク] の値に設定し、自分のマスクを [カスタム日付マスク] という名前のフィールドに入力します。

ローカライズ可能な日付と時間の形式

日付と時間は世界中で表示が異なります。ExtraView ユーザは、使用するロケールに応じた日付/時間形式の 1 つを選択できます。下記の日付と時間の形式は、ユーザの現在のロケール設定により表示が変わります。次の表に、ExtraView で使用されている日付形式の名前と、[English/US] ロケールでの表示例を示します。

形式名	説明	例
SHORT	時間を省略した短い表示	12/30/02
MEDIUMDATE	時間を省略した中くらいの長さの表示	Dec 30, 2002
LONGDATE	時間を省略した長い表示	December 30, 2002
FULLDATE	時間を省略した詳細表示	Monday December 30, 2002
SHORTDATETIME	時間付きの短い表示	12/30/02 1:15 PM
MEDIUMDATETIME	時間付きで中くらいの長さの表示	Dec 30, 2002 1:15 PM
LONGDATETIME	時間付きの長い表示	December 30, 2002 1:15 PM
FULLDATETIME	時間付きの詳細表示	Monday December 30, 2002 1:15 PM

標準日付/時間解析形式

特定の日付と時間の形式が日付の解析に使用するパターンとして、ExtraView に組み込まれている場合があります。日付が標準形式の 1 つで入力された場合、エラーなしに解析されます。カスタム日付マスクを使用して、日付/時間エントリをカスタム・マスク・パターンを含むように拡張します。

標準化された日付/時間解析形式を以下に示します。

形式	例
MM/dd/yy	04/21/03
dd/MM/yy	21/04/03
MM/dd/yyyy	04/21/2003
dd/MM/yyyy	21/04/2003
dd-MMM-yy	21-April-03
dd-MMM-yyyy	21-April-2003
yyyy/MM/dd HH:mm:ss z	2003/04/21 10:23:34 PST
yyyy/MM/dd HH:mm:ss	2003/04/21 10:23:34
yyyy/MM/dd	2003/04/21
yyyy-MM-dd HH:mm:ss	2003-04-21 10:23:34
yyyy MM dd HH:mm:ss	2003 04 21 10:23:34
MM-dd-yyyy HH:mm	04-21-2003 10:23
yyyy-MM-dd	2003-04-21
MM/dd/yy HH:mm	04/21/03 10:23
MM/dd/yy HH	04/21/03 10
yy-MM-dd	03-04-21
MMM dd yyyy	April 21 2003
MMM dd, yyyy	April 21, 2003
MMM. dd yyyy	Apr. 21 2003
MMM. dd, yyyy	Apr. 21, 2003

カスタム日付マスク

カスタム日付マスクは、ExtraView ユーザに非常に高い柔軟性を提供しますが、カスタム日付マスクを使用する日付と時間の表示は、ユーザの現在のロケール設定に関係なく、同じようにフォーマットされます。表示内の月名や日などのテキスト文字列は、ロケールによって変わります。

フォームへの日付の値の入力では、ExtraView の標準日付形式の 1 つまたはカスタム日付マスクを使用してユーザが定義した形式を使用できます。

カスタム日付マスクは、以下から選択した句読点またはパターン文字の連続で構成されます。

文字	日付または時間コンポーネント	表示	例
G	紀元	Text	AD
Y	年	Year	1996; 96
M	月/年	月	July; Jul; 07
w	週/年	数字	27
W	週/月	数字	2
D	日/年	数字	189
d	日/月	数字	10
F	日/週/月	数字	2
E	日/週	テキスト	Tuesday; Tue

文字	日付または時間コンポーネント	表示	例
a	午前/午後表示	テキスト	PM
H	時間(0 ~ 23)	数字	0
k	時間(1 ~ 24)	数字	24
K	午前/午後の時間(0 ~ 11)	数字	0
h	午前/午後の時間(1 ~ 12)	数字	12
m	分	数字	30
s	秒	数字	55
S	ミリ秒	数字	978
z	タイムゾーン	一般的なタイムゾーン	太平洋標準時; PST; GMT-08:00
Z	タイムゾーン	RFC 822 タイムゾーン	-0800

パターン文字は、その数字によって正確な表示が決まるため、通常繰り返されます。

- **テキスト:** フォーマットは、パターン文字の数が 4 以上の場合、フル・フォームが使用され、それ以外の場合は、短縮または省略フォームを使用できる場合は短縮または省略フォームが使用されます。解析する場合は、パターン文字の数に関係なく、両方のフォームが受け入れられます。
- **数字:** フォーマットは、パターン文字の数は最小桁数となり、数がより少ない場合は、値に 0 が追加されます。解析する場合は、パターン文字の数は、2 つの隣り合うフィールドを区切るために必要な場合以外は無視されます。
- **年:** フォーマットは、パターン文字の数が 2 つの場合、年は 2 桁に切り詰められ、それ以外の場合、数字として解釈されます。解析する場合は、パターン文字の数が 2 より大きい場合、桁数にかかわらず、年は文字どおりに解釈されます。このため、パターン「MM/dd/yyyy」、「01/11/12」を使用して解析すると、「Jan 11, 12 A.D.」になります。

短縮した年のパターン(「y」または「yy」)で解析する場合は、ExtraView はある世紀に関連する短縮された年として解釈します。ExtraView では、ユーザ入力から解析された日付の年は、1000 を超えているかどうか必ず確認されます。1000 を超えていない場合は、その年に 1900 または 2000 を加えることで、より合理的な値に調整されます。解析結果が現在の年以下である場合には 2000 が加えられ、その他の場合は 1900 が加えられます。

例えば、パターン「MM/dd/yy」を使用すると、「01/01/97」と表示され、文字列「01/11/03」は Jan 11, 2003 と解釈され、文字列「05/04/64」は May 4, 1964 と解釈されます。

月: パターン文字の数が 3 以上の場合、月はテキストとして解釈され、それ以外の場合は、数字として解釈されます。

- **一般的なタイムゾーン:** タイムゾーンは、名前がある場合はテキストとして解釈されます。GMT オフセット値を表すタイムゾーンの場合、次の構文が使用されます。

```

GMTOffsetTimeZone:
    GMT Sign Hours : Minutes
Sign: one of
    -
Hours:
    Digit
    Digit Digit
Minutes:
    Digit Digit
Digit: one of
    0 1 2 3 4 5 6 7 8 9

```

Hours は、0 ~ 23 の間、Minutes は、0 ~ 59 の間でなければなりません。この形式は、ロケールに依存せず、数字は Unicode 標準の Basic Latin ブロックから取る必要があります。

解析する場合、RFC 822 タイムゾーンも受け入れられます。

- **RFC 822 タイムゾーン:** フォーマットは、RFC 822 の 4 桁タイムゾーン形式が使用されます。

```

RFC822TimeZone:
    Sign TwoDigitHours Minutes
TwoDigitHours:
    Digit Digit

```

TwoDigitHours は、00 ~ 23 の間でなければなりません。その他の定義は、一般的なタイムゾーンと同じです。

解析する場合、一般的なタイムゾーンも受け入れられます。

付録 B – セキュリティ許可キー

許可キー	説明
CF_ALL_BEHAVIOR_SETTINGS	このリストからすべての動作設定の完全なリスト(アルファベット順)の表示と修正を行うことができます。これを制御するには書き込みアクセス権が必要です。
CF_ALLOW_DEACTIVATE_USERS	Y に設定すると、管理者はユーザ・アカウント保守機能によりユーザの無効化と再有効化を行うことができます。これは複数の管理者権限が定義されているサイトで、すべての管理者にユーザを無効化する権限を与えたくない場合に有用です。この機能を利用するには、書き込みアクセス権が必要です。
CF_ALLOWED_VALUES	許容値リストの保守のための画面へのアクセス。許容値リストの保守は、子リスト保守画面から個別に行うこともできます。
CF_ALLOWEDLOCALES	このインストール内のユーザが設定できるロケールのリストを保守します。ロケールが定義されていても、翻訳済みメッセージを作成しなければならないことがあります。これを制御するには書き込みアクセス権が必要です。
CF_ALLOWEDVALUE_TYPE	2つのフィールド間の親子階層関係の定義と指定を行います。これを制御するには書き込みアクセス権が必要です。
CF_API_SETTINGS	APIを使用して ExtraView にアクセスする動作設定を保守するための設定画面へのアクセス。これを制御するには書き込みアクセス権が必要です。
CF_AREA	事前定義の [AREA] フィールドのビジネス・エリアのリストを保守します。これを制御するには書き込みアクセス権が必要です。
CF_CATEGORY	事前定義の [CATEGORY] フィールドのカテゴリのリストを保守します。これを制御するには書き込みアクセス権が必要です。
CF_COMPANY_SETTINGS	会社の名前、所在地、および連絡先情報を設定するための管理画面にアクセスします。これを制御するには書き込みアクセス権が必要です。
CF_DATA_DICTIONARY	フィールドのタイトル、表示タイプ、基本動作、およびデフォルト値の修正など、事前定義フィールド、ユーザ定義フィールド、およびその他のオブジェクトの作成および保守を行うためのデータ辞書へのアクセス。これを制御するには書き込みアクセス権が必要です。

許可キー	説明
CF_DEBUG_SETTINGS	デバッグ・オプションとユーザ・カスタム・クラス名の動作設定にアクセスします。これを制御するには書き込みアクセス権が必要です。
CF_DISPLAY_INFO	ExtraView の画面とレイアウト内で使用されるフォントと色の動作設定にアクセスします。これを制御するには書き込みアクセス権が必要です。
CF_DISPLAY_SETTINGS	画面とレイアウトの表示方法に影響する動作設定の制御と設定を行います。これを制御するには書き込みアクセス権が必要です。
CF_EMAIL_SETTINGS	電子メールの動作設定の設定と管理を行います。これを制御するには書き込みアクセス権が必要です。
CF_ENABLE_DISABLE_USER_ACCESS	保守のために ExtraView システムを休止させるための管理オプションにアクセスします。これを制御するには書き込みアクセス権が必要です。
CF_ENVIRONMENT	ExtraView にアクセスするための物理パスと URL 情報を保守する動作設定にアクセスします。これを制御するには書き込みアクセス権が必要です。
CF_EXPIRE_PASSWORD	このキーで、管理者がユーザ・アカウント内のパスワードを失効させることを可能にするためのアクセスを制御します。これを制御するには書き込みアクセス権が必要です。
CF_FILE_IMPORT	レコードが含まれたタブ区切り形式またはカンマ区切り形式のデータ・ファイルのアップロードとインポートを行うファイル・インポート・ユーティリティへのアクセス。これを制御するには書き込みアクセス権が必要です。
CF_INSTALLATION_DETAILS	ExtraView インストールの基本動作設定を設定します。これを制御するには書き込みアクセス権が必要です。
CF_ITEMDATA	メタデータを XML 形式のファイルにエクスポートするための管理機能にアクセスします。このファイルは、別の ExtraView スキーマへのインポートに使用できます。これを制御するには読み取りアクセス権が必要です。
CF_LAYOUT	すべての画面とレポートのレイアウトの作成と変更を行います。これを制御するには書き込みアクセス権が必要です。
CF_LAYOUT_TYPE	定義できる画面とレポートのレイアウトのタイプのリストを保守します。これを制御するには書き込みアクセス権が必要です。
CF_LICENSE	ExtraView のエンド・ユーザ・ライセンス契約書 (EULA: End User License Agreement)。これを制御するには書き込みアクセス権が必要です。

許可キー	説明
CF_LOCALIZE	このキーにアクセスすると、ロケール固有のタイトルをメタデータ・フィールド値に追加できます。これを制御するには書き込みアクセス権が必要です。
CF_MANAGE_USER_CONNECTION	ExtraView へのユーザ接続の管理と切断を行い、ライセンスを解放し共通プールに戻します。このキーは、コンカレント・ライセンス・インストールに対してのみ使用されます。これを制御するには書き込みアクセス権が必要です。
CF_METADATA	システム・メタデータを XML 形式でダンプするエクスポート機能へのアクセスを提供します。これを制御するには読み取りアクセス権が必要です。
CF_METADATA_UPDATER	XML エクスポート・ユーティリティを使用して作成された書式設定済みファイルから XML をインポートし、その情報を使用して ExtraView を更新します。このキーを使用する前に、必ずインストールのバックアップを作成してください。これを制御するには書き込みアクセス権が必要です。
CF_MODULE	製品 (PRODUCT_NAME) 内のモジュール (MODULE_ID) のリストを保守するためのアクセス。これを制御するには書き込みアクセス権が必要です。
CF_MODULE_TYPE	モジュール・タイプのリストの作成と管理を行います。このキーは、将来のリリースで廃止される予定です。これを制御するには書き込みアクセス権が必要です。
CF_OBJECT_IMPORT	XML 形式で作成されたインポート済みファイルの項目データをインポートするためのアクセス。これを制御するには書き込みアクセス権が必要です。
CF_PERSONAL_OPTIONS	このキーで、画面のタイトル・バーに表示される、各ユーザ・ロール(役割)のパーソナル・オプション・リンクへのアクセスを制御します。これを制御するには書き込みアクセス権が必要です。
CF_PRIORITY	事前定義の [PRIORITY] フィールドの値のリストを保守します。これを制御するには書き込みアクセス権が必要です。
CF_PRIVACY_GROUPS	このキーで、管理者が各ユーザ・アカウント内のプライバシー・グループのリストにアクセスして保守することができるかどうかを制御します。これを制御するには書き込みアクセス権が必要です。
CF_PRODUCT	事前定義の [PRODUCT_NAME] フィールドの値のリストを保守します。これを制御するには書き込みアクセス権が必要です。

許可キー	説明
CF_PRODUCT_LINE	事前定義の [PRODUCT_LINE] フィールドの値のリストを保守します。これを制御するには書き込みアクセス権が必要です。
CF_PROJECT	ビジネス・エリア (AREA) 内のプロジェクト (PROJECT) のリストにアクセスして保守します。これを制御するには書き込みアクセス権が必要です。
CF_RELATIONSHIP_GROUP	このキーで、issue 関係グループのグローバル設定と名前へのアクセスを制御します。これを制御するには書き込みアクセス権が必要です。
CF_RELATIONSHIP_GROUP_DELETE_BUTTON	このキーで、関係グループから issue (案件、問題) を削除するためのアクセスを制御します。これを制御するには書き込みアクセス権が必要です。
CF_RELATIONSHIP_GROUP_EDIT	このキーで、ユーザ・ロールが issue の既存の関係グループを修正できるかどうかを制御します。これを制御するには書き込みアクセス権が必要です。
CF_RELATIONSHIP_GROUP_EDIT_PROBLEM_BUTTON	この許可キーで、関係グループ画面に [Edit issue] ボタンを表示するかどうかを制御します。これを制御するには書き込みアクセス権が必要です。
CF_RELATIONSHIP_GROUP_PROBLEM_ADD_PROBLEM_BUTTON	このキーで、ユーザ・ロールが issue の既存の関係グループに issue を追加できるかどうかを制御します。これを制御するには書き込みアクセス権が必要です。
CF_RELATIONSHIP_GROUP_VIEW_PROBLEM_BUTTON	この許可キーで、関係グループ画面に [View] ボタンを表示するかどうかを制御します。これを制御するには書き込みアクセス権が必要です。
CF_REPORT_SETTINGS	このキーで、レポートとクエリに影響する動作設定を変更する許可を付与します。これを制御するには書き込みアクセス権が必要です。
CF_REPORT_USER	個別のユーザによって作成されたレポートの作成と管理を行います。
CF_RESOLUTION	事前定義の [RESOLUTION] フィールドの値のリストを保守します。これを制御するには書き込みアクセス権が必要です。
CF_SESSION_SETTINGS	このキーで、システム全体の動作設定の保守画面へのアクセスを制御します。これを制御するには書き込みアクセス権が必要です。
CF_SEVERITY	事前定義の [SEVERITY_LEVEL] フィールドの値のリストを保守します。これを制御するには書き込みアクセス権が必要です。
CF_SSO_SETTINGS	SSO および LDAP サーバと連動するように ExtraView を設定します。

許可キー	説明
CF_STATISTICS	このキーは、ユーザ、ユーザ・ロール、および利用パターンに関するサマリ情報へのアクセスを提供します。これを制御するには読み取りアクセス権が必要です。
CF_STATUS	事前定義の [STATUS] フィールドの値のリストを保守します。これを制御するには書き込みアクセス権が必要です。
CF_STATUS_RULES	このキーで、ステータス変更に適用されるルール of 定義画面へのアクセスを制御します。ステータスに基づいてワークフローのビジネス・ルールを設定します。これを制御するには書き込みアクセス権が必要です。
CF_STATUS_SIGNATURES	このキーで、規制順守のためのステータス署名変更に適用されるルール of 定義画面へのアクセスを制御します。再認証のワークフローのビジネス・ルールを設定します。これを制御するには書き込みアクセス権が必要です。
CF_SYSTEM_LOG	管理ログ内のすべてのメタデータ変更に関するレポートへのアクセスを制御します。これを制御するには読み取りアクセス権が必要です。
CF_SYSTEM_LOG_TYPE	管理ログ内のアクティビティのリスト。ソース・コード・レベルでのプログラム変更によって新しいエントリがサポートされている必要があります。
CF_SYSTEM_SIGNON	すべてのユーザのサインオン・アクティビティおよびサインオフ・アクティビティを追跡するログ・エントリを表示するためのアクセスを制御します。これを制御するには読み取りアクセス権が必要です。
CF_TEMPLATE	issue の更新時に社内ユーザと外部ユーザとの通信で使用する電子メール・テンプレートの作成と編集を行うためのアクセスを制御します。
CF_TRANSLATOR	すべてのシステム・メッセージとプロンプトを別の言語に翻訳するためのアクセスを制御します。これを制御するには書き込みアクセス権が必要です。
CF_UDF_LIST	ExtraView に保存されているユーザ定義フィールドの値のリストを保守するためのアクセスを制御します。このキーは全リストへのアクセスを制御する単一キーです。リストの各メンバーには、個別のセキュリティ・キーもあります。これを制御するには書き込みアクセス権が必要です。
CF_USER_GROUPS	このキーは、ユーザ・アカウント保守画面でユーザ・ロールを変更するための管理ユーザ・アクセスを提供します。機能へのアクセスを一部のユーザ・ロールに限定して、管理ユーザ・ロールの階層の作成を可能にします。

許可キー	説明
CF_USER_SETTINGS	このキーで、ユーザ名とユーザに関連付けられた動作設定とオプションへのアクセスを制御します。これを制御するには書き込みアクセス権が必要です。
CF_VERSION_INFO	このキーで、ExtraView のバージョン情報とその ExtraView がサポートしているソフトウェアのバージョン情報へのアクセスを制御します。これを制御するには読み取りアクセス権が必要です。
CF_WORKFLOW_DEFAULTS	このキーで、ワークフローに関連付けられた動作設定とオプションへのアクセスを制御します。これを制御するには書き込みアクセス権が必要です。
MENU_ADD_PROBLEM	この設定で、メイン・ナビゲーション・バーの [Add] ボタンからの [issue を追加] のレイアウトへのアクセスを制御します。これを制御するには書き込みアクセス権が必要です。
MENU_ADMINISTRATION	この設定で、メイン・ナビゲーション・バーの [Administration] ボタンからの管理システムへのアクセスを制御します。これを制御するには書き込みアクセス権が必要です。
MENU_EDIT	この設定で、[編集] 画面の [更新] ボタンへのアクセスを制御します。これを制御するには書き込みアクセス権が必要です。
MENU_HOME	このキーで、ナビゲーション・バーの [Home] ボタンへのアクセスを制御します。これを制御するには読み取りアクセス権が必要です。
MENU_INTEREST_LIST	このキーで、各ユーザ・ロールの画面のタイトル・バーに表示される関係者リストへのアクセスを制御します。これを制御するには書き込みアクセス権が必要です。
MENU_RESOLUTION	このキーで、[クエリ]([検索/レポート])画面へのアクセスを制御します。これを制御するには読み取りアクセス権が必要です。
PR_ADD_PROBLEM.ALT_ID	代替 ID
PR_ADD_PROBLEM.AREA	ビジネス・エリア
PR_ADD_PROBLEM.ASSIGNED_TO	担当者
PR_ADD_PROBLEM.ATTACH_CONTENT_TYPE	このキーで、添付ファイル・レコードに内容タイプを表示するかどうかを制御します。これは、読み取りアクセス権を使用して表示できますが、書き込むことはできません。
PR_ADD_PROBLEM.ATTACH_CREATED_BY_USER	このキーで、添付ファイルを作成したユーザの名前を表示するかどうかを制御します。これは、読み取りアクセス権を使用して表示できますが、書き込むことはできません。

許可キー	説明
PR_ADD_PROBLEM. ATTACH_DATE_CREATED	このキーで、添付ファイルが作成された日付を表示するかどうかを制御します。これは、読み取りアクセス権を使用して表示できますが、書き込むことはできません。
PR_ADD_PROBLEM. ATTACH_FILE_DESC	このキーで、ユーザが添付ファイルにアップロードするファイル名を入力するときに添付ファイルの説明を表示するかどうかを制御します。これを制御するには書き込みアクセス権が必要です。
PR_ADD_PROBLEM. ATTACH_FILE_NAME	このキーで、添付ファイル・レコードに添付ファイル名を表示するかどうかを制御します。これは、読み取りアクセス権を使用して表示できますが、書き込むことはできません。
PR_ADD_PROBLEM. ATTACH_FILE_SIZE	このキーで、添付ファイル・レコードにファイル・サイズを表示するかどうかを制御します。これは、読み取りアクセス権を使用して表示できますが、書き込むことはできません。
PR_ADD_PROBLEM. ATTACH_PATH	このキーで、添付ファイル・レコードに添付ファイルの元のクライアント添付ファイル・パスを表示するかどうかを制御します。これは、読み取りアクセス権を使用して表示できますが、書き込むことはできません。
PR_ADD_PROBLEM. ATTACHMENT	このキーは、添付ファイルの制御キーです。このキーに対する読み取り/書き込み許可がない場合、添付ファイルは [Issue を追加] 画面レイアウトに表示されません。このキーによってユーザ・ロールに許可が付与されると、残りの添付ファイル・キーによって個別のフィールドに対する読み取り/書き込み許可が制御されます。
PR_ADD_PROBLEM. ATTACHMENT_ADD	このキーで、添付ファイルの [Add] ボタンを制御します。これを制御するには書き込みアクセス権が必要です。
PR_ADD_PROBLEM.CATEGORY	カテゴリ
PR_ADD_PROBLEM.CC_EMAIL	追加画面に [CC メール] 入力ボックスを表示するかどうかを制御します。ユーザがこの行に電子メール・アドレスを入力できるようにするには、ユーザ・ロールにこのフィールドに対する読み取り/書き込み許可が設定されている必要があります。
PR_ADD_PROBLEM. CC_EMAIL_BUTTON	追加画面の [CC メール] 入力ボックスの横にボタンを表示するかどうかを制御します。[CC メール] ボックスに追加できるユーザのリストをユーザがポップアップ表示できるようにするには、ユーザ・ロールにこのフィールドに対する読み取り許可が設定されている必要があります。
PR_ADD_PROBLEM.COMMENTS	コメント
PR_ADD_PROBLEM.CONTACT	連絡先

許可キー	説明
PR_ADD_PROBLEM.DATE_CREATED	作成日
PR_ADD_PROBLEM.DESCRPTION	説明
PR_ADD_PROBLEM.EMAIL_CUSTOMER	このフィールドに対する読み取り許可がユーザ・ロールに設定されている場合、外部ユーザへの電子メールの送信を可能にするチェックボックスが表示されます。
PR_ADD_PROBLEM.EMAIL_SWITCH	このキーを使用して、ユーザ・ロールの [メールを生成] チェックボックスを有効または無効にします。このキーに対する読み取りアクセス権がない場合、[メールを生成] チェックボックスは表示されず、このチェックボックスの設定は動作設定 GENERATE_EMAIL_BOX の値から取得されます。
PR_ADD_PROBLEM.ID	[ID] という名前の事前定義フィールドへのアクセスを制御します。
PR_ADD_PROBLEM.INTEREST_LIST	このフィールドに対する書き込みアクセス権が付与されている場合、[Issue を追加] 確認画面に [関係者リスト] ボタンが表示されます。
PR_ADD_PROBLEM.ITEM_ID	[ITEM_ID] という名前の事前定義フィールドへのアクセスを制御します。
PR_ADD_PROBLEM.MAILING_LIST	issue の配布電子メール・リストへのアクセスを制御します。この許可キーに対する読み取りアクセス権がある場合、リストを更新するためのアイコンも使用可能になります。
PR_ADD_PROBLEM.MODULE_ID	モジュール ID - このキーはフォームの [Module] フィールドの制御に使用されるメイン・キーです。
PR_ADD_PROBLEM.ORIGINATOR	issue の作成者
PR_ADD_PROBLEM.OWNER	issue の所有者
PR_ADD_PROBLEM.PRIORITY	issue の優先度
PR_ADD_PROBLEM.PRIVACY	issue のプライバシー
PR_ADD_PROBLEM.PROBLEM_RELEASE_DELETE	このキーで、現在の行を削除できるようにするチェックボックスをリピーティング行レコードに表示するかどうかを制御します。このチェックボックスを制御するには書き込みアクセス権が必要です。
PR_ADD_PROBLEM.PRODUCT_LINE	製品ライン
PR_ADD_PROBLEM.PRODUCT_NAME	製品名
PR_ADD_PROBLEM.PROJECT	プロジェクト

許可キー	説明
PR_ADD_PROBLEM.RELEASE	このキーは、リピーティング行レコードの制御キーです。このキーに対する読み取り/書き込み許可がある場合、ユーザ・ロールに対してリピーティング行構造全体が表示され、リピーティング行構造の個別のフィールドへのアクセスは各フィールドのセキュリティ許可キーによって制御されます。
PR_ADD_PROBLEM. RELEASE_ASSIGNED_TO	リリースの担当者
PR_ADD_PROBLEM. RELEASE_DATE_CREATED	リリースの作成日
PR_ADD_PROBLEM.RELEASE_FIXED	修正済みリリース
PR_ADD_PROBLEM.RELEASE_FOUND	検出リリース
PR_ADD_PROBLEM.RELEASE_OWNER	リリースの所有者
PR_ADD_PROBLEM. RELEASE_PRIORITY	リリースの優先度
PR_ADD_PROBLEM. RELEASE_PRODUCT	リリースの製品
PR_ADD_PROBLEM. RELEASE_RESOLUTION	リリースの解決策
PR_ADD_PROBLEM. RELEASE_SEVERITY	リリースの重要度
PR_ADD_PROBLEM.RELEASE_STATUS	リリースのステータス
PR_ADD_PROBLEM. RELEASE_TIMESTAMP	リリースのタイムスタンプ
PR_ADD_PROBLEM.RESOLUTION	解決策
PR_ADD_PROBLEM.SEVERITY_LEVEL	重要度レベル
PR_ADD_PROBLEM.SHORT_DESCR	issue の簡単な説明またはタイトル
PR_ADD_PROBLEM. SHOW_PRIVATE_IN_PRIVACY_LIST	このキーに対する書き込みアクセス権をユーザ・ロールに付与すると、ユーザはプライバシー・フィールドにプライベート issue を入力できるようになります。
PR_ADD_PROBLEM. SHOW_PUBLIC_IN_PRIVACY_LIST	このキーに対する書き込みアクセス権をユーザ・ロールに付与すると、ユーザはプライバシー・フィールドにパブリック issue を入力できるようになります。
PR_ADD_PROBLEM.STATUS	ステータス
PR_ADD_PROBLEM.TIMESTAMP	最終修正日
PR_RESOLUTION. ALLOW_EDIT_CLOSED	このキーへのアクセスによって、動作設定 STATUS_CLOSED_NAME での定義に従って、ユーザ・ロールが「クローズされた」issue を編集できるかどうかを制御します。

許可キー	説明
PR_RESOLUTION.ALT_ID	代替 ID
PR_RESOLUTION.AREA	ビジネス・エリア
PR_RESOLUTION.ASSIGNED_TO	担当者
PR_RESOLUTION. ATTACH_CONTENT_TYPE	このキーで、添付ファイル・レコードに内容タイプを表示するかどうかを制御します。これは、読み取りアクセス権を使用して表示できますが、書き込むことはできません。
PR_RESOLUTION. ATTACH_CREATED_BY_USER	このキーで、添付ファイルを作成したユーザの名前を表示するかどうかを制御します。これは、読み取りアクセス権を使用して表示できますが、書き込むことはできません。
PR_RESOLUTION.ATTACH_DATE_CREATED	このキーで、添付ファイルが作成された日付を表示するかどうかを制御します。これは、読み取りアクセス権を使用して表示できますが、書き込むことはできません。
PR_RESOLUTION. ATTACH_FILE_DESC	このキーで、ユーザが添付ファイルにアップロードするファイル名を入力するときに添付ファイルの説明を表示するかどうかを制御します。これを制御するには書き込みアクセス権が必要です。
PR_RESOLUTION.ATTACH_FILE_NAME	このキーで、添付ファイル・レコードに添付ファイル名を表示するかどうかを制御します。これは、読み取りアクセス権を使用して表示できますが、書き込むことはできません。
PR_RESOLUTION.ATTACH_FILE_SIZE	このキーで、添付ファイル・レコードにファイル・サイズを表示するかどうかを制御します。これは、読み取りアクセス権を使用して表示できますが、書き込むことはできません。
PR_RESOLUTION.ATTACH_PATH	このキーで、添付ファイル・レコードに添付ファイルの元のクライアント添付ファイル・パスを表示するかどうかを制御します。これは、読み取りアクセス権を使用して表示できますが、書き込むことはできません。
PR_RESOLUTION.ATTACHMENT	このキーは、添付ファイルの制御キーです。このキーに対する読み取り/書き込み許可がない場合、添付ファイルは [Issue を編集] 画面レイアウトに表示されません。このキーによってユーザ・ロールに許可が付与されると、残りの添付ファイル・キーによって、個別のフィールドに対する読み取り/書き込み許可が制御されます。
PR_RESOLUTION.ATTACHMENT_ADD	このキーで、添付ファイルの [Add] ボタンを制御します。これを制御するには書き込みアクセス権が必要です。
PR_RESOLUTION. ATTACHMENT_DELETE	これは、添付ファイル削除ボタンの有効と無効を切り替えるためのキーです。

許可キー	説明
PR_RESOLUTION.ATTACHMENT_EDIT	以前にアップロードした添付ファイルの説明をユーザ・ロールが編集できるかどうかを制御します。これを制御するには書き込み許可が必要です。
PR_RESOLUTION.ATTACHMENT_VIEW	以前にアップロードした添付ファイルをユーザ・ロールが表示できるかどうかを制御します。これを制御するには読み取り許可または書き込み許可が必要です。
PR_RESOLUTION.CATEGORY	カテゴリ
PR_RESOLUTION.CC_EMAIL	編集画面に [CC メール] 入力ボックスを表示するかどうかを制御します。ユーザがこの行に電子メール・アドレスを入力できるようにするには、ユーザ・ロールにこのフィールドに対する読み取り/書き込み許可が設定されている必要があります。
PR_RESOLUTION.CC_EMAIL_BUTTON	編集画面の [CC メール] 入力ボックスの横にボタンを表示するかどうかを制御します。[CC メール] ボックスに追加できるユーザのリストをユーザがポップアップ表示できるようにするには、ユーザ・ロールにこのフィールドに対する読み取り許可が設定されている必要があります。
PR_RESOLUTION.CLONE	編集画面のツールバーに [複製] ボタンを表示するかどうかを制御します。issue を複製するには、書き込み許可が必要です。
PR_RESOLUTION.COMMENTS	コメント
PR_RESOLUTION.CONTACT	連絡先
PR_RESOLUTION.DATE_CREATED	作成日
PR_RESOLUTION.DELETE_BUTTON	編集画面に [削除] ボタンを表示するかどうかを制御します。このキーに対する書き込みアクセス権をユーザ・ロールに付与すると、ユーザは issue を削除できるようになります。
PR_RESOLUTION.DESCRPTION	説明
PR_RESOLUTION.EDIT_BUTTON	ユーザ・ロールがレポートおよび電子メール内の [Edit] ボタンにアクセスできるかどうかを制御します。これを制御するには書き込みアクセス権が必要です。
PR_RESOLUTION.EDIT_LOGAREA_FIELDS	[COMMENTS] などの履歴ログ・エリアのフィールドの編集をユーザ・ロールに許可するかどうかを制御します。通常は、このキーに対する書き込みアクセス権によって、管理者だけがこの制御を与えられます。
PR_RESOLUTION.EMAIL_BUTTON	ユーザ・ロールに対して [編集] 画面のツールバーに [電子メール] ボタンを表示するかどうかを指定します。
PR_RESOLUTION.EMAIL_CUSTOMER	このフィールドに対する読み取り許可がユーザ・ロールに設定されている場合、外部ユーザへの電子メールの送信を可能にするチェックボックスが表示されます。

許可キー	説明
PR_RESOLUTION. EMAIL_FILTER_SCREEN	このキーに対する読み取り許可によって、アドホック電子メールの検索フィルタ画面へのアクセスを制御します。
PR_RESOLUTION.EMAIL_SWITCH	このキーを使用して、ユーザ・ロールの [メールを生成] チェックボックスを有効または無効にします。このキーに対する読み取りアクセス権がない場合、[メールを生成] チェックボックスは表示されず、このチェックボックスの設定は動作設定 GENERATE_EMAIL_BOX の値から取得されます。
PR_RESOLUTION.HISTORY_BUTTON	このキーに対する読み取りアクセス権によって、issue の履歴 (監査証跡) へのアクセスを許可します。編集画面とレポートに [履歴] ボタンを配置することができます。
PR_RESOLUTION.ID	[ID] という名前の事前定義フィールドへのアクセスを制御します。
PR_RESOLUTION.INTEREST_LIST	読み取りアクセス権と書き込みアクセス権の両方によって、ユーザ・ロールがその関係者リストの表示と更新を行うことができるかどうかを制御します。
PR_RESOLUTION.ITEM_ID	[ITEM_ID] という名前の事前定義フィールドへのアクセスを制御します。
PR_RESOLUTION.KEYWORD	フィルタ・レイアウトの [KEYWORD] フィールドによって、ユーザ・ロールがキーワードによる検索を実行できるかどうかを指定します。読み取りアクセス権が必要です。
PR_RESOLUTION. LAST_CHANGE_USER	issue を最後に更新したユーザ
PR_RESOLUTION.MAILING_LIST	issue の配布電子メール・リストへのアクセスを制御します。この許可キーに対する読み取りアクセス権がある場合、リストを更新するためのアイコンも使用可能になります。
PR_RESOLUTION. MASS_UPDATE_ISSUES	レポート出力の [Mass Update] ボタンへのアクセスを制御します。一括更新を実行するには書き込み許可が必要です。通常、この機能は重要な社員にのみ提供されます。
PR_RESOLUTION.MODULE_ID	モジュール ID - このキーはフォームの [Module] フィールドの制御に使用されるメイン・キーです。
PR_RESOLUTION.MONTHS_IN_STATUS	issue が現在のステータスにある月数
PR_RESOLUTION.MONTHS_OPEN	issue がオープンであった月数
PR_RESOLUTION.OWNER	issue の所有者
PR_RESOLUTION.PRIORITY	issue の優先度
PR_RESOLUTION.PRIVACY	issue のプライバシー

許可キー	説明
PR_RESOLUTION. PROBLEM_RELEASE_DELETE	このキーで、現在の行を削除できるようにするチェックボックスをリピーティング行レコードに表示するかどうかを制御します。このチェックボックスを制御するには書き込みアクセス権が必要です。
PR_RESOLUTION.PRODUCT_LINE	製品ライン
PR_RESOLUTION.PRODUCT_NAME	製品名
PR_RESOLUTION.PROJECT	プロジェクト
PR_RESOLUTION. RELATIONSHIP_GROUP	[編集] 画面の関係グループ
PR_RESOLUTION. RELATIONSHIP_GROUP_ID	編集画面に関係グループ ID を表示するかどうかを制御します。
PR_RESOLUTION. RELATIONSHIP_GROUP_OWNER	このキーに対する読み取りアクセス権によって、ユーザ・ロールは関係グループの所有者を表示できます。
PR_RESOLUTION. RELATIONSHIP_GROUP_TITLE	このキーに対する読み取りアクセス権によって、ユーザ・ロールは関係グループのタイトルを表示できます。
PR_RESOLUTION. RELATIONSHIP_GROUP_TYPE	このキーに対する読み取りアクセス権によって、ユーザ・ロールは関係グループのタイプを表示できます。
PR_RESOLUTION. RELATIONSHIP_GRP_ADMIN	このキーに対する書き込みアクセス権によって、管理者は関係グループの制御にアクセスできます。
PR_RESOLUTION. RELATIONSHIP_GRP_PARENT_ID	このキーに対する読み取りアクセス権によって、関係グループの親 issue を表示できます。
PR_RESOLUTION.RELEASE	このキーは、リピーティング行レコードの制御キーです。このキーに対する読み取り/書き込み許可がある場合、ユーザ・ロールに対してリピーティング行構造全体が表示され、リピーティング行構造の個別のフィールドへのアクセスは各フィールドのセキュリティ許可キーによって制御されます。
PR_RESOLUTION. RELEASE_ASSIGNED_TO	リリースの担当者
PR_RESOLUTION. RELEASE_DATE_CREATED	リリースの作成日
PR_RESOLUTION.RELEASE_FIXED	修正済みリリース
PR_RESOLUTION.RELEASE_FOUND	検出リリース
PR_RESOLUTION.RELEASE_OWNER	リリースの所有者
PR_RESOLUTION.RELEASE_PRIORITY	リリースの優先度
PR_RESOLUTION.RELEASE_PRODUCT	リリースの製品
PR_RESOLUTION. RELEASE_RESOLUTION	リリースの解決策
PR_RESOLUTION.RELEASE_SEVERITY	リリースの重要度

許可キー	説明
PR_RESOLUTION.RELEASE_STATUS	リリースのステータス
PR_RESOLUTION. RELEASE_TIMESTAMP	リリースのタイムスタンプ
PR_RESOLUTION.RESOLUTION	解決策
PR_RESOLUTION.RG_EMAIL_BUTTON	[Relationship Group Filter] 画面の [電子メール] ボタンへのアクセスを提供します。
PR_RESOLUTION.RG_MERGE_BUTTON	[Relationship Group Filter] 画面の [マージ] ボタンへのアクセスを提供します。
PR_RESOLUTION.RG_SPLIT_BUTTON	[Relationship Group Filter] 画面の [分割] ボタンへのアクセスを提供します。
PR_RESOLUTION. SEARCH_ATTACHMENTS	このキーで、クエリ・フィルタ画面での添付ファイルの検索を制御します。このキーに書き込みアクセス権がある場合、[KEYWORD] フィールドの下にチェックボックスが表示され、ユーザ・ロールは添付ファイルによる検索を行うことができるようになります。
PR_RESOLUTION.SEVERITY_LEVEL	重要度レベル
PR_RESOLUTION.SHORT_DESCR	issue の簡単な説明またはタイトル
PR_RESOLUTION. SHOW_PRIVATE_IN_PRIVACY_LIST	このキーに対する書き込みアクセス権をユーザ・ロールに付与すると、ユーザはプライバシー・フィールドにプライベート issue を入力できるようになります。
PR_RESOLUTION. SHOW_PUBLIC_IN_PRIVACY_LIST	このキーに対する書き込みアクセス権をユーザ・ロールに付与すると、ユーザはプライバシー・フィールドにパブリック issue を入力できるようになります。
PR_RESOLUTION.START_DATE	このキーによって、ユーザ・ロールは issue の検索時にクエリ・フィルタに下限値として作成日を入力できるようになります。通常は、PR_RESOLUTION.STOP_DATE と合わせて使用されます。
PR_RESOLUTION.START_UPDATE	このキーによって、ユーザ・ロールは issue の検索時にクエリ・フィルタに下限値として最終修正日を入力できるようになります。通常は、PR_RESOLUTION.STOP_UPDATE と合わせて使用されます。
PR_RESOLUTION.STATUS	ステータス
PR_RESOLUTION.STATUS_HIST	
PR_RESOLUTION.STOP_DATE	このキーによって、ユーザ・ロールは issue の検索時にクエリ・フィルタに上限値として作成日を入力できるようになります。通常は、PR_RESOLUTION.START_DATE と合わせて使用されます。

許可キー	説明
PR_RESOLUTION.STOP_UPDATE	このキーによって、ユーザ・ロールは issue の検索時にクエリ・フィルタに上限値として最終修正日を入力できるようになります。通常は、PR_RESOLUTION.START_UPDATE と合わせて使用されます。
PR_RESOLUTION.TIMESTAMP	最終修正日
PR_RESOLUTION.VIEW_BUTTON	レポートに [View] ボタンを表示するかどうかを制御します。これを制御するには読み取りアクセス権が必要です。
SE_LOGIN_MESSAGE	すべてのユーザのホーム・ページに表示されるサインオン・メッセージを変更するためのアクセスを提供します。この機能には書き込みアクセス権が必要です。
SE_PRIVACY_GROUP	書き込みアクセス権によって、プライバシー・グループのリストの作成と管理が可能になります。
SE_SECURITY_GROUP	このキーによってユーザ・ロールのリストの作成と管理を行います。書き込みアクセス権が必要です。
SE_SECURITY_MODULE	セキュリティ・オブジェクトのリストの作成と保守を行います。通常、セキュリティ・オブジェクトは ExtraView によって自動的に作成されます。書き込みアクセス権が必要です。
SE_SECURITY_PERMISSION	このキーで、インストール内のセキュリティ許可キーを更新するためのアクセスを制御します。書き込みアクセス権が必要です。このキーに対するアクセス権がない場合、セキュリティ許可を変更できません。
SE_SECURITY_USER	ユーザ・アカウントとユーザ・アカウント詳細の作成と管理のためのアクセスを提供します。書き込みアクセス権が必要です。
SR_PERSONAL_CHART	読み取りアクセス権によって、パーソナル・グラフを保存して、個人的に作成されたグラフをユーザのホーム・ページに配置するためのアクセスを制御します。
SR_PERSONAL_REPORT	パーソナル・レポートを作成して実行できるかどうかを指定します。読み取りアクセス権と書き込みアクセス権の両方を使用して、必要な機能を指定することができます。
SR_PUBLIC_CHART	読み取りアクセス権によって、パブリック・グラフを保存して、ユーザのホーム・ページにパブリック・グラフを配置するためのアクセスを制御します。
SR_PUBLIC_LINKED_REPORT	読み取りアクセス権によって、リンクされているレポート機能へのアクセスを制御します。

許可キー	説明
SR_PUBLIC_REPORT	このキーで、パブリック・レポートへのアクセスを制御します。読み取りアクセス権ではパブリック・レポートを実行でき、書き込みアクセス権ではパブリック・レポートを作成できます。
SR_USERGROUP_CHART	このキーに対する読み取りアクセス権によって、現在のユーザ・ロールに作成されたグラフを表示して実行できます。書き込みアクセス権では、それらのグラフを作成できます。
SR_USERGROUP_REPORT	このキーに対する読み取りアクセス権によって、現在のユーザ・ロールに作成されたレポートを表示して実行できます。書き込みアクセス権では、それらのレポートを作成できます。

付録 C – 言語およびロケール・コード

Java でサポートされている、すなわち ExtraView でサポートされている言語およびロケールのリストを次に示します。

言語	国	ロケール ID
アラビア語	サウジアラビア	ar_SA
中国語(簡体字)	中国	zh_CN
中国語(繁体字)	台湾	zh_TW
オランダ語	オランダ	nl_NL
英語	オーストラリア	en_AU
英語	カナダ	en_CA
英語	英国	en_GB
英語	米国	en_US
フランス語	カナダ	fr_CA
フランス語	フランス	fr_FR
ドイツ語	ドイツ	de_DE
ヘブライ語	イスラエル	iw_IL
ヒンズー語	インド	hi_IN
イタリア語	イタリア	it_IT
日本語	日本	ja_JP
韓国語	韓国	ko_KR
ポルトガル語	ブラジル	pt_BR
スペイン語	スペイン	es_ES
スウェーデン語	スウェーデン	sv_SE
タイ語(アラビア数字)	タイ	th_TH
タイ語(タイ数字)	タイ	th_TH_TH

次のリストに含まれる言語についても正常に機能すると思われませんが、Sun による Java のリリースについてのテストには含まれていません。

言語	国	ロケール ID
アルバニア語	アルバニア	sq_AL
アラビア語	アルジェリア	ar_DZ
アラビア語	バーレーン	ar_BH
アラビア語	エジプト	ar_EG
アラビア語	イラク	ar_IQ
アラビア語	ヨルダン	ar_JO
アラビア語	クウェート	ar_KW
アラビア語	レバノン	ar_LB
アラビア語	リビア	ar_LY

言語	国	ロケール ID
アラビア語	モロッコ	ar_MA
アラビア語	オマーン	ar_OM
アラビア語	カタール	ar_QA
アラビア語	スーダン	ar_SD
アラビア語	シリア	ar_SY
アラビア語	チュニジア	ar_TN
アラビア語	アラブ首長国連邦	ar_AE
アラビア語	イエメン	ar_YE
ブルガリア語	ブルガリア	bg_BG
ベラルーシ語	ベラルーシ	be_BY
カタロニア語	スペイン	ca_ES
中国語	香港	zh_HK
クロアチア語	クロアチア	hr_HR
チェコ語	チェコ共和国	cs_CZ
デンマーク語	デンマーク	da_DK
オランダ語	ベルギー	nl_BE
英語	インド	en_IN
英語	アイルランド	en_IE
英語	ニュージーランド	en_NZ
英語	南アフリカ	en_ZA
エストニア語	エストニア	et_EE
フィンランド語	フィンランド	fi_FI
フランス語	ベルギー	fr_BE
フランス語	ルクセンブルグ	fr_LU
フランス語	スイス	fr_CH
ドイツ語	オーストリア	de_AT
ドイツ語	ルクセンブルグ	de_LU
ドイツ語	スイス	de_CH
ギリシャ語	ギリシャ	el_GR
ハンガリー語	ハンガリー	hu_HU
アイスランド語	アイスランド	is_IS
イタリア語	スイス	it_CH
ラトビア語	ラトビア	lv_LV
リトアニア語	リトアニア	lt_LT
マケドニア語	マケドニア	mk_MK
ノルウェー語 (ブークモール)	ノルウェー	no_NO
ノルウェー語 (ニーノシュク)	ノルウェー	no_NO_NY
ポーランド語	ポーランド	pl_PL
ポルトガル語	ポルトガル	pt_PT
ルーマニア語	ルーマニア	ro_RO
ロシア語	ロシア	ru_RU

言語	国	ロケール ID
セルビア語(キリル文字)	ユーゴスラビア	sr_YU
セルビア・クロアチア語	ユーゴスラビア	sh_YU
スロバキア語	スロバキア	sk_SK
スロベニア語	スロベニア	sl_SI
スペイン語	アルゼンチン	es_AR
スペイン語	ボリビア	es_BO
スペイン語	チリ	es_CL
スペイン語	コロンビア	es_CO
スペイン語	コスタリカ	es_CR
スペイン語	ドミニカ共和国	es_DO
スペイン語	エクアドル	es_EC
スペイン語	エルサルバドル	es_SV
スペイン語	グアテマラ	es_GT
スペイン語	ホンジュラス	es_HN
スペイン語	メキシコ	es_MX
スペイン語	ニカラグア	es_NI
スペイン語	パナマ	es_PA
スペイン語	パラグアイ	es_PY
スペイン語	ペルー	es_PE
スペイン語	プエルトリコ	es_PR
スペイン語	ウルグアイ	es_UY
スペイン語	ベネズエラ	es_VE
トルコ語	トルコ	tr_TR
ウクライナ語	ウクライナ	uk_UA

付録 D – タイムゾーン

ExtraView に実装されているタイムゾーンのリストを次に示します。

GMT への 補正值	タイムゾーン
GMT -12:00	Etc/GMT +12
GMT -11:00	Etc/GMT+11
GMT -11:00	MIT
GMT -11:00	Pacific/Apia
GMT -11:00	Pacific/Midway
GMT -11:00	Pacific/Niue
GMT -11:00	Pacific/Pago_Pago
GMT -11:00	Pacific/Samoa
GMT -11:00	US/Samoa
GMT -10:00	America/Adak
GMT -10:00	America/Atka
GMT -10:00	Etc/GMT+10
GMT -10:00	HST
GMT -10:00	Pacific/Fakaofu
GMT -10:00	Pacific/Honolulu
GMT -10:00	Pacific/Johnston
GMT -10:00	Pacific/Rarotonga
GMT -10:00	Pacific/Tahiti
GMT -10:00	SystemV/HST10
GMT -10:00	US/Aleutian
GMT -10:00	US/Hawaii
GMT -9:30	Pacific/Marquesas
GMT -9:00	AST
GMT -9:00	America/Anchorage
GMT -9:00	America/Juneau
GMT -9:00	America/Nome
GMT -9:00	America/Yakutat
GMT -9:00	Etc/GMT+9
GMT -9:00	Pacific/Gambier
GMT -9:00	SystemV/YST9
GMT -9:00	SystemV/YST9YDT
GMT -9:00	US/Alaska

GMT への 補正值	タイムゾーン
GMT -8:00	America/Dawson
GMT -8:00	America/Ensenada
GMT -8:00	America/Los_Angeles
GMT -8:00	America/Tijuana
GMT -8:00	America/Vancouver
GMT -8:00	America/Whitehorse
GMT -8:00	Canada/Pacific
GMT -8:00	Canada/Yukon
GMT -8:00	Etc/GMT+8
GMT -8:00	Mexico/BajaNorte
GMT -8:00	PST
GMT -8:00	PST8PDT
GMT -8:00	Pacific/Pitcairn
GMT -8:00	SystemV/PST8
GMT -8:00	SystemV/PST8PDT
GMT -8:00	US/Pacific
GMT -8:00	US/Pacific-New
GMT -7:00	America/Boise
GMT -7:00	America/Cambridge_Bay
GMT -7:00	America/Chihuahua
GMT -7:00	America/Dawson_Creek
GMT -7:00	America/Denver
GMT -7:00	America/Edmonton
GMT -7:00	America/Hermosillo
GMT -7:00	America/Inuvik
GMT -7:00	America/Mazatlan
GMT -7:00	America/Phoenix
GMT -7:00	America/Shiprock
GMT -7:00	America/Yellowknife
GMT -7:00	Canada/Mountain
GMT -7:00	Etc/GMT+7
GMT -7:00	MST

GMT への 補正值	タイムゾーン
GMT -7:00	MST7MDT
GMT -7:00	Mexico/BajaSur
GMT -7:00	Navajo
GMT -7:00	PNT
GMT -7:00	SystemV/MST7
GMT -7:00	SystemV/MST7MDT
GMT -7:00	US/Arizona
GMT -7:00	US/Mountain
GMT -6:00	America/Belize
GMT -6:00	America/Cancun
GMT -6:00	America/Chicago
GMT -6:00	America/Costa_Rica
GMT -6:00	America/El_Salvador
GMT -6:00	America/Guatemala
GMT -6:00	America/Managua
GMT -6:00	America/Menominee
GMT -6:00	America/Merida
GMT -6:00	America/Mexico_City
GMT -6:00	America/Monterrey
GMT -6:00	America/North_Dakota/Center
GMT -6:00	America/Rainy_River
GMT -6:00	America/Rankin_Inlet
GMT -6:00	America/Regina
GMT -6:00	America/Swift_Current
GMT -6:00	America/Tegucigalpa
GMT -6:00	America/Winnipeg
GMT -6:00	CST
GMT -6:00	CST6CDT
GMT -6:00	Canada/Central
GMT -6:00	Canada/East-Saskatchewan
GMT -6:00	Canada/Saskatchewan
GMT -6:00	Chile/EasterIsland
GMT -6:00	Etc/GMT+6
GMT -6:00	Pacific/Easter
GMT -6:00	Pacific/Galapagos
GMT -6:00	SystemV/CST6
GMT -6:00	Mexico/General

GMT への 補正值	タイムゾーン
GMT -6:00	SystemV/CST6CDT
GMT -6:00	US/Central
GMT -5:00	America/Bogota
GMT -5:00	America/Cayman
GMT -5:00	America/Detroit
GMT -5:00	America/Eirunepe
GMT -5:00	America/Fort_Wayne
GMT -5:00	America/Grand_Turk
GMT -5:00	America/Guayaquil
GMT -5:00	America/Havana
GMT -5:00	America/Indiana/Indianapolis
GMT -5:00	America/Indiana/Knox
GMT -5:00	America/Indiana/Marengo
GMT -5:00	America/Indiana/Vevay
GMT -5:00	America/Indianapolis
GMT -5:00	America/Iqaluit
GMT -5:00	America/Jamaica
GMT -5:00	America/Kentucky/Louisville
GMT -5:00	America/Kentucky/Monticello
GMT -5:00	America/Knox_IN
GMT -5:00	America/Lima
GMT -5:00	America/Louisville
GMT -5:00	America/Montreal
GMT -5:00	America/Nassau
GMT -5:00	America/New_York
GMT -5:00	America/Nipigon
GMT -5:00	America/Panama
GMT -5:00	America/Pangnirtung
GMT -5:00	America/Port-au-Prince
GMT -5:00	America/Porto_Acre
GMT -5:00	America/Rio_Branco
GMT -5:00	America/Thunder_Bay
GMT -5:00	Brazil/Acre
GMT -5:00	Canada/Eastern
GMT -5:00	Cuba
GMT -5:00	EST
GMT -5:00	EST5EDT

GMT への 補正值	タイムゾーン
GMT -5:00	Etc/GMT+5
GMT -5:00	Jamaica
GMT -5:00	SystemV/EST5
GMT -5:00	SystemV/EST5EDT
GMT -5:00	US/East-Indiana
GMT -5:00	US/Eastern
GMT -5:00	US/Indiana-Starke
GMT -5:00	US/Michigan
GMT -4:00	America/Anguilla
GMT -4:00	America/Antigua
GMT -4:00	America/Aruba
GMT -4:00	America/Asuncion
GMT -4:00	America/Barbados
GMT -4:00	America/Boa_Vista
GMT -4:00	America/Caracas
GMT -4:00	America/Cuiaba
GMT -4:00	America/Curacao
GMT -4:00	America/Dominica
GMT -4:00	America/Glace_Bay
GMT -4:00	America/Goose_Bay
GMT -4:00	America/Grenada
GMT -4:00	America/Guadeloupe
GMT -4:00	America/Guyana
GMT -4:00	America/Halifax
GMT -4:00	America/La_Paz
GMT -4:00	America/Manaus
GMT -4:00	America/Martinique
GMT -4:00	America/Montserrat
GMT -4:00	America/Port_of_Spain
GMT -4:00	America/Porto_Velho
GMT -4:00	America/Puerto_Rico
GMT -4:00	America/Santiago
GMT -4:00	America/Santo_Domingo
GMT -4:00	America/St_Kitts
GMT -4:00	America/St_Lucia
GMT -4:00	America/St_Thomas
GMT -4:00	America/St_Vincent

GMT への 補正值	タイムゾーン
GMT -4:00	America/Thule
GMT -4:00	America/Tortola
GMT -4:00	America/Virgin
GMT -4:00	Antarctica/Palmer
GMT -4:00	Atlantic/Bermuda
GMT -4:00	Atlantic/Stanley
GMT -4:00	Brazil/West
GMT -4:00	Canada/Atlantic
GMT -4:00	Chile/Continental
GMT -4:00	Etc/GMT+4
GMT -4:00	PRT
GMT -4:00	SystemV/AST4
GMT -4:00	SystemV/AST4ADT
GMT -3:30	America/St_Johns
GMT -3:30	CNT
GMT -3:30	Canada/Newfoundland
GMT -3:00	AGT
GMT -3:00	America/Araguaina
GMT -3:00	America/Belem
GMT -3:00	America/Buenos_Aires
GMT -3:00	America/Catamarca
GMT -3:00	America/Cayenne
GMT -3:00	America/Cordoba
GMT -3:00	America/Fortaleza
GMT -3:00	America/Godthab
GMT -3:00	America/Jujuy
GMT -3:00	America/Maceio
GMT -3:00	America/Mendoza
GMT -3:00	America/Miquelon
GMT -3:00	America/Montevideo
GMT -3:00	America/Paramaribo
GMT -3:00	America/Recife
GMT -3:00	America/Rosario
GMT -3:00	America/Sao_Paulo
GMT -3:00	Antarctica/Rothera
GMT -3:00	BET
GMT -3:00	Brazil/East

GMT への 補正值	タイムゾーン
GMT -3:00	Etc/GMT+3
GMT -2:00	America/Noronha
GMT -2:00	Atlantic/South_Georgia
GMT -2:00	Brazil/DeNoronha
GMT -2:00	Etc/GMT+2
GMT -1:00	America/Scoresbysund
GMT -1:00	Atlantic/Azores
GMT -1:00	Atlantic/Cape_Verde
GMT -1:00	Etc/GMT+1
GMT +0:00	Africa/Abidjan
GMT +0:00	Africa/Accra
GMT +0:00	Africa/Bamako
GMT +0:00	Africa/Banjul
GMT +0:00	Africa/Bissau
GMT +0:00	Africa/Casablanca
GMT +0:00	Africa/Conakry
GMT +0:00	Africa/Dakar
GMT +0:00	Africa/El_Aaiun
GMT +0:00	Africa/Freetown
GMT +0:00	Africa/Lome
GMT +0:00	Africa/Monrovia
GMT +0:00	Africa/Nouakchott
GMT +0:00	Africa/Ouagadougou
GMT +0:00	Africa/Sao_Tome
GMT +0:00	Africa/Timbuktu
GMT +0:00	America/Danmarkshavn
GMT +0:00	Atlantic/Canary
GMT +0:00	Atlantic/Faeroe
GMT +0:00	Atlantic/Madeira
GMT +0:00	Atlantic/Reykjavik
GMT +0:00	Atlantic/St_Helena
GMT +0:00	Eire
GMT +0:00	Etc/GMT
GMT +0:00	Etc/GMT+0
GMT +0:00	Etc/GMT-0
GMT +0:00	Etc/GMT0
GMT +0:00	Etc/Greenwich

GMT への 補正值	タイムゾーン
GMT +0:00	Etc/UCT
GMT +0:00	Etc/UTC
GMT +0:00	Etc/Universal
GMT +0:00	Etc/Zulu
GMT +0:00	Europe/Belfast
GMT +0:00	Europe/Dublin
GMT +0:00	Europe/Lisbon
GMT +0:00	Europe/London
GMT +0:00	GB
GMT +0:00	GB-Eire
GMT +0:00	GMT
GMT +0:00	GMT0
GMT +0:00	Greenwich
GMT +0:00	Iceland
GMT +0:00	Portugal
GMT +0:00	UCT
GMT +0:00	UTC
GMT +0:00	Universal
GMT +0:00	WET
GMT +0:00	Zulu
GMT +1:00	Africa/Algiers
GMT +1:00	Africa/Bangui
GMT +1:00	Africa/Brazzaville
GMT +1:00	Africa/Ceuta
GMT +1:00	Africa/Douala
GMT +1:00	Africa/Kinshasa
GMT +1:00	Africa/Lagos
GMT +1:00	Africa/Libreville
GMT +1:00	Africa/Luanda
GMT +1:00	Africa/Malabo
GMT +1:00	Africa/Ndjamena
GMT +1:00	Africa/Niamey
GMT +1:00	Africa/Porto-Novo
GMT +1:00	Africa/Tunis
GMT +1:00	Africa/Windhoek
GMT +1:00	Arctic/Longyearbyen
GMT +1:00	Atlantic/Jan_Mayen

GMT への 補正值	タイムゾーン
GMT +1:00	CET
GMT +1:00	ECT
GMT +1:00	Etc/GMT-1
GMT +1:00	Europe/Amsterdam
GMT +1:00	Europe/Andorra
GMT +1:00	Europe/Belgrade
GMT +1:00	Europe/Berlin
GMT +1:00	Europe/Bratislava
GMT +1:00	Europe/Brussels
GMT +1:00	Europe/Budapest
GMT +1:00	Europe/Copenhagen
GMT +1:00	Europe/Gibraltar
GMT +1:00	Europe/Ljubljana
GMT +1:00	Europe/Luxembourg
GMT +1:00	Europe/Madrid
GMT +1:00	Europe/Malta
GMT +1:00	Europe/Monaco
GMT +1:00	Europe/Oslo
GMT +1:00	Europe/Paris
GMT +1:00	Europe/Prague
GMT +1:00	Europe/Rome
GMT +1:00	Europe/San_Marino
GMT +1:00	Europe/Sarajevo
GMT +1:00	Europe/Skopje
GMT +1:00	Europe/Stockholm
GMT +1:00	Europe/Tirane
GMT +1:00	Europe/Vaduz
GMT +1:00	Europe/Vatican
GMT +1:00	Europe/Vienna
GMT +1:00	Europe/Warsaw
GMT +1:00	Europe/Zagreb
GMT +1:00	Europe/Zurich
GMT +1:00	MET
GMT +1:00	Poland
GMT +2:00	ART
GMT +2:00	Africa/Blantyre
GMT +2:00	Africa/Bujumbura

GMT への 補正值	タイムゾーン
GMT +2:00	Africa/Cairo
GMT +2:00	Africa/Gaborone
GMT +2:00	Africa/Harare
GMT +2:00	Africa/Johannesburg
GMT +2:00	Africa/Kigali
GMT +2:00	Africa/Lubumbashi
GMT +2:00	Africa/Lusaka
GMT +2:00	Africa/Maputo
GMT +2:00	Africa/Maseru
GMT +2:00	Africa/Mbabane
GMT +2:00	Africa/Tripoli
GMT +2:00	Asia/Amman
GMT +2:00	Asia/Beirut
GMT +2:00	Asia/Damascus
GMT +2:00	Asia/Gaza
GMT +2:00	Asia/Istanbul
GMT +2:00	Asia/Jerusalem
GMT +2:00	Asia/Nicosia
GMT +2:00	Asia/Tel_Aviv
GMT +2:00	CAT
GMT +2:00	EET
GMT +2:00	Egypt
GMT +2:00	Etc/GMT-2
GMT +2:00	Europe/Athens
GMT +2:00	Europe/Bucharest
GMT +2:00	Europe/Chisinau
GMT +2:00	Europe/Helsinki
GMT +2:00	Europe/Istanbul
GMT +2:00	Europe/Kaliningrad
GMT +2:00	Europe/Kiev
GMT +2:00	Europe/Minsk
GMT +2:00	Europe/Nicosia
GMT +2:00	Europe/Riga
GMT +2:00	Europe/Simferopol
GMT +2:00	Europe/Sofia
GMT +2:00	Europe/Tallinn
GMT +2:00	Europe/Tiraspol

GMT への 補正值	タイムゾーン
GMT +2:00	Europe/Uzhgorod
GMT +2:00	Europe/Vilnius
GMT +2:00	Europe/Zaporozhye
GMT +2:00	Israel
GMT +2:00	Libya
GMT +2:00	Turkey
GMT +3:00	Africa/Addis_Ababa
GMT +3:00	Africa/Asmera
GMT +3:00	Africa/Dar_es_Salaam
GMT +3:00	Africa/Djibouti
GMT +3:00	Africa/Kampala
GMT +3:00	Africa/Khartoum
GMT +3:00	Africa/Mogadishu
GMT +3:00	Africa/Nairobi
GMT +3:00	Antarctica/Syowa
GMT +3:00	Asia/Aden
GMT +3:00	Asia/Baghdad
GMT +3:00	Asia/Bahrain
GMT +3:00	Asia/Kuwait
GMT +3:00	Asia/Qatar
GMT +3:00	Asia/Riyadh
GMT +3:00	EAT
GMT +3:00	Etc/GMT-3
GMT +3:00	Europe/Moscow
GMT +3:00	Indian/Antananarivo
GMT +3:00	Indian/Comoro
GMT +3:00	Indian/Mayotte
GMT +3:00	W-SU
GMT +3:30	Asia/Tehran
GMT +3:30	Iran
GMT +4:00	Asia/Aqtau
GMT +4:00	Asia/Baku
GMT +4:00	Asia/Dubai
GMT +4:00	Asia/Muscat
GMT +4:00	Asia/Oral
GMT +4:00	Asia/Tbilisi
GMT +4:00	Asia/Yerevan

GMT への 補正值	タイムゾーン
GMT +4:00	Etc/GMT-4
GMT +4:00	Europe/Samara
GMT +4:00	Indian/Mahe
GMT +4:00	Indian/Mauritius
GMT +4:00	Indian/Reunion
GMT +4:00	NET
GMT +4:30	Asia/Kabul
GMT +5:00	Asia/Aqtobe
GMT +5:00	Asia/Ashgabat
GMT +5:00	Asia/Ashkhabad
GMT +5:00	Asia/Bishkek
GMT +5:00	Asia/Dushanbe
GMT +5:00	Asia/Karachi
GMT +5:00	Asia/Samarkand
GMT +5:00	Asia/Tashkent
GMT +5:00	Asia/Yekaterinburg
GMT +5:00	Etc/GMT-5
GMT +5:00	Indian/Kerguelen
GMT +5:00	Indian/Maldives
GMT +5:00	PLT
GMT +5:30	Asia/Calcutta
GMT +5:30	IST
GMT +6:00	Antarctica/Mawson
GMT +6:00	Antarctica/Vostok
GMT +6:00	Asia/Almaty
GMT +6:00	Asia/Colombo
GMT +6:00	Asia/Dacca
GMT +6:00	Asia/Dhaka
GMT +6:00	Asia/Novosibirsk
GMT +6:00	Asia/Omsk
GMT +6:00	Asia/Qyzylorda
GMT +6:00	Asia/Thimbu
GMT +6:00	Asia/Thimphu
GMT +6:00	BST
GMT +6:00	Etc/GMT-6
GMT +6:00	Indian/Chagos
GMT +6:30	Asia/Rangoon

GMT への 補正值	タイムゾーン
GMT +6:30	Indian/Cocos
GMT +7:00	Antarctica/Davis
GMT +7:00	Asia/Bangkok
GMT +7:00	Asia/Hovd
GMT +7:00	Asia/Jakarta
GMT +7:00	Asia/Krasnoyarsk
GMT +7:00	Asia/Phnom_Penh
GMT +7:00	Asia/Pontianak
GMT +7:00	Asia/Saigon
GMT +7:00	Asia/Vientiane
GMT +7:00	Etc/GMT-7
GMT +7:00	Indian/Christmas
GMT +7:00	VST
GMT +8:00	Antarctica/Casey
GMT +8:00	Asia/Brunei
GMT +8:00	Asia/Chongqing
GMT +8:00	Asia/Chungking
GMT +8:00	Asia/Harbin
GMT +8:00	Asia/Hong_Kong
GMT +8:00	Asia/Irkutsk
GMT +8:00	Asia/Kashgar
GMT +8:00	Asia/Kuala_Lumpur
GMT +8:00	Asia/Kuching
GMT +8:00	Asia/Macao
GMT +8:00	Asia/Macau
GMT +8:00	Asia/Makassar
GMT +8:00	Asia/Manila
GMT +8:00	Asia/Shanghai
GMT +8:00	Asia/Singapore
GMT +8:00	Asia/Taipei
GMT +8:00	Asia/Ujung_Pandang
GMT +8:00	Asia/Ulaanbaatar
GMT +8:00	Asia/Ulan_Bator
GMT +8:00	Asia/Urumqi
GMT +8:00	Australia/Perth
GMT +8:00	Australia/West
GMT +8:00	CTT

GMT への 補正值	タイムゾーン
GMT +8:00	Etc/GMT-8
GMT +8:00	Hongkong
GMT +8:00	PRC
GMT +8:00	Singapore
GMT +9:00	Asia/Choibalsan
GMT +9:00	Asia/Dili
GMT +9:00	Asia/Jayapura
GMT +9:00	Asia/Pyongyang
GMT +9:00	Asia/Seoul
GMT +9:00	Asia/Tokyo
GMT +9:00	Asia/Yakutsk
GMT +9:00	JST
GMT +9:00	Japan
GMT +9:00	Etc/GMT-9
GMT +9:00	Pacific/Palau
GMT +9:00	ROK
GMT +9:30	ACT
GMT +9:30	Australia/Adelaide
GMT +9:30	Australia/Broken_Hill
GMT +9:30	Australia/Darwin
GMT +9:30	Australia/North
GMT +9:30	Australia/South
GMT +9:30	Australia/Yancowinna
GMT +10:00	AET
GMT +10:00	Antarctica/DumontDURville
GMT +10:00	Asia/Sakhalin
GMT +10:00	Asia/Vladivostok
GMT +10:00	Australia/ACT
GMT +10:00	Australia/Brisbane
GMT +10:00	Australia/Canberra
GMT +10:00	Australia/Hobart
GMT +10:00	Australia/Lindeman
GMT +10:00	Australia/Melbourne
GMT +10:00	Australia/NSW
GMT +10:00	Australia/Queensland
GMT +10:00	Australia/Sydney
GMT +10:00	Australia/Tasmania

GMT への 補正值	タイムゾーン
GMT +10:00	Australia/Victoria
GMT +10:00	Etc/GMT-10
GMT +10:00	Pacific/Guam
GMT +10:00	Pacific/Port_Moresby
GMT +10:00	Pacific/Saipan
GMT +10:00	Pacific/Truk
GMT +10:00	Pacific/Yap
GMT +10:30	Australia/LHI
GMT +10:30	Australia/Lord_Howe
GMT +11:00	Asia/Magadan
GMT +11:00	Etc/GMT-11
GMT +11:00	Pacific/Efate
GMT +11:00	Pacific/Guadalcanal
GMT +11:00	Pacific/Kosrae
GMT +11:00	Pacific/Noumea
GMT +11:00	Pacific/Ponape
GMT +11:00	SST
GMT +11:30	Pacific/Norfolk

GMT への 補正值	タイムゾーン
GMT +12:00	Antarctica/McMurdo
GMT +12:00	Antarctica/South_Pole
GMT +12:00	Asia/Anadyr
GMT +12:00	Asia/Kamchatka
GMT +12:00	Etc/GMT-12
GMT +12:00	Kwajalein
GMT +12:00	NST
GMT +12:00	NZ
GMT +12:00	Pacific/Auckland
GMT +12:00	Pacific/Fiji
GMT +12:00	Pacific/Funafuti
GMT +12:00	Pacific/Kwajalein
GMT +12:00	Pacific/Majuro
GMT +12:00	Pacific/Nauru
GMT +12:00	Pacific/Tarawa
GMT +12:00	Pacific/Wake
GMT +12:00	Pacific/Wallis

付録 E – 文字セットの値

次の表に、ASCII-ISO 8859-1 規格に定められている ISO Latin 1 Character Entities を示します。

番号	記号	HTML コード	番号	記号	HTML コード
32		 	143		
33	!	!	144		
34	"	"	145	‘	‘
35	#	#	146	’	’
36	\$	$	147	“	“
37	%	%	148	”	”
38	&	&	149	•	•
39	’	'	150	—	–
40	((151	—	—
41))	152	~	˜
42	*	*	153	™	™
43	+	+	154	š	š
44	,	,	155	›	›
45	-	-	156	œ	œ
46	.	.	157		
47	/	/	158	ž	ž
48	0	0	159	ÿ	Ÿ
49	1	1	160		
50	2	2	161	ı	¡
51	3	3	162	¢	¢
52	4	4	163	£	£
53	5	5	164	¤	¤
54	6	6	165	¥	¥
55	7	7	166	ı	¦
56	8	8	167	§	§
57	9	9	168	¨	¨
58	:	:	169	©	©
59	;	;	170	ª	ª
60	<	<	171	«	«
61	=	=	172	¬	¬
62	>	>	173		­
63	?	?	174	®	®
64	@	@	175	ˆ	¯
65	A	A	176	◦	°
66	B	B	177	±	±

番号	記号	HTMLコード	番号	記号	HTMLコード
67	C	C	178	²	²
68	D	D	179	³	³
69	E	E	180	´	´
70	F	F	181	μ	µ
71	G	G	182	¶	¶
72	H	H	183	·	·
73	I	I	184	˙	¸
74	J	J	185	¹	¹
75	K	K	186	º	º
76	L	L	187	»	»
77	M	M	188	¼	¼
78	N	N	189	½	½
79	O	O	190	¾	¾
80	P	P	191	¿	¿
81	Q	Q	192	À	À
82	R	R	193	Á	Á
83	S	S	194	Â	Â
84	T	T	195	Ã	Ã
85	U	U	196	Ä	Ä
86	V	V	197	Å	Å
87	W	W	198	Æ	Æ
88	X	X	199	Ç	Ç
89	Y	Y	200	È	È
90	Z	Z	201	É	É
91	[[202	Ê	Ê
92	\	\	203	Ë	Ë
93]]	204	Ì	Ì
94	^	^	205	Í	Í
95	_	_	206	Î	Î
96	`	`	207	Ï	Ï
97	a	a	208	Ð	Ð
98	b	b	209	Ñ	Ñ
99	c	c	210	Ò	Ò
100	d	d	211	Ó	Ó
101	e	e	212	Ô	Ô
102	f	f	213	Õ	Õ
103	g	g	214	Ö	Ö
104	h	h	215	×	×
105	i	i	216	Ø	Ø
106	j	j	217	Ù	Ù
107	k	k	218	Ú	Ú

番号	記号	HTML コード	番号	記号	HTML コード
108	l	l	219	Û	Û
109	m	m	220	Ü	Ü
110	n	n	221	Ý	Ý
111	o	o	222	Ð	Þ
112	p	p	223	ß	ß
113	q	q	224	à	à
114	r	r	225	á	á
115	s	s	226	â	â
116	t	t	227	ã	ã
117	u	u	228	ä	ä
118	v	v	229	å	å
119	w	w	230	æ	æ
120	x	x	231	ç	ç
121	y	y	232	è	è
122	z	z	233	é	é
123	{	{	234	ê	ê
124		|	235	ë	ë
125	}	}	236	ì	ì
126	~	~	237	í	í
127			238	î	î
128	€	€	239	ï	ï
129			240	ð	ð
130	,	‚	241	ñ	ñ
131	f	ƒ	242	ò	ò
132	„	„	243	ó	ó
133	...	…	244	ô	ô
134	†	†	245	õ	õ
135	‡	‡	246	ö	ö
136	^	ˆ	247	÷	÷
137	‰	‰	248	ø	ø
138	Š	Š	249	ù	ù
139	‹	‹	250	ú	ú
140	Œ	Œ	251	û	û
141			252	ü	ü
142	Ž	Ž	253	ý	ý
143			254	þ	þ

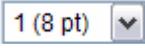
付録 F – HTML エリア・ユーティリティ

HTML エリアは HTML のエディタとして使用でき、HTML コード・セットを知らなくても HTML を作成できます。ワープロに似た多くの機能を提供し、HTML を直接編集するように切り替えることもできます。

現在は、Internet Explorer ブラウザに使用が限定されていますが、将来的にはより広範囲のブラウザの機能を提供する予定です。HTML エリアのツールバーは次のようになっています。



使い方は直感的ですが、念のため次の表で説明します。

機能	説明
	使用できるフォントをリストから選択します。このリストは管理者がカスタマイズできます。
	フォント・サイズをリストから選択します。
	選択したテキストの太字表示を切り替えます。
	選択したテキストの斜体表示を切り替えます。
	選択したテキストの下線表示を切り替えます。
	選択したテキストを左端揃えにします。
	選択したテキストを中央揃えにします。
	選択したテキストを右端揃えにします。
	段落番号付きリストのオン、オフを切り替えます。
	ビュレット付きリストのオン、オフを切り替えます。
	選択したテキストのインデントを解除します。
	選択したテキストをインデントします。
	選択したテキストの色を選択します。
	選択したテキストの背景色を選択します。
	横罫線を入れます。
	選択したテキストのリンクを作成します。
	画像にリンクを挿入します (サーバで画像を使用できる必要があります)

機能	説明
	定義したサイズの表を挿入します。
	HTML 編集モードとテキスト編集モードを切り替えます。
	HTML を編集するために、サイズを変更できるポップアップ・ウィンドウを開いたり閉じたりします。
	HTML エリア・ユーティリティについての情報

索引

I

[Allowed Value Types] · 127
 [Dependent Pick Lists] · 127
[FILTER_CHILD_VALUES] フィールド · 124
[KEYWORD] フィールド · 123
[PROMO] フィールド · 124

A

ABBREVIATED_HISTORY · 14, 162
ABBREVIATED_HOME_PAGE · 14, 162
AD_HOC_EMAIL_FROM_ADDRESS · 23, 195
AD_HOC_EMAIL_FROM_SENDER · 23, 195
ADMIN_BYPASS_GROUP · 21, 64, 174, 177
ADMIN_LIST_SIZE · 18, 81, 82, 168
All Behavior Settings · 263
Allow selection on reports · 114
Allow Selection on Reports · 100
ALLOW_ANONYMOUS_API_ACCESS · 28, 225
ALLOW_CHART_PRODUCT · 14, 162
ALLOW_CHART_RELEASE · 14, 162
ALLOW_CHART_STATUS · 14, 162
ALLOW_DEBUG_URL · 30, 256
ALLOW_PASSWORD_CHG_AT_SIGNON · 13, 65
ALLOW_SEARCH_TEXT_UDFS · 14, 162
ALLOW_UNLIMITED_SEARCH · 14, 162
ALLOWED_ATTACH_SEARCH_FILE_EXT · 14, 162
Alternate field title · 143
ANONYMOUS_API_USER_ID · 28, 225
API · iii, 8, 11, 14, 28, 109, 143, 145, 162, 206,
 225, 229, 232, 240, 241, 251, 271, 272, 277,
 278
APP_HOME · 29, 103, 116, 117, 254
Attachments · 14, 162
AUTO_SIGNOFF_ON_USER_EXIT · 25, 61, 207

B

BatchMail □グ · 282, 287
BG_ALT_COLOR · 17, 167
BG_COLOR · 12, 17, 167
BORDER_COLOR · 17, 167

C

CACHE_AREA_PROJECT · 18, 168

CACHE_COHERENCY_POLL_TIME · 25, 207
CF_ALL_BEHAVIOR_SETTINGS · 293
CF_ALLOWED_VALUES · 293
CF_ALLOWEDLOCALES · 293
CF_ALLOWEDVALUE_TYPE · 293
CF_API_SETTINGS · 293
CF_AREA · 293
CF_CATEGORY · 293
CF_COMPANY_SETTINGS · 293
CF_DATA_DICTIONARY · 293
CF_DEBUG_SETTINGS · 293
CF_DISPLAY_INFO · 293
CF_DISPLAY_SETTINGS · 294
CF_EMAIL_SETTINGS · 294
CF_ENABLE_DISABLE_USER · 294
CF_ENVIRONMENT · 294
CF_EXPIRE_PASSWORD · 294
CF_FILE_IMPORT · 294
CF_INSTALLATION_DETAILS · 294
CF_ITEMDATA · 294
CF_LAYOUT · 294
CF_LAYOUT_TYPE · 294
CF_LICENSE · 294
CF_LOCALIZE · 294
CF_MANAGE_USER_CONNECTION · 295
CF_METADATA · 295
CF_METADATA_UPDATER · 295
CF_MODULE · 295
CF_MODULE_TYPE · 295
CF_OBJECT_IMPORT · 295
CF_PERSONAL_OPTIONS · 38, 295
CF_PRIORITY · 295
CF_PRIVACY_GROUPS · 295
CF_PRODUCT · 295
CF_PRODUCT_LINE · 295
CF_PROJECT · 296
CF_RELATIONSHIP_GROUP · 296
CF_RELATIONSHIP_GROUP_DELETE · 296
CF_RELATIONSHIP_GROUP_EDIT · 296
CF_RELATIONSHIP_GROUP_PROBLEM_A
 DD_PROBLEM_BUTTON · 296
CF_RELATIONSHIP_GROUP_VIEW · 296
CF_REPORT_SETTINGS · 296
CF_REPORT_USER · 296
CF_RESOLUTION · 296
CF_SESSION_SETTINGS · 296
CF_SEVERITY · 296
CF_SSO_SETTINGS · 296
CF_STATISTICS · 296
CF_STATUS · 297

CF_STATUS_RULES · 297
CF_STATUS_SIGNATURES · 297
CF_SYSTEM_LOG · 297
CF_SYSTEM_LOG_TYPE · 297
CF_SYSTEM_SIGNON · 297
CF_TEMPLATE · 297
CF_TRANSLATOR · 297
CF_UDF_LIST · 297
CF_USER_GROUPS · 297
CF_USER_SETTINGS · 297
CF_VERSION_INFO · 298
CF_WORKFLOW_DEFAULTS · 298
Change Password · 13, 65
Child key · 111
CLI · iii, 8, 14, 28, 109, 143, 162, 225, 232, 240,
243, 252, 277
CLI_EDIT_MULTI_VALUE_FIELDS · 28, 225
CLIENT_IP_ADDRESS_CHECK · 25, 60, 207
Company Information Settings · 10, 11, 12, 27,
74, 75, 206, 213
COMPANY_NAME · 16, 21, 27, 32, 55, 66, 74, 75,
76, 77, 161, 165, 174, 213, 214, 237
configuration.properties · 287
COPY_ATTACHMENT_ON_CLONE · 21, 174
CSS_HOME · 29, 33, 254
CUSTOM_AUTHENTICATION · 28, 214

D

DATE_CLOSED · 120
DATE_CLOSED_SINCE · 120
DATE_CREATED · 120, 194
DATE_CREATED_SINCE · 120
DATE_LAST_STATUS_ · 120
DB_TIMEZONE · 18, 169
Default Value · 118
DEFAULT_CHART_FONT · 17, 57, 167
DEFAULT_DATE_FORMAT · 19, 169
DEFAULT_FONT · 17, 167
DEFAULT_LANGUAGE · 29, 254
DEFAULT_REGION · 29, 254
DEFAULT_SORT_ORDER · 14, 162
DEFAULT_STATUS · 21, 174
DEFAULT_TEXT_REPORT_DELIMITER · 14, 28, 162,
225, 245
DEFAULT_TIMEZONE · 25, 207
DEFAULT_USER_FOR_EMAIL · 23, 196
DEFAULT_USER_GROUP · 21, 74, 174
DEFAULT_VARIANT · 29, 254
Dependent SQL · 118
Disable User Access · 63
DISALLOW_AREA_0_DATA · 21, 85, 86, 174
DISALLOW_PROJECT_0_DATA · 21, 85, 86, 174
Display as URL · 102, 116
Display format · 144

Display Settings · 11, 18, 37, 168
Display type · 112
Document Type Definition · 229
DOMAIN · 29, 254
DRILLDOWN_ATTRIBUTE · 14, 162
DTD · 229, 231, 232, 242

E

Email · 11, 23, 24, 31, 32, 55, 56, 63, 121, 195
Email Features
 Disable Automatic Generation · 191
 Disable for Extrnal Users · 192
Email Notification · 11, 23, 195
Email Templates · 193
EMAIL_ADDRESS · 121, 195, 215
EMAIL_ADMINISTRATOR_NAME · 23, 31, 196
EMAIL_ADMINISTRATOR_USER_ID · 24, 196
EMAIL_BCC_ARCHIVE · 24, 196
EMAIL_CUSTOMER_BOX · 24, 196
EMAIL_DIRECTORY · 24, 196
EMAIL_FROM_USER_ID · 24, 31, 196
EMAIL_FROM_USER_NAME · 24, 196
EMAIL_MODULE_OWNER_ALWAYS · 24, 196
EMAIL_NOTIFICATION · 24, 189, 196
EMAIL_SUBJECT_TEMPLATE · 24, 32, 190, 196
Embedded Layouts · 146
Enable interest list · 114
Enable User Access · 63
ENABLE_AREAS · 6, 29, 254
ENABLE_COMPANY_NAME_ACCESS · 21, 27, 66,
75, 76, 77, 174, 214
ENABLE_PRIVACY_GROUPS · 13, 65, 66, 76
ENABLE_PROJECTS · 6, 29, 254
ENFORCE_DETAILED_USER_INFO · 13, 60, 65
ENFORCE_STATE_CHANGE_RULES · 21, 31, 118,
175, 176, 177
ENFORCE_UNIQUE_RELEASES · 22, 175
Environment Settings · 10, 11, 29, 253, 254

F

FDA 21 CFR Part 11 · 172
FILL_IN_REPEATING_RECORDS · 14, 163
Filter criteria · 115
Filter Criteria · 101
FILTER_CHILD_VALUES · 22, 175
FILTER_MODULE_BY_CATEGORY · 22, 175
FIXED_WIDTH_FONT · 17, 167
FOLD_TEXT_POSITION · 15, 19, 163, 169
FOLD_WORD_POSITION · 15, 19, 163, 169
Font and Color Settings · 17, 167

G

GENERATE_EMAIL_BOX · 24, 197

H

Help Text · 118
Help URL · 119
HELP_HOME · 29, 254, 281
HIGHLIGHT_COLOR · 17, 167
HIGHLIGHT_COLOR_ADD · 17, 167
HIGHLIGHT_COLOR_DELETE · 17, 167
HIGHLIGHT_COLOR_UPDATE · 17, 167
HIGHLIGHT_LAST_CHANGE_USER · 15, 163
HIGHLIGHT_TIMESTAMP · 15, 163
HOME_PAGE_REFRESH_SECONDS · 15, 163
HTML Area · 19, 166
HTML modifier · 145
HTML エリア表示タイプ · 96
HTMLAREA_ROW_HEIGHT · 19, 112, 169
HTML エリア · 112, 119, 169, 193, 323
HTML ベースのヘルプ · 280
HTTP_CHARSET · 29, 254

I

IGNORE_DEACTIVATED_USER_FIELDS · 13, 65
IGNORE_USER_GROUP · 13, 22, 58, 66, 79, 113, 175, 210, 211
IMG_HOME · 29, 40, 45, 254, 255
INSERT_REPORT_HEADERS · 15, 163
Interest List · 79, 202
IP address · 62
IP アドレス · 25, 60, 63
IP アドレス · 207
Is sortable · 117
Is Sortable · 101
Issue Records · 100, 109
issue のクローズ · 181
ITEM_TABLE_CARDINALITY · 15, 163

J

Java · 2, 3, 29, 254, 261, 277, 278, 287, 309
JavaScript · 2, 16, 52, 119, 124, 128, 131, 132, 145, 161, 164, 257, 278, 279
JavaScript Refresh · 128

K

KEEP_FAMILY_SESSIONS_TIMEOUT · 25, 207

L

LABEL_COLOR · 17, 167
LABEL_WRAP_POSITION · 19, 143, 169
Layout Types · 170
Layouts & Display · 11, 14, 17, 18, 37, 133, 139, 148, 162, 165, 167, 168, 170
LDAP · 2, 10, 11, 28, 57, 206, 214, 215, 216, 217, 218, 219, 220, 221, 222, 224, 296
LDAP_DEFAULT_AREA · 28, 214
LDAP_DEFAULT_PROJECT · 28, 214
LDAP_HOST · 28, 214
LDAP_MANAGER · 28
LDAP_PSWRD · 28, 214
LDAP_ROOT · 28, 214
LDAP_USER_LOOKUP · 28, 214
LIMIT_QUERY_ROWS · 15, 163
LIMIT_WORD_DETAILED_RECORDS · 15, 163
LIMIT_WORD_RECORDS · 15, 163
LINK_MODULE_USER · 22, 175
Localization · 260
LOG_AREA_DISPLAY_CHARS · 15, 19, 96, 112, 163, 169
lookup column · 110
Lookup key · 110
Lookup table · 110

M

MANDATORY_FIELD_POST · 19, 169
MANDATORY_FIELD_PRE · 19, 169
Mass Update · 304
MAX_SIGNON_ATTEMPTS · 25, 27, 63, 207, 209
Maxlength · 145
MENU_ADD_PROBLEM · 298
MENU_ADMINISTRATION · 298
MENU_DIRECTION · 19, 36, 40, 168, 169, 170
MENU_EDIT · 298
MENU_HOME · 298
MENU_INTEREST_LIST · 298
MENU_RESOLUTION · 298
MENU_SIZE · 19, 37, 170
MENU_TEXT_COLOR · 17, 38, 167
MENUBAR_SEARCH_TARGET_WIN · 15, 164
MINIMUM_SEARCH_FIELDS · 15, 164
MS_OFFICE_CHARSET · 16, 30, 164, 255
MULTI_RELEASE_XML · 28, 225
MULTI_VALUE_HIGHLIGHT_CHAR · 20, 170
Multiple Value · 115
Multiple Values · 101
MULTIPLE_FIELD_SEPARATOR · 22, 175

N

NAV_BAR_GO_BUTTON · 20, 170
NOSPILL_SESSION_COUNT · 26, 208

O

OMITTED_IMPORT_USER_COLUMNS · 13, 65, 236

P

Parent Field Name · 118
Parent key · 111
Parent SQL · 118
Parent table · 111
POPUP_LIST_SIZE · 20, 170
PR_ADD_PROBLEM. · 298, 299, 300, 301
PR_ADD_PROBLEM.ALT_ID · 298
PR_ADD_PROBLEM.AREA · 298
PR_ADD_PROBLEM.ASSIGNED_TO · 298
PR_ADD_PROBLEM.CATEGORY · 299
PR_ADD_PROBLEM.CC_EMAIL · 299
PR_ADD_PROBLEM.COMMENTS · 299
PR_ADD_PROBLEM.CONTACT · 299
PR_ADD_PROBLEM.DATE_CREATED · 299
PR_ADD_PROBLEM.DESCRPTION · 299
PR_ADD_PROBLEM.EMAIL_CUSTOMER · 300
PR_ADD_PROBLEM.EMAIL_SWITCH · 300
PR_ADD_PROBLEM.ID · 300
PR_ADD_PROBLEM.INTEREST_LIST · 300
PR_ADD_PROBLEM.ITEM_ID · 300
PR_ADD_PROBLEM.MAILING_LIST · 300
PR_ADD_PROBLEM.MODULE_ID · 300
PR_ADD_PROBLEM.ORIGINATOR · 300
PR_ADD_PROBLEM.OWNER · 300
PR_ADD_PROBLEM.PRIORITY · 300
PR_ADD_PROBLEM.PRIVACY · 300
PR_ADD_PROBLEM.PRODUCT_LINE · 300
PR_ADD_PROBLEM.PRODUCT_NAME · 300
PR_ADD_PROBLEM.PROJECT · 300
PR_ADD_PROBLEM.RELEASE · 300
PR_ADD_PROBLEM.RELEASE_FIXED · 301
PR_ADD_PROBLEM.RELEASE_FOUND · 301
PR_ADD_PROBLEM.RELEASE_OWNER · 301
PR_ADD_PROBLEM.RELEASE_STATUS · 301
PR_ADD_PROBLEM.RESOLUTION · 301
PR_ADD_PROBLEM.SEVERITY_LEVEL · 301
PR_ADD_PROBLEM.SHORT_DESCR · 301
PR_ADD_PROBLEM.STATUS · 301

PR_ADD_PROBLEM.TIMESTAMP · 301
PR_RESOLUTION · 304, 306
PR_RESOLUTION. · 301, 302, 303, 304, 305, 306
PR_RESOLUTION.ALT_ID · 301
PR_RESOLUTION.AREA · 301
PR_RESOLUTION.ASSIGNED_TO · 301
PR_RESOLUTION.ATTACH_DATE_CREATED · 302
PR_RESOLUTION.ATTACH_FILE_NAME · 302
PR_RESOLUTION.ATTACH_FILE_SIZE · 302
PR_RESOLUTION.ATTACH_PATH · 302
PR_RESOLUTION.ATTACHMENT · 302
PR_RESOLUTION.ATTACHMENT_ADD · 302
PR_RESOLUTION.ATTACHMENT_EDIT · 302
PR_RESOLUTION.CATEGORY · 303
PR_RESOLUTION.CC_EMAIL · 303
PR_RESOLUTION.CC_EMAIL_BUTTON · 303
PR_RESOLUTION.CLONE · 303
PR_RESOLUTION.COMMENTS · 303
PR_RESOLUTION.CONTACT · 303
PR_RESOLUTION.DATE_CREATED · 303
PR_RESOLUTION.DELETE_BUTTON · 303
PR_RESOLUTION.DESCRPTION · 303
PR_RESOLUTION.EDIT_BUTTON · 303
PR_RESOLUTION.EMAIL_BUTTON · 303
PR_RESOLUTION.EMAIL_CUSTOMER · 303
PR_RESOLUTION.EMAIL_SWITCH · 304
PR_RESOLUTION.HISTORY_BUTTON · 304
PR_RESOLUTION.ID · 304
PR_RESOLUTION.INTEREST_LIST · 304
PR_RESOLUTION.ITEM_ID · 304
PR_RESOLUTION.KEYWORD · 304
PR_RESOLUTION.MAILING_LIST · 304
PR_RESOLUTION.MODULE_ID · 304
PR_RESOLUTION.MONTHS_OPEN · 304
PR_RESOLUTION.OWNER · 304
PR_RESOLUTION.PRIORITY · 304
PR_RESOLUTION.PRIVACY · 304
PR_RESOLUTION.PRODUCT_LINE · 305
PR_RESOLUTION.PRODUCT_NAME · 305
PR_RESOLUTION.PROJECT · 305
PR_RESOLUTION.RELEASE · 305
PR_RESOLUTION.RELEASE_FIXED · 305
PR_RESOLUTION.RELEASE_FOUND · 305
PR_RESOLUTION.RELEASE_OWNER · 305
PR_RESOLUTION.RELEASE_PRIORITY · 305
PR_RESOLUTION.RELEASE_PRODUCT · 305
PR_RESOLUTION.RELEASE_SEVERITY · 305

PR_RESOLUTION.RELEASE_STATUS · 306
PR_RESOLUTION.RESOLUTION · 306
PR_RESOLUTION.RG_EMAIL_BUTTON ·
306
PR_RESOLUTION.RG_MERGE_BUTTON ·
306
PR_RESOLUTION.RG_SPLIT_BUTTON · 306
PR_RESOLUTION.SEVERITY_LEVEL · 306
PR_RESOLUTION.SHORT_DESCR · 306
PR_RESOLUTION.START_DATE · 306
PR_RESOLUTION.STATUS · 306
PR_RESOLUTION.STATUS_HIST · 306
PR_RESOLUTION.STOP_DATE · 306
PR_RESOLUTION.STOP_UPDATE · 307
PR_RESOLUTION.TIMESTAMP · 307
PR_RESOLUTION.VIEW_BUTTON · 307
Primary SQL · 118
Print Text display type · 167
Print Text 表示タイプ · 17
PRIVATE · 57, 66, 68, 74, 75, 76, 77
PUBLIC · 57, 66, 68, 74, 76

R

REAUTH_REDIRECT_PARAM · 27, 183, 209
REAUTH_URL · 27, 183, 209
RECORD_COUNTER_COLOR · 17, 167
RECORDS_PER_PAGE · 16, 164
REFRESH_LIST_MAX_SIZE · 16, 164
RELATIONSHIP_GROUP_EMAIL_LIMIT · 22, 176
RELATIONSHIP_GROUP_MAX_DISPLAY · 23, 176,
186
RELATIONSHIP_LINK_DISPLAY · 23, 176, 187
RELEASE_SORT_ORDER · 23, 176
Remember last value · 114
Remember Last Value · 101, 118
REMEMBER_BETW_TABS · 23, 135, 147, 176
Repeating Records · 100, 109
Report and Query Settings · 14, 162
REPORT_FILTER_BY_CURRENT_ROLE · 16, 164
REPORT_IN_NEW_WINDOW · 16, 164
REPORT_LABELS_POSITION · 16, 164
REPORT_SUPPRESS_BLANK_LINES · 16, 136, 164
REPORT_WITH_FIXED_WIDTH_FONT · 16, 17, 164,
167
RESTRICT_ROLE_BASED_REPORTS · 16, 165

S

SAVE_AREA_PROJECT_CHANGES · 23, 176
SE_LOGIN_MESSAGE · 307
SE_PRIVACY_GROUP · 307
SE_SECURITY_GROUP · 307
SE_SECURITY_MODULE · 307

SE_SECURITY_PERMISSION · 307
SE_SECURITY_USER · 307
SEARCH_ATTACH_THRESHOLD · 17, 165
Security and Session Settings · 25, 60, 62, 206,
207
SECURITY_CACHE_MINUTES · 27, 209
Selected · 146
SEPARATE_WORK_FLOW · 23, 176, 177, 184
Session Management · 61
SESSION_EXPIRE_TIME_HOURS · 27, 60, 209
SET_EMAIL_ENCRYPTION · 24, 197
SHOW_CLOSED_REL_GROUPS_PERIOD · 23, 176
SIGNON_BORDER_WIDTH · 20, 167, 170
SIGNON_PERIOD_MINUTES · 25, 27, 31, 63, 207,
209
Single Sign On · 10, 11, 28, 206, 214, 215
SITE_URL · 30, 255
Size · 146
SPILL_SESSION_COUNT · 27, 209
SR_PERSONAL_CHART · 307
SR_PERSONAL_REPORT · 307
SR_PUBLIC_CHART · 307
SR_PUBLIC_LINKED_REPORT · 307
SR_PUBLIC_REPORT · 308
SR_USERGROUP_CHART · 308
SR_USERGROUP_REPORT · 308
SSO · 2, 28, 206, 214, 215, 218
SSO_STATE · 28, 214, 215
Statistics · 210
Status Change Rules · 178
STATUS_CLOSED_NAME · 23, 176
STATUS_SIGNATURES · 23, 176, 183
Style · 146
SUPPORT_LINK · 18, 31, 168
System Controls · 11, 25, 27, 28, 62, 74, 75, 206,
207, 210, 211, 213, 225, 265
System Debugging & User Custom Settings · 11,
30, 256
System Log · 211
SYSTEM_LOG_EXPIRE_TIME_DAYS · 27, 209

T

TAB_FONT_OFF_COLOR · 18, 168
TAB_FONT_ON_COLOR · 18, 168
TAB_OFF_COLOR · 18, 168
TAB_ON_COLOR · 18, 168
TABS_PER_ROW · 20, 170
TEXTAREA_ROW_HEIGHT · 20, 170
TIMESTAMP · 120
TIMESTAMP_SINCE · 120
TITLE_COLOR · 18, 168
TITLE_HEIGHT · 20, 37, 170

U

UCS-2 · 256
UDF · 98
User ID · 55, 60, 62, 216
User Interface
 Menu Orientation · 38
User Role · 57, 185
User Roles · 72
User Settings · 65
USER_CUSTOM_CLASSNAME · 30, 256
USER_CUSTOM_ENABLE_METRICS · 30, 256
USER_DEFINED_START_PAGE · 13, 57, 65, 270
USER_LIST_DISPLAY · 13, 65
USER_SELF_REGISTRATION · 13, 31, 66
UserCustom · 3, 30, 256
USERNAME_DISPLAY · 13, 31, 65, 98, 113
UTF-8 · 29, 56, 229, 232, 254, 256, 257

V

Validate Hidden · 147

W

WINDOW_BG_COLOR · 12, 18, 168
Workflow · 11, 21, 31, 173, 174, 177, 178, 183, 184
Workflow Settings · 21, 173, 174, 177, 183, 184

X

XML · 28, 225, 226, 227, 233, 234, 238
xml_insert · 240
XML のインポート · 234, 239
XML のエクスポート · 233

あ

アクセント記号付き文字 · 257
アプリケーション・サーバ・ログ · 282
アプリケーション・プログラミング・インタフェース
 (API) · 8

い

一括更新 · 273
インポート · 226
インポートの方針 · 251

え

エクスポート · 226

か

会社名のセキュリティ · 74
会社ロゴ · 4
カスタム・コーディング · 277
カスタム日付マスク · 290
カスタム表示タイプ · 94
画面解像度 · 9
画面レイアウト · 4, 133
関係グループ · 186
関係グループ・フィールド · 122
関係者リスト · 78, 79, 101, 114, 201, 202, 203, 204, 205
 UDF 関係者リスト · 203
カンマ区切りファイル · 242

き

許容値 · 78, 82, 110, 118, 127, 128, 129, 131, 132, 231

く

クッキー · 10
埋め込みレイアウト · 136, 137, 148, 170
グラフ · 267

け

継承 · 5, 124, 134, 135, 137, 177, 180
権限のないアクセス · 62
言語およびロケール・コード · 293, 309

こ

項目データのインポート · 229
項目データのインポート・エラー · 241
コマンド・ライン・インタフェース · 8, 232

さ

サーバ・ログ · 282
サインオン・ページ · 52

サインオン・メッセージ・165
サインオン・ログ・61, 62, 66, 212, 282

し

システム・セキュリティ・キー・264
システムのデバッグとユーザのカスタム設定・
255
システム・メッセージの翻訳・256
システム・ログ・265, 282
出力テキスト表示タイプ・97, 113, 114, 115, 117,
132
除外用語・98

す

数字表示タイプ・97
スタイル・シート・33
ステータス署名ルール・177, 183, 184, 185
ステータス変更ルール・178
ステータス変更ルール・176, 177, 179, 180, 184

せ

製品の無効化・87
製品ライン・86
セキュリティ・4, 72
セキュリティ・キー・5
セキュリティ許可・92, 124
書き込み専用・126
セキュリティ許可キー・85, 293
セキュリティ・モジュール・5
セッション管理・60
セッション失効コード・209
接続しているユーザの管理
ユーザの切断・61
設定および構成・1

た

タイトル・バー・37
タイムゾーン・312
タブ・132
タブ区切りファイル・242
タブ表示タイプ・97

ち

チェックボックス表示タイプ・93, 112, 132

て

データ辞書・3, 105
Labels・106
Screens・106
Session Variables・106
Special Variables・106
UDF's・106
データベース・フィールド・105
テキスト・エリア表示タイプ・97
テキスト・フィールド表示タイプ・97
デバッグ・レベル・283
デフォルト値・63, 103
電子メール・i, iv, 7, 24, 121, 133, 188, 189, 190,
191, 193, 194, 195, 196, 197, 198, 199, 200,
201, 202, 203, 204, 217, 273, 275
電子メール関係者リスト・7
電子メール機能・188
CCメール・191
件名をカスタマイズする・190
システム全体の電子メール・189
電子メール形式の選択・198
ユーザ自身の更新の通知・197
電子メール通知・133, 188, 189, 190, 193
電子メール・テンプレート・193
添付・210, 211
添付ファイル・120, 154, 231

と

統計情報・211
動作設定・10, 11, 74, 186

な

名前とタイトル・2

に

日数表示タイプ・94

は

バージョン情報・261

ひ

ビジネス・エリア・5, 85, 252
日付範囲フィールド・120
日付表示タイプ・94
日付マスク・289
表示タイプ・93

ふ

ファイル・インポート・ユーティリティ・242
フィールド管理・78, 92
複数値フィールド・245
プライバシー・グループ・70
プライバシー・グループ・13, 65
プライバシー・グループ・76
ブラウザ・9
ブラウザの [戻る] ボタン・10
プロジェクト・252

へ

ヘルプ URL・104, 281
ヘルプ・テキスト・104

ほ

ホーム・ページ・267
ボタンの表示タイプ・41, 42, 43, 44
ボタン表示タイプ・41
ボタン表示タイプ・93, 112
ボタン・フィールド・123
ポップアップ表示タイプ・97, 113, 117, 131, 132, 273

め

メタデータ・226
メニューのサイズ・37

も

モジュール所有者・189

モジュール名・87, 88, 89, 90

ゆ

ユーザ・4
ユーザ ID・23, 55, 58, 172, 195, 196, 212
ユーザ・アカウントの保守・54
ユーザ・インタフェース・33
 [Menu Orientation]・36
 背景およびテキストの色・39
 ボタン・40
ユーザ管理・53
ユーザ定義フィールド・98
ユーザの役割・4, 5, 53, 70, 71, 72, 73
ユーザ表示タイプ・98, 132
ユーザ・フィールド・121
ユーザ・ロール・78, 126, 127, 134, 136, 139, 140, 179, 185

ら

ラベル表示タイプ・96

り

リスト管理・78
リストのソート・78
リスト表示タイプ・96
リピーティング行・132, 249, 251
リピーティング行のフィールド制限・152
リピーティング・レコード・レイアウト・150, 152, 153, 155
リリース・フィールド・122
履歴フィールド・122

れ

レイアウト・エディタ
 埋め込みレイアウト・136
レイアウト・エディタ・7, 133
 エリアおよびプロジェクトのレイアウト・134
 ユーザ・ロール・136
 リリース・レイアウト・150
 レイアウト・セル属性・143
 レイアウトの削除・148
 ロールのレイアウト・140
レイアウト・タイプ・134, 148, 150, 170, 171

レイアウト内のフィールド制限・155
レポート・7, 266
レポートURLへのリンク・271
レポートおよびクエリ設定・162

ろ

ローカライズ・257

ログ・エリア表示タイプ・96, 112, 114, 115, 117,
132, 151

わ

ワークフロー・172, 173, 177, 184, 189